

高梁市の地域医療に関するアンケート調査 報告書

高梁市

目次

1.	アンケート調査の実施概要	4
< 1. 1.	調査の背景と目的>	5
< 1. 2.	調査の方法>	5
< 1. 3.	調査項目>	7
< 1. 4.	回収結果>	10
< 1. 5.	集計の方法>	11
2.	市民アンケート調査結果	16
< 2. 1.	調査結果の概要>	17
< 2. 2.	回答者の属性>	21
< 2. 3.	市民の受療に関する意識と動向>	34
2. 3. 1.	日常的な医療	34
2. 3. 2.	救急医療	54
2. 3. 3.	子どもの医療	66
2. 3. 4.	入院医療	72
2. 3. 5.	終末期医療	93
< 2. 4.	市の医療提供体制に関する意識>	107
3.	医療機関アンケート調査結果	133
< 3. 1.	調査結果の概要>	134
< 3. 2.	回答者の属性>	137
< 3. 3.	診療所の意識と取組み>	139
3. 3. 1.	経営環境	139
3. 3. 2.	在宅医療	160
3. 3. 3.	市の医療提供体制	167
< 3. 4.	病院の意識と取組み>	180

3. 4. 1.	経営環境	180
3. 4. 2.	在宅医療	201
3. 4. 3.	市の医療提供体制	207
4.	医療従事者アンケート調査結果	213
< 4. 1.	調査結果の概要>	214
< 4. 2.	回答者の属性>	216
< 4. 3.	医療従事者の意識>	225
4. 3. 1.	労働・教育環境	225
4. 3. 2.	多職種連携	239
4. 3. 3.	在宅医療	251
4. 3. 4.	市の医療提供体制	263
5.	関連専門職アンケート調査結果	273
< 5. 1.	調査結果の概要>	274
< 5. 2.	回答者の属性>	275
< 5. 3.	関連専門職の意識>	279
5. 3. 1.	在宅医療	279
5. 3. 2.	多職種連携	286
6.	調査結果のまとめ	295
< 6. 1.	本調査の意義>	296
< 6. 2.	調査結果の活用に向けて>	297

参考資料 1	市民アンケート調査票
参考資料 2	医療機関アンケート（診療所向け）調査票
参考資料 3	医療機関アンケート（病院向け）調査票
参考資料 4	医療従事者アンケート調査票
参考資料 5	関連専門職アンケート調査票

1. アンケート調査の実施概要

< 1. 1. 調査の背景と目的 >

高梁市においては、全国に先駆けて進行する急速な超高齢化の中で、地域医療提供体制の維持に向けた取組みを検討しています。

人口構造の変化及びそれに伴う医療従事者の高齢化は、市民の医療需要、医療機関の経営環境、医療従事者や関連専門職の働き方といった様々な点において、今後の高梁市の医療のあり方に大きな影響を与えることが予想されます。

このため、市民の方々、市内の医療機関、医療従事者、関連専門職の方々の意識、実態、ニーズ等を把握し、地域医療提供体制の検討に活かすため、アンケート調査を行うこととしました。

< 1. 2. 調査の方法 >

「高梁市の地域医療に関するアンケート」として、市内の各関係主体向けに以下の 5 種類の調査票を作成し、アンケート調査を実施しました。

- ① 市民アンケート調査
- ② 医療機関アンケート（診療所向け）調査
- ③ 医療機関アンケート（病院向け）調査
- ④ 医療従事者アンケート調査
- ⑤ 関連専門職アンケート調査

◆ 市民アンケート調査

- ・ 対象者：平成 29 年 8 月 3 日時点で市内在住の 20 歳以上の方から、年齢及び日常生活圏域区分ごとに無作為に抽出した 3,736 名
- ・ 配布方法：郵送にて配布・回収
- ・ 調査期間：平成 29 年 9 月 11 日～29 日

① 医療機関アンケート（診療所向け）調査

- ・ 対象施設：一般診療を行っている市内全ての診療所及び訪問看護ステーション（公立、民間とも、計 21 か所）
- ・ 配布方法：郵送又は直接配布・回収
- ・ 調査期間：平成 29 年 9 月 11 日～25 日

② 医療機関アンケート（病院）

- ・ 対象施設：市内全ての病院（4 か所）
- ・ 配布方法：直接配布・回収
- ・ 調査期間：平成 29 年 9 月 11 日～25 日

③ 医療従事者アンケート

- ・ 対象者：市内医療施設に勤務している、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・准看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のいずれかの職種の方々
- ・ 配布方法：各医療施設を通じて配布・回収
- ・ 調査期間：平成 29 年 9 月 11 日～25 日

④ 関連専門職アンケート

- ・ 対象者：市内医療施設及び介護保険施設に勤務している、管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・精神保健福祉士・ケアマネジャー・介護職のいずれかの職種の方々
- ・ 配布方法：各施設を通じて配布・回収
- ・ 調査期間：平成 29 年 9 月 11 日～25 日

＜ 1. 3. 調査項目 ＞

各アンケートにおける調査項目は、それぞれ下記のように設定しました。
個々の設問や選択肢については参考資料 1～5 の各調査票をご参照ください。

◆市民アンケート

区分	調査項目
回答者の属性	・ 年齢 ・ 性別 ・ 居住地域 ・ 世帯人数 等
日常的な医療	・ 昨年最もよく利用した医療機関の地域 ・ 医療機関の選択理由 ・ 医療機関への所要時間 ・ かかりつけ医の有無 等
救急医療	・ 早朝・深夜・休日に具合が悪くなった際の対応 ・ 早朝・深夜・休日に向かう医療機関 ・ 救急車の利用回数 等
子どもの医療	・ 早朝・深夜・休日に子どもの具合が悪くなった際の対応 ・ 早朝・深夜・休日に向かう医療機関 等
入院医療	・ 入院の有無 ・ 入院先に満足している点・改善してほしい点 ・ 転院の有無 ・ 入院先の希望 等
終末期医療	・ 介護・看護の経験の有無 ・ 終末期医療の希望 等
市の医療提供体制に関する意識	・ 高梁市内の医療の満足度 ・ 将来の高梁市内の医療の不安 ・ 今後取り組むべきテーマ 等

◆医療機関アンケート（診療所向け）

区分	調査項目
回答者の属性	・事業所名 ・標榜科
経営環境	・経営環境の認識 ・抱えている課題・不安 ・患者数 ・スタッフ数 ・スタッフの採用・退職状況 等
在宅医療	・訪問診療・往診の実施状況 ・多職種連携への取組み 等
市の医療提供体制	・今後取り組むべきテーマ ・救急医療体制の現状・課題 ・市外への患者流出の認識・対応 等

◆医療機関アンケート（病院向け）

区分	調査項目
回答者の属性	・事業所名 ・標榜科
経営環境	・経営環境の認識 ・抱えている課題・不安 ・病床削減への取組み ・患者数 ・スタッフ数 ・スタッフの採用・退職状況 等
在宅医療	・訪問診療・往診の実施状況 ・退院支援の実施状況 等
市の医療提供体制	・今後取り組むべきテーマ ・救急医療体制の現状・課題 ・市外への患者流出の認識・対応 等

◆医療従事者アンケート

区分	調査項目
回答者の属性	・ 年齢 ・ 性別 ・ 職種 ・ 出身地 等
労働・教育環境	・ 勤務先 ・ 日常勤務における課題 ・ 教育システムへの認識 ・ 勤務時間 等
多職種連携	・ 多職種連携の現状・課題 ・ 「やまぼうし」の活用状況 等
在宅医療	・ 在宅医療のニーズ ・ 在宅医療に対する考え ・ 遠隔診療に対する考え 等
市の医療提供体制	・ 高梁市内の医療提供体制の課題 ・ 取り組むべきテーマ ・ 今後必要になると思うスキル 等

◆関連専門職アンケート

区分	調査項目
回答者の属性	・ 年齢 ・ 性別 ・ 職種 ・ 勤務先 等
在宅医療	・ 在宅医療のニーズ ・ 在宅医療に対する考え 等
多職種連携	・ 多職種連携の現状・課題 ・ 「やまぼうし」の活用状況 等

< 1. 4. 回収結果 >

	配布枚数	回収枚数	有効回答数*1	有効回答率
市民アンケート	3,736	1,737	1,680	約 45%
医療機関アンケート (診療所向け)	21	21	19	約 91%
医療機関アンケート (病院向け)	4	4	4	100%
医療従事者アンケート*2	750	521	507	約 68%
関連専門職アンケート*2	591	479	449	約 76%

*1: 有効回答については、集計日（平成 29 年 10 月 10 日）までに提出があったものの中から、以下の基準を満たすものを算出。

- ・ 市民アンケート…年齢・居住地に関して回答されていたもの
- ・ 医療機関アンケート…設問に 1 つでも回答されていたもの
- ・ 医療従事者アンケート…職種に関して回答されていたもの
- ・ 関連専門職アンケート…職種に関して回答されていたもの

*2: 医療従事者アンケート及び関連専門職アンケートに関しては、「おかやま医療情報ネット」のデータに基づき配布枚数を設定しており、時点等が異なることから実態には必ずしも合致していない。また、非常勤スタッフの兼職を除外した正味人数を把握した統計が存在しないため、兼職を含む延べ人数をもとに配布枚数を設定している。このため、兼職している方に重複して配布している可能性があり、実際の回答率、有効回答率は上記よりも高い水準にあるものと推定される。

< 1. 5. 集計の方法 >

- 多肢選択式の設問における各選択肢の構成比率は、当該設問に対する回答者を母数として算出しています。なお、各選択肢の構成比率は小数点以下第1位を四捨五入しているため、構成比率を合計しても必ずしも100%とはならない場合があります。また、当てはまるものを複数選択する設問については、各選択肢の構成比率の合計は100%とはなりません。
- 市民アンケートについては、高梁市における地域別・年齢区分別の人口構成比率と、アンケートの回答者の地域別・年齢区分別の人数構成比率で差が見られたため、より正確に高梁市の実態を反映した分析を行うために、「ウェイトバック集計」と呼ばれる手法を用いて集計を行いました。

【ウェイトバック集計の考え方】

ウェイトバック集計とは、回答者の構成比率をアンケート対象者の構成比率に合わせるために補正を行う手法です。以下で、例を用いて説明します。

(1) 補正係数の導出

■ 実際の人口構成

	20代	30代	合計
A町	200人	150人	350人
B町	400人	250人	650人
合計	600人	400人	1,000人

■ 回答者の人数構成

	20代	30代	合計
A町	20人	10人	30人
B町	50人	40人	90人
合計	70人	50人	120人

■ 補正係数の導出

	実際の人口	実際の人口構成比	人口構成比に基づく理想的な回答者数	実際の回答者数	補正係数 (理想的な回答者数 ÷ 実際の回答者数)
A町 20代	200人	20%	120人 × 20% = 24人	20人	24人 / 20人 = 1.20
A町 30代	150人	15%	120人 × 15% = 18人	10人	18人 / 10人 = 1.80
B町 20代	400人	40%	120人 × 40% = 48人	50人	48人 / 50人 = 0.96
B町 30代	250人	25%	120人 × 25% = 30人	40人	30人 / 40人 = 0.75
合計	1,000人	100%	120人	120人	-

※四捨五入の関係上、合計人数が一致しない場合がある。

(2) 補正係数を用いた集計値の補正

① 3つの選択肢から1つを選ぶ設問の場合

■ 補正前

	選択肢①	選択肢②	選択肢③	合計
A 町 20 代	6 人	2 人	12 人	20 人
A 町 30 代	2 人	2 人	6 人	10 人
B 町 20 代	15 人	20 人	15 人	50 人
B 町 30 代	9 人	16 人	15 人	40 人
合計	32 人	40 人	48 人	120 人
比率	26.7%	33.3%	40.0%	100%



■ 補正後

	選択肢①	選択肢②	選択肢③	合計
A 町 20 代	$6 \text{ 人} \times 1.20 = 7 \text{ 人}$	$2 \text{ 人} \times 1.20 = 2 \text{ 人}$	$12 \text{ 人} \times 1.20 = 14 \text{ 人}$	23 人
A 町 30 代	$2 \text{ 人} \times 1.80 = 4 \text{ 人}$	$2 \text{ 人} \times 1.80 = 4 \text{ 人}$	$6 \text{ 人} \times 1.80 = 11 \text{ 人}$	19 人
B 町 20 代	$15 \text{ 人} \times 0.96 = 14 \text{ 人}$	$20 \text{ 人} \times 0.96 = 19 \text{ 人}$	$15 \text{ 人} \times 0.96 = 14 \text{ 人}$	47 人
B 町 30 代	$9 \text{ 人} \times 0.75 = 7 \text{ 人}$	$16 \text{ 人} \times 0.75 = 12 \text{ 人}$	$15 \text{ 人} \times 0.75 = 11 \text{ 人}$	40 人
合計	32 人	37 人	50 人	119 人
比率	26.9%	31.1%	42.0%	100%

※四捨五入の関係上、合計人数が一致しない場合がある。

② 5つの選択肢のうち当てはまるもの全てを選ぶ設問の場合

■ 補正前

	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	回答者計
A 町 20 代	10 人	12 人	12 人	8 人	3 人	20 人
A 町 30 代	5 人	3 人	3 人	5 人	1 人	10 人
B 町 20 代	40 人	20 人	35 人	20 人	10 人	50 人
B 町 30 代	32 人	10 人	30 人	10 人	10 人	40 人
合計	87 人	45 人	80 人	43 人	24 人	120 人
比率	72.5%	37.5%	66.7%	35.8%	20.0%	-



■ 補正後

	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	回答者計
A 町 20 代	10 人×1.20 = 12 人	12 人×1.20 = 14 人	12 人×1.20 = 14 人	8 人×1.20 = 10 人	3 人×1.20 = 4 人	20 人×1.20 = 24 人
A 町 30 代	5 人×1.80 = 4 人	3 人×1.80 = 5 人	3 人×1.80 = 5 人	5 人×1.80 = 9 人	1 人×1.80 = 2 人	10 人×1.80 = 18 人
B 町 20 代	40 人×0.96 = 38 人	20 人×0.96 = 19 人	35 人×0.96 = 34 人	20 人×0.96 = 19 人	10 人×0.96 = 10 人	50 人×0.96 = 48 人
B 町 30 代	32 人×0.75 = 24 人	10 人×0.75 = 8 人	30 人×0.75 = 23 人	10 人×0.75 = 8 人	10 人×0.75 = 8 人	40 人×0.75 = 30 人
合計	78 人	46 人	76 人	46 人	24 人	120 人
比率	65.0%	38.3%	63.3%	38.3%	20.0%	-

※小数点の四捨五入の関係上、合計人数が一致しない場合がある。

(3) 補正済みの集計値を用いた分析

上記(2)の処理によって補正した集計値に対して、単純集計、クロス集計等の分析を行います。

■ 高梁市の20代以上の人口構成比率

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上	計
高梁	6.1% (1,588人)	5.1% (1,316人)	5.9% (1,538人)	6.0% (1,573人)	7.9% (2,064人)	5.7% (1,498人)	6.3% (1,647人)	43.1% (11,224人)
高梁東	0.5% (139人)	0.8% (207人)	0.8% (208人)	1.1% (274人)	1.7% (445人)	1.4% (353人)	1.6% (411人)	11.0% (2,870人)
高梁北	0.6% (163人)	1.0% (248人)	1.0% (260人)	1.3% (343人)	2.6% (688人)	1.9% (497人)	2.6% (671人)	7.8% (2,037人)
有漢	0.4% (113人)	0.6% (164人)	0.8% (197人)	0.9% (247人)	1.6% (425人)	1.1% (281人)	1.5% (402人)	7.0% (1,829人)
成羽	1.3% (332人)	1.3% (338人)	1.8% (481人)	1.9% (506人)	2.9% (748人)	2.3% (588人)	3.1% (805人)	14.6% (3,798人)
川上	0.6% (153人)	0.7% (180人)	0.8% (217人)	1.2% (316人)	2.1% (541人)	1.7% (435人)	2.4% (632人)	9.5% (2,474人)
備中	0.4% (93人)	0.4% (105人)	0.5% (138人)	1.0% (255人)	1.2% (322人)	1.3% (337人)	2.2% (574人)	7.0% (1,824人)
計	9.9% (2,581人)	9.8% (2,558人)	11.7% (3,039人)	13.5% (3,514人)	20.1% (5,233人)	15.3% (3,989人)	19.7% (5,142人)	100% (26,056人)

出所：住民基本台帳 2017年8月3日時点

■ 回答者の構成比率

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代 以上	計
高 梁	1.5% (25 人)	1.6% (27 人)	2.0% (33 人)	2.7% (46 人)	3.3% (56 人)	4.0% (67 人)	4.2% (70 人)	19.3% (324 人)
高 梁 東	1.0% (17 人)	1.1% (19 人)	1.4% (23 人)	1.8% (31 人)	3.5% (58 人)	2.4% (40 人)	2.7% (46 人)	13.9% (234 人)
高 梁 北	0.7% (12 人)	1.4% (23 人)	1.2% (20 人)	1.6% (27 人)	2.6% (44 人)	2.6% (43 人)	2.1% (36 人)	12.2% (205 人)
有 漢	0.6% (13 人)	0.9% (19 人)	1.5% (32 人)	1.4% (29 人)	2.4% (45 人)	2.5% (61 人)	2.6% (45 人)	11.8% (199 人)
成 羽	0.8% (13 人)	1.1% (19 人)	1.9% (32 人)	1.7% (29 人)	2.7% (45 人)	3.6% (61 人)	2.7% (45 人)	14.5% (244 人)
川 上	0.6% (10 人)	1.0% (17 人)	1.5% (26 人)	2.0% (33 人)	2.9% (49 人)	3.3% (55 人)	2.4% (41 人)	13.8% (231 人)
備 中	0.7% (12 人)	1.4% (23 人)	1.0% (17 人)	2.2% (37 人)	3.0% (50 人)	3.1% (52 人)	3.1% (52 人)	14.5% (243 人)
計	5.9% (99 人)	8.5% (143 人)	10.5% (176 人)	13.5% (227 人)	20.4% (342 人)	21.4% (360 人)	19.8% (33 人)	100% (1,680 人)

■ 本調査で用いた補正係数

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
高 梁	4.10	3.14	3.00	2.20	2.38	1.44	1.52
高 梁 東	0.62	0.84	0.73	0.71	0.76	0.80	0.94
高 梁 北	0.75	0.58	0.67	0.65	0.65	0.53	0.74
有 漢	0.73	0.70	0.51	0.66	0.69	0.43	0.60
成 羽	1.65	1.15	0.97	1.13	1.07	0.62	1.15
川 上	0.99	0.68	0.54	0.62	0.71	0.51	0.99
備 中	0.50	0.29	0.52	0.44	0.42	0.42	0.71

2. 市民アンケート調査結果

＜ 2. 1. 調査結果の概要＞

(1) 回答者の属性 (2. 2 関係)

- 全ての地域において、市外・県外からの転入者が 3～4 割程度と一定割合を占めており（問 5）、長期的に見るとある程度の人口流入を経験していることがわかる。
- 一方で、住民の 7 割以上は 20 年以上同じ地域に住み続けており、市内での住み替えは 1～2 割に留まっているため（問 4）、市内の特定の地域に人口が集積するような傾向は見られない。
- 市内高齢者の 18%が単身者であり（問 7）、高齢単身世帯は、備中地域の 31%を最多として、地域的偏在が見られる（問 6）

(2) 日常的な医療 (2. 3. 1 関係)

- 50 代以上の市民のうち 3 割程度は、日常医療においても総合病院を志向している。一方で、年齢が上がるほど、自宅や住み慣れた地域での受療希望が増加する傾向にある。（問 9）
- 若年層が受診する診療科は多様であるが、高齢者の日常医療の 8 割程度は内科系と整形外科系に集中している。（問 1 1）
- 高梁、高梁北、高梁東、有漢の 4 地域では、高梁地域の医療機関の利用割合が高く、成羽地域では成羽地域の医療機関の利用割合が高い。川上、備中の 2 地域では、受診先の地域が分散する傾向にあるが、川上地域においては、川上地域の受診割合が最も高い。また、市内のいずれの地域においても、2 割程度の市民は市外の医療機関を受診している。（問 1 2）
- いずれの地域でも、2 割程度の住民は市外にかかりつけ医を持っているが、川上地域が最も多く 28%が市外にかかりつけ医を持っている。（問 4 0）
- 移動手段としては、20 代から 70 代までにおいて、自分で自家用車を運転する割合が最も多い。80 代以上において、タクシー、路線バス、生活福祉バスの利用割合が増える。（問 1 4）

- 医療機関へのアクセス（所要時間）の地域差は大きく、30分未満でアクセスできる市民の割合は、高梁地域では8割に達するのに対し、備中地域では5割に留まる。（問15）
- 医療機関に改善してほしい点として、「特にない」という声と「待ち時間」という声がいずれも4割程度ある。（問17）

（3）救急医療（2. 3. 2関係）

- 早朝・深夜や休日に自身の具合が悪くなった場合は、大半の市民が何らかの手段で救急医療機関へ向かうが、子どもの具合が悪くなった場合にはかかりつけ医や当番医に相談する割合も多い。（問18、24）
- 一方で、行き先の医療機関については、自身の場合はおおむね市内の医療機関であるのに対して、子どもの場合は市外の医療機関に行くとする回答が大幅に増えている。特に、有漢、備中、高梁東の3地域において6割以上の市民が子どもを市外の医療機関に連れていくと回答している。（問19、25）
- あんしん電話の認知度や利用経験は低調であるが、一方で#8000（小児救急医療電話相談）の認知度は高く、一定の利用経験が見られる。（問23、27）

（4）入院医療（2. 3. 4関係）

- 全市的に、入院における市外病院への依存の度合いは大きいですが、依存先の地域や依存の程度については地域による差が大きい。（問29）
- 市外病院への入院の契機としては、医療機関による紹介と医療技術の評判によるものとなっている。一方で、市内医療機関への入院の契機としては、以前から通院していた、自宅に近いといった理由となっている。（問30）
- 市外医療機関に入院した市民の方が医療の技術に対する満足度が高いといった傾向はあるものの、市内・市外に関わらず入院において感じた不満は特にないという傾向となっている。（問31、32）

- 高度急性期、急性期については市外の医療機関への入院希望が大きく、回復期、慢性期については市内の医療機関への入院希望が大多数となっている。また、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の全てに関して、高齢者になるほど市内の医療機関への入院を希望する割合が高くなる。(問35～38)

(5) 終末期医療 (2. 3. 5 関係)

- 介護や看病に際して、家族は、専門家によるサポートの有無よりも、自身の体調面や経済面での負担に対する不安の方を大きく感じている。(問45)
- 自然な看取りを希望する割合が年齢、地域問わずに高く、7割を超えている。(問47)
- 最期を迎える場所については、自宅を希望する市民が半数弱を占めるものの、病院での最期を希望する声も3割程度ある。(問48)

(6) 市の医療提供体制に関する意識 (2. 4 関係)

- 現状への満足度について、年代別に大きく傾向が異なっている。若年層は不満の方が大きく、高齢層は満足の方が大きい。70代以上は半数以上が満足を感じているのに対して、若年層、特に30代の不満は大きなものがあり、4割以上が不満を感じている。また、地域別に見ると、多くの地域で満足と不満が拮抗する中で、川上地域では満足度が不満度を大きく上回っている。(問51)
- 60代以下の年齢層において、産婦人科系、次いで耳鼻咽喉科系、皮膚・泌尿器科系の充実を求める声大きい。(問52)
- 公立診療所に対する意識は、地域によって大きな差があり、有漢地域では「あまり患者が出入りしていない」という認識が多く、これに対して川上、備中の2地域では「患者の出入りは多い」という認識が多い。(問53)

- 近い将来の高梁市の医療に対する不安について、最も不安を強く感じているのは 50 代で、7 割が「不安」と回答している。次いで 30 代の 7 割弱が「不安」と回答している。一方で、70 代では「心配していない」が 3 割、「不安」が 4 割、80 代以上では「心配していない」が 4 割、「不安」が 3 割と、世代によって全く感じ方が異なっている。地域別に見ると、川上地域では相当程度不安が抑えられている。(問 5 6)
- 20 代、30 代の不安は出産、子育て関係である。40 代、50 代の不安は地域医療の維持である。60 代以上になると、交通手段の不安に加えて漠然とした不安が特徴となっている。(問 5 7)
- 医療計画の策定について、全年代の半数以上の支持が得られている。特に若年層における支持が高く、20 代、30 代においては 7 割程度が支持している。(問 5 8)
- 医療計画におけるテーマについては、年代により、また、地域により、重要と考えるテーマの比重が異なっている。(問 5 9～6 1)

＜ 2. 2. 回答者の属性＞

- 配布対象者数 3,736 人に対して、有効回答者数は 1,680 人となり、有効回答率は約 45%であった。

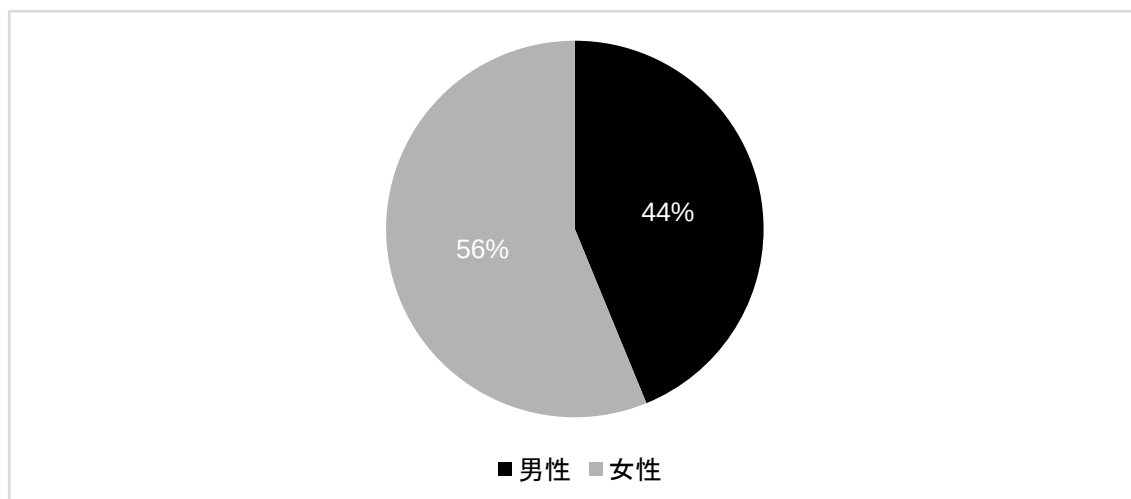
図表 2-1 年齢・居住地域ごとの回答者数

(単位：人)

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代 以上	合計
高梁	25	27	33	46	56	67	70	324
高梁北	17	19	23	31	58	40	46	234
高梁東	12	23	20	27	44	43	36	205
有漢	10	15	25	24	40	42	43	199
成羽	13	19	32	29	45	61	45	244
川上	10	17	26	33	49	55	41	231
備中	12	23	17	37	50	52	52	243
合計	99	143	176	227	342	360	333	1,680

- 回答者の性別構成は、男性 44%、女性 56%であった。

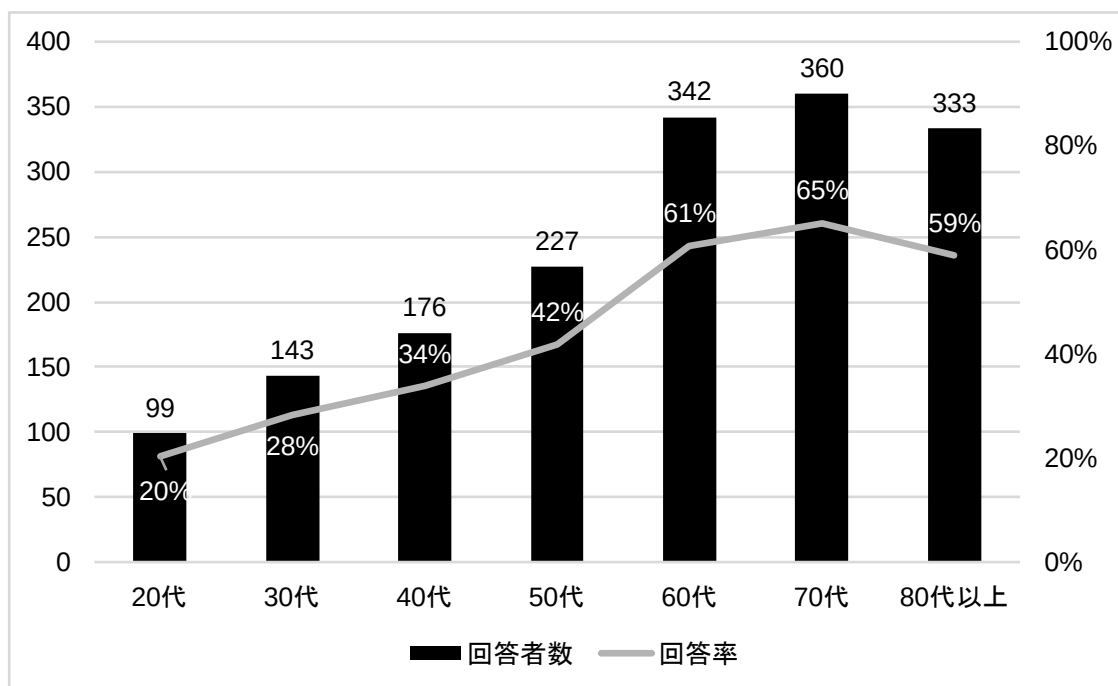
図表 2-2 回答者の性別構成



(回答者数：1680 人)

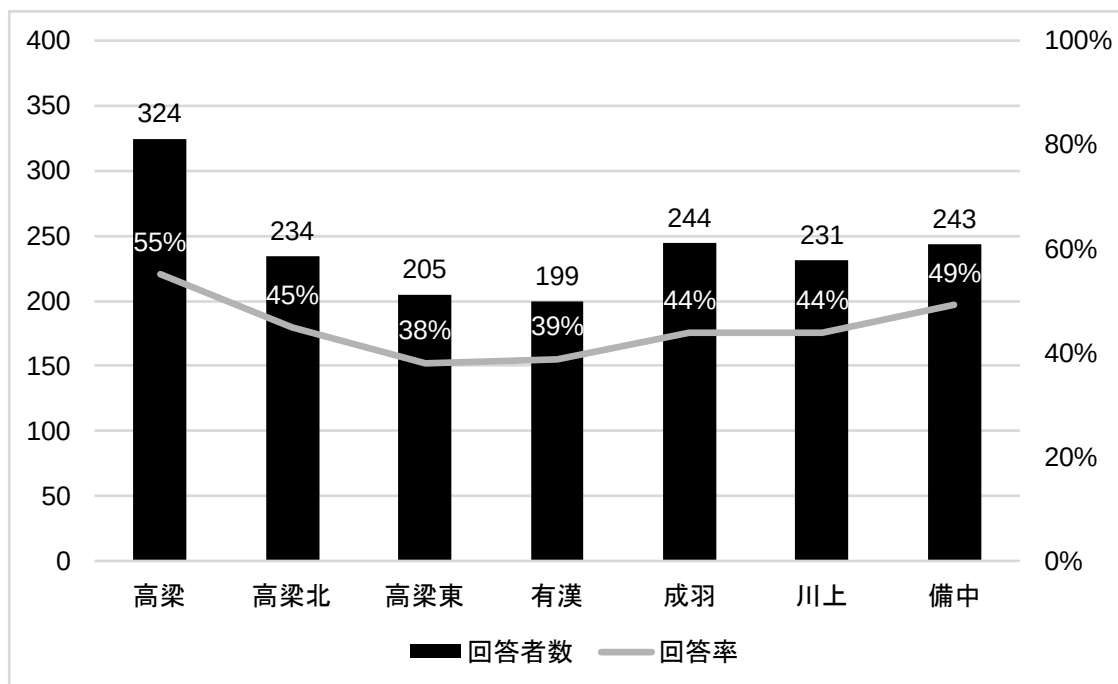
- 年代別に見ると、60代以上の回答率が高く、回答率 60%程度である。

図表 2-3 年代別の回答者数と回答率



- 全ての地域で 40%程度以上の回答が得られている。

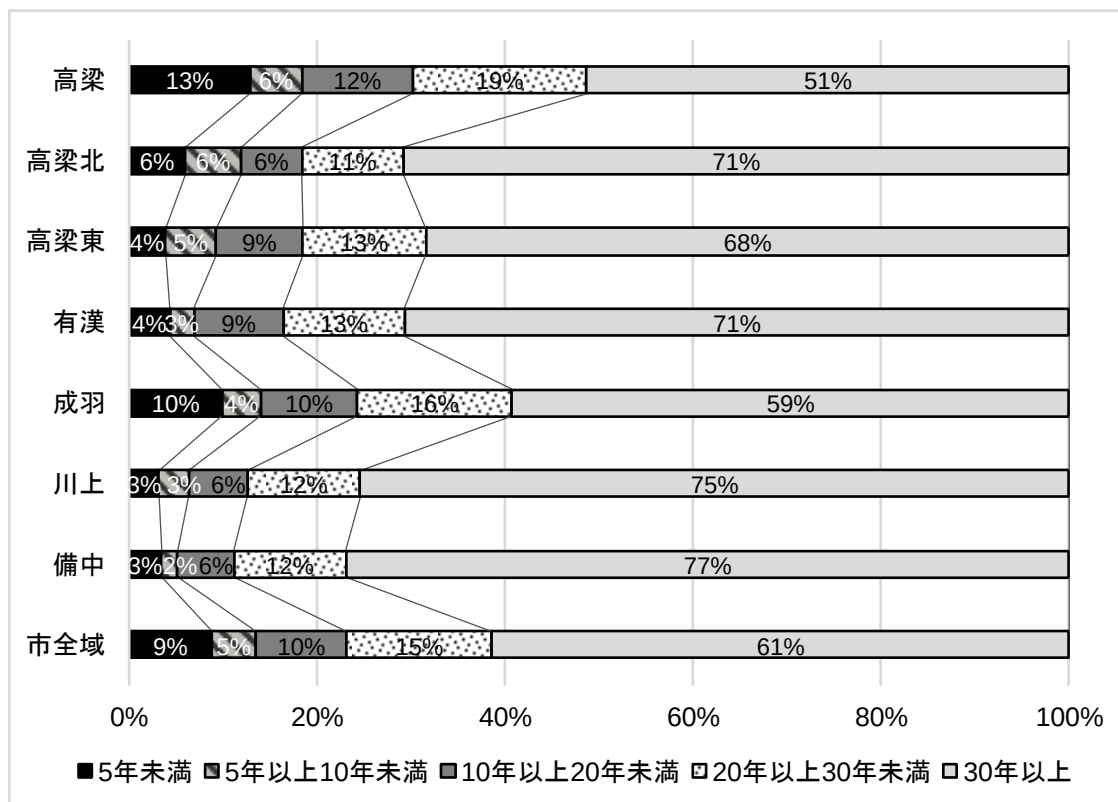
図表 2-4 地域別の回答者数と回答率



問 4 いまの地域には何年間お住まいでしょうか。

- 現在の居住地域の居住年数は、全ての地域において「30 年以上」が 50%以上を占めている。「20 年以上 30 年未満」を合わせると、70%～89%と大きな割合を占めている。
- 高梁地域及び成羽地域は、他地域と比較して「5 年未満」の割合が高く、10%程度である。
- 川上地域及び備中地域は、「30 年以上」が 80%弱、「20 年以上 30 年未満」を合わせると 90%弱を占めている。

図表 2-5 いまの地域の居住年数



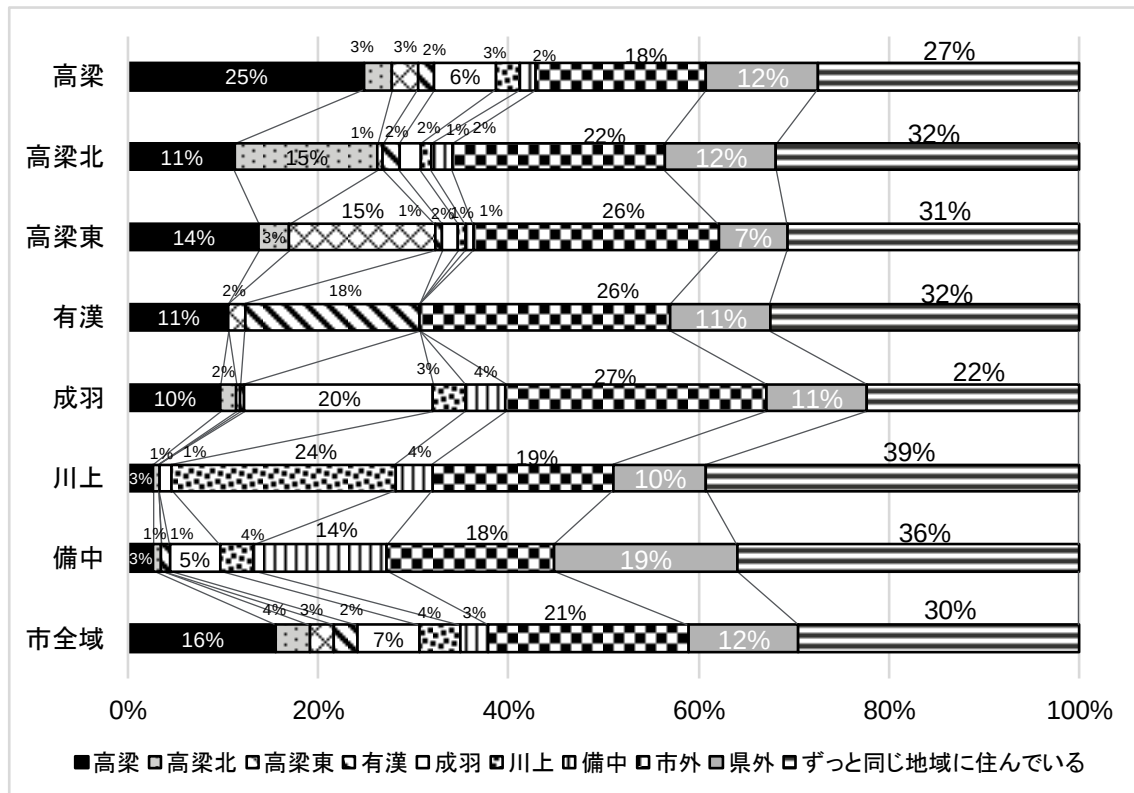
(単位：人)

	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上	回答者数
高梁	93	40	85	134	371	723
高梁北	11	11	12	20	131	185
高梁東	5	7	12	17	89	130
有漢	5	3	11	15	82	116
成羽	24	10	25	40	144	243
川上	5	5	10	19	120	159
備中	4	2	7	14	90	117
市全域	147	79	162	258	1029	1,675

問 5 いまお住まいの地域の前にはどの地域にお住まいでしたか。

- 成羽地域を除く全ての地域において、「ずっと同じ地域に住んでいる」が最も多く、自地域を選択した者と合わせると、おおむね半数前後が継続して同じ地域に居住している。
- 一方で、全ての地域において、「市外」「県外」を選択した割合は 29～38%であり、住民の 1/3 程度が市外・県外からの転入者で構成されている。
- 残りは市内での住み替えであり、その傾向は以下のとおりである。
 - 高梁、高梁北、高梁東、成羽の 4 地域においては、市内での住み替えの合計が 20%弱である。一方、有漢、川上、備中の 3 地域においては、市内での住み替えの合計が 10%前後である。
 - 高梁北、高梁東、有漢、成羽の 4 地域においては、高梁地域からの住み替えが 10%程度を占めている。一方、高梁、川上、成羽の 3 地域においては、市内の前居住地の構成は各地域が拮抗している。

図表 2-6 以前の居住地



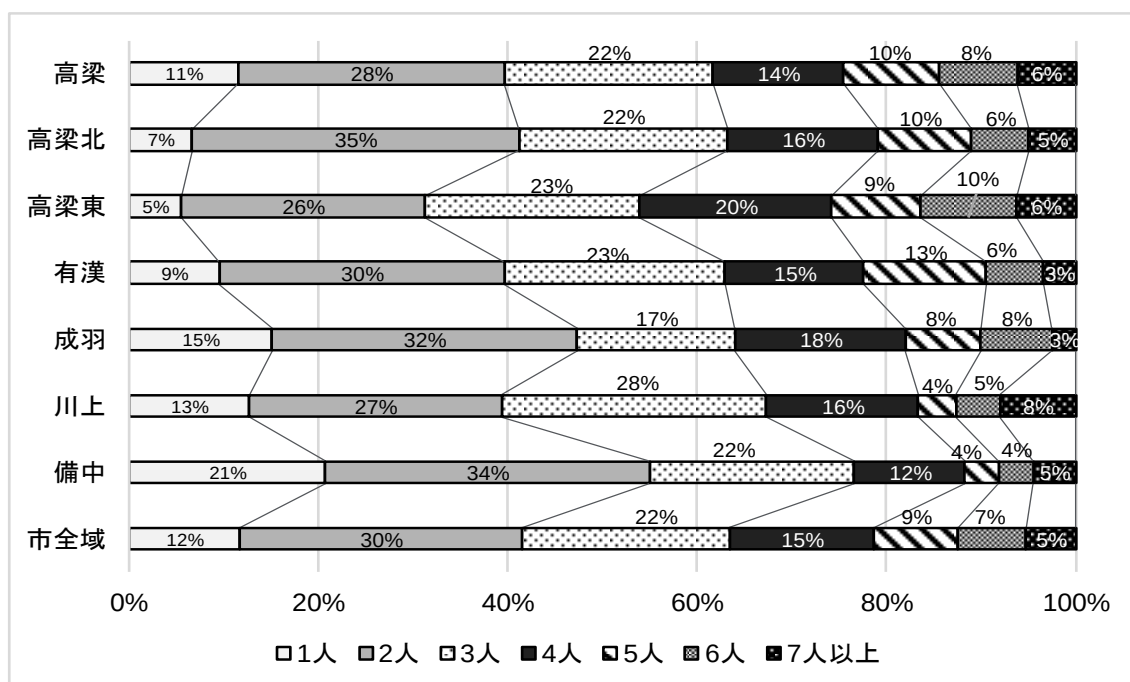
(単位：人)

		以前の居住地										回答者数
		高梁	高梁北	高梁東	有漢	成羽	川上	備中	市外	県外	ずっと同じ地域に住んでいる	
現住所	高梁	173	21	19	12	45	18	12	125	82	192	699
	高梁北	20	27	1	3	4	2	4	40	21	57	179
	高梁東	17	4	19	1	2	1	1	32	9	38	124
	有漢	12	0	2	21	0	0	0	30	12	37	114
	成羽	23	4	1	1	47	8	10	65	25	53	237
	川上	4	1	0	0	2	36	6	29	15	60	153
	備中	3	1	0	1	6	4	16	20	22	41	114
	市全域	252	57	42	39	106	69	48	341	187	478	1,619

問 6 あなたを含めた世帯人数をご記入ください。

- 単身世帯について、成羽、川上、備中の3地域で13%～21%と比較的多くっており、特に備中地域は21%と市内で最多である。
- 3世代同居を含むと想定される6人世帯、7人以上の世帯について、全ての地域において10%程度以上を占めている。特に高梁、高梁東、川上の3地域では15%前後と多くなっている。

図表 2-7 世帯人数



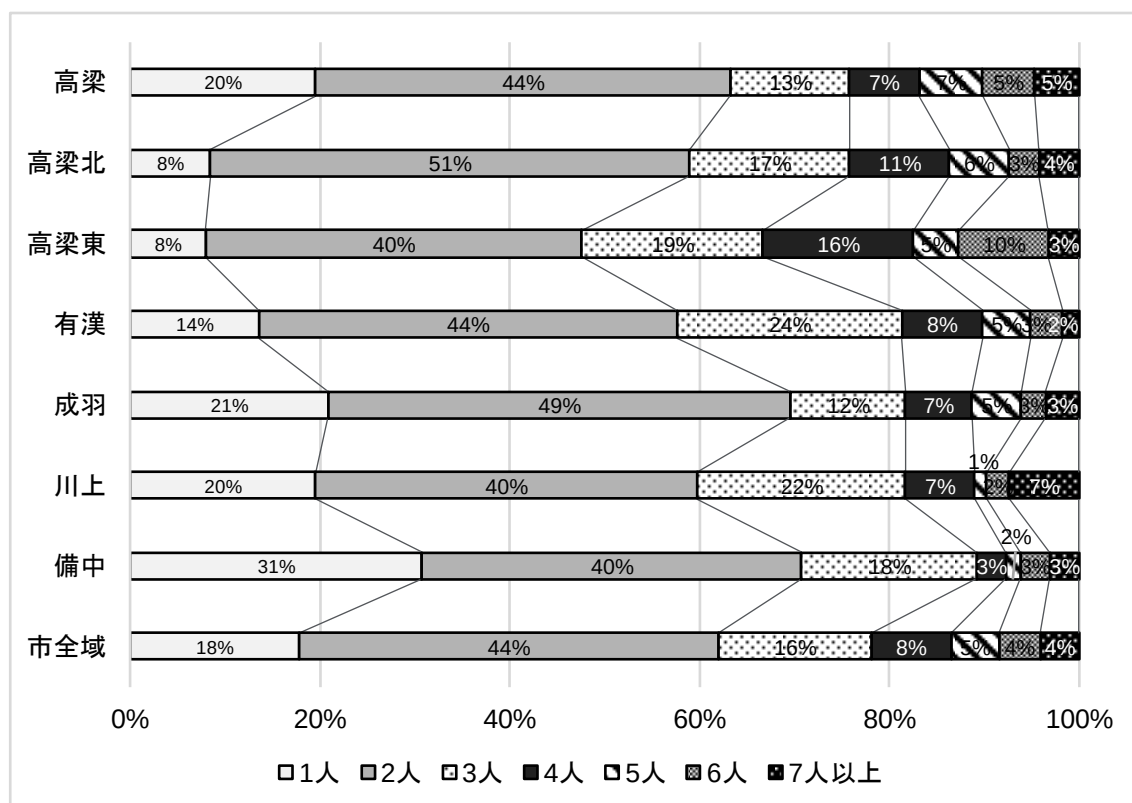
(単位：人)

	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	回答者数
高梁	19	21	38	31	19	18	2	696
高梁北	6	12	44	34	24	28	9	182
高梁東	9	24	48	48	26	28	9	128
有漢	15	50	59	48	27	9	8	116
成羽	26	130	88	44	21	9	12	239
川上	32	132	41	13	8	13	6	150
備中	81	115	36	29	18	11	8	111
市全域	189	483	354	247	144	116	54	1,618

【65歳以上の高齢者の回答のみで集計】

- 回答者を65歳以上の高齢者に限ると、全ての地域において単身世帯、2人世帯の割合が増加する。
- 単身世帯をみると備中地域の31%が突出している。単身世帯と2人世帯を合わせると、備中地域と成羽地域がともに70%程度である。

図表 2-8 世帯人数（高齢者のみの集計）



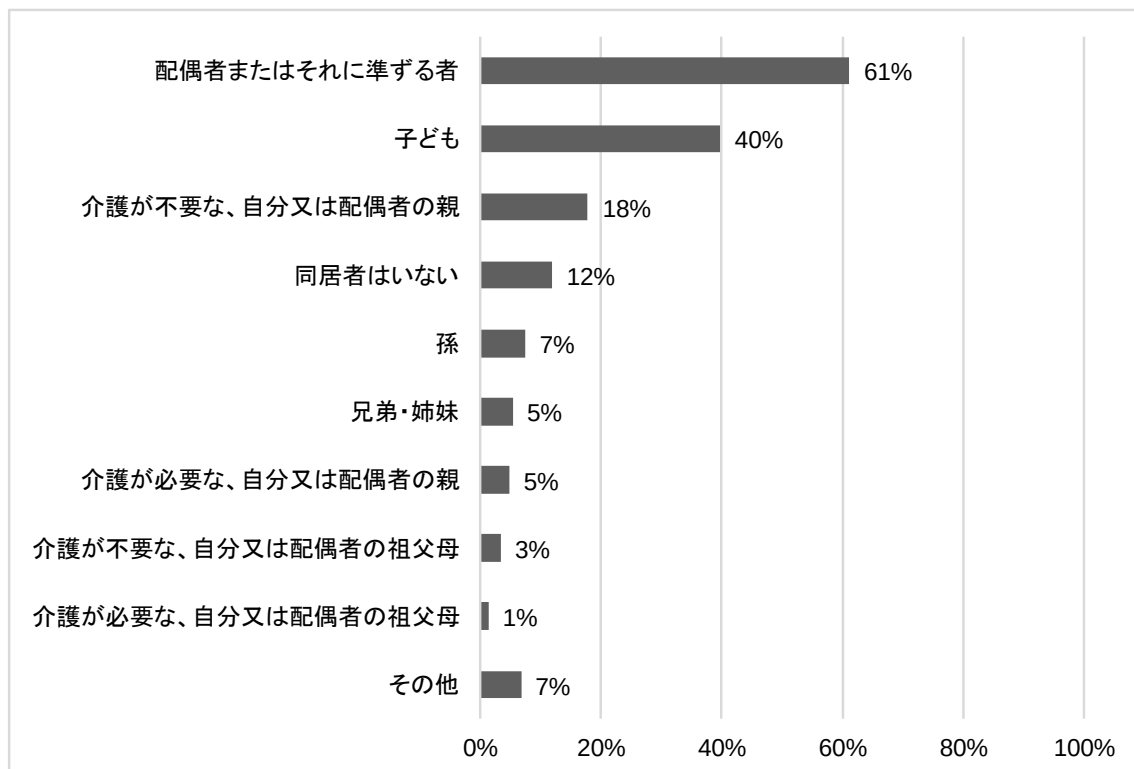
(単位：人)

	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	回答者数
高梁	80	196	153	96	71	57	28	256
高梁北	12	63	40	29	18	11	4	95
高梁東	7	33	29	26	12	13	6	63
有漢	11	35	27	17	15	7	3	59
成羽	36	77	40	43	19	18	3	115
川上	19	40	42	24	6	7	7	82
備中	23	38	24	13	4	4	3	65
市全域	189	483	354	247	144	116	54	736

問 7 どなたと同居していますか。(当てはまるもの全て選択)

- 同居者の内訳に関しては、「配偶者またはそれに準ずる者」が最も多い。
- 「介護が不要な、自分又は配偶者の親」と同居する者の割合が 18%となっている一方で、「介護が必要な、自分又は配偶者の親」と同居する者の割合は 5%、「介護が必要な、自分又は配偶者の祖父母」と同居する者の割合は 1%である。

図表 2-9 同居者の内訳

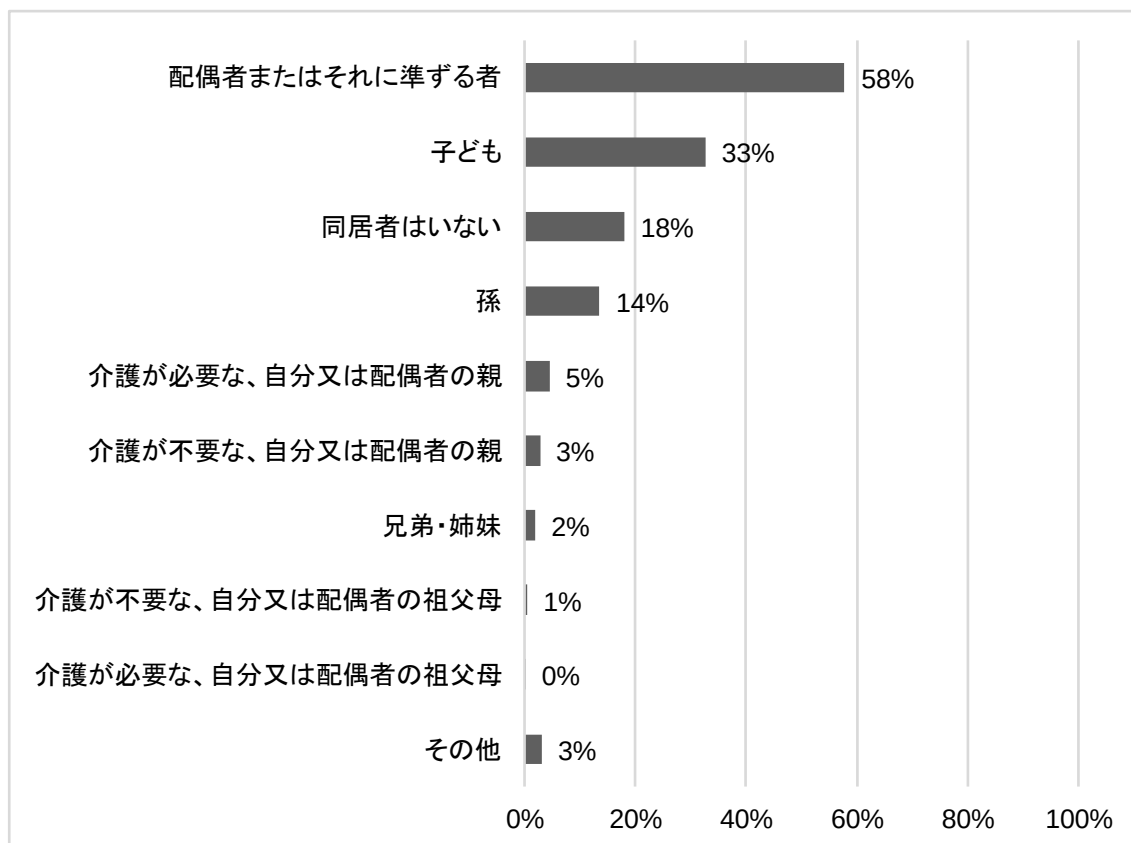


(回答者数 : 1,636 人)

【65 歳以上の高齢者のみで集計】

- 回答者を 65 歳以上の高齢者に限ると、上位 2 つについては全体の傾向と同様であるが、「同居者はいない」が 18%となる。また、「介護が必要な、自分又は配偶者の親」との同居は、全体の傾向と同様に 5%である。

図表 2-10 同居者の内訳（高齢者のみを抽出）

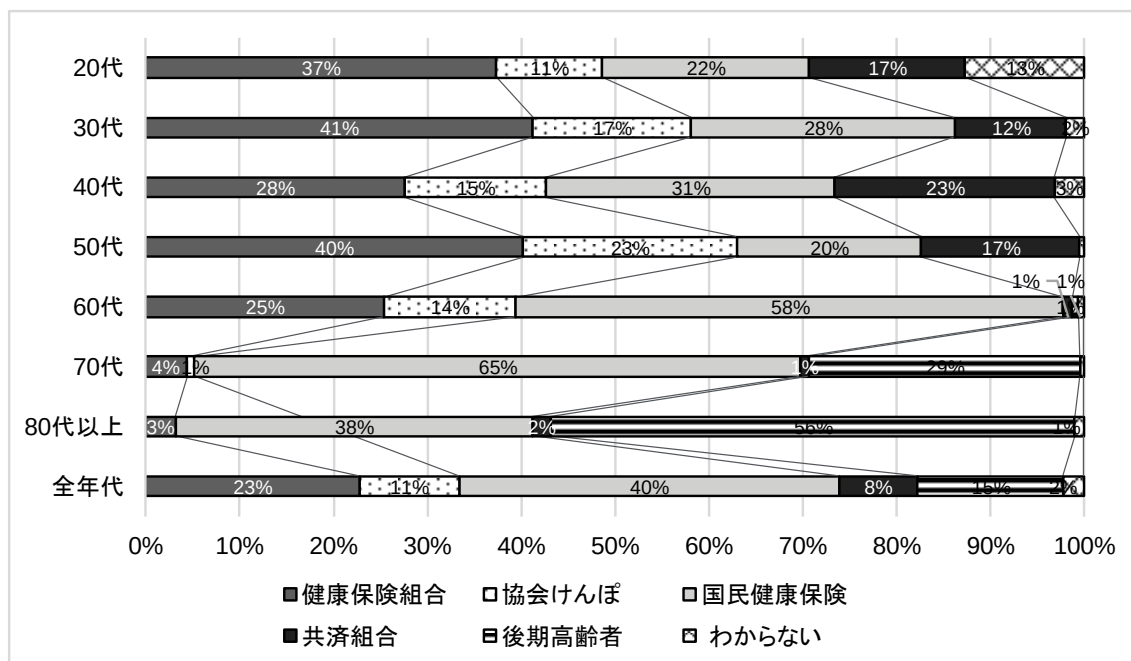


(回答者数：746 人)

問 8 どの医療保険に加入していますか。

- いわゆる現役世代が属する 20 代～50 代における組合健康保険（健康保険組合及び協会けんぽ）のカバー率は 43%～63%、共済組合のカバー率は 12～23%となっている。一方で、国民健康保険のカバー率は、20 代～50 代においては 20～31%、60 代で 58%となっている。
- 70 代及び 80 代以上においては、国民健康保険及び後期高齢者医療制度がほぼ全てを占めている。

図表 2-11 加入している医療保険（年代別集計）

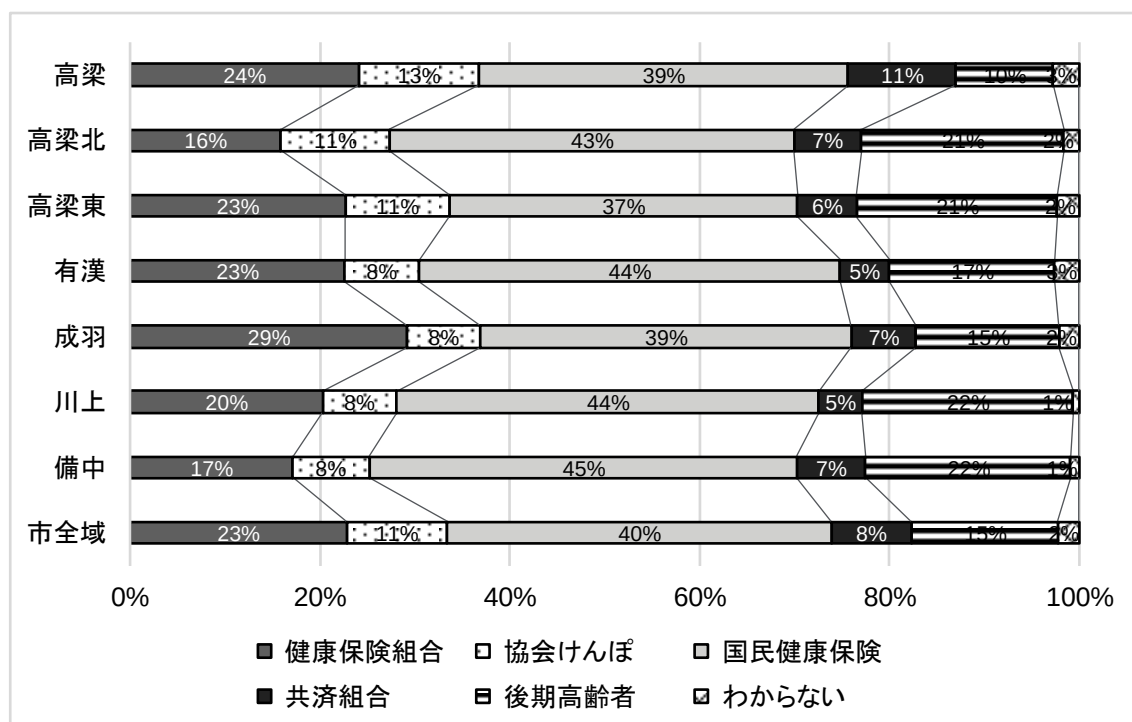


（単位：人）

	健康保険 組合	協会 けんぽ	国民健康 保険	共済組合	後期 高齢者	わから ない	回答者数
20代	56	17	33	25	0	19	150
30代	66	27	45	19	0	3	160
40代	53	29	59	45	0	6	192
50代	88	50	43	37	0	1	219
60代	83	46	191	3	2	2	327
70代	11	2	163	2	73	1	252
80代以上	10	0	120	6	176	3	315
全年代	368	171	654	136	250	36	1,615

- 地域別に見ると、各地域でおおむね同様の傾向となり、特に顕著な差は見られない。
- 高梁、成羽の2地域において、被用者保険の加入者がやや多い。逆に高梁北、高梁東、有漢、川上、備中の5地域において、国民健康保険、後期高齢者医療制度の加入者がやや多い。

図表 2-12 加入している医療保険（地域別集計）



(単位：人)

	健康保険 組合	協会 けんぽ	国民健康 保険	共済組合	後期 高齢者	わから ない	回答者数
高梁	166	87	268	78	71	19	689
高梁北	29	21	78	13	39	3	183
高梁東	29	14	47	8	27	3	128
有漢	26	9	51	6	20	3	115
成羽	68	18	91	16	35	5	233
川上	31	12	68	7	34	1	153
備中	19	9	50	8	24	1	111
市全域	368	171	654	136	250	36	1,615

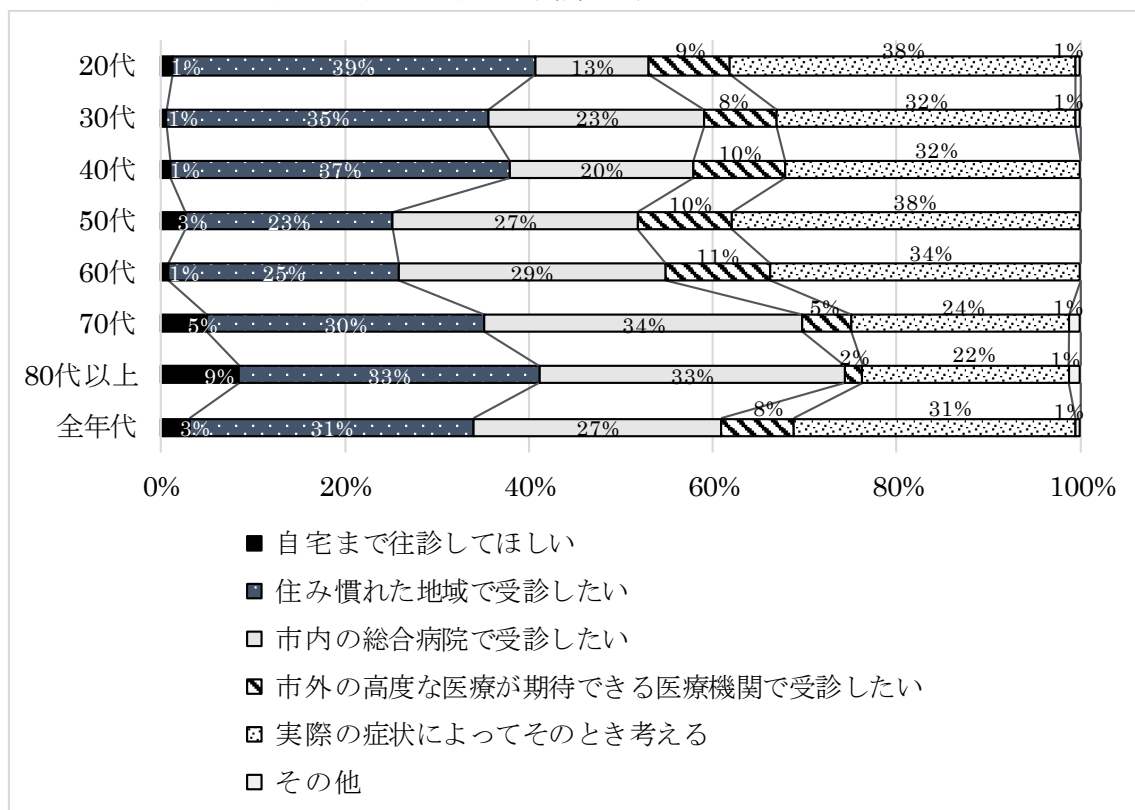
＜ 2. 3. 市民の受療に関する意識と動向 ＞

2. 3. 1. 日常的な医療

問 9 入院以外の日常的な医療を受ける場所について、あなたの希望を教えてください。

- 40 代以下では「住み慣れた地域」を希望する割合が高いが、50 代以上では「住み慣れた地域」と「市内の総合病院」が同程度である。
- 60 代以下では「市外の高度な医療が期待できる医療機関」での受診を希望する割合が 10%程度であるが、70 代以上では 5%以下となっている。
- 70 代、80 代以上においては「自宅まで往診してほしい」が 5～10%存在し、「住み慣れた地域」の希望と合わせると 40%程度に達するものの、「市内の総合病院」の希望も大きく 30%以上を占めている。

図表 2-13 日常的な医療の受療場所の希望



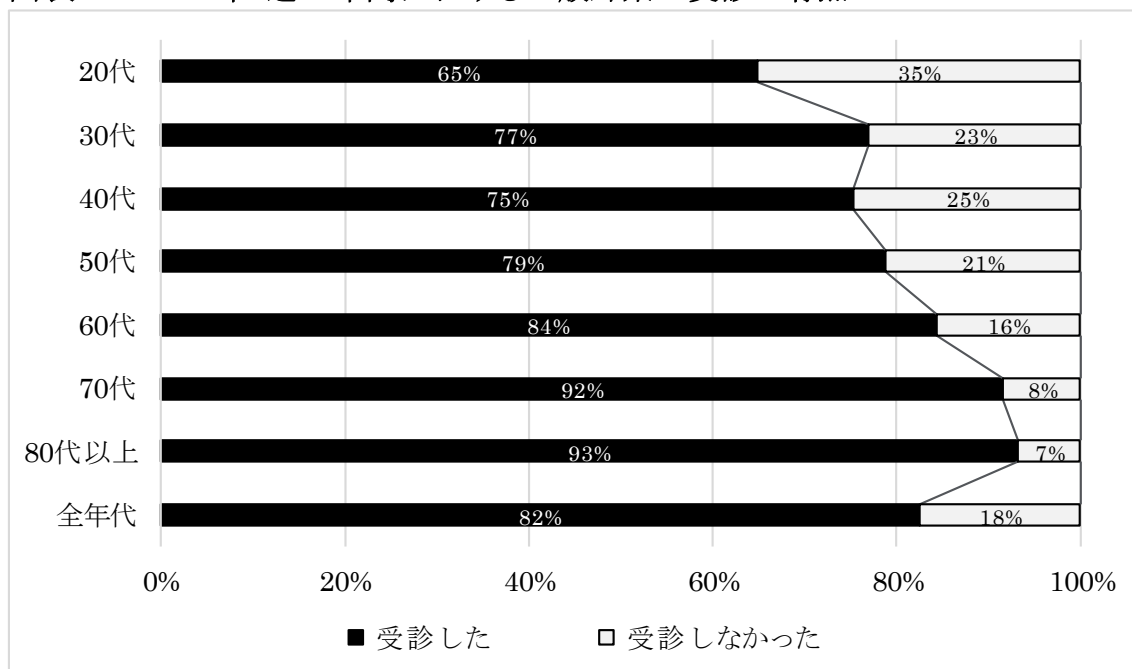
(単位：人)

	自宅まで 往診して ほしい	住み慣れ た地域で 受診した い	市内の総 合病院で 受診した い	市外の高 度な医療 が期待で きる医療 機関で受 診したい	実際の症 状によっ てそのと き考える	その他	回答者数
20代	2	63	20	14	60	1	160
30代	1	54	36	12	50	1	154
40代	2	70	38	19	61	0	190
50代	6	50	59	23	84	0	222
60代	3	81	94	37	110	0	325
70代	12	74	84	13	58	3	244
80代以上	26	99	101	6	68	4	304
全年代	52	490	433	124	490	9	1,598

問 10 あなたは、最近1年間に一般外来（通常の診察時間内での診察）を受診しましたか。

- 一般外来の受診割合は年齢とともに増加し、80代以上では93%が受診している。

図表 2-14 直近1年間ににおける一般外来の受診の有無



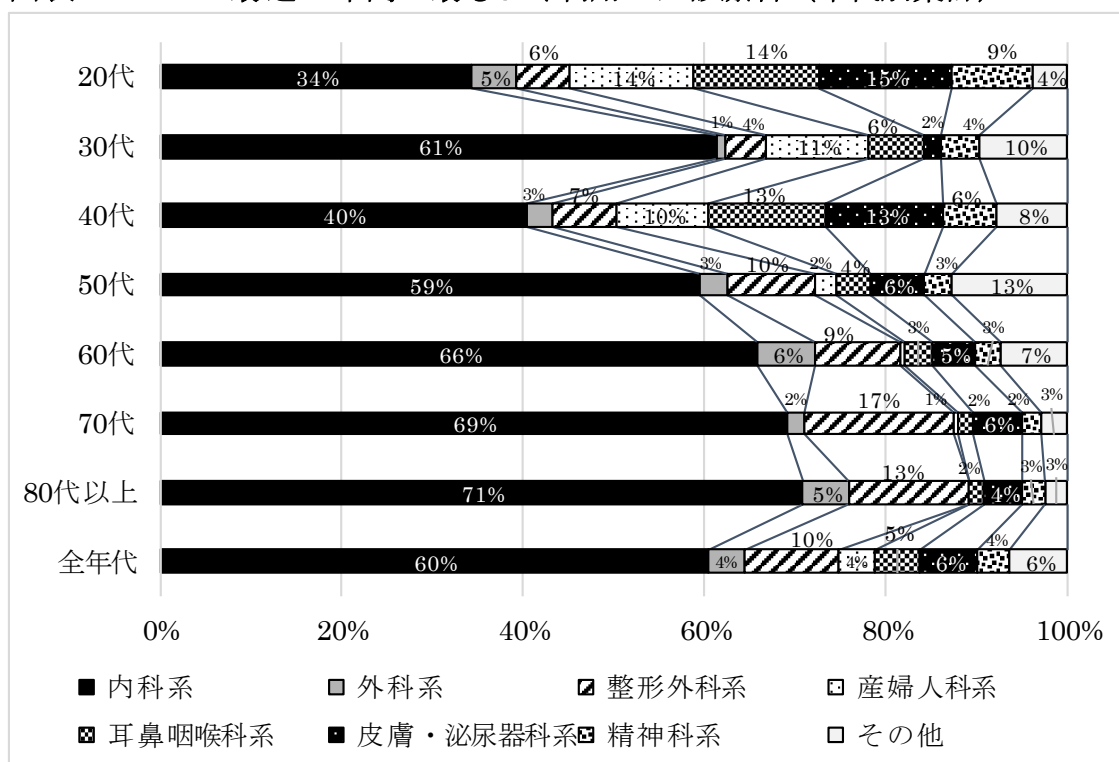
(単位：人)

	受診した	受診しなかった	回答者数
20代	105	57	162
30代	124	37	161
40代	141	46	187
50代	174	47	221
60代	273	51	324
70代	219	20	239
80代以上	273	20	293
全年代	1309	278	1,587

問 1 1 最近 1 年間で最もよく受診した診療科を教えてください。

- いずれの年代も内科系が中心となっているが、年代別の特徴も認められる。
 - 若年層は多様な診療科を受診しているが、高齢層は受診する診療科が収斂している。
 - 50 代以上において、整形外科系の受診が 10～15%程度と一定の割合を占めている。
 - 70 代以上においては、内科系と整形外科系を合わせると 85%程度を占める。

図表 2-15 最近1年間で最もよく利用した診療科（年代別集計）



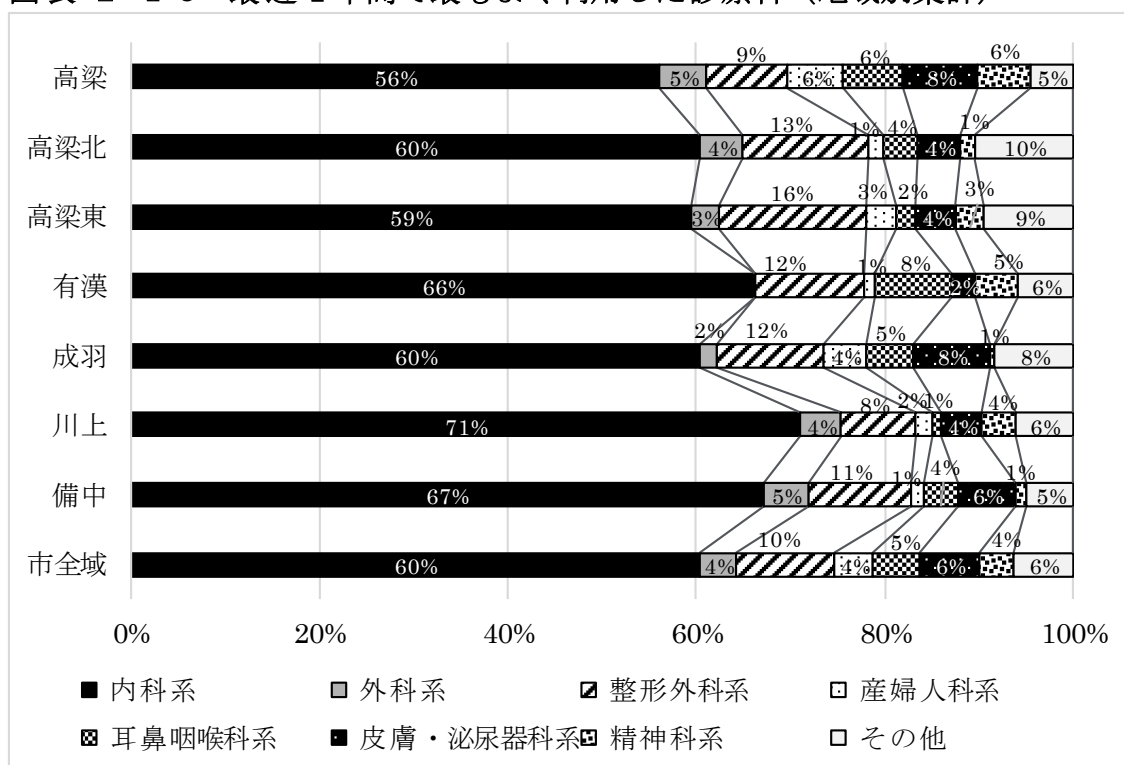
(単位：人)

	内科系	外科系	整形外科系	産婦人科系	耳鼻咽喉科系	皮膚・泌尿器科系	精神科系	その他	回答者数
20代	35	5	6	14	14	15	9	4	102
30代	70	1	5	13	7	2	5	11	114
40代	56	4	10	14	18	18	8	11	139
50代	98	5	16	4	6	10	5	21	165
60代	168	16	24	1	8	12	7	19	255
70代	138	4	33	1	3	11	4	6	200
80代以上	170	12	32	0	4	10	6	6	240
全年代	734	47	127	49	60	78	43	77	1,215

- 各地域とも「内科系」の割合が高く、次いで「整形外科系」という大きな傾向に差はないが、多少の地域差が見られる。

- 高梁、成羽の2地域では「産婦人科系」が5%前後みられる。
- 川上地域では「整形外科系」がやや低い。
- 高梁、有漢の2地域では「精神科系」がやや高い。

図表 2-16 最近1年間で最もよく利用した診療科（地域別集計）



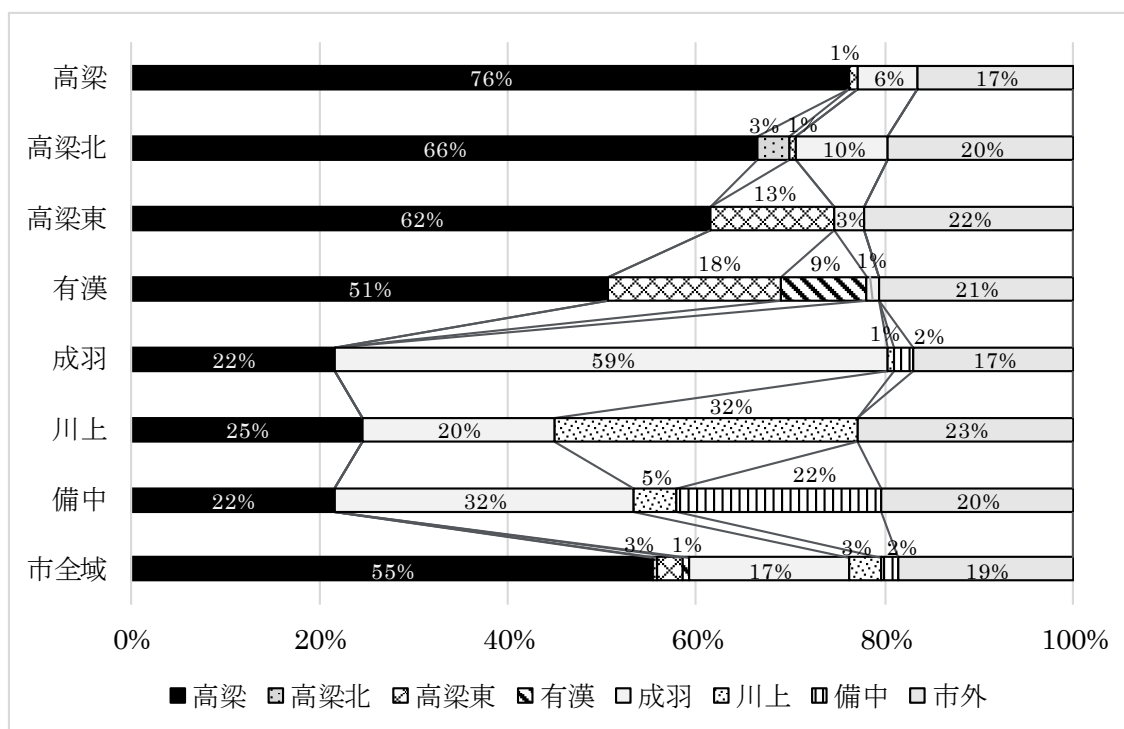
(単位：人)

	内科系	外科系	整形外科系	産婦人科系	耳鼻咽喉科系	皮膚・泌尿器科系	精神科系	その他	回答者数
高梁	293	26	45	31	33	41	29	24	522
高梁北	81	6	18	2	5	6	2	14	134
高梁東	57	3	15	3	2	4	3	9	96
有漢	57	0	10	1	7	2	4	5	86
成羽	110	3	21	8	9	15	1	15	182
川上	81	5	9	2	1	5	4	7	114
備中	55	4	9	1	3	5	1	4	82
市全域	734	47	127	49	60	78	43	77	1,215

問 1 2 最近 1 年間でどの地域の医療機関を最もよく利用しましたか。

- 高梁・高梁北・高梁東・有漢の 4 地域では、高梁地域の医療機関の利用割合が高く、成羽地域では成羽地域の医療機関の利用割合が高い。川上・備中の 2 地域では、高梁地域での受診と成羽地域での受診を合わせても 45～54% であり、受診先の地域が分散する傾向にある。
- 地域内完結率としては高梁地域の 76% が最も高く、次いで成羽地域の 59%、川上地域の 32%、備中地域の 22% の順である。高梁東、有漢の 2 地域では 10% 前後に留まっている。さらに、高梁北地域においてはわずか 3% である。
- 市外医療機関の利用割合に関しては、各地域とも大きな差は無く、それぞれ 20% 程度である。

図表 2-17 最近1年間で最もよく利用した医療機関所在地



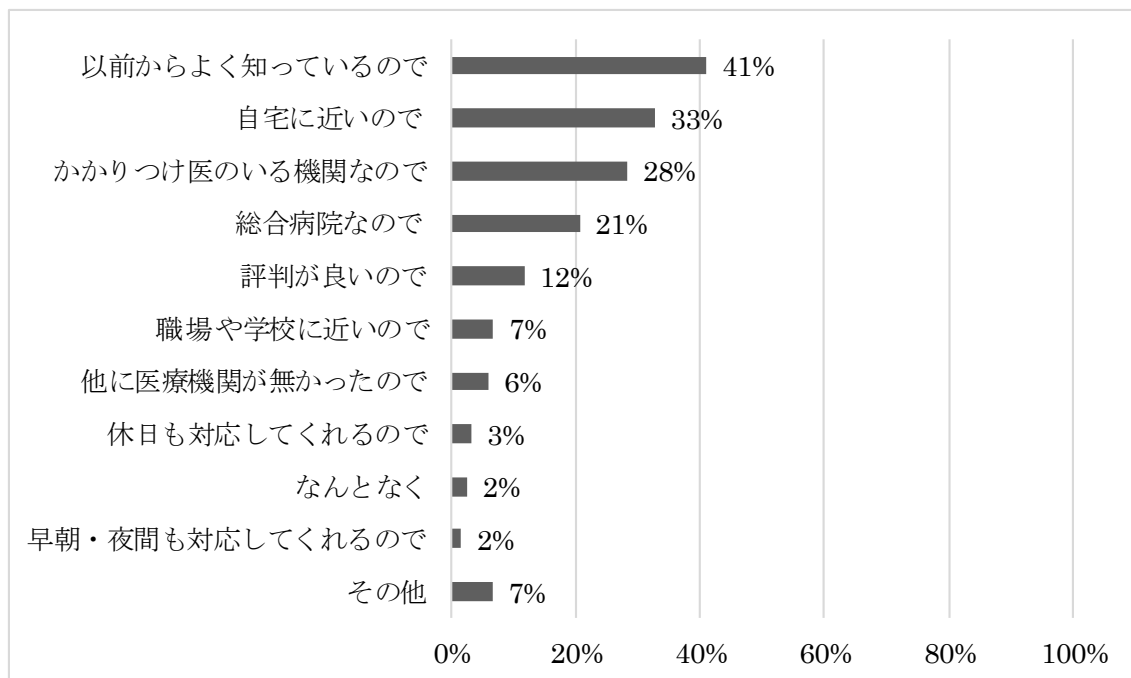
(単位：人)

		医療機関所在地								回答者数
		高梁	高梁北	高梁東	有漢	成羽	川上	備中	市外	
居住地	高梁	411	0	5	0	34	0	0	89	539
	高梁北	95	5	1	0	14	0	0	28	143
	高梁東	61	0	13	0	3	0	0	22	99
	有漢	44	0	16	8	1	0	0	18	87
	成羽	41	0	0	0	111	1	4	32	189
	川上	29	0	0	0	24	38	0	27	118
	備中	19	0	0	0	28	4	19	18	88
	市全域	700	5	35	8	216	43	22	235	1,264

問 1 3 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関について、その医療機関を選んだ理由を教えてください。(当てはまるもの 3 つまで選択)

- 医療機関の選択理由に関しては、「以前からよく知っているので」の割合が最も高く 41%であり、次いで「自宅に近いので」「かかりつけ医のいる機関なので」となっている。
- 「総合病院なので」が 4 位に入っており、21%である。
- 「他に医療機関が無かったので」は 6%に留まる。

図表 2-1 8 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関の選択理由



(回答者数：1,263 人)

問 1 4 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関について、その医療機関への交通手段を教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- 70 代以下では「自分で運転する自家用車」の割合が高い。80 代以上では「家族等の運転する自家用車」の割合が高いほか、他の年代と比較して「タクシー」「路線バス」「生活福祉バス」「乗合タクシー（ふれあいタクシー）」の利用割合が高い。

図表 2-19 医療機関への交通手段（年代別集計）

1位2位3位													
	徒歩	自転車	バイク	セニアカー（電動カート）	自分で運転する自家用車	家族等の運転する自家用車	路線バス	生活福祉バス	タクシー	乗合タクシー（ふれあいタクシー）	J R	その他	回答者数（人）
20代	19%	5%	0%	0%	72%	13%	1%	0%	1%	0%	1%	0%	99
30代	12%	9%	0%	0%	79%	11%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	119
40代	1%	2%	0%	0%	87%	11%	1%	0%	0%	0%	3%	0%	139
50代	7%	9%	4%	0%	78%	10%	2%	0%	1%	1%	1%	2%	166
60代	6%	8%	2%	0%	82%	14%	1%	1%	0%	0%	3%	1%	264
70代	12%	6%	4%	0%	58%	20%	5%	1%	5%	0%	4%	1%	216
80代以上	7%	3%	0%	0%	30%	40%	8%	8%	13%	4%	0%	6%	265
全年代	8%	6%	2%	0%	66%	19%	3%	2%	4%	1%	2%	2%	1,267
独居高齢者	15%	5%	1%	0%	43%	15%	10%	6%	18%	5%	2%	7%	110

※独居高齢者：65 歳以上かつ問 7 にて「同居者はいない」を選択した人

- 地域別の集計では、どの地域においても同様の傾向を示しており、「自分で運転する自家用車」の割合が最も高く、「家族等の運転する自家用車」の割合が2番目に高い。

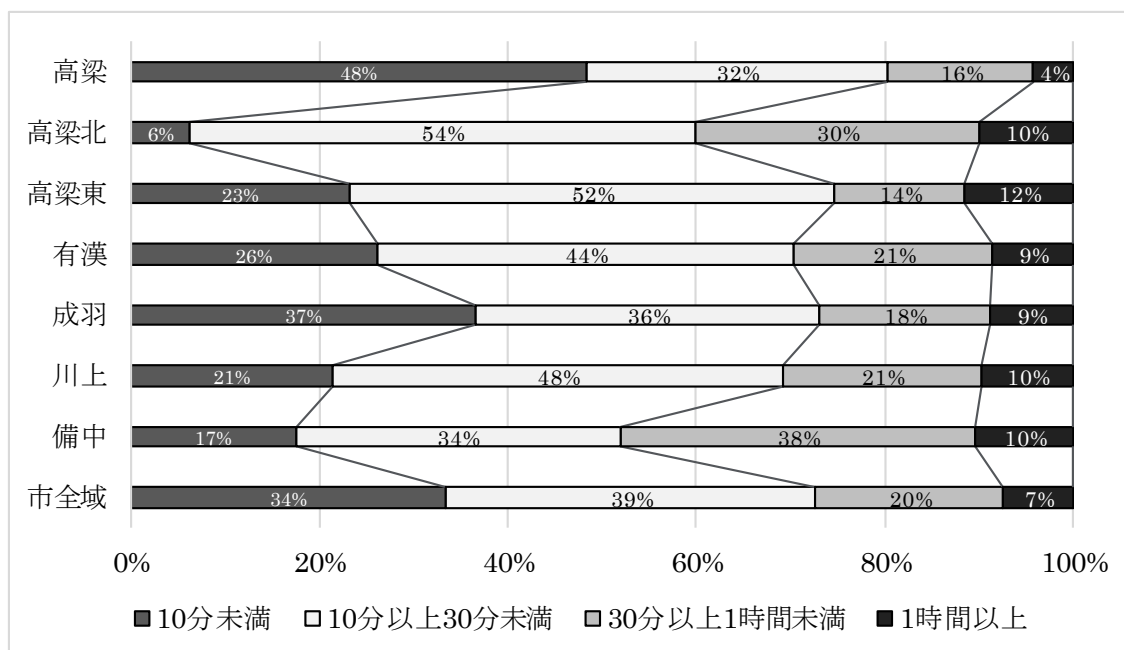
図表 2-20 医療機関への交通手段（地域別集計）

	徒歩	自転車	バイク	セニアカー（電動カート）	自分で運転する自家用車	家族等の運転する自家用車	路線バス	生活福祉バス	タクシー	乗合タクシー（ふれあいタクシー）	JR	その他	回答者数（人）
高梁	<u>13%</u>	9%	2%	0%	64%	<u>16%</u>	3%	1%	4%	1%	2%	2%	531
高梁北	2%	2%	0%	0%	71%	<u>23%</u>	<u>6%</u>	4%	<u>6%</u>	0%	5%	1%	147
高梁東	3%	3%	1%	0%	71%	<u>23%</u>	<u>5%</u>	0%	<u>5%</u>	0%	2%	2%	99
有漢	0%	2%	2%	1%	71%	<u>25%</u>	<u>3%</u>	1%	2%	1%	1%	1%	89
成羽	<u>8%</u>	7%	2%	0%	65%	<u>20%</u>	2%	4%	5%	1%	1%	3%	195
川上	<u>7%</u>	1%	0%	0%	69%	<u>18%</u>	4%	5%	1%	3%	0%	2%	119
備中	<u>6%</u>	<u>6%</u>	1%	0%	59%	<u>25%</u>	4%	2%	1%	5%	2%	2%	87
市全域	<u>8%</u>	6%	2%	0%	66%	<u>19%</u>	3%	2%	4%	1%	2%	2%	1,267

問 1 5 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関について、自宅又は職場のうち近い方からその医療機関への所要時間を教えてください。

- 医療機関への所要時間は地域間の差が大きく、高梁地域においては所要時間が 10 分未満である割合は 48%であるのに対して、高梁北地域においてはわずか 6%である。
- 「10 分未満」「30 分以上 1 時間未満」で医療機関にアクセスできる市民の割合は、高梁地域において 80%に達するのに対して、備中地域では 51%に留まる。
- 一方で、通院に 1 時間以上要する者の割合は、高梁地域を除いていずれの地域においても 10%程度である。

図表 2-2 1 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関への所要時間



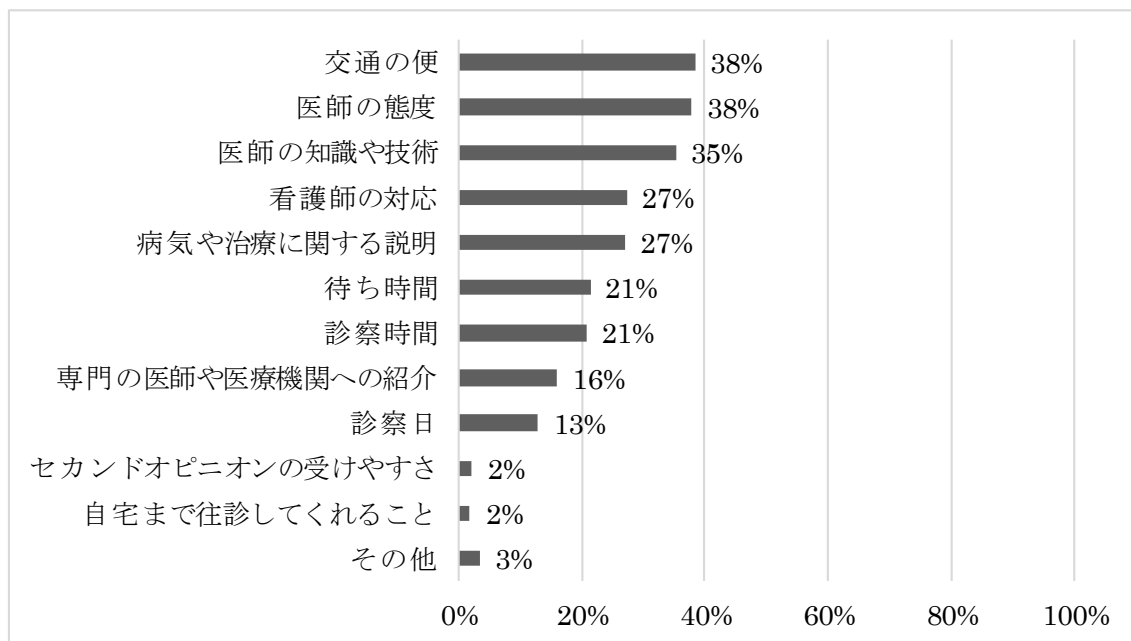
(単位：人)

	10 分未満	10 分以上 30 分未満	30 分以上 1 時間未満	1 時間以上	回答者数
高梁	253	168	81	22	524
高梁北	9	77	43	14	143
高梁東	23	50	13	11	98
有漢	23	39	19	8	88
成羽	69	69	34	17	189
川上	24	54	24	11	113
備中	16	31	34	9	89
市全域	417	488	248	92	1,244

問 1 6 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関について、満足している点を教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- 「交通の便」「医師の態度」の割合が並んで最も高く、38%である。
- 次いで、「医師の知識や技術」「病気や治療に関する説明」といった医療の質に関する選択肢の割合が高くなっている。

図表 2-2 2 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関の満足している点

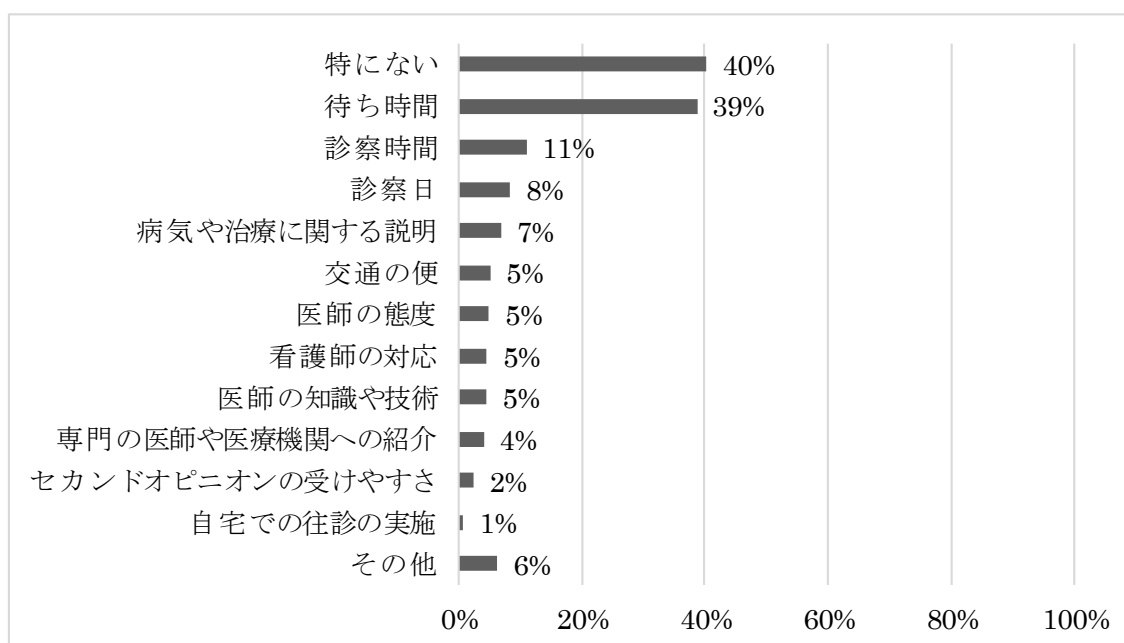


(回答者数：1,208 人)

問 1 7 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関について、改善してほしい点を教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- 医療機関に改善してほしい点は、「特にない」が最も高い。
- 「特にない」以外では、「待ち時間」の割合が高く、他選択肢が 10%程度以下であるのに対して「待ち時間」は 39%である。

図表 2-23 最近 1 年間で最もよく利用した医療機関の改善してほしい点

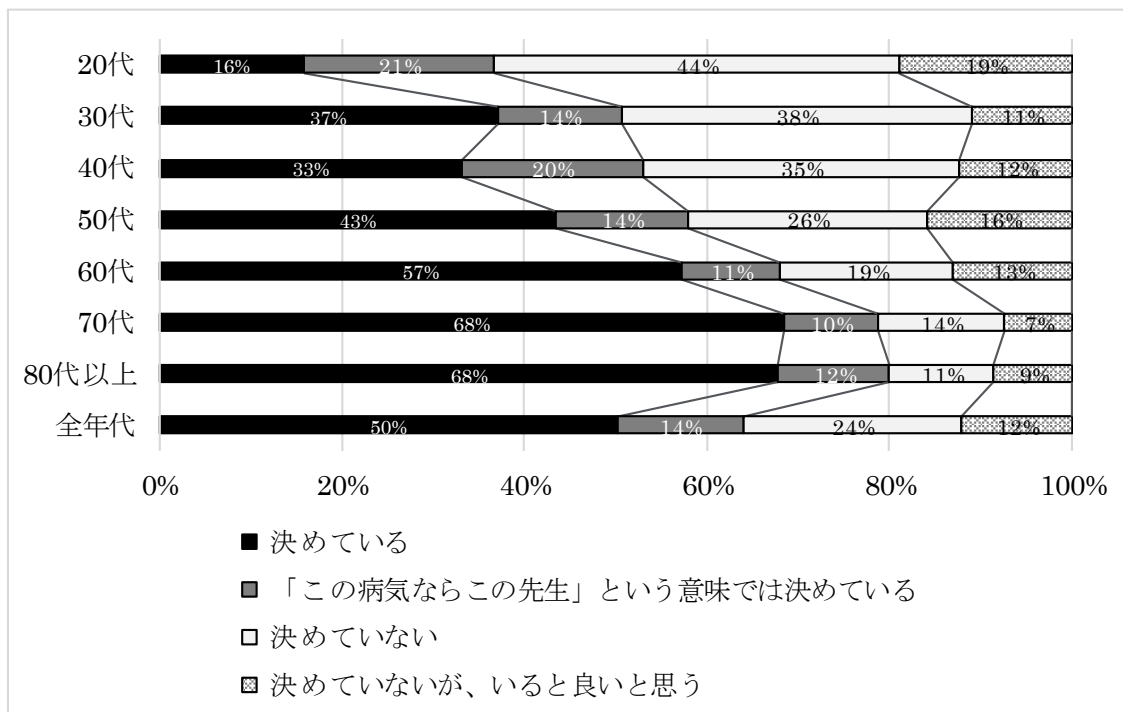


(回答者数 : 1,138 人)

問 3 9 あなたは、ご自身のかかりつけ医を決めていますか。

- かかりつけ医を決めている人の割合は、年代とともに増加する傾向にあり、20代では「決めている」「『この病気ならこの先生』という意味では決めている」の合計が37%であるのに対して、80代以上では80%である。

図表 2-2 4 かかりつけ医の有無



(単位：人)

	決めている	「この病気ならこの先生」という意味では決めている	決めていない	決めていないが、いると良いと思う	回答者数
20代	25	33	70	30	158
30代	57	21	59	17	154
40代	62	37	65	23	187
50代	93	31	56	34	214
60代	181	34	60	41	316
70代	167	25	34	18	244
80代以上	207	37	35	26	305
全年代	792	217	380	190	1,579

問 40 かかりつけ医はどの地域の医療機関の方ですか。
(当てはまるもの全て選択)

- 高梁・高梁北・高梁東・有漢の4地域の住民に関しては、かかりつけ医のいる地域として高梁地域を選択した割合が高く、51～89%である。
- 成羽地域の住民は、成羽地域にかかりつけ医を有する割合が高く、62%である。
- 川上、備中の2地域では、自地域にかかりつけ医がいる割合は34～44%であり、高梁地域または成羽地域にかかりつけ医を有する割合が37～58%と相対的に多い。
- 全地域に共通して、20%程度は市外にかかりつけ医を有している。特に川上地域では28%である。

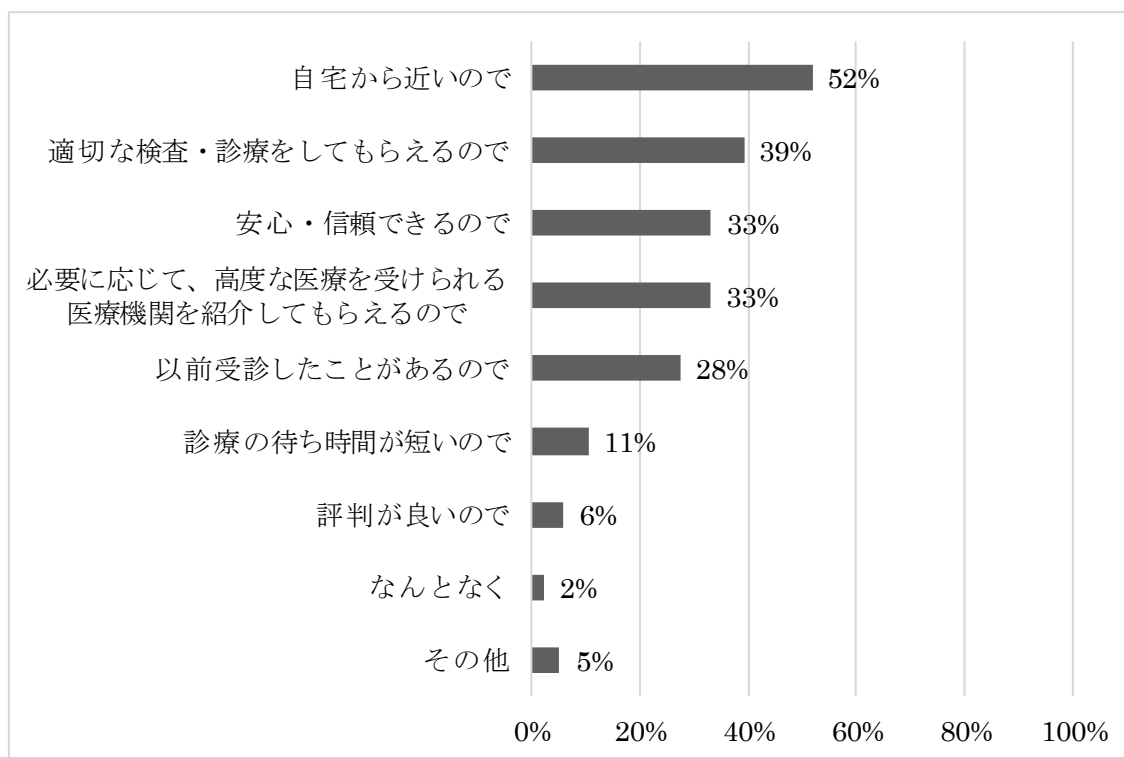
図表 2-25 かかりつけ医のいる地域

		かかりつけ医の地域								回答者数 (人)
		高梁	高梁北	高梁東	有漢	成羽	川上	備中	市外	
回答者居住地	高梁	89%	1%	2%	0%	8%	0%	0%	14%	430
	高梁北	75%	8%	1%	0%	10%	0%	0%	18%	106
	高梁東	57%	0%	23%	1%	6%	0%	0%	19%	87
	有漢	51%	1%	30%	11%	1%	0%	0%	19%	73
	成羽	35%	0%	1%	0%	62%	0%	2%	22%	137
	川上	19%	0%	0%	0%	18%	44%	2%	28%	97
	備中	23%	0%	0%	0%	35%	6%	34%	18%	61
	市全域	63%	1%	5%	1%	17%	5%	2%	18%	990

問 4 1 そのかかりつけ医を選んだ理由は何ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 「自宅から近いので」が最も多く、半数以上が選択している。
- 次いで、「適切な検査・診療をしてもらえるので」「安心・信頼できるの
「必要に応じて高度な医療を受けられる医療機関を紹介してもらえるので」
といった、医療の質に関する項目の割合が高い。

図表 2-26 かかりつけ医の選択理由

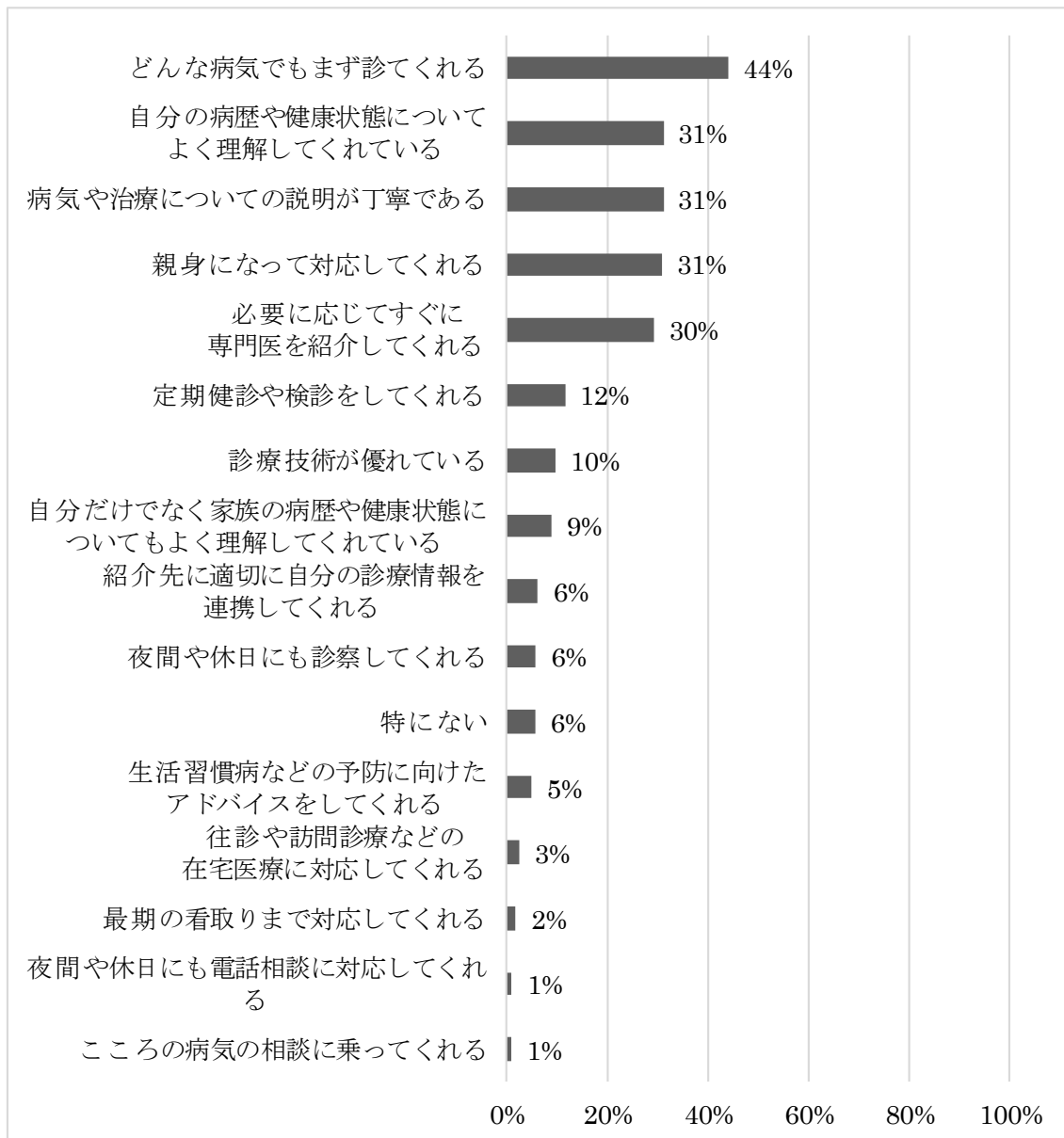


(回答者数：979人)

問 4 2 かかりつけ医について満足している点は何ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 「どんな病気でもまず診てくれる」「自分の病歴や健康状態についてよく理解してくれている」「病気や治療についての説明が丁寧である」「親身になって対応してくれる」等、患者への理解や距離の近さに関する項目が上位を占めている。

図表 2-27 かかりつけ医について満足している点

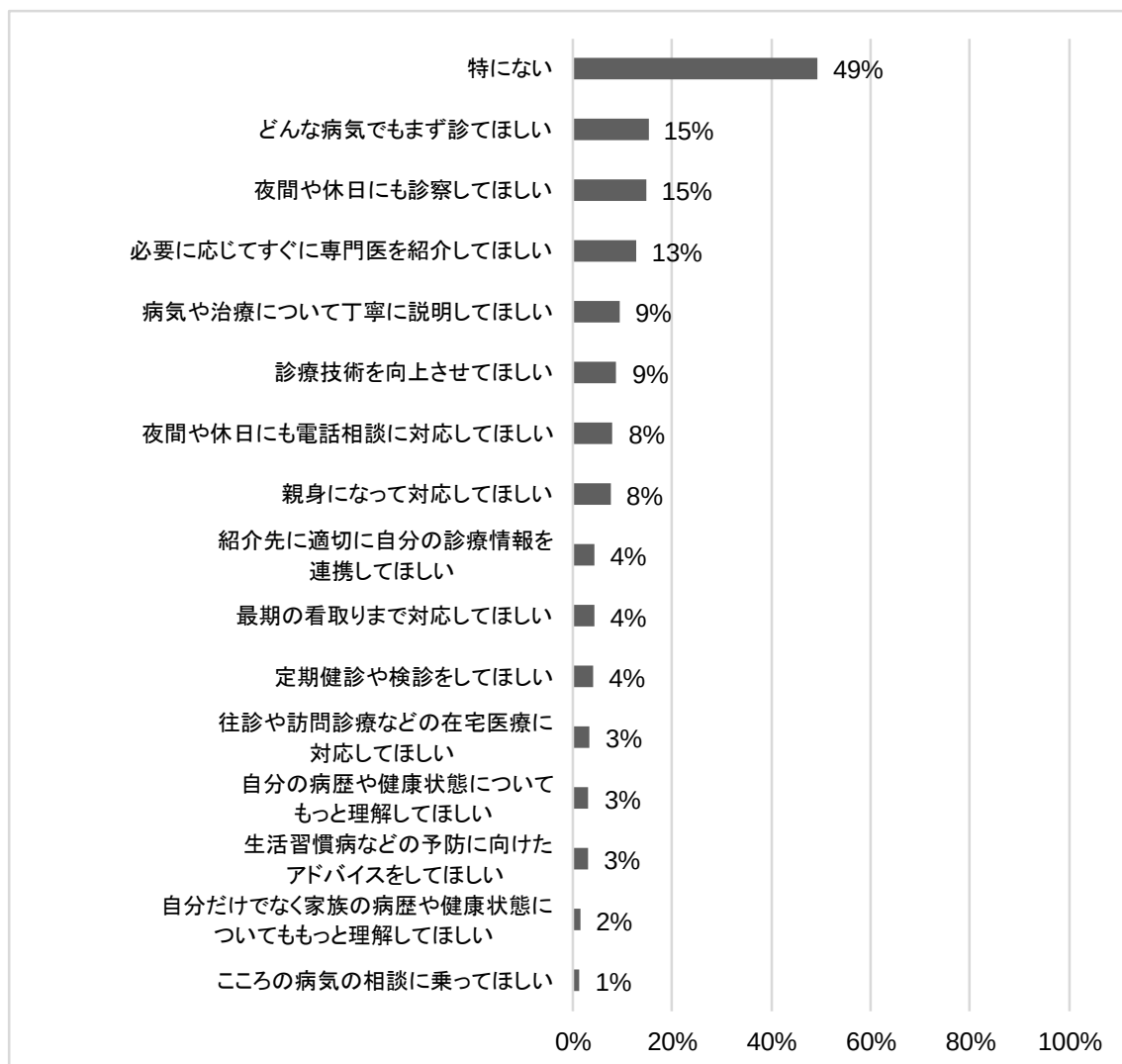


(回答者数：917人)

問 4 3 かかりつけ医について改善してほしい点は何ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- かかりつけ医に改善してほしい点に関しては、「特にない」が最も多い。
- 「特にない」を除いた場合、「どんな病気でもまず診てほしい」「夜間や休日にも診察してほしい」「必要に応じてすぐに専門医を紹介してほしい」といった、医療へのアクセスに関する項目が上位に挙がっている。

図表 2-28 かかりつけ医について改善してほしい点



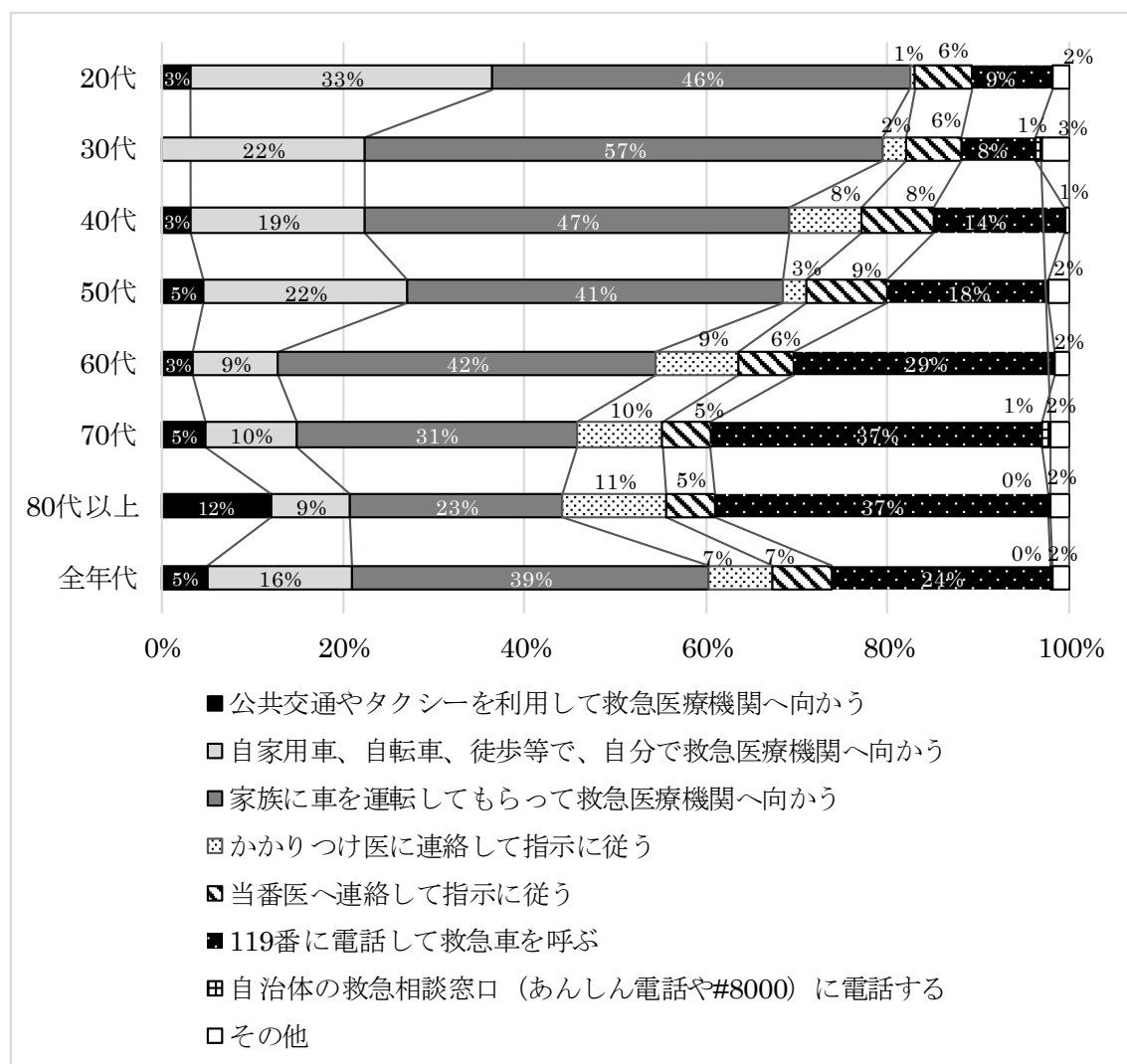
(回答者数：838人)

2. 3. 2. 救急医療

問 1 8 早朝・深夜や休日にあなたの具合が悪くなり、医者にかかりたい場合、どのように対応しますか。

- 「自家用車、自転車、徒歩等で、自分で救急医療機関へ向かう」「家族に車を運転してもらって救急医療機関へ向かう」を合わせると、20代、30代では約80%を占める。年齢とともに低下し、60代で約50%、70代で40%、80代以上で30%程度である。
- 年齢とともに「119番に電話して救急車を呼ぶ」の割合が増加し、60代以上ではおおむね30%を超えている。
- 「かかりつけ医に連絡して指示に従う」「当番医へ連絡して指示に従う」を合わせると、各年代で10～15%程度となる。

図表 2-29 早朝・深夜や休日に自身の具合が悪くなった場合の対応



2. 市民アンケート調査結果

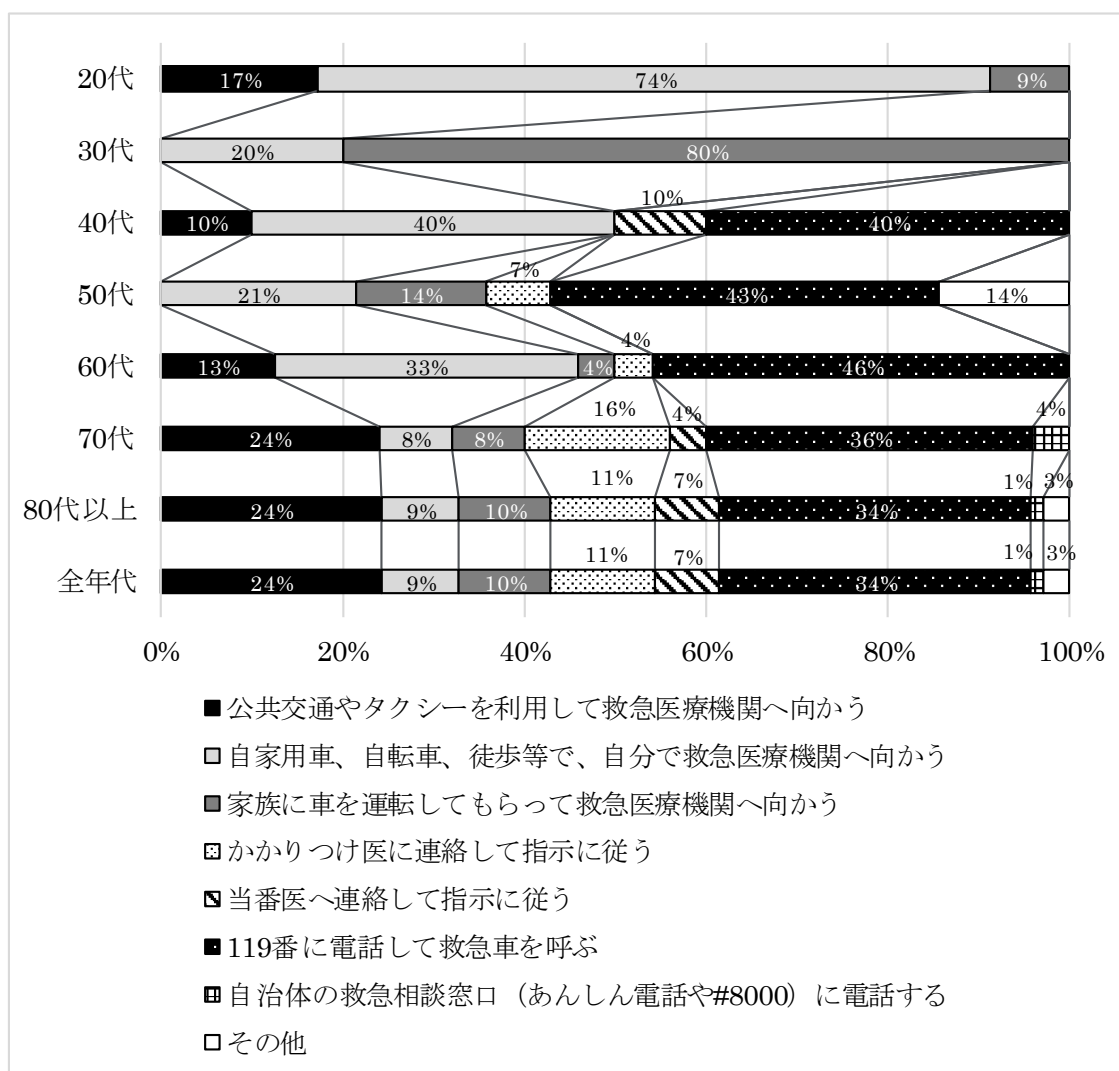
(単位：人)

	医療機関へ向かう 公共交通やタクシーを利用して救急 医療機関へ向かう	救急医療機関へ向かう 自家用車、自転車、徒歩等で、自分で	家族に車を運転してもらって救急 医療機関へ向かう	かかりつけ医に連絡して指示に従う	当番医へ連絡して指示に従う	119番に電話して救急車を呼ぶ	#8000に電話する 自治体の救急相談窓口（あんしん電話や	その他	回答者数
20代	5	53	73	1	10	14	0	3	159
30代	0	36	92	4	10	13	1	5	161
40代	6	36	88	15	15	27	0	1	188
50代	10	49	90	6	19	39	0	5	218
60代	11	30	133	29	20	92	0	5	320
70代	11	23	71	22	12	84	2	5	230
80代 以上	36	26	70	34	16	110	1	6	299
全年代	78	253	618	112	103	380	4	29	1,577

【単身世帯に限って見た場合】

- 各年代において全般的に自身で救急医療機関へ向かうとする割合が大きく増加し、「家族に車を運転してもらって救急医療機関へ向かう」が大きく減少する傾向が見られるが、その中であって 30 代では自身で救急医療機関へ向かう割合に変化がなく、逆に家族に運転してもらう割合が大きく増加している。
- 救急車利用の意向については、20 代～30 代で見られなくなる一方で、40 代～60 代で大きく増加している。70 代以上については、大きな変化は見られない。
- かかりつけ医や当番医への連絡の割合については、70 代においてかかりつけ医に連絡する割合がやや増加するものの、全体の傾向として大きな変化は見られない。

図表 2-30 早朝・深夜や休日に自身の具合が悪くなった場合の対応
(単身世帯のみを集計)



2. 市民アンケート調査結果

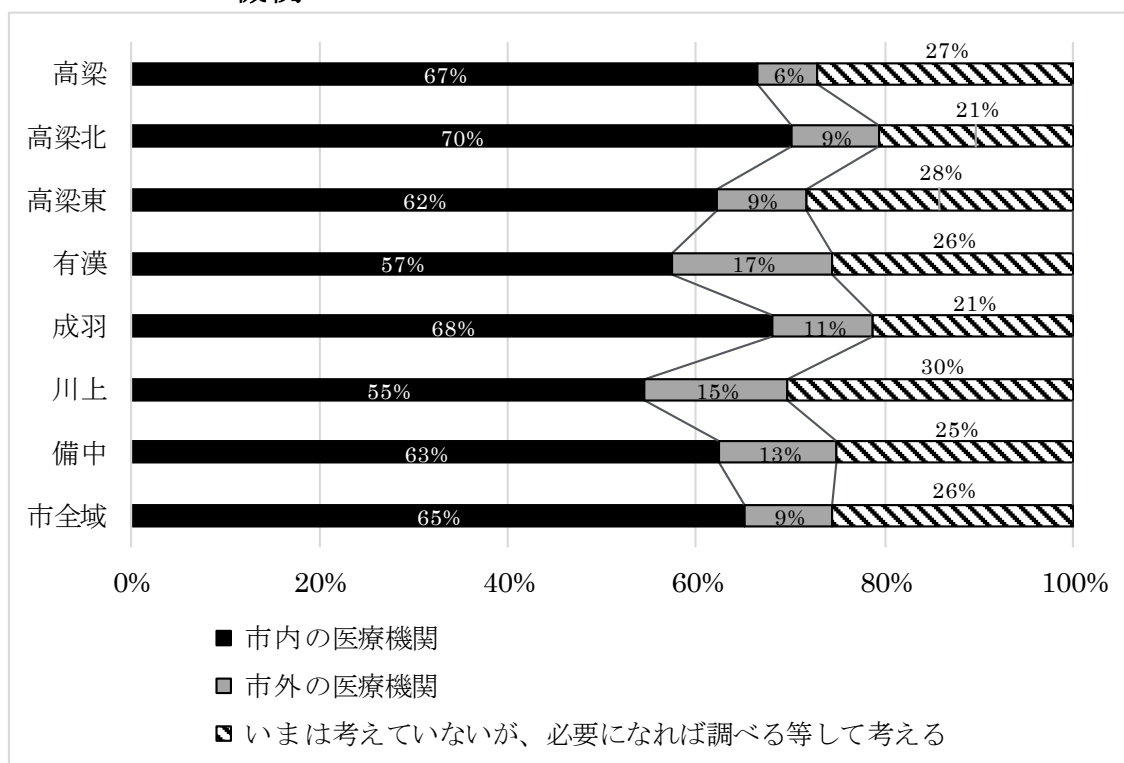
(単位：人)

	医療機関へ向かう	公共交通やタクシーを利用して救急医療機関へ向かう	救急医療機関へ向かう	自家用車、自転車、徒歩等で、自分で救急医療機関へ向かう	家族に車を運転してもらって救急医療機関へ向かう	かかりつけ医に連絡して指示に従う	当番医へ連絡して指示に従う	119番に電話して救急車を呼ぶ	8000に電話する	自治体の救急相談窓口（あんしん電話や#8000）に電話する	その他	回答者数
20代	4	17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	23
30代	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5
40代	1	4	0	0	1	4	0	0	0	0	0	10
50代	0	3	2	1	0	6	0	2	14	0	0	14
60代	3	8	1	1	0	11	0	11	0	0	0	24
70代	6	2	2	4	1	9	1	9	1	0	0	25
80代以上	17	6	7	8	5	24	1	24	1	2	2	70
全年代	31	41	18	15	7	53	2	53	2	4	4	171

問 19 どの医療機関へ行くと思いますか。

- 早朝・深夜や休日に向かう医療機関に関しては、どの地域においても「市内の医療機関」の割合が50%を超えている。
- 有漢、川上の2地域では、「市外の医療機関」を選択する割合が他地域よりも高い。

図表 2-31 早朝・深夜や休日に自身の具合が悪くなった場合に向かう医療機関



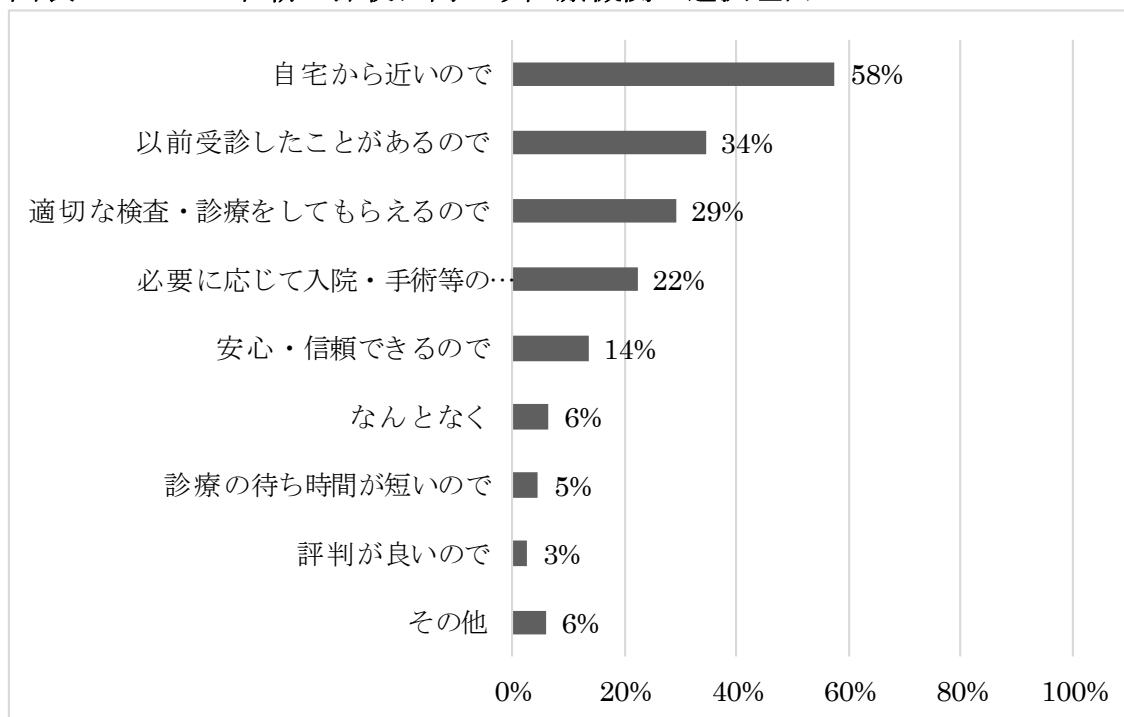
(単位：人)

	市内の 医療機関	市外の 医療機関	いまは考えていないが、必要 になれば調べる等して考える	回答者数
高梁	270	26	110	406
高梁北	68	9	20	97
高梁東	46	7	21	74
有漢	27	8	12	47
成羽	90	14	28	132
川上	36	10	20	66
備中	30	6	12	48
市全域	568	81	223	872

問 2 0 その医療機関を選んだ理由は何ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 早朝・深夜や休日に向かう医療機関の選択理由に関しては、「自宅から近いので」の割合が最も高く、58%である。

図表 2-3 2 早朝・深夜に向かう医療機関の選択理由

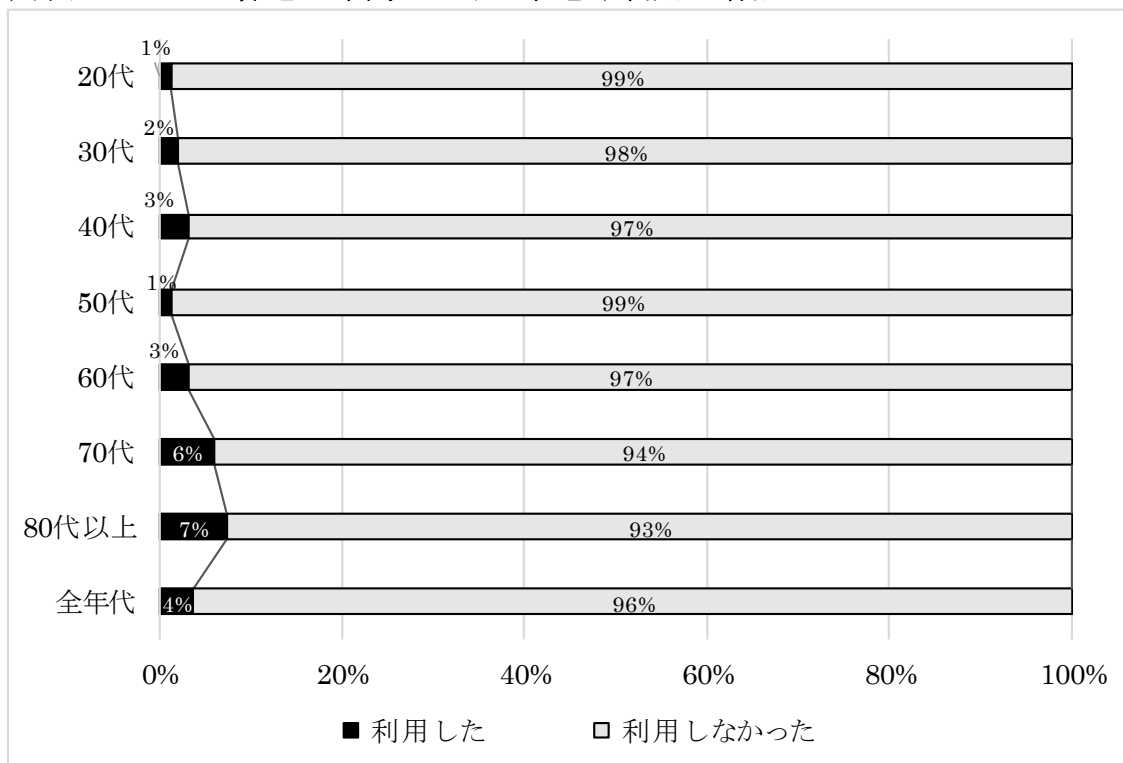


(回答者数 : 610 人)

問 2 1 あなたは、最近 1 年間で救急車を利用しましたか。

- 救急車の利用実態に関しては、全年代に共通して利用者は 10%を下回っている。

図表 2-3 3 最近 1 年間ににおける救急車利用の有無

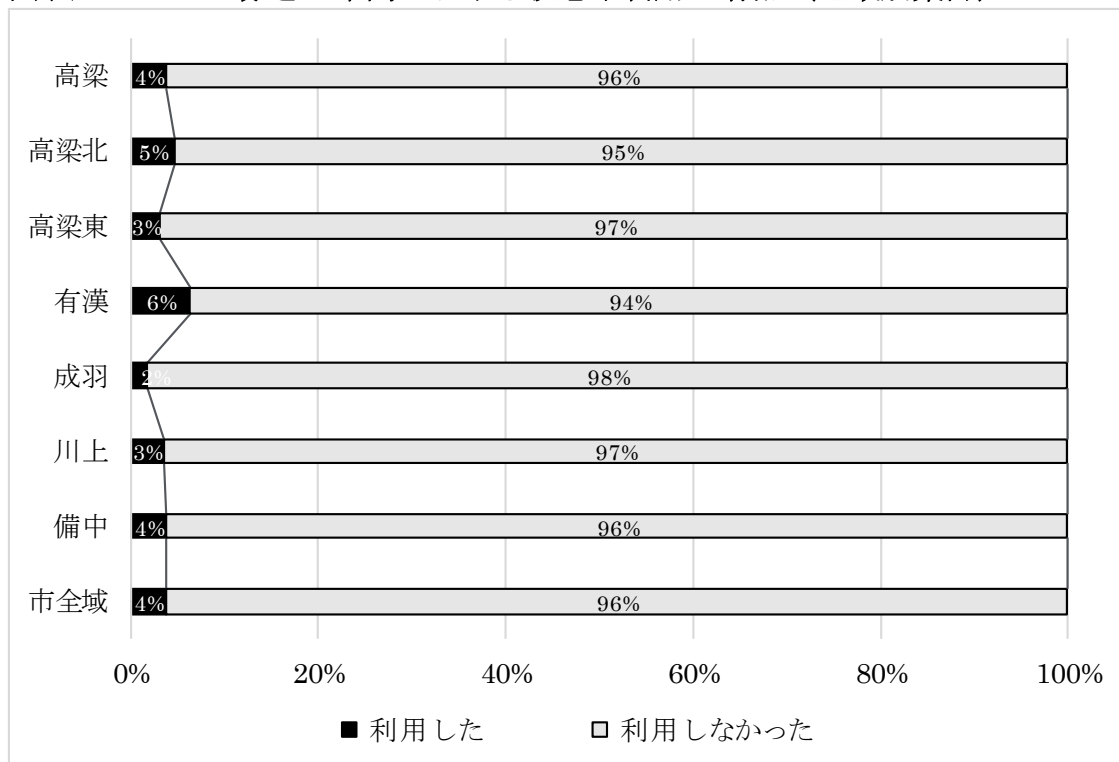


(単位：人)

	利用した	利用しなかった	回答者数
20 代	2	162	164
30 代	3	149	152
40 代	6	182	188
50 代	3	215	218
60 代	10	314	324
70 代	14	222	236
80 代以上	21	265	286
全年代	58	1,509	1,567

- 救急車利用について、地域によって大きな傾向に差は見られない。

図表 2-34 最近1年間における救急車利用の有無（地域別集計）



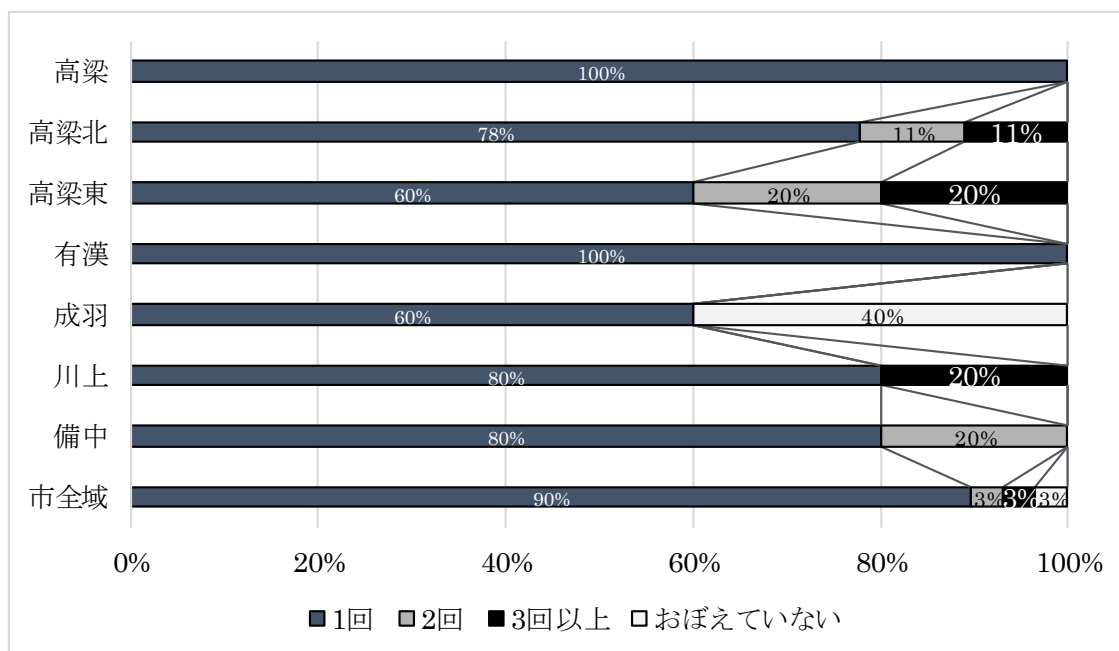
(単位：人)

	利用した	利用しなかった	回答者数
高梁	26	655	681
高梁北	8	163	171
高梁東	4	122	126
有漢	7	103	110
成羽	4	225	229
川上	5	141	146
備中	4	101	105
市全域	58	1,509	1,567

問 2 2 最近 1 年間で救急車を何回利用しましたか。

- 最近 1 年間の救急車利用経験がある人において、利用回数は 1 回がほとんどである。

図表 2-3 5 最近 1 年間における救急車の利用回数



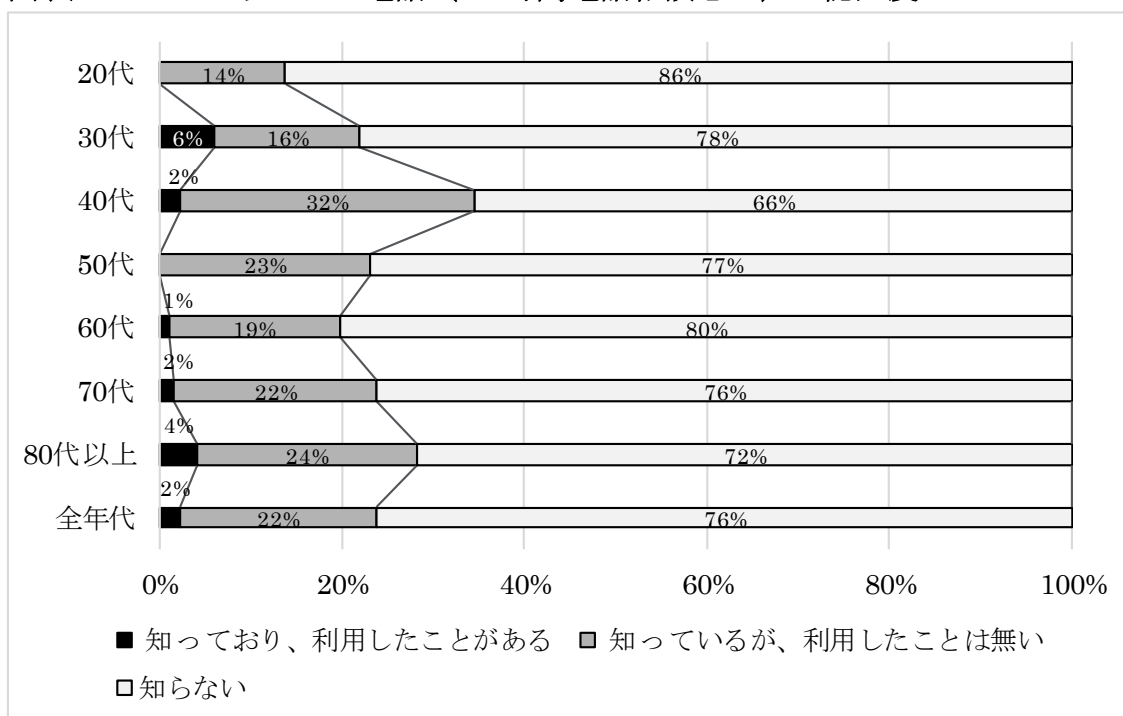
(単位：人)

	1 回	2 回	3 回以上	おぼえて いない	回答者数
高梁	26	0	0	0	26
高梁北	7	1	1	0	9
高梁東	3	1	1	0	5
有漢	7	0	0	0	7
成羽	3	0	0	2	5
川上	4	0	1	0	5
備中	4	1	0	0	5
市全域	52	2	2	2	58

問 2 3 あんしん電話（24 時間電話相談窓口）をご存知ですか。

- 全世代において「知らない」が大半を占めている。
- 知っている人であっても、30 代の 6%が利用したことがあるほかは、ほとんどの世代が実際に利用したことはない。

図表 2-36 あんしん電話（24 時間電話相談窓口）の認知度



(単位：人)

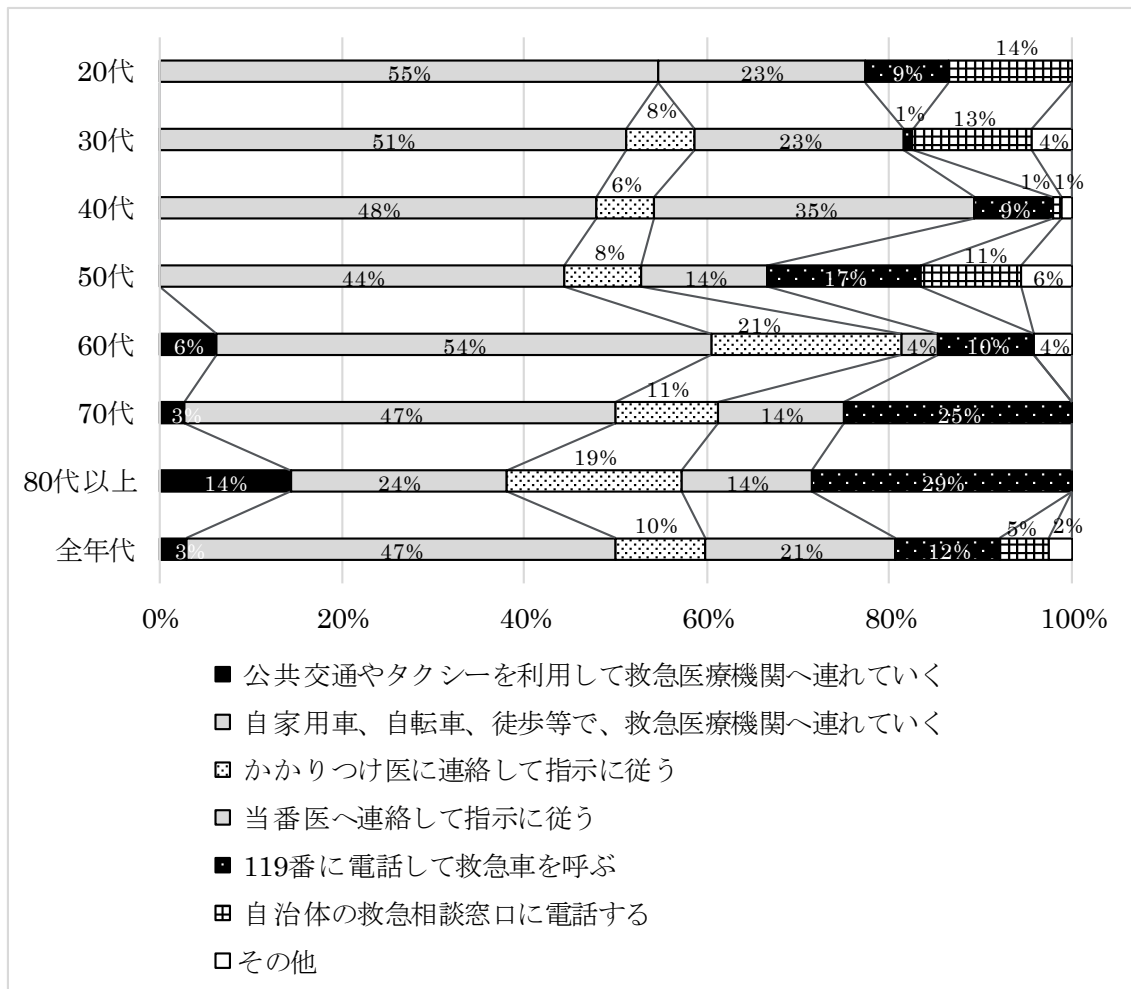
	知っており、利用したことがある	知っているが、利用したことはない	知らない	回答者数
20 代	0	21	131	152
30 代	9	24	117	150
40 代	4	59	120	183
50 代	0	49	163	212
60 代	3	58	249	310
70 代	4	54	186	244
80 代以上	12	72	214	298
全年代	33	336	1,181	1,550

2. 3. 3. 子どもの医療

問 2 4 早朝・深夜や休日に子どもの具合が悪くなり、医者にかかりたい場合、どのように対応しますか。

- 20代～70代では「自家用車、自転車、徒歩等で、救急医療機関へ連れていく」、80代以上では「119番に電話して救急車を呼ぶ」が最多である。
- 「かかりつけ医に連絡して指示に従う」「当番医へ連絡して指示に従う」を合わせると20～40%程度を占めており、特に40代において「当番医へ連絡して指示に従う」の割合が高い。

図表 2-37 早朝・深夜や休日に子どもの具合が悪くなった場合の対応



2. 市民アンケート調査結果

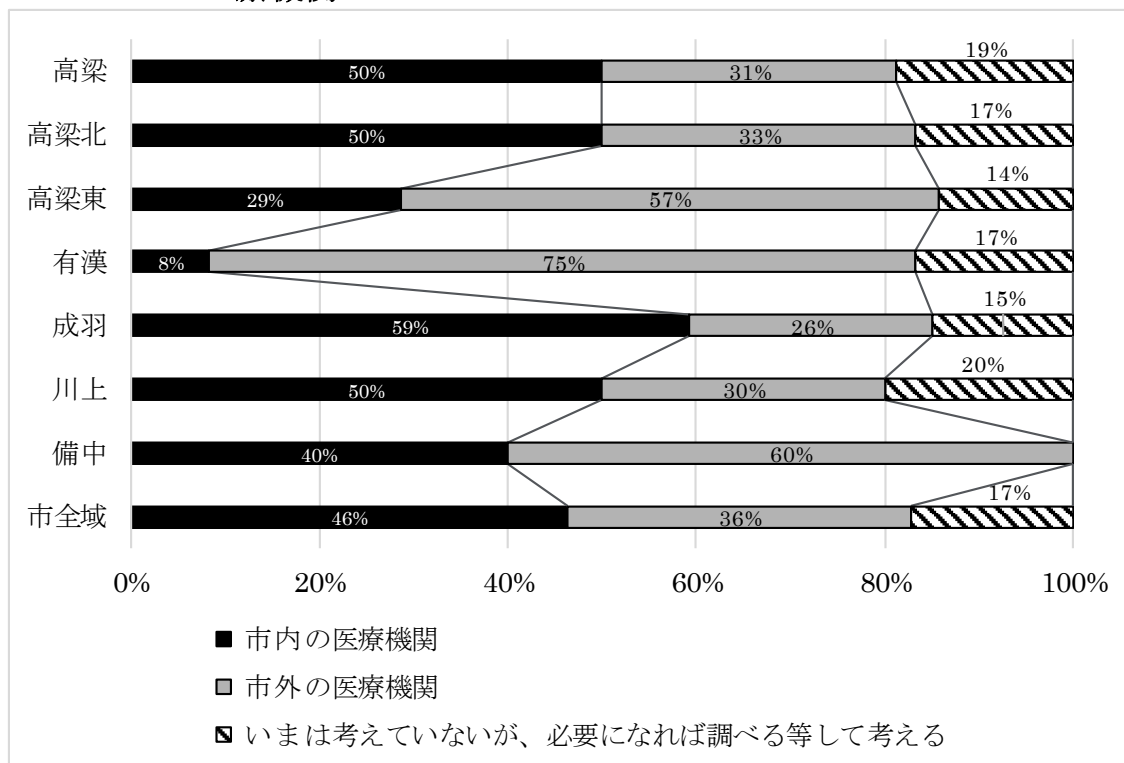
(単位：人)

	公共交通やタクシーを利用して救急医療機関へ連れていく	自家用車、自転車、徒歩等で、救急医療機関へ連れていく	かかりつけ医に連絡して指示に従う	当番医へ連絡して指示に従う	119番に電話して救急車を呼ぶ	自治体の救急相談窓口に通話する	その他	回答者数
20代	0	12	0	5	2	3	0	22
30代	0	47	7	21	1	12	4	92
40代	0	45	6	33	8	1	1	94
50代	0	16	3	5	6	4	2	36
60代	3	26	10	2	5	0	2	48
70代	1	17	4	5	9	0	0	36
80代以上	6	10	8	6	12	0	0	42
全年代	11	174	37	77	43	20	9	371

問 2 5 どの医療機関へ行くとお思いますか。

- 早朝・深夜や休日に子どもの具合が悪くなった場合に向かう医療機関に関しては、高梁、高梁北、成羽、川上の4地域では、「市内の医療機関」を選択した人が「市外の医療機関」を選択した人を上回っている。高梁東、有漢の2地域では、「市外の医療機関」の方が多い。
- 自身の具合が悪くなった場合（問19）と比較すると、「市外の医療機関」の割合が顕著に増加している。特に、有漢地域においては、自身の場合17%に対して子どもの場合75%である。高梁東、備中の2地域も同様の傾向が見られる。

図表 2-38 早朝・深夜や休日に子どもの具合が悪くなった場合に向かう医療機関



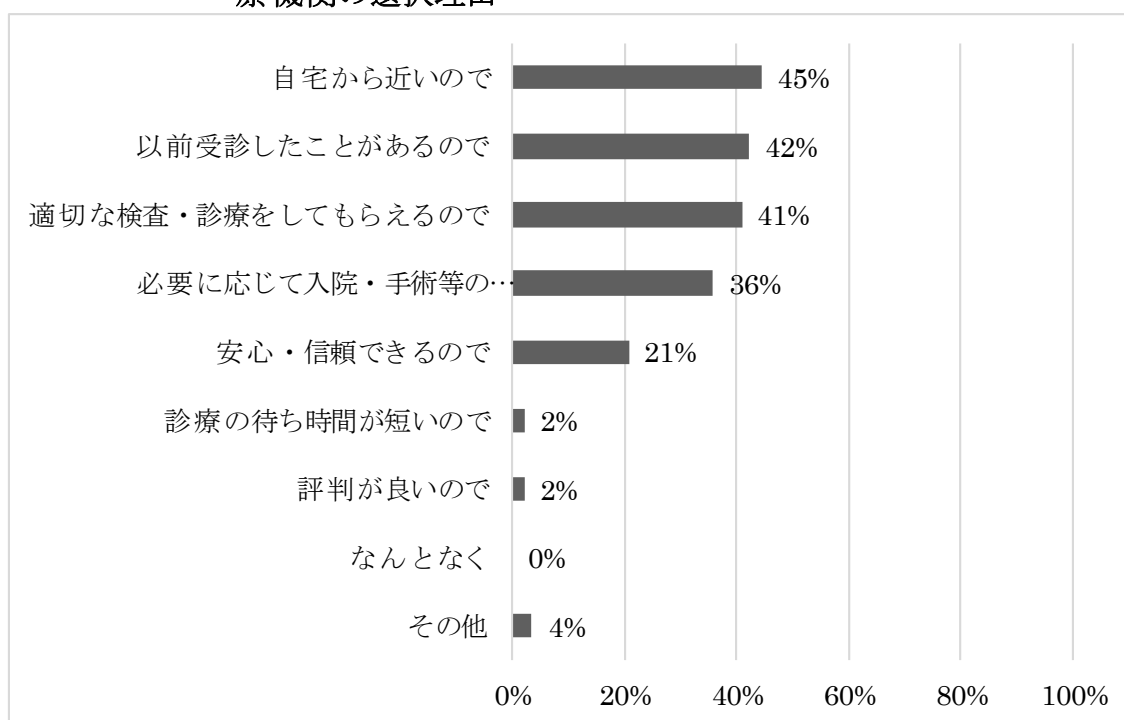
(単位：人)

	市内の医療機関	市外の医療機関	いまは考えていないが、必要になれば調べる等して考える	回答者数
高梁	40	25	15	80
高梁北	9	6	3	18
高梁東	4	8	2	14
有漢	1	9	2	12
成羽	16	7	4	27
川上	5	3	2	10
備中	2	3	0	5
市全域	78	61	29	168

問 2 6 その医療機関を選んだ理由は何ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 早朝・深夜や休日に子どもの具合が悪くなった場合に向かう医療機関の選択理由に関しては、「自宅から近いので」の割合が最も高く、45%である。
- 「なんとなく」の割合が低いことを除いて、自身の具合が悪くなった場合に向かう医療機関の選択理由（問20）と同様の傾向であった。

図表 2-39 早朝・深夜や休日に子どもの具合が悪くなった場合に向かう医療機関の選択理由

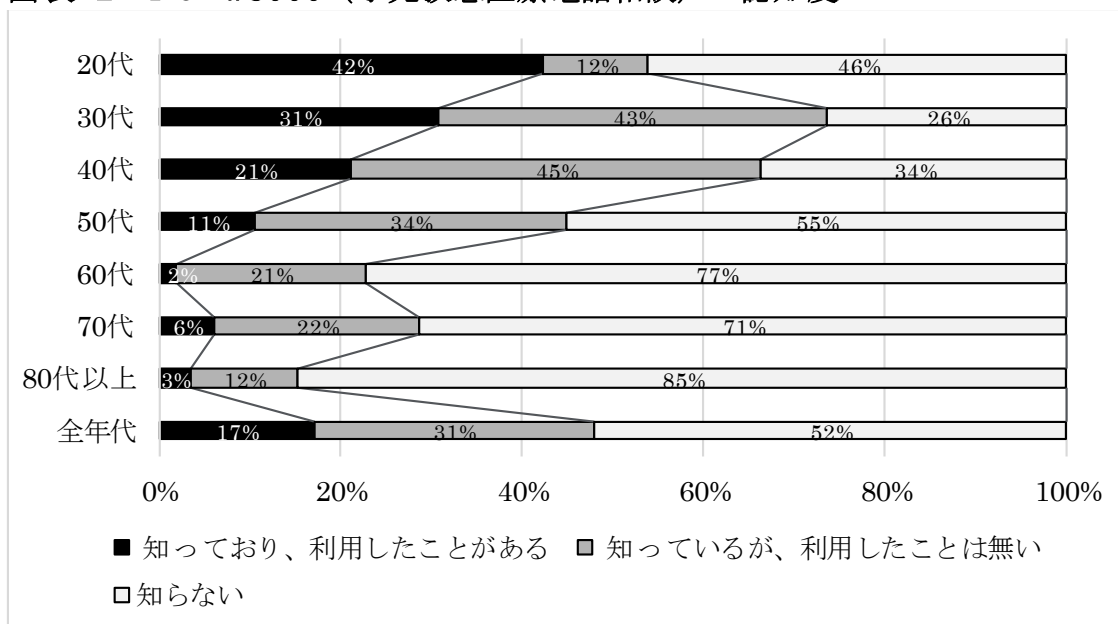


(回答者数：139人)

問 27 #8000（小児救急医療電話相談）をご存知ですか。

- 40代以下においては、半数以上が認知しており、特に20代においては実際に利用したことがある割合が42%と高い。30代、40代においては、認知は高いものの実際に利用したことがあるのは半数以下である。
- また、60代以上においても、利用経験は少ないものの、一定程度の認知が見られる。

図表 2-40 #8000（小児救急医療電話相談）の認知度



(単位：人)

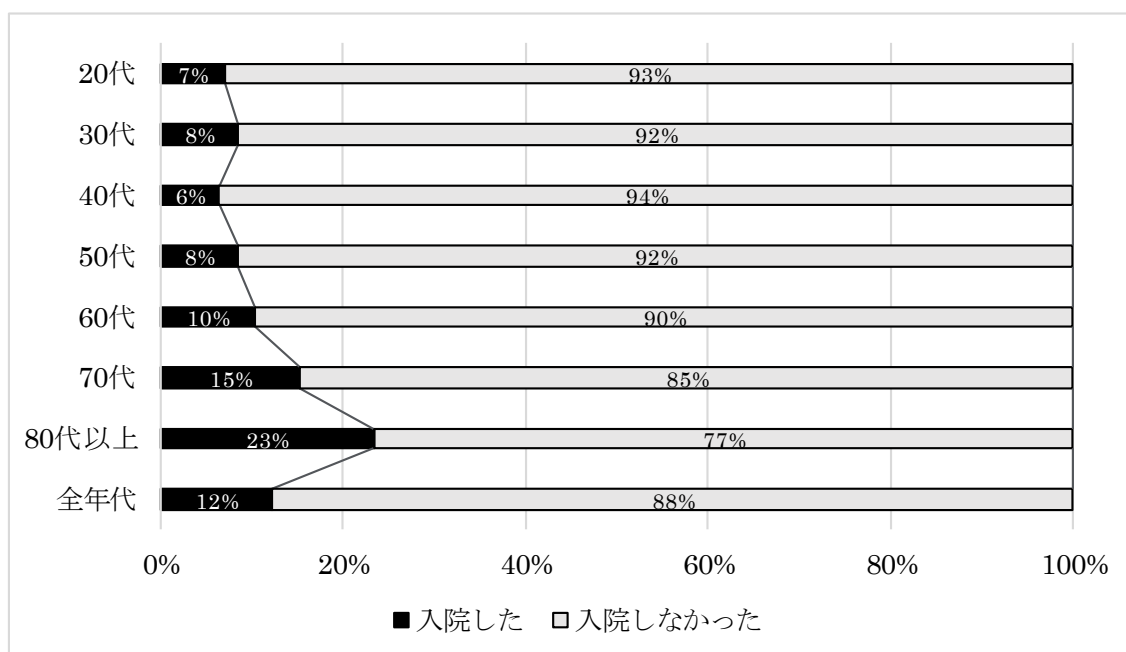
	知っており、利用 したことがある	知っているが、利 用したことは無い	知らない	回答者数
20代	11	3	12	26
30代	28	39	24	91
40代	20	43	32	95
50代	4	13	21	38
60代	1	11	41	53
70代	3	11	35	49
80代以上	2	7	50	59
全年代	70	127	215	412

2. 3. 4. 入院医療

問 2 8 あなたは、最近 1 年間に入院しましたか。

- 20 代～60 代では「入院した」は 10%程度である。
- 50 代以降、年齢とともに入院を経験した人の割合は増加し、80 代以上では 23%が直近 1 年間に入院を経験している。

図表 2-4 1 最近 1 年間における入院の有無（年代別集計）

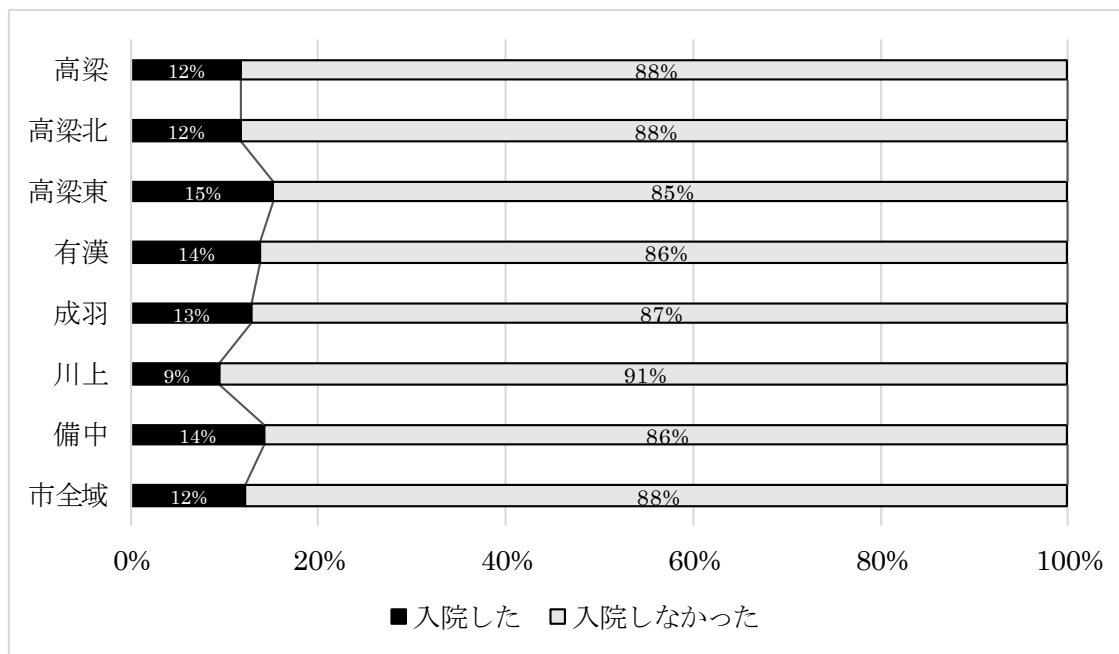


(単位：人)

	入院した	入院しなかった	回答者数
20 代	11	146	157
30 代	13	140	153
40 代	12	174	186
50 代	18	195	213
60 代	33	286	319
70 代	37	204	241
80 代以上	66	217	283
全年代	190	1,362	1,552

- 地域別に見ると、高梁東地域が入院経験が最も多く 15%であり、川上地域が最も入院経験が最も少なく 9%である。

図表 2-4 2 最近 1 年間に於ける入院の有無（地域別集計）



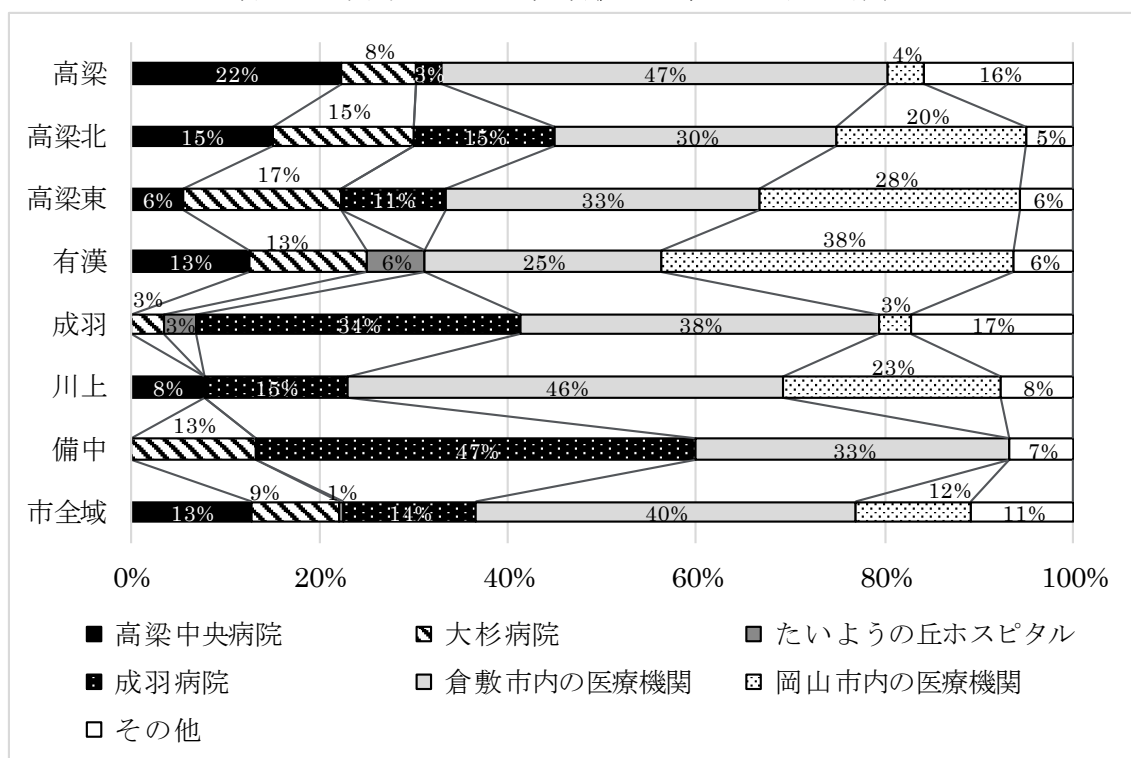
(単位：人)

	入院した	入院しなかった	回答者数
高梁	80	600	680
高梁北	20	151	171
高梁東	19	106	125
有漢	15	93	108
成羽	29	197	226
川上	13	125	138
備中	15	91	106
市全域	190	1,362	1,552

問 29 最初にどの医療機関に入院しましたか。

- 市内に入院した割合は備中地域で最も高く 60%であり、次いで高梁北地域の 45%、成羽地域の 40%の順である。最も低いのは、川上地域の 23%である。逆に、40～75%程度が市外で入院している。
- 全ての地域において、「倉敷市内の医療機関」への入院が大きな割合を占めており、30～50%程度である。
- 「岡山市内の医療機関」への入院には、地域によって幅がある。高梁、成羽、備中の3地域では、岡山市内への入院はほとんどない。高梁北、高梁東、有漢、川上の4地域では岡山市への依存は20～40%程度となっている。特に、有漢地域では倉敷市よりも岡山市への依存の方が大きい。

図表 2-4 3 最近 1 年間に於ける、最初に入院した医療機関



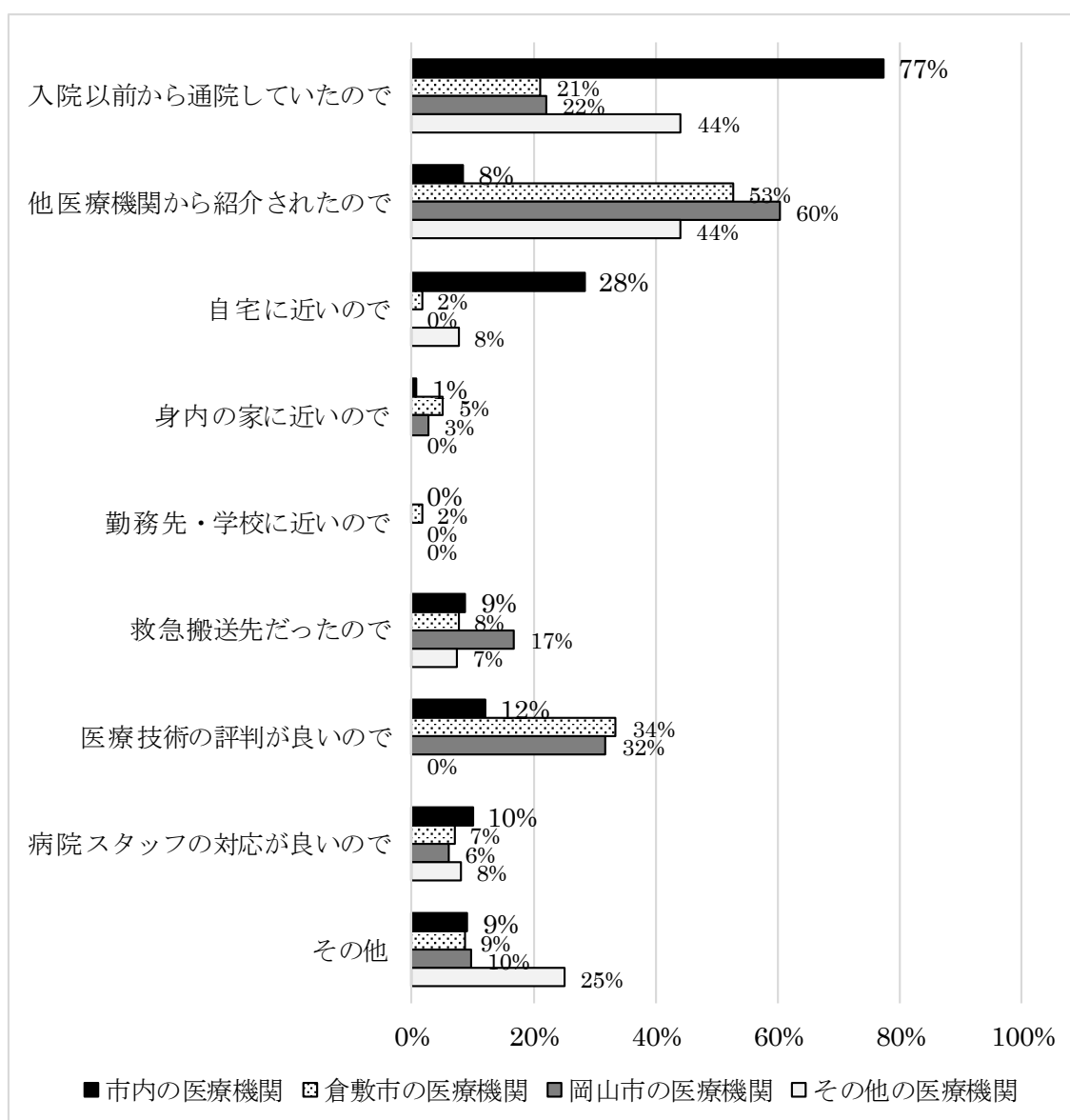
(単位：人)

	高梁中央病院	大杉病院	たいようの丘 ホスピタル	成羽病院	倉敷市内の医療機関	岡山市内の医療機関	その他	回答者数
高梁	17	6	0	2	36	3	12	76
高梁北	3	3	0	3	6	4	1	20
高梁東	1	3	0	2	6	5	1	18
有漢	2	2	1	0	4	6	1	16
成羽	0	1	1	10	11	1	5	29
川上	1	0	0	2	6	3	1	13
備中	0	2	0	7	5	0	1	15
市全域	24	17	1	26	75	23	20	186

問 30 最初に入院した医療機関を選んだ理由は何ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 入院先医療機関の選択理由は、市内医療機関については「入院以前から通院していたので」が最多である。倉敷市、岡山市の医療機関については「他医療機関から紹介されたので」が最多であり、次いで「医療技術の評判が良いので」となっている。

図表 2-4 4 最近1年間における、最初に入院した医療機関の選択理由

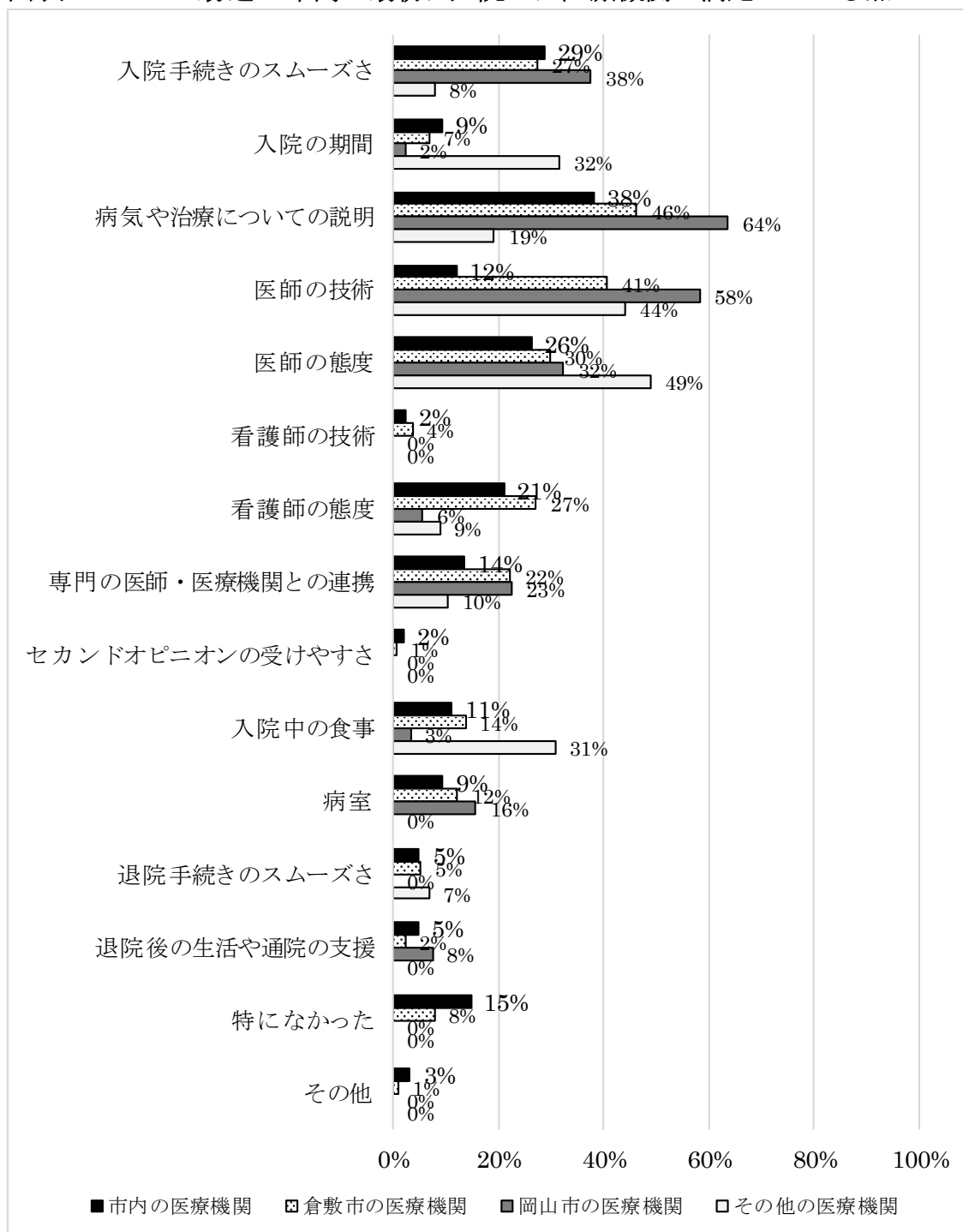


(回答者数：178人)

問 3 1 最初に入院した医療機関で満足した点は何ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 入院先医療機関に満足している点は、市内医療機関、市外医療機関ともに「病
気や治療についての説明」が1位になるなど、共通した傾向を示す要素があ
る一方で、市外医療機関では「医師の技術」の割合が高いなど、傾向が異な
る要素がある。

図表 2-4 5 最近1年間で最初に入院した医療機関の満足している点



(回答者数：市民の医療機関 65 人、倉敷市の医療機関 68 人、岡山市の医療機関 21 人、その他の医療機関 20 人)

- 年代別に見た場合、50代以上では「病気や治療についての説明」が1位になっている一方で、30代、40代では「医師の技術」が1位、20代では「医師の態度」が1位となっている。

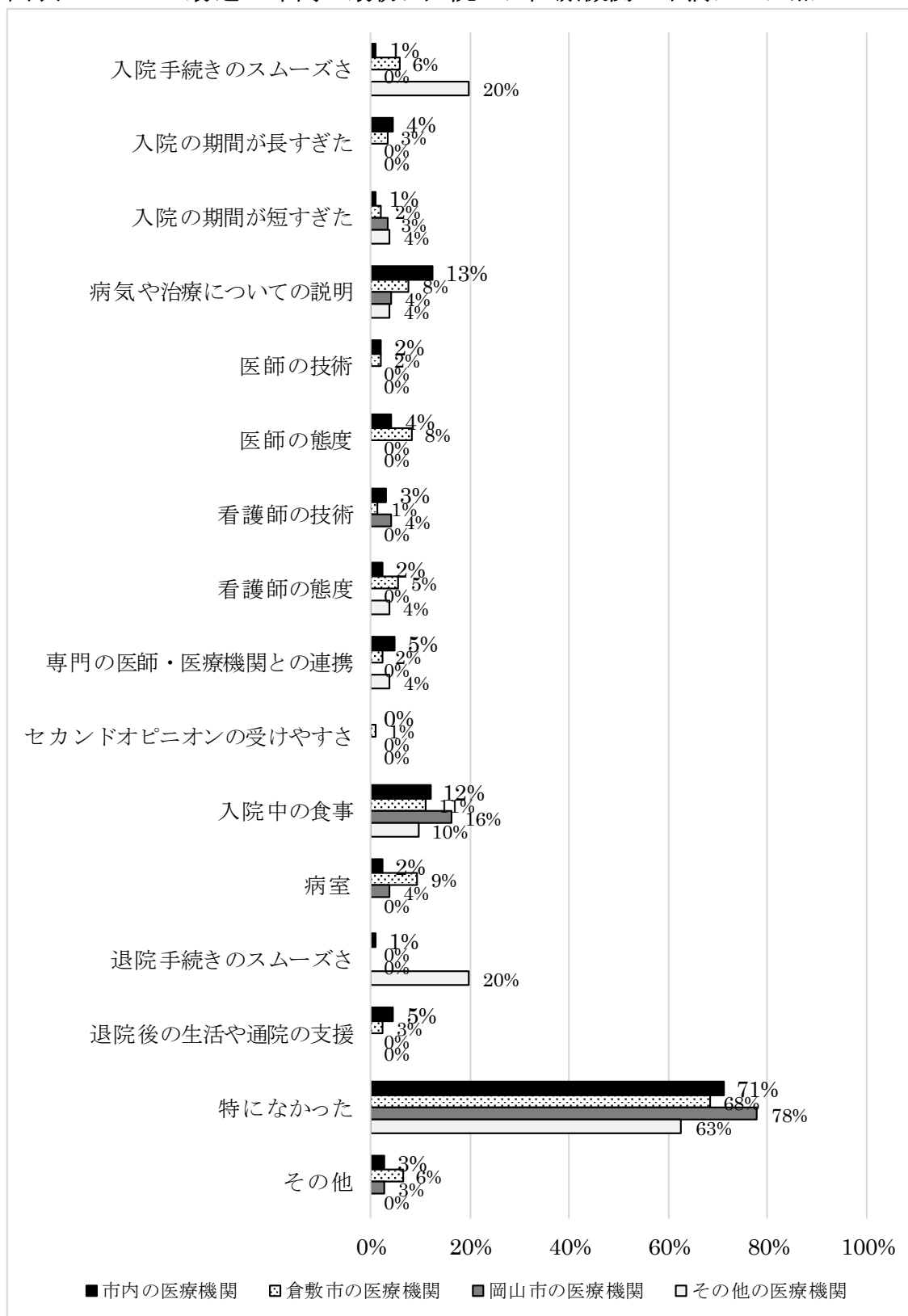
図表 2-4 6 最近1年間で最初に入院した医療機関の満足している点
(年代別集計)

	1位			2位			3位									回答者数(人)
	入院手続きのスムーズさ	入院の期間	病気や治療についての説明	医師の技術	医師の態度	看護師の技術	看護師の態度	専門の医師・医療機関との連携	セカンドオピニオンの受けやすさ	入院中の食事	病室	退院手続きのスムーズさ	退院後の生活や通院の支援	特になかった	その他	
20代	0%	0%	42%	0%	83%	0%	42%	0%	0%	58%	0%	0%	0%	0%	0%	10
30代	12%	32%	30%	82%	50%	0%	6%	12%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	10
40代	36%	0%	34%	47%	32%	6%	10%	21%	0%	37%	27%	27%	9%	0%	0%	11
50代	21%	10%	39%	22%	18%	0%	30%	18%	0%	7%	9%	4%	0%	24%	4%	17
60代	41%	1%	46%	46%	41%	0%	21%	20%	0%	24%	10%	1%	0%	5%	0%	29
70代	25%	13%	48%	23%	22%	6%	23%	21%	5%	0%	16%	2%	4%	6%	1%	34
80代以上	28%	13%	40%	28%	24%	2%	15%	18%	0%	6%	8%	5%	6%	13%	3%	60
全年代	27%	10%	42%	32%	31%	2%	20%	18%	1%	13%	10%	5%	4%	9%	2%	171

問 3 2 最初に入院した医療機関で不満だった点は何ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 入院先の不満だった点に関しては、市内医療機関、市外医療機関ともにほぼ同じ傾向であり、「特になかった」の70%程度が顕著に多い。次いで不満に挙げられたのは「入院中の食事」であるが、市内・市外で大きな差は見られない。

図表 2-47 最近1年間で最初に入院した医療機関の不満だった点



(回答者数：市民の医療機関 54 人、倉敷市の医療機関 63 人、岡山市の医療機関 18 人、その他の医療機関 16 人)

- 全ての年代において「特になかった」が1位となっている。
- 60代以上は、50代以下と比較して「入院中の食事」を選ぶ割合がやや高くなっている。

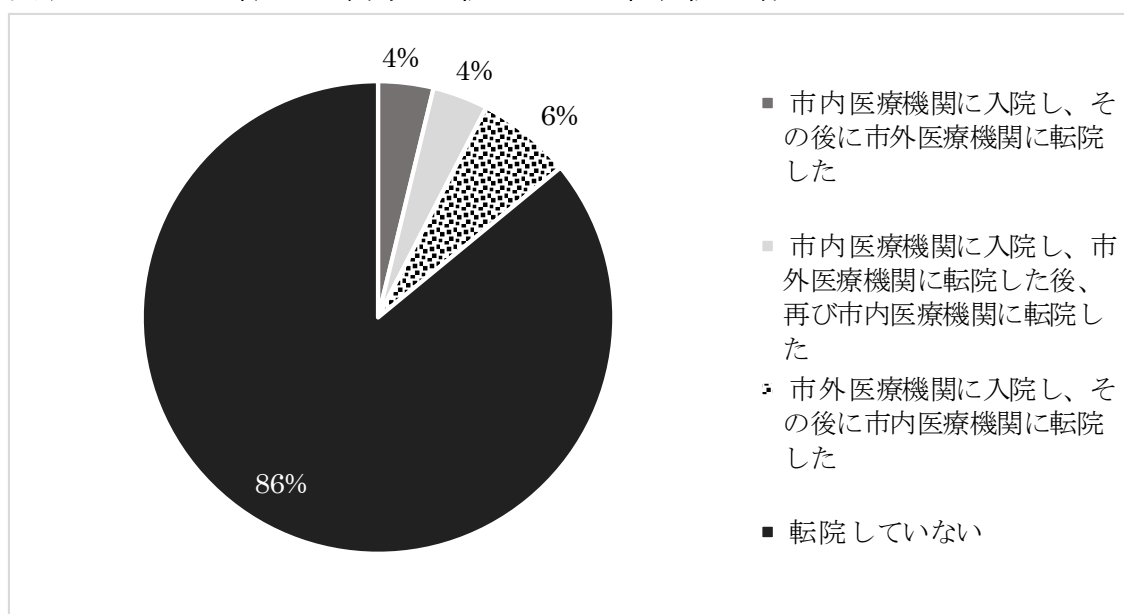
図表 2-4 8 最近1年間で最初に入院した医療機関の不満だった点
(年代別集計)

															1位	2位	3位
	入院手続きのスムーズさ	入院の期間が長すぎた	入院の期間が短すぎた	病気や治療についての説明	医師の技術	医師の態度	看護師の技術	看護師の態度	専門の医師・医療機関との連携	セカンドオピニオンの受けやすさ	入院中の食事	病室	退院手続きのスムーズさ	退院後の生活や通院の支援	特になかった	その他	回答者数（人）
20代	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	7
30代	24%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	9%	24%	0%	67%	0%	13
40代	0%	0%	5%	27%	0%	27%	0%	27%	0%	0%	9%	14%	5%	0%	55%	5%	11
50代	0%	0%	0%	11%	7%	0%	7%	0%	0%	0%	7%	0%	0%	0%	86%	7%	17
60代	8%	8%	5%	1%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	10%	13%	0%	0%	67%	8%	28
70代	2%	0%	4%	3%	4%	1%	2%	5%	11%	0%	11%	0%	0%	0%	77%	6%	31
80代以上	3%	5%	1%	15%	0%	9%	3%	4%	3%	1%	19%	3%	0%	9%	60%	0%	45
全年代	5%	3%	2%	9%	2%	5%	2%	4%	3%	0%	12%	5%	2%	3%	70%	4%	153

問 3 3 自宅に戻るまでに転院をしましたか。

- 入院を経験した市民における、最初入院した医療機関からの転院の有無に関しては、「転院していない」が 86%で大半を占めている。残りの 14%は何らかの転院をしている。
- 転院の内訳は、市内から市外への転院が 8%であり、そのうち 4%が再び市内に転院している。一方で、最初に市外で入院しその後市内に転院した市民は 6%である。

図表 2-4 9 最近 1 年間の入院における、転院の有無

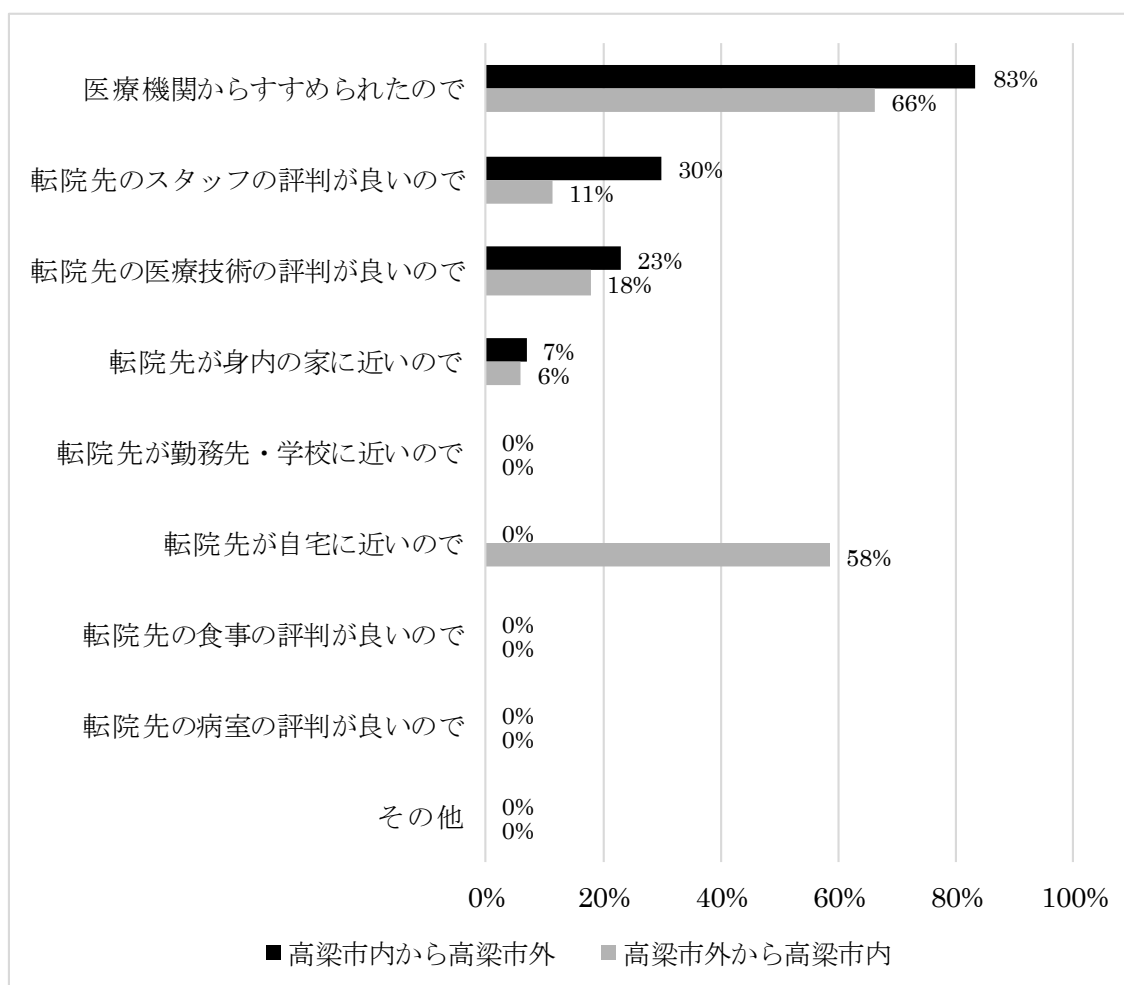


(回答者数 : 185 人)

問 3 4 転院した理由を教えてください。

- 転院理由に関しては、「医療機関からすすめられたので」が最も多く、市内から市外への転院を経験した市民の 83%、市外から市内への転院を経験した市民の 66%を占めている。
- 市外から市内への転院の理由については、「転院先が自宅に近い」が次いで多く、58%を占めている。
- 市内から市外への転院の理由については、「転院先のスタッフの評判が良いので」が次いで多く、30%を占めている。

図表 2-50 最近1年間の入院における、転院の理由

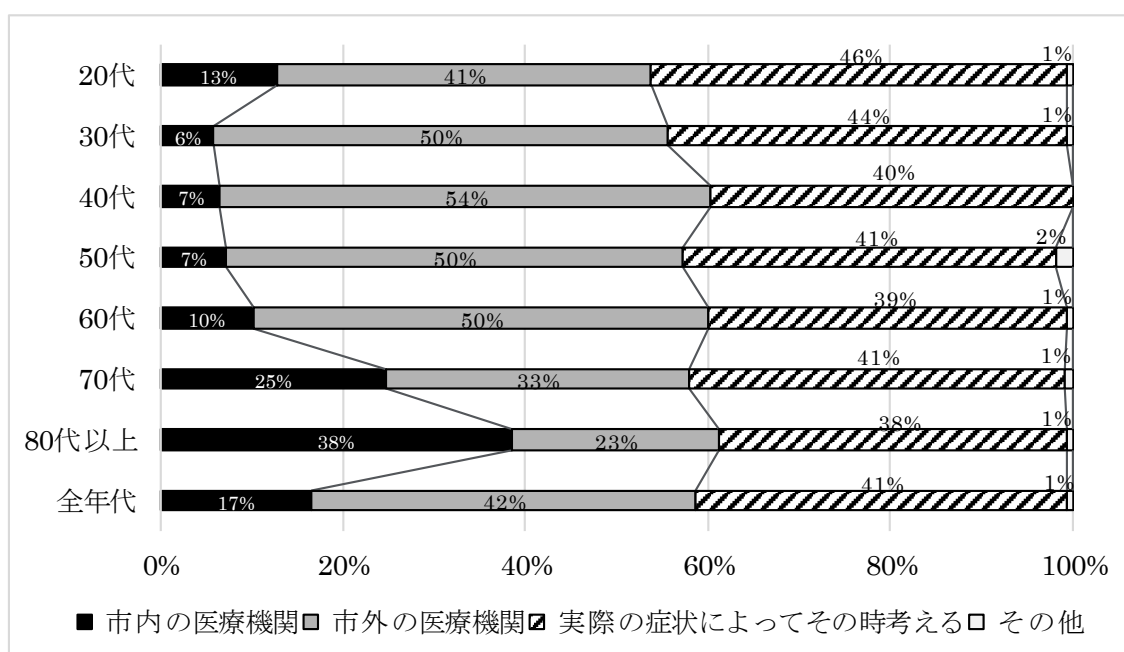


(回答者数：高梁市内から高梁市外 7 人、高梁市外から高梁市内 12 人)

問 3 5 救急救命や集中治療など、特に高度な治療が必要になった際には、あなたはどの地域の医療機関に入院したいですか。

- 高度急性期の入院先の希望は、「実際の症状によってその時考える」を除くと、60代以下では「市外の医療機関」が大多数を占めている。一方で、70代以上では「市内の医療機関」の割合が大きく増加している。

図表 2-5 1 高度急性期における入院先の希望（年代別集計）

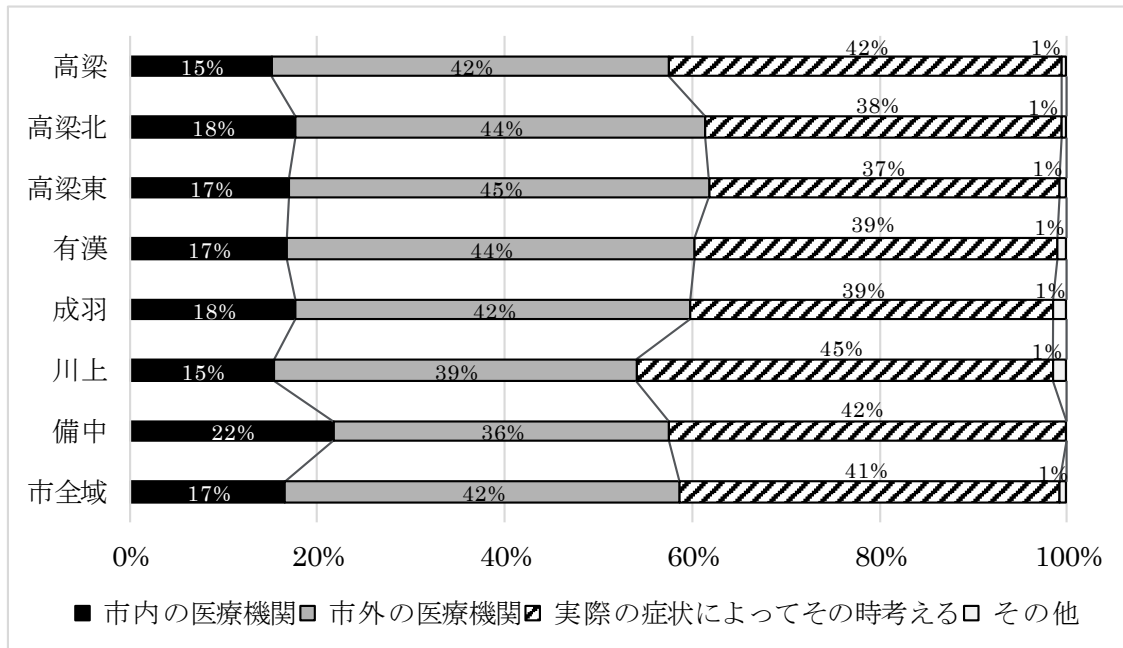


(単位：人)

	市内の医療機関	市外の医療機関	実際の症状によってその時考える	その他	回答者数
20代	20	65	72	1	158
30代	9	77	68	1	155
40代	12	99	73	0	184
50代	15	107	87	4	213
60代	32	158	124	2	316
70代	58	78	97	2	235
80代以上	110	65	109	2	286
全年代	256	650	629	11	1,546

- 高度急性期の入院先の希望について、地域による傾向の差は見られない。

図表 2-5 2 高度急性期における入院先の希望（地域別集計）



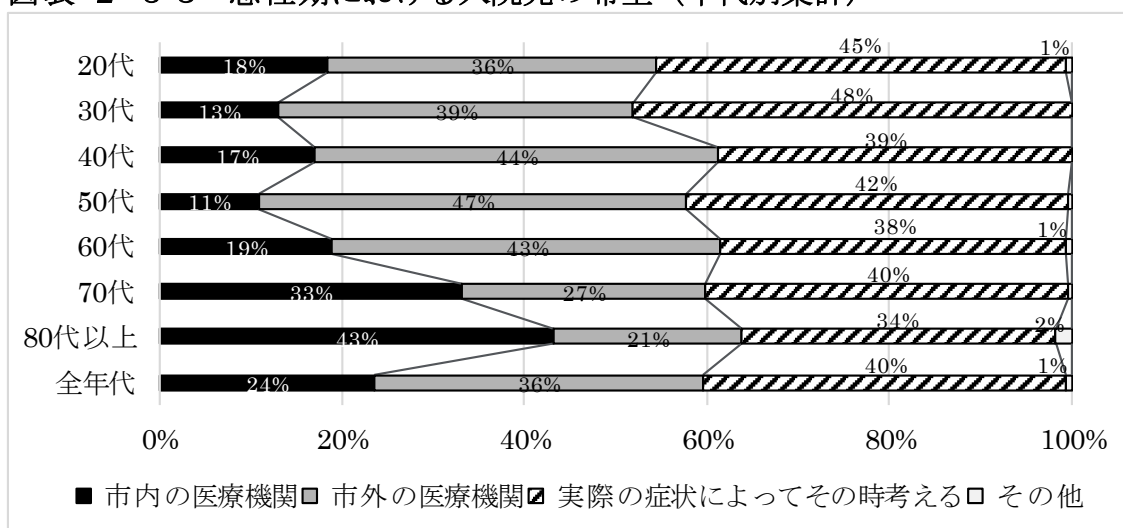
(単位：人)

	市内の医療機関	市外の医療機関	実際の症状によってその時考える	その他	回答者数
高梁	102	286	283	4	675
高梁北	30	75	65	1	171
高梁東	21	55	46	1	123
有漢	18	47	42	1	108
成羽	40	95	88	3	226
川上	21	53	61	2	137
備中	23	38	45	0	106
市全域	256	650	629	11	1,546

問 3 6 手術や投薬など、早期に症状を安定させる治療が必要になった際には、あなたはどの地域の医療機関に入院したいですか。

- 急性期の入院先の希望は、高度急性期における希望（図表 2-5 1）と同様の傾向を示しており、60 代以下では「市外の医療機関」が多く、70 代以降は「市内の医療機関」が大きく増加している。
- 高度急性期における希望（図表 2-5 1）と比較して、全年代において「市内の医療機関」を選択する割合が高い。

図表 2-5 3 急性期における入院先の希望（年代別集計）

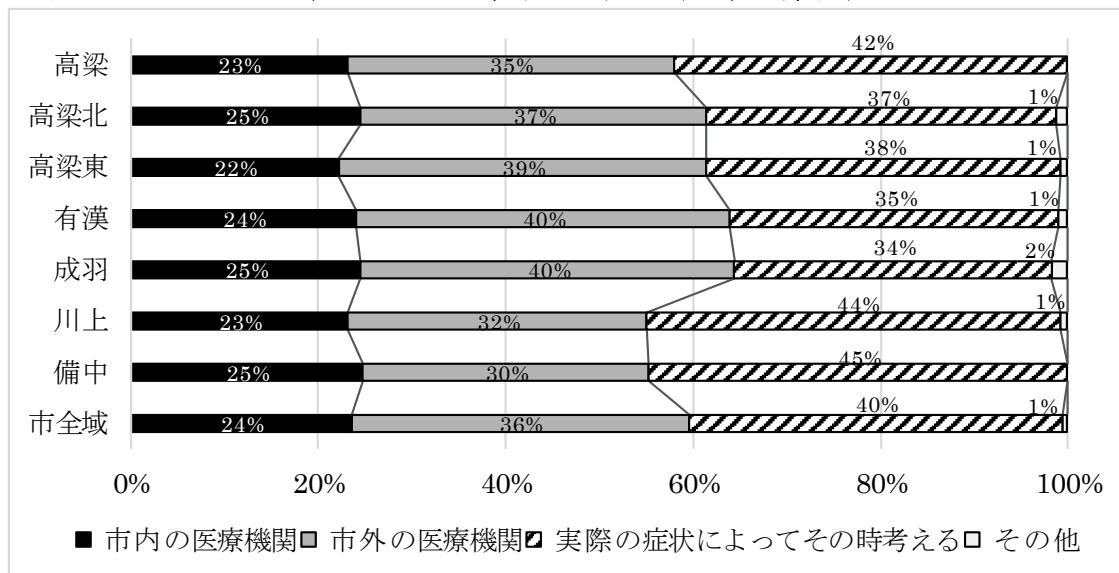


（単位：人）

	市内の医療機関	市外の医療機関	実際の症状によってその時考える	その他	回答者数
20 代	29	57	71	1	158
30 代	20	60	74	0	154
40 代	31	81	71	0	183
50 代	23	100	89	1	213
60 代	60	135	120	2	317
70 代	79	64	95	1	239
80 代以上	125	60	100	5	290
全年代	365	557	619	9	1,550

- 急性期の入院先の希望について、地域による傾向の差は、大きなものは見られない。

図表 2-5 4 急性期における入院先の希望（地域別集計）



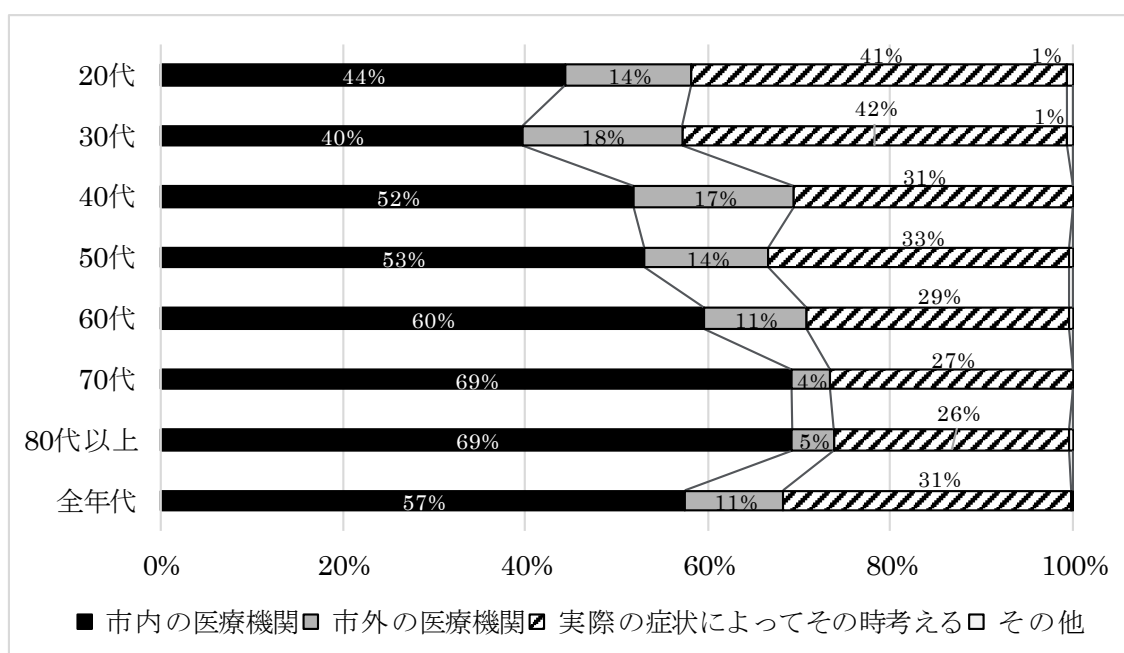
(単位：人)

	市内の医療機関	市外の医療機関	実際の症状によってその時考える	その他	回答者数
高梁	156	237	285	0	678
高梁北	42	63	64	2	171
高梁東	27	48	46	1	122
有漢	26	43	38	1	108
成羽	56	91	77	4	228
川上	32	44	61	1	138
備中	26	32	47	0	105
市全域	365	557	619	9	1,550

問 3 7 症状が安定して退院に向けた治療やリハビリを行う際には、あなたはどの地域の医療機関に入院したいですか。

- 回復期の入院先の希望に関しては、全年代に共通して「市内の医療機関」が「市外の医療機関」を大きく上回っている。
- 特に、70代及び80代以上では、「市外の医療機関」を選択した人の割合は5%程度であり、ほとんどが「市内の医療機関」を希望している。

図表 2-5 5 回復期における入院先の希望（年代別集計）

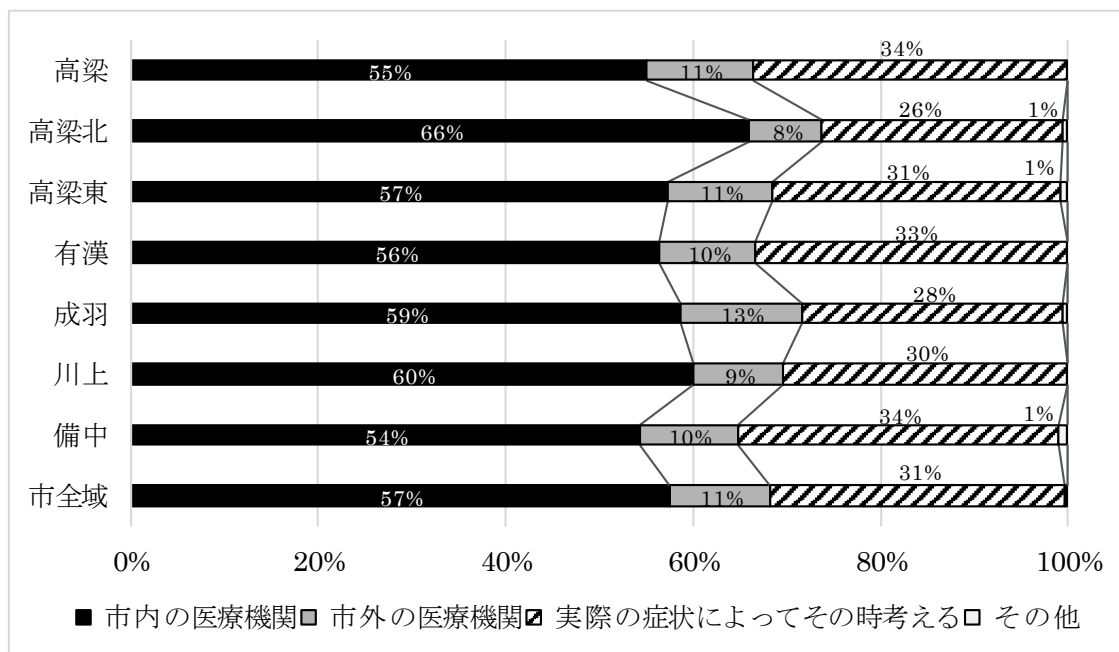


(単位：人)

	市内の医療機関	市外の医療機関	実際の症状によってその時考える	その他	回答者数
20代	70	22	65	1	158
30代	61	27	65	1	154
40代	95	32	56	0	183
50代	113	29	70	1	213
60代	187	35	91	1	314
70代	161	10	62	0	233
80代以上	198	13	74	1	286
全年代	886	167	484	4	1,541

- 回復期の入院先の希望について、地域による傾向の差は、大きなものは見られない。

図表 2-56 回復期における入院先の希望（地域別集計）



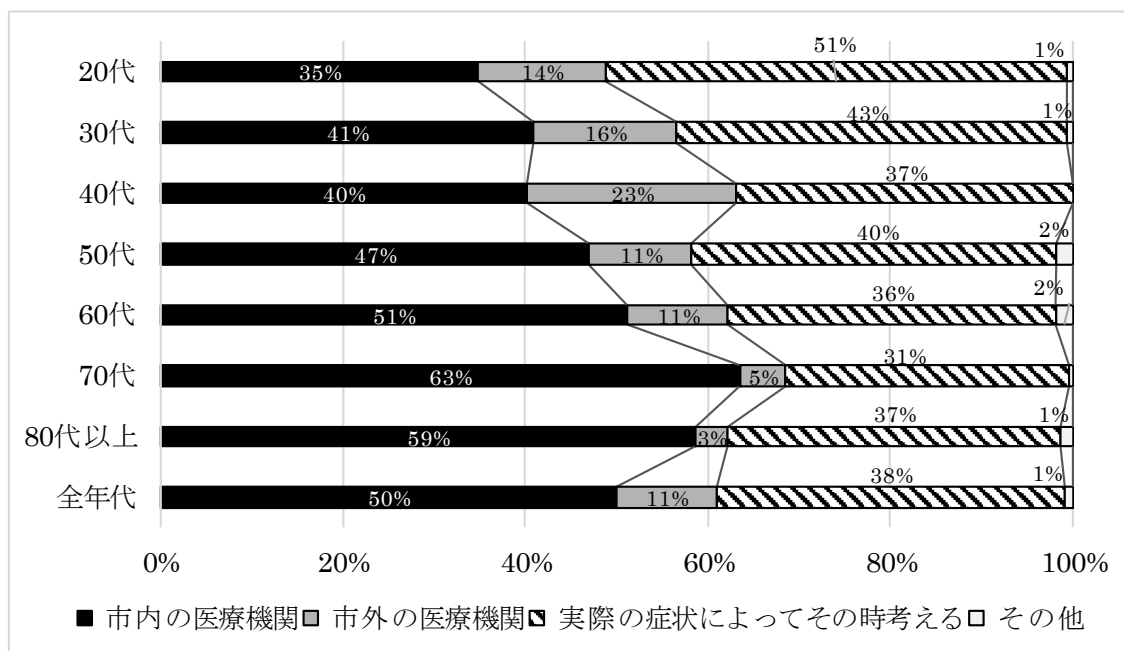
(単位：人)

	市内の医療機関	市外の医療機関	実際の症状によってその時考える	その他	回答者数
高梁	370	77	226	0	673
高梁北	111	13	43	1	168
高梁東	71	14	38	1	124
有漢	61	11	36	0	108
成羽	132	29	63	1	225
川上	83	13	42	0	138
備中	57	11	36	1	105
市全域	886	167	484	4	1,541

問 3 8 長期にわたっての療養が必要になった際には、あなたはどの地域の医療機関に入院したいですか。

- 慢性期の入院先の希望に関しては、回復期（問 3 7）と同様に全年代に共通して「市内の医療機関」が「市外の医療機関」を大きく上回っている。

図表 2-5 7 慢性期における入院先の希望（年代別集計）

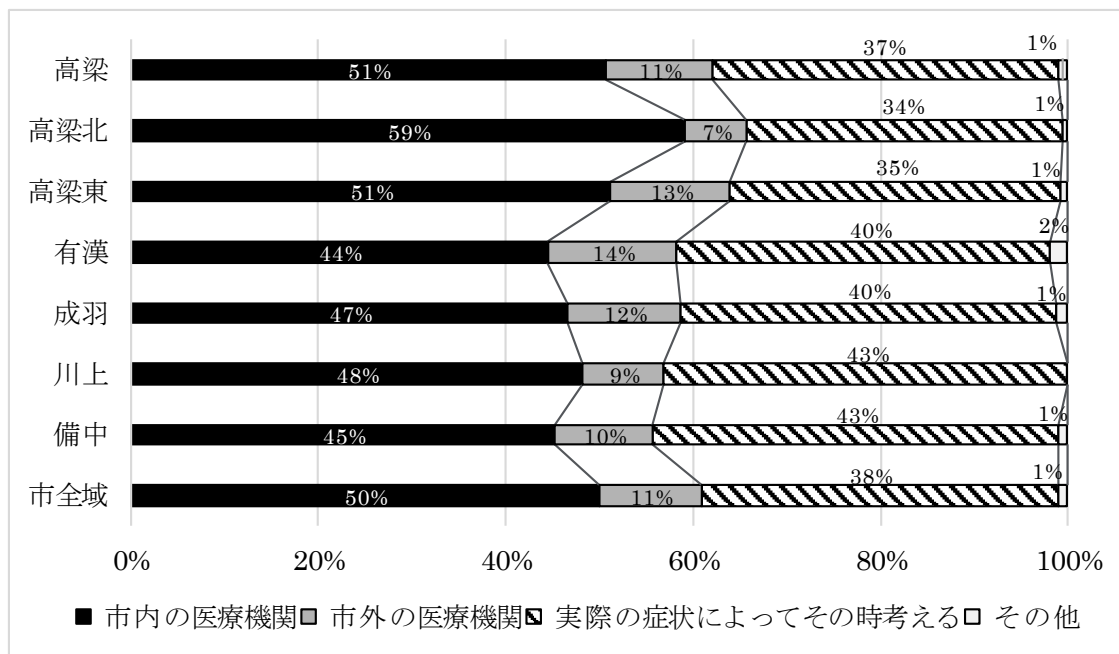


（単位：人）

	市内の医療機関	市外の医療機関	実際の症状によってその時考える	その他	回答者数
20代	55	22	80	1	158
30代	63	24	66	1	154
40代	73	42	67	0	182
50代	100	24	85	4	213
60代	161	35	113	6	315
70代	151	12	74	1	238
80代以上	170	10	106	4	290
全年代	774	169	591	15	1,549

- 慢性期の入院先の希望について、地域による傾向の差は、大きなものは見られない。

図表 2-58 慢性期における入院先の希望（地域別集計）



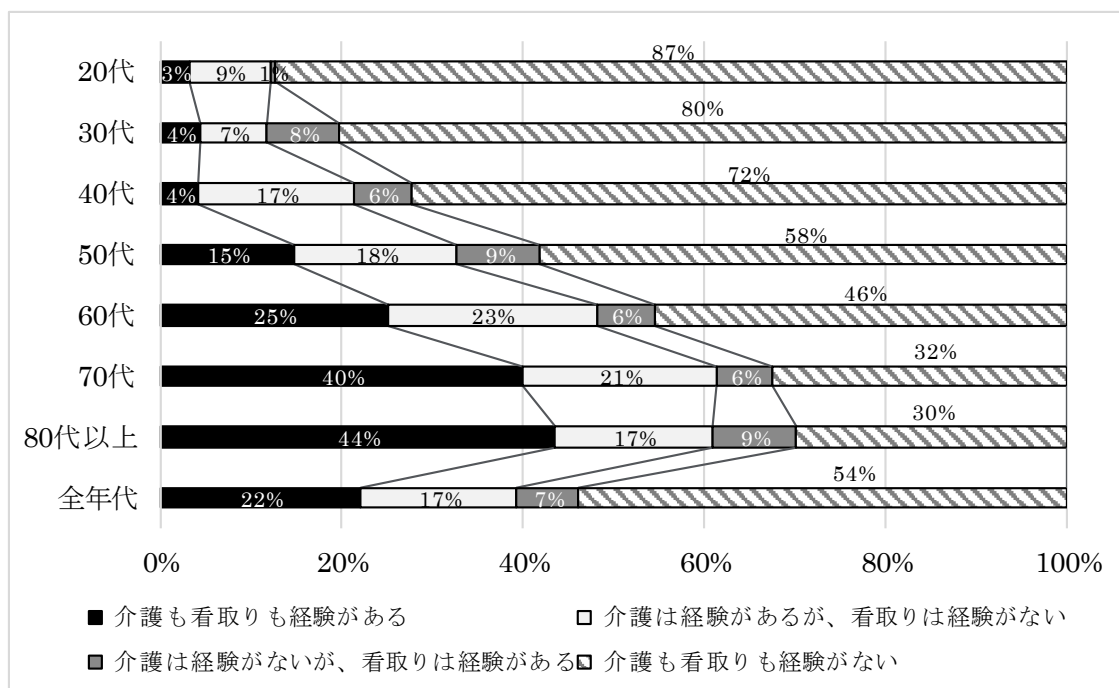
(単位：人)

	市内の医療機関	市外の医療機関	実際の症状によってその時考える	その他	回答者数
高梁	342	77	249	7	675
高梁北	100	11	57	1	169
高梁東	64	16	44	1	125
有漢	48	15	43	2	108
成羽	106	27	91	3	227
川上	66	12	59	0	137
備中	48	11	46	1	106
市全域	774	169	591	15	1,549

2. 3. 5. 終末期医療

問 4 4 自宅で家族・親族を介護した経験や、看取った経験はありますか。

- 「介護も看取りも経験がある」の割合は、50代以降顕著に増加している。
- 「介護は経験があるが、看取りは経験がない」の割合は、40代以降の各年代で20%前後である。
- 「介護は経験がないが、看取りは経験がある」の割合は、全年代とも10%を下回っている。

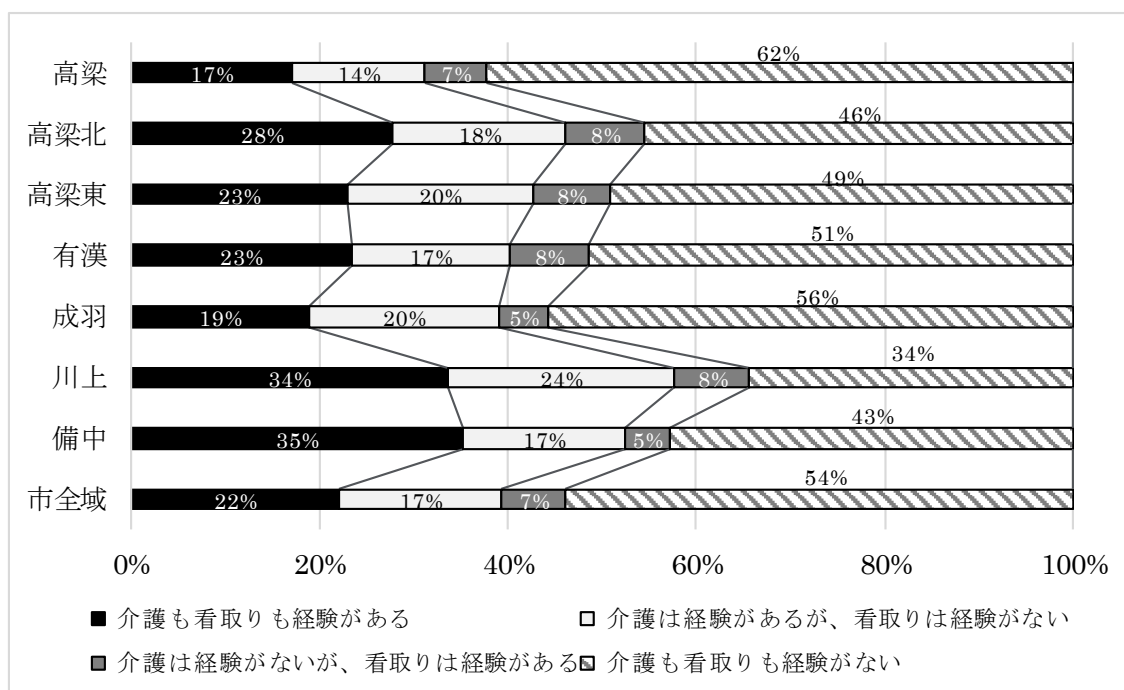
図表 2-59 自宅で家族・親族を介護した経験や、看取った経験の有無
(年代別集計)

(単位：人)

	介護も看取りも経験がある	介護は経験があるが、看取りは経験がない	介護は経験がないが、看取りは経験がある	介護も看取りも経験がない	回答者数
20代	5	14	1	138	158
30代	7	12	13	130	162
40代	8	33	12	139	192
50代	32	39	20	126	217
60代	78	72	20	142	312
70代	90	48	14	73	225
80代以上	121	48	26	83	278
全年代	341	266	105	831	1,543

- 川上、備中の2地域においては、「介護も看取りも経験がある」の割合が多く、35%程度である。他の地域においては、おおむね20%前後である。
- 介護の経験がある割合を見ると、川上地域で60%程度と最も多く、次いで備中地域の50%程度、その他の地域はおおむね40%程度以下である。

図表 2-60 自宅で家族・親族を介護した経験や、看取った経験の有無
(地域別集計)



(単位：人)

	介護も看取りも経験がある	介護は経験があるが、看取りは経験がない	介護は経験がないが、看取りは経験がある	介護も看取りも経験がない	回答者数
高梁	115	95	44	419	673
高梁北	47	31	14	77	169
高梁東	28	24	10	60	122
有漢	25	18	9	55	107
成羽	43	46	12	127	228
川上	46	33	11	47	137
備中	37	18	5	45	105
市全域	341	266	105	831	1,543

問 4 5 自宅での介護や看病において不満を感じたこと、または、そのような状況を想定した場合に不安を感じることを教えてください。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 全ての地域において「介護疲れや看病疲れによって自身も体調を崩してしまうこと」が最も多く、回答者の80%程度が選択している。
- サポートに関する不安・不満の割合は低く、全て10%程度以下である。

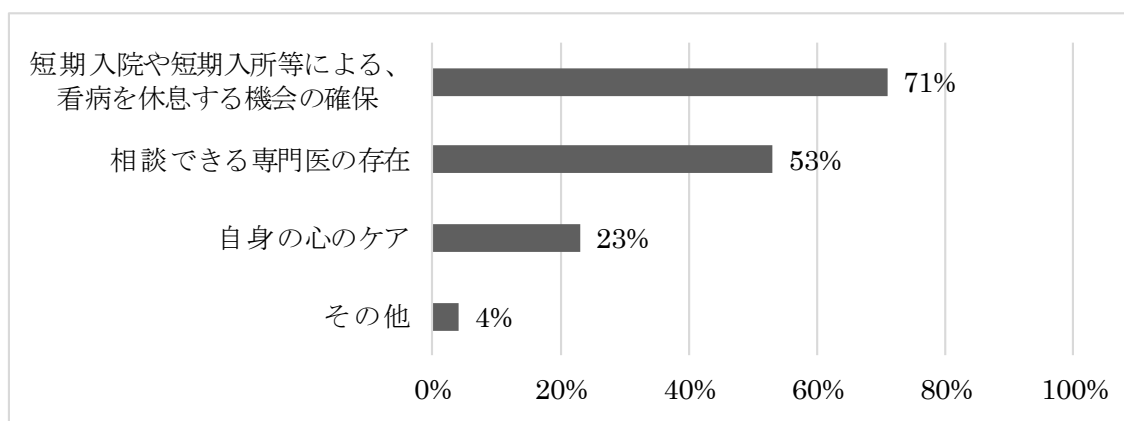
図表 2-6 1 自宅での介護や看病における不安・不満

									1位	2位	3位
	回答者数（人）	その他	自身の仕事 が制約される ことで、収入 が減るなどの 経済的負担が 生じること	医師・看護師・ 介護職以外の 専門職のサポ ートが不十分 であること	介護職（ケア マネや介護福 祉士などのサ ポートが不十 分であること	看護師のサポ ートが不十分 であること	医師のサポ ートが不十分 であること	看取りの後、 精神的に不調 になること	介護疲れや 看病疲れによ って、自身も 体調を崩して しまうこと		
高梁	573	5%	50%	6%	11%	6%	11%	28%	84%		
高梁北	139	8%	42%	12%	9%	10%	13%	23%	79%		
高梁東	103	6%	48%	8%	9%	4%	12%	22%	84%		
有漢	96	6%	45%	8%	9%	5%	14%	33%	80%		
成羽	192	5%	45%	8%	12%	8%	17%	22%	82%		
川上	115	9%	42%	6%	9%	6%	10%	23%	81%		
備中	84	6%	45%	8%	12%	7%	16%	18%	83%		
市全域	1,301	6%	47%	8%	10%	6%	12%	25%	83%		

問 4 6 自宅での介護や看病において、サポートを受けられて良かった、またはサポートを受けたいものを教えてください。
(当てはまるもの2つまで選択)

- 在宅介護・看病におけるサポートの希望としては、「短期入院や短期入所等による、看病を休息する機会の確保」が最も多い。

図表 2-6 2 自宅での介護や看病において希望するサポート

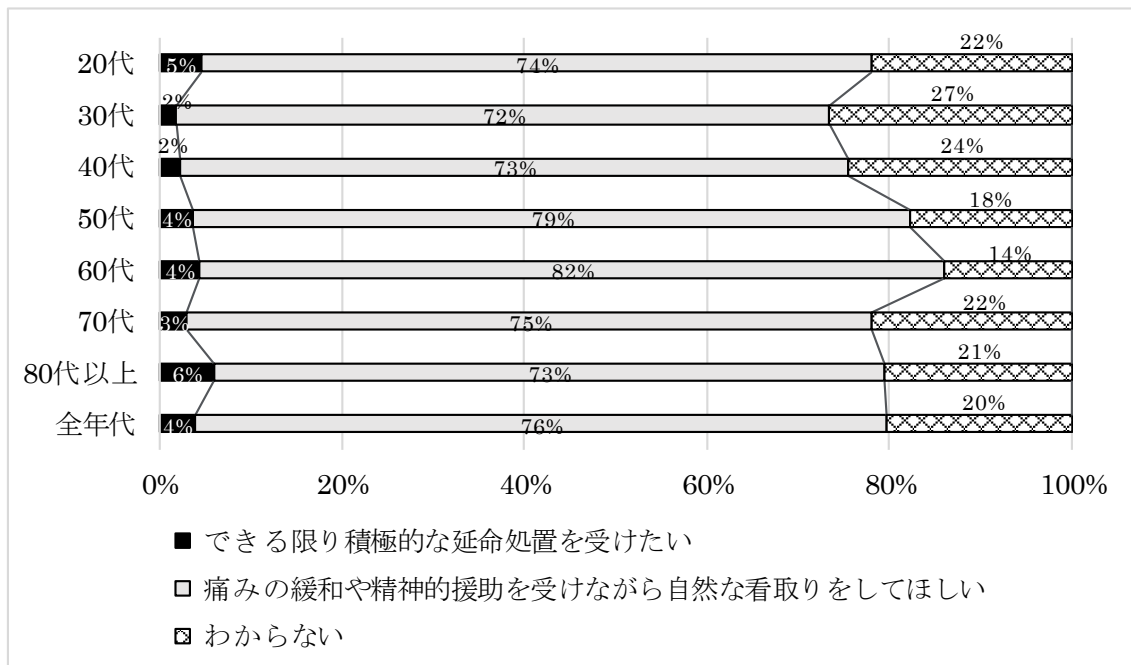


(回答者数：1,203 人)

問 4 7 終末期医療について、あなたの希望を教えてください。

- 終末期医療における意向に関しては、全年代に共通して「痛みの緩和や精神的援助を受けながら自然な看取りをしてほしい」の割合が高く、総じて 70% を超えている。

図表 2-6 3 終末期医療における希望（年代別集計）

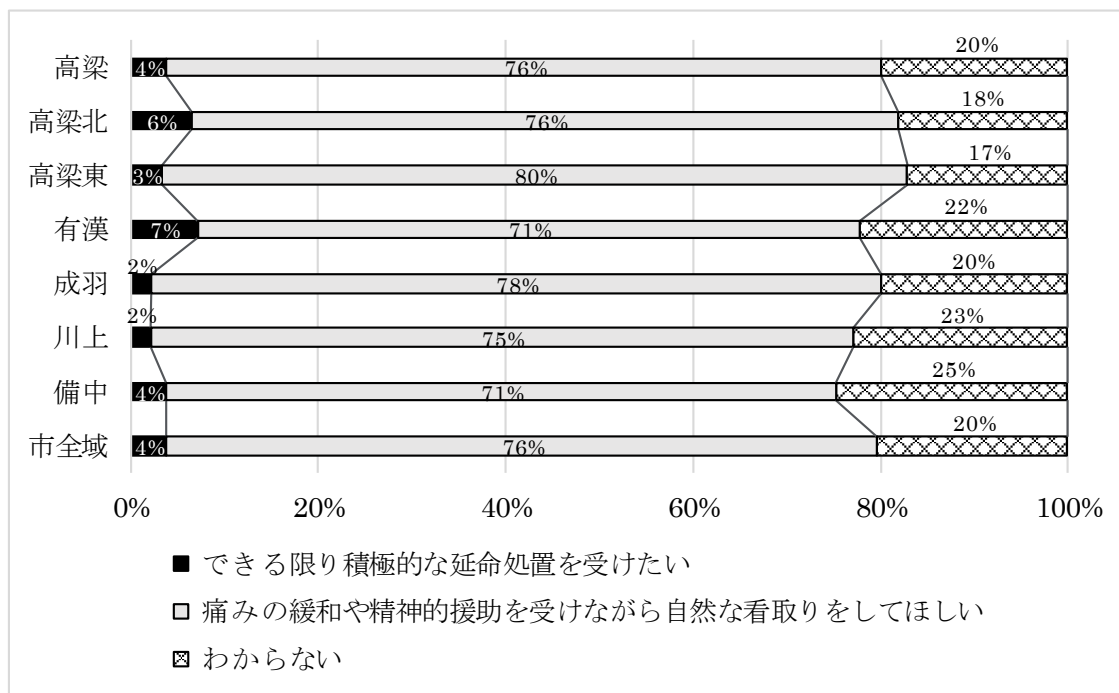


(単位：人)

	できる限り積極的な延命処置を受けたい	痛みの緩和や精神的援助を受けながら自然な看取りをしてほしい	わからない	回答者数
20 代	7	114	34	155
30 代	3	116	43	162
40 代	4	138	46	188
50 代	8	174	39	221
60 代	14	263	45	322
70 代	7	175	51	233
80 代以上	17	210	59	286
全年代	60	1190	318	1,568

- 終末期医療における意向について、地域による傾向の差は見られない。

図表 2-6 4 終末期医療における希望（地域別集計）



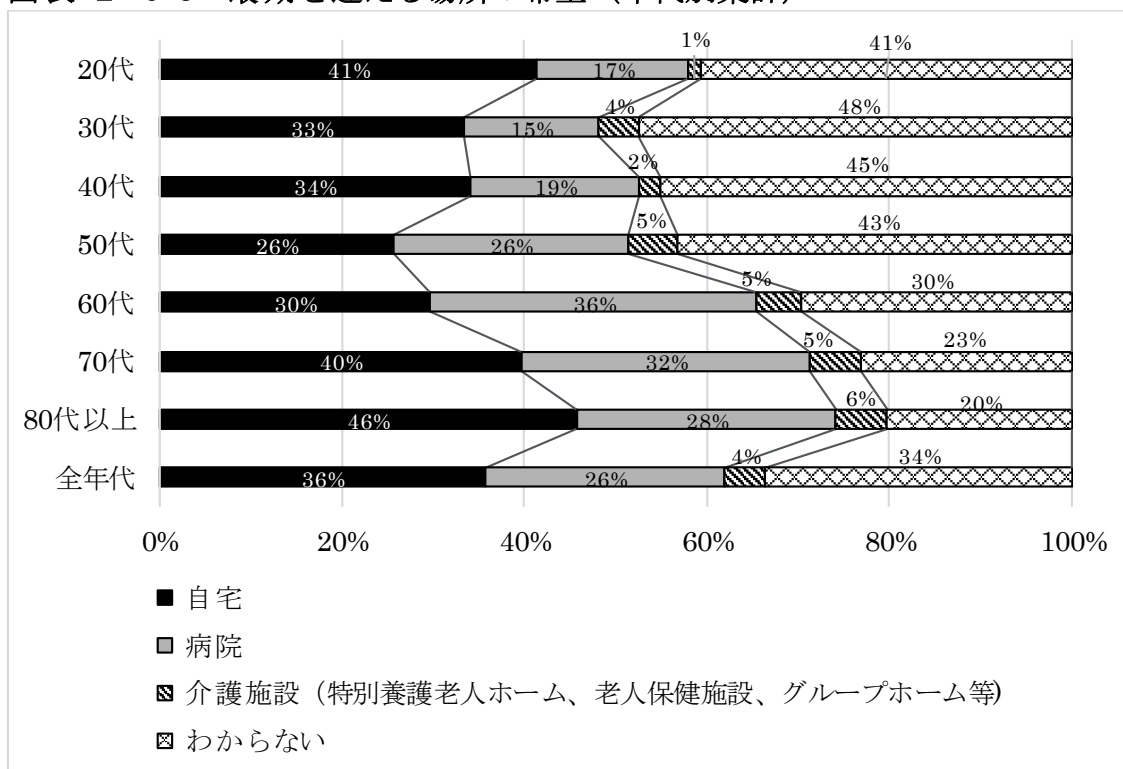
(単位：人)

	できる限り積極的な延命処置を受けたい	痛みの緩和や精神的援助を受けながら自然な看取りをしてほしい	わからない	回答者数
高梁	26	520	135	681
高梁北	11	130	31	172
高梁東	4	98	21	123
有漢	8	80	25	113
成羽	5	180	46	231
川上	3	108	33	144
備中	4	75	26	105
市全域	60	1190	318	1,568

問 4 8 最期を迎える場所について、あなたの希望を教えてください。

- 最期を迎える場所の希望に関しては、20代～40代では「自宅」が「病院」を上回っている。50代では同程度、60代では「病院」が「自宅」を上回っている。70代以降では、再び「自宅」の割合が上回っている。
- 80代以上の30%程度の人が、「病院」を選択している。
- 70代以上においても、20%程度の人が「わからない」と回答している。

図表 2-6 5 最期を迎える場所の希望（年代別集計）

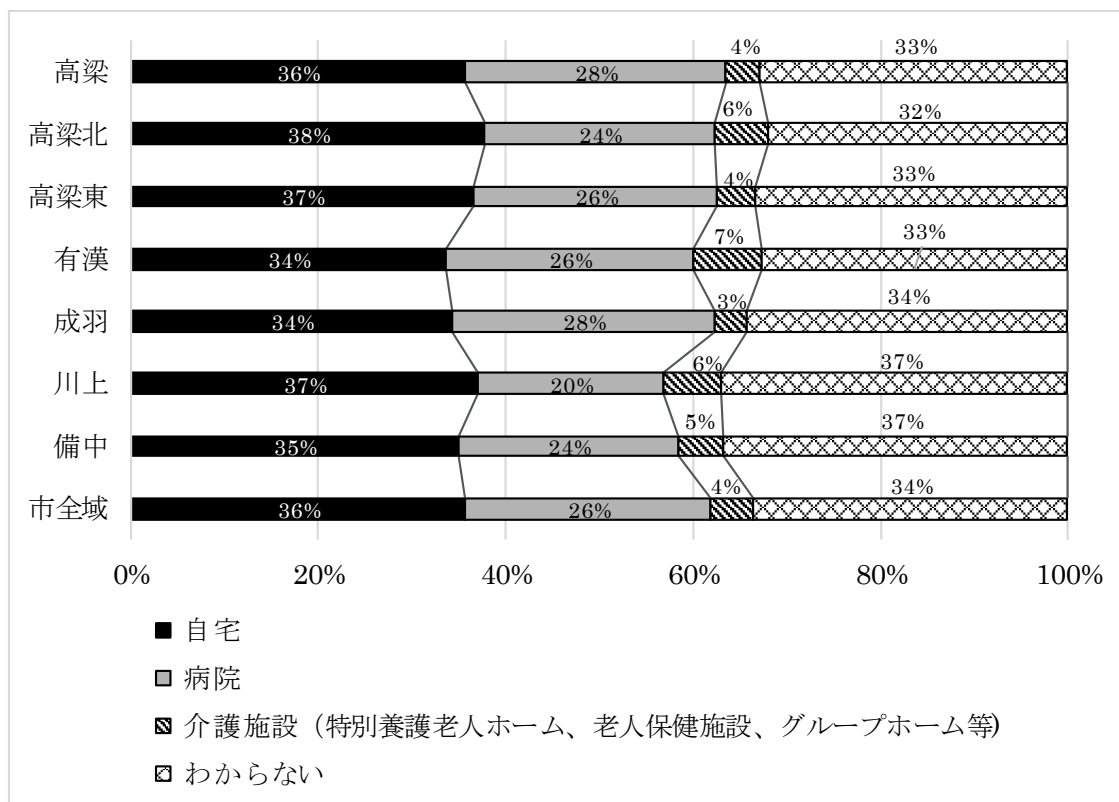


（単位：人）

	自宅	病院	介護施設	わからない	回答者数
20代	65	26	2	64	157
30代	54	24	7	77	162
40代	64	35	4	85	188
50代	57	57	12	96	222
60代	93	112	15	93	313
70代	94	75	13	55	237
80代以上	138	86	17	61	302
全年代	564	414	70	531	1,579

- 最期を迎える場所の希望について、地域による傾向の差は、大きなものは見られない。川上地域における「病院」を選択する割合は、やや少ない。

図表 2-66 最期を迎える場所の希望（地域別集計）



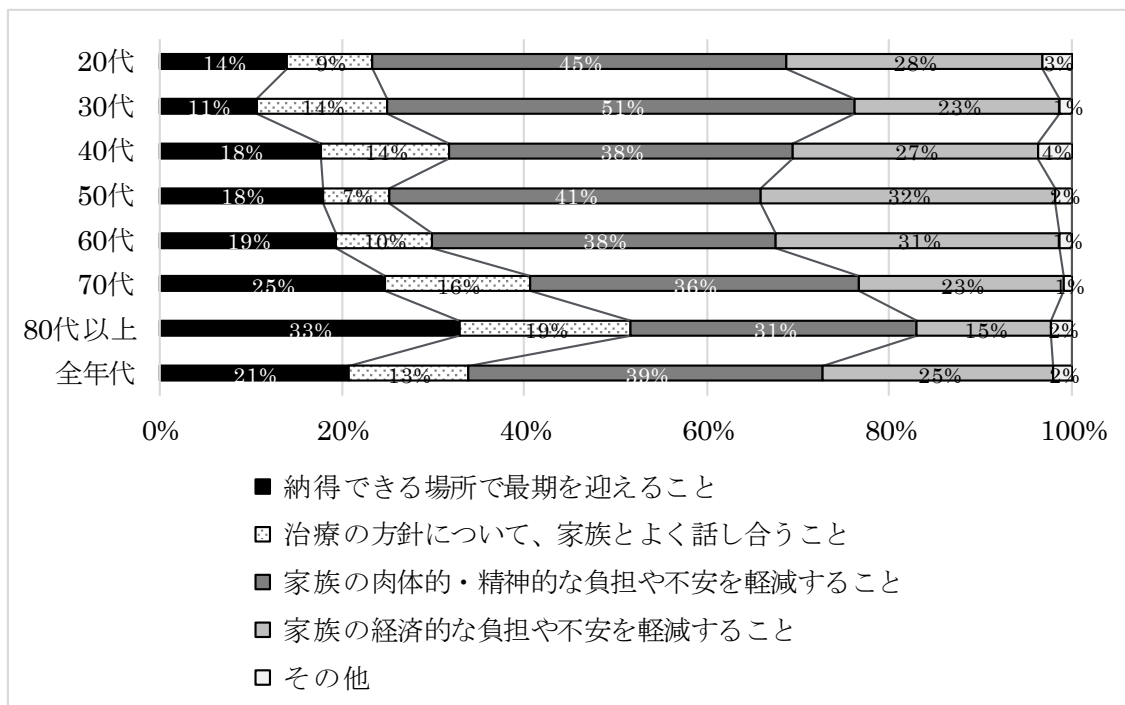
（単位：人）

	自宅	病院	介護施設	わからない	回答者数
高梁	193	245	25	226	689
高梁北	42	65	10	55	172
高梁東	32	45	5	41	123
有漢	29	37	8	36	110
成羽	65	80	8	80	233
川上	29	54	9	54	146
備中	25	37	5	39	106
市全域	414	564	70	531	1,579

問 4 9 最期を迎えるにあたって、大切だと思うことは何ですか。

- 全年代に共通して家族の負担軽減が高い割合を占めている。
- 60代以降「納得できる場所で最期を迎えること」を選ぶ割合が増加し、80代以上では33%を占めている。

図表 2-6 7 最期を迎えるにあたって、大切だと思うこと（年代別集計）

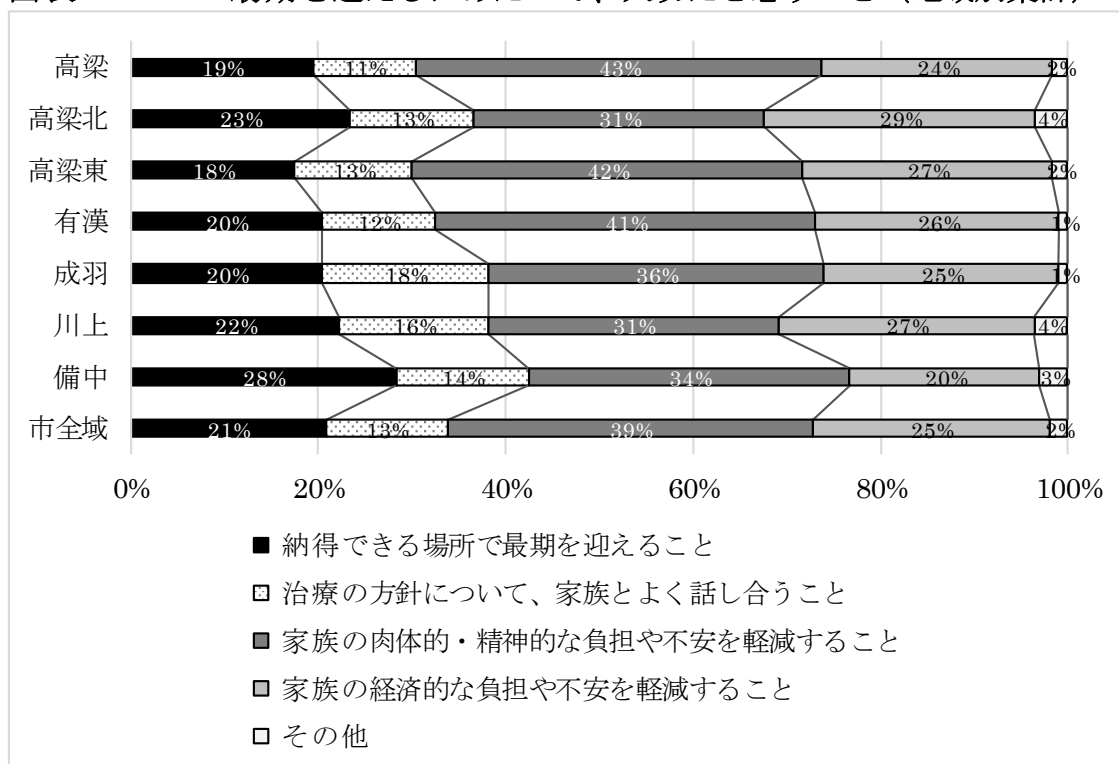


(単位：人)

	納得できる 場所で最期 を迎えるこ と	治療の方針 について、家 族とよく話 し合うこと	家族の肉体的・精神的な 負担や不安を 軽減すること	家族の経済 的な負担や 不安を軽減 すること	その他	回答者数
20代	21	14	68	42	5	150
30代	17	23	82	36	2	160
40代	33	26	70	50	7	186
50代	38	15	86	68	4	211
60代	58	31	113	93	4	299
70代	55	35	80	50	2	222
80代以上	89	51	85	40	6	271
全年代	311	196	584	379	30	1,500

- 最期を迎えるにあたって大切だと思うことについて、地域による傾向の差は、大きなものは見られない。

図表 2-68 最期を迎えるにあたって、大切だと思うこと（地域別集計）



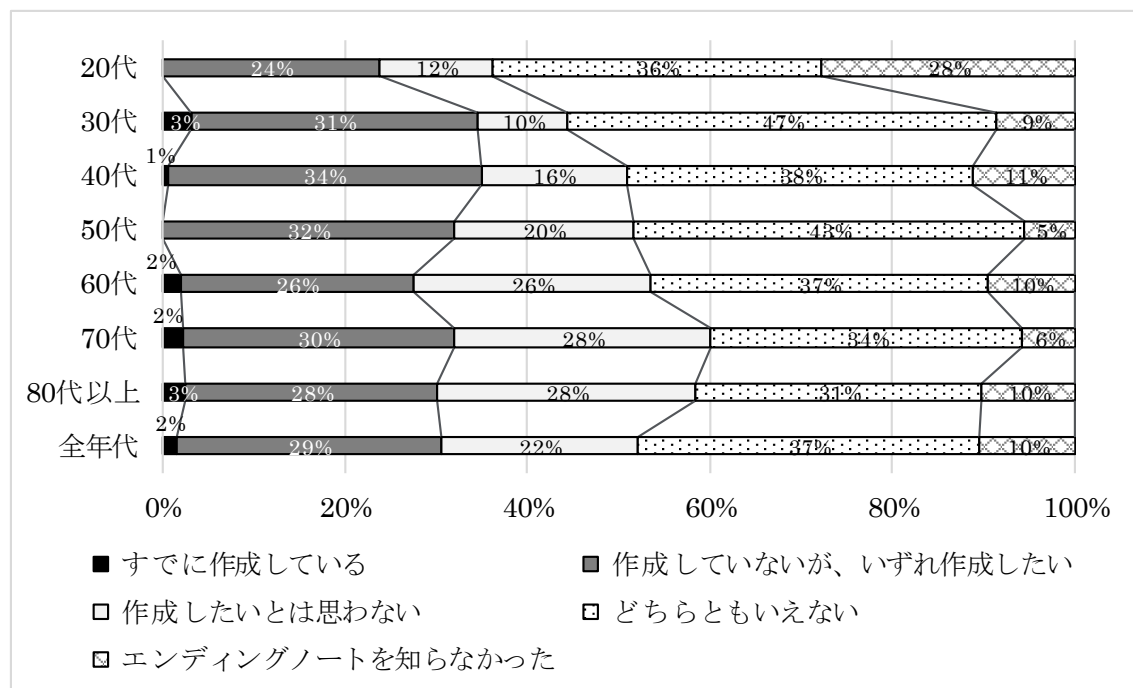
(単位：人)

	納得できる場所 で最期を迎 えること	治療の方針に ついて、家族と よく話し合う こと	家族の肉体的・ 精神的な負担 や不安を軽減 すること	家族の経済的 な負担や不安 を軽減するこ と	その他	回答者数
高梁	126	71	282	159	11	649
高梁北	39	22	52	48	6	167
高梁東	21	15	50	32	2	120
有漢	22	13	44	28	1	108
成羽	44	38	77	54	2	215
川上	31	22	43	38	5	139
備中	28	14	34	20	3	99
市全域	311	196	584	379	30	1,500

問50 エンディングノート（遺書や遺言とは別に、最期を迎える場所や看取りに関して自分の希望を書き留めたもの）を作成したいと思いますか。

- エンディングノートの作成意向に関しては、「エンディングノートを知らなかった」は30代以上の全年代で10%程度以下であるものの、「すでに作成している」はほとんど見られない。
- 「作成したいと思わない」の割合は、50代以下よりも60代以上の方が高く、30%程度になっている。
- 「作成していないが、いずれ作成したい」の割合は、年代ごとに大きな差は見られず、おおむね30%前後である。

図表 2-69 エンディングノートの作成意向（年代別集計）

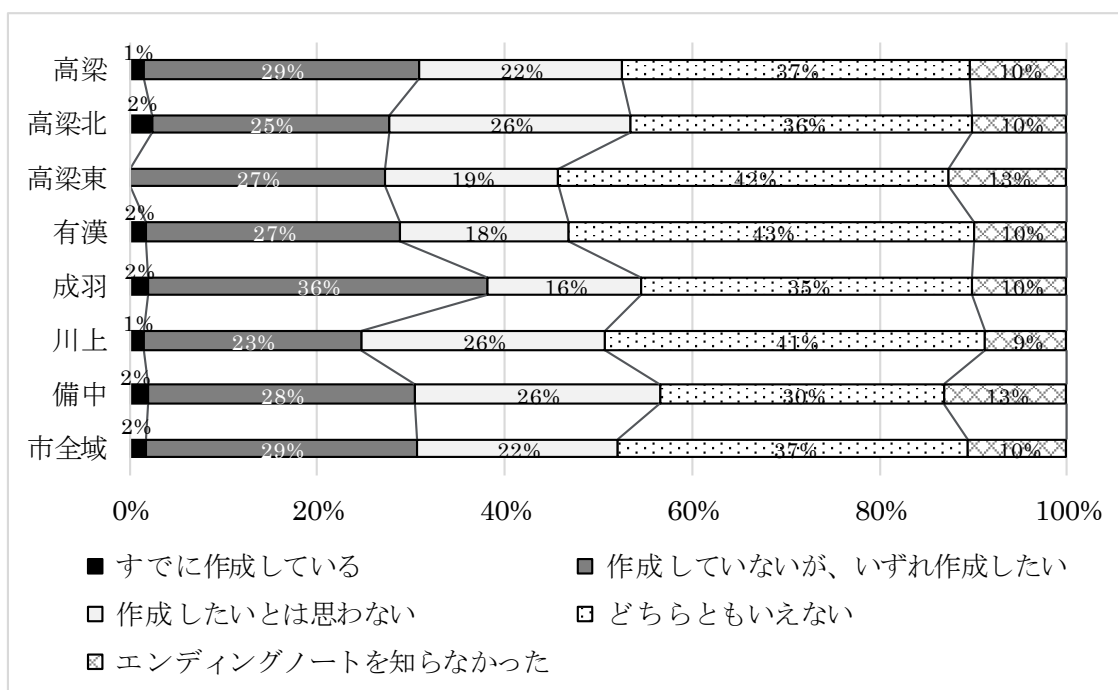


(単位：人)

	すでに作成している	作成していないが、いずれ作成したい	作成したいとは思わない	どちらともいえない	エンディングノートを知らなかった	回答者数
20代	0	37	19	56	43	155
30代	5	51	16	76	14	162
40代	1	65	30	72	21	189
50代	0	70	43	94	12	219
60代	6	80	81	115	30	312
70代	5	68	64	78	13	228
80代以上	7	75	77	85	28	272
全年代	25	446	331	576	161	1,539

- エンディングノートの作成意向について、地域による傾向の差は、大きなものは見られないが、成羽地域では「作成していないが、いずれ作成したい」がやや多くなっている。一方、川上地域ではやや少なくなっている。

図表 2-70 エンディングノートの作成意向（地域別集計）



(単位：人)

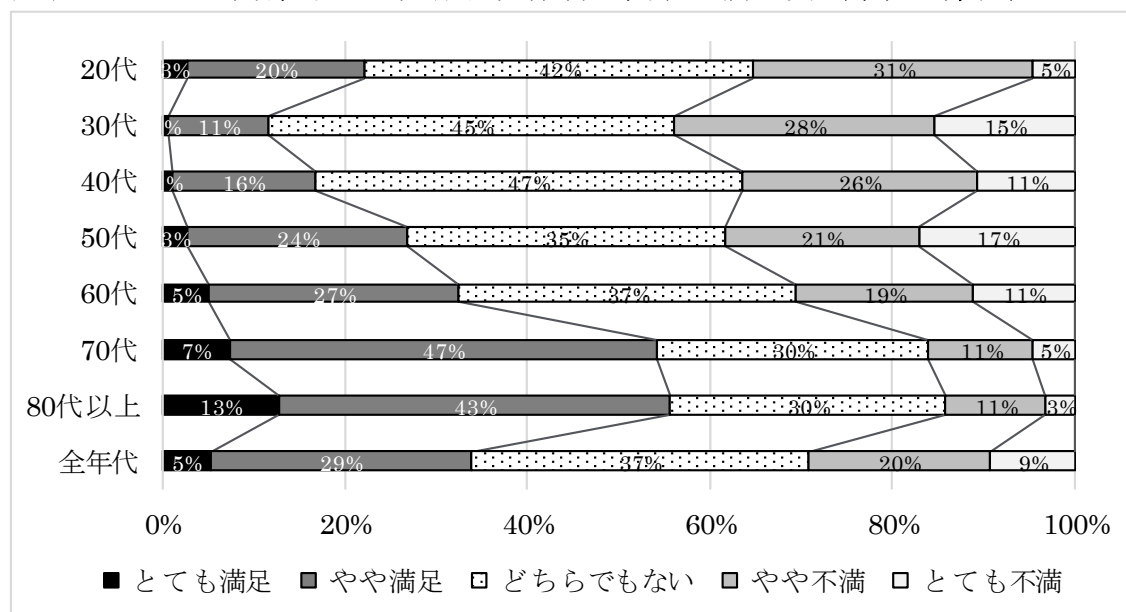
	すでに作成している	作成していないが、いずれ作成したい	作成したいとは思わない	どちらともいえない	エンディングノートを知らなかった	回答者数
高梁	10	201	148	254	71	684
高梁北	4	43	44	62	17	170
高梁東	0	32	22	49	15	118
有漢	2	30	20	48	11	111
成羽	4	80	36	78	22	220
川上	2	32	36	56	12	138
備中	2	28	26	30	13	99
市全域	25	446	331	576	161	1,539

＜ 2. 4. 市の医療提供体制に関する意識＞

問 5 1 現在の高梁市内の医療に関する総合的な満足度を教えてください。

年代別に見ると、50代以下は不満の方が大きく、60代以上は満足の方が大きい。特に30代は「とても満足」「やや満足」12%に対して、「やや不満」「とても不満」が43%と不満が大きく上回っている。

図表 2-7 1 高梁市内の医療提供体制に関する満足度（年代別集計）

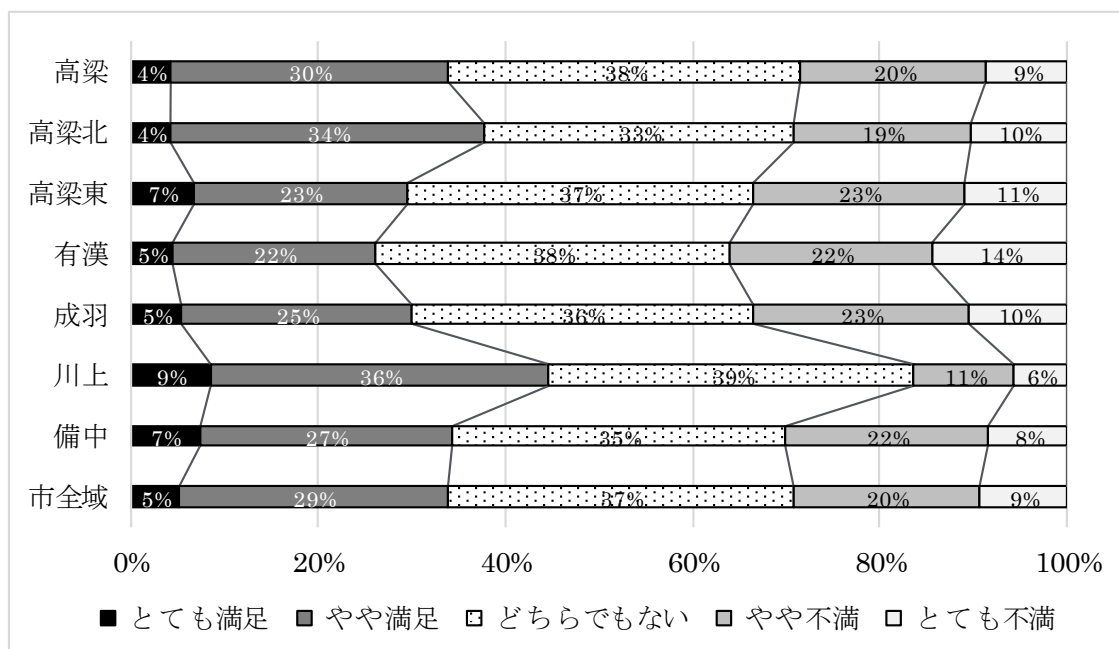


(単位：人)

	とても満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	とても不満	回答者数
20代	4	30	65	47	7	153
30代	1	17	69	44	24	155
40代	2	29	87	48	20	186
50代	6	52	75	46	37	216
60代	16	85	115	60	35	311
70代	16	102	65	25	10	218
80代以上	35	118	83	30	9	275
全年代	79	432	558	300	142	1,511

- 地域別に見ると、川上地域では「とても満足」「やや満足」を合わせた 45% が「やや不満」「とても不満」を合わせた 17%を大きく上回っている。その他の地域では不満と満足がおおむね拮抗しているが、高梁、高梁北、備中の 3 地域では満足の方がやや上回っており、高梁東、有漢、成羽の 3 地域では不満の方がやや上回っている。

図表 2-7 2 高梁市内の医療提供体制に関する満足度（地域別集計）



(単位：人)

	とても満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	とても不満	回答者数
高梁	28	196	249	131	57	661
高梁北	7	55	54	31	17	164
高梁東	8	27	44	27	13	119
有漢	5	24	42	24	16	111
成羽	12	54	80	51	23	220
川上	12	51	55	15	8	141
備中	7	26	34	21	8	96
市全域	79	432	558	300	142	1,511

問 5 2 診療日数や医療機関数について、市内で充実してほしい診療科を教えてください。(当てはまるもの3つまで選択)

- 20代～60代は「産婦人科系」が最も多く、70代及び80代以上では「内科系」が最も多い。
- 「耳鼻咽喉科系」「皮膚・泌尿器科系」は、7つの年代区分のうち半分以上において2位または3位である。
- 80代以上では、「特にない」も23%を占めている。

図表 2-7 3 高梁市内で充実してほしい診療科（年代別集計）

1 位 2 位 3 位

	内科系	外科系	整形外科系	産婦人科系	小児科系	耳鼻咽喉科系	皮膚・泌尿器科系	精神科系	特にない	その他	回答者数 (人)
20 代	<u>29%</u>	9%	17%	51%	14%	24%	<u>32%</u>	13%	14%	5%	157
30 代	22%	8%	7%	53%	25%	<u>39%</u>	<u>37%</u>	6%	13%	2%	155
40 代	26%	10%	23%	55%	34%	<u>43%</u>	<u>40%</u>	7%	7%	6%	180
50 代	25%	11%	24%	46%	18%	<u>37%</u>	<u>33%</u>	4%	12%	5%	206
60 代	<u>25%</u>	13%	21%	42%	17%	<u>25%</u>	<u>31%</u>	6%	15%	5%	300
70 代	38%	14%	<u>26%</u>	<u>26%</u>	6%	<u>31%</u>	23%	7%	15%	5%	218
80 代 以上	48%	19%	<u>27%</u>	15%	3%	19%	<u>23%</u>	7%	<u>23%</u>	4%	258
全年代	<u>31%</u>	13%	22%	39%	16%	<u>30%</u>	<u>30%</u>	7%	15%	5%	1,475

- 全ての地域に共通して、「産婦人科系」「皮膚・泌尿器科系」の割合が高い。
- 高梁北、有漢、川上、備中の4地域において、「内科系」の割合が高い。

図表 2-7 4 高梁市内で充実してほしい診療科（地域別集計）

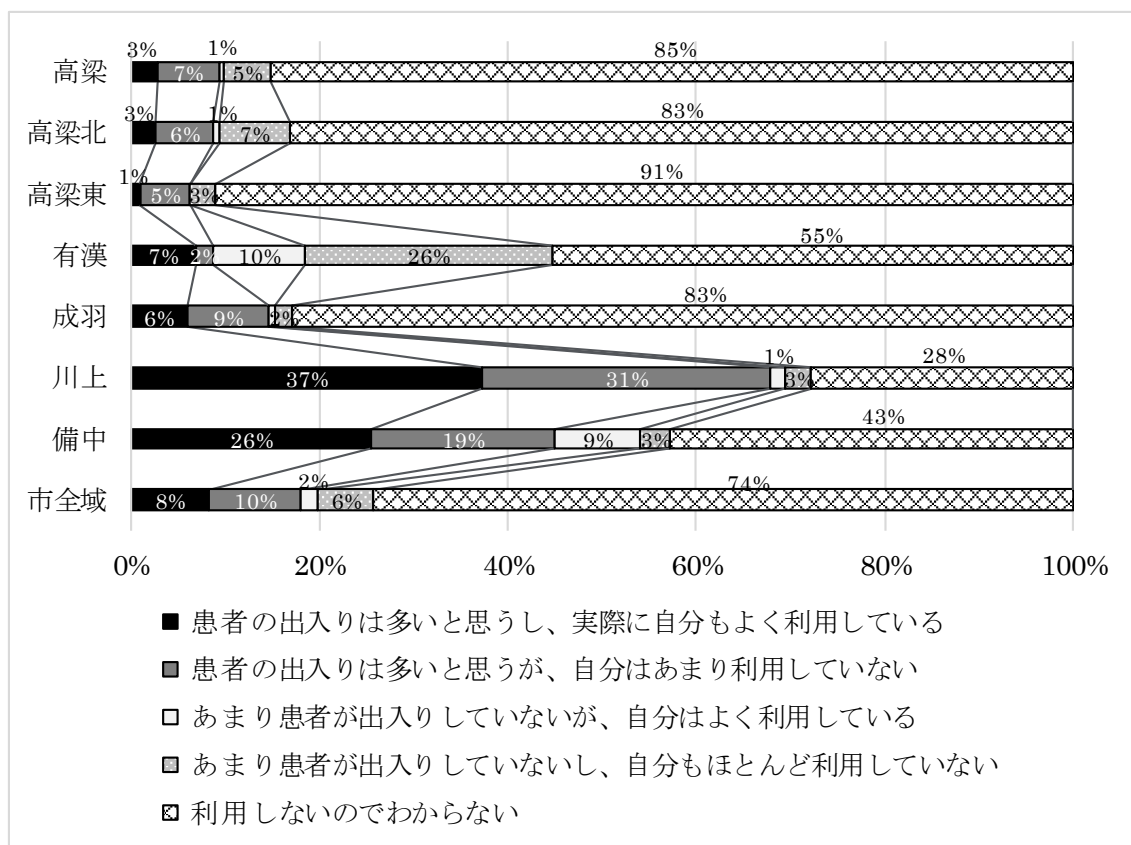
1 位	2 位	3 位
-----	-----	-----

	内科系	外科系	整形外科系	産婦人科系	小児科系	耳鼻咽喉科系	皮膚・泌尿器科系	精神科系	特にない	その他	回答者数 (人)
高梁	27%	10%	20%	46%	18%	32%	31%	7%	14%	4%	650
高梁北	35%	18%	17%	33%	13%	28%	33%	5%	16%	5%	160
高梁東	27%	13%	17%	42%	25%	34%	36%	5%	12%	8%	119
有漢	38%	17%	18%	35%	15%	24%	26%	8%	18%	3%	106
成羽	33%	13%	33%	34%	12%	34%	35%	9%	11%	5%	211
川上	38%	16%	23%	33%	13%	22%	23%	7%	18%	3%	131
備中	39%	14%	24%	27%	9%	21%	24%	6%	20%	6%	98
市全域	31%	13%	22%	39%	16%	30%	30%	7%	15%	5%	1,475

問 5 3 市内の公立診療所について、あなたの考えに近いものを選んでください。

- 公立診療所に関する認識については、高梁、高梁北、高梁東、成羽の4地域では「利用していないのでわからない」が80%以上を占めている。
- 有漢地域では、公立診療所に「あまり患者が出入りしていない」という認識が、「患者の出入りは多い」という認識を大きく上回っている。
- 川上地域及び備中地域では、「患者の出入りは多い」という認識がほとんどであり、「実際に自分もよく利用している」という回答がその大半を占めている。

図表 2-75 公立診療所の利用状況に関する認識



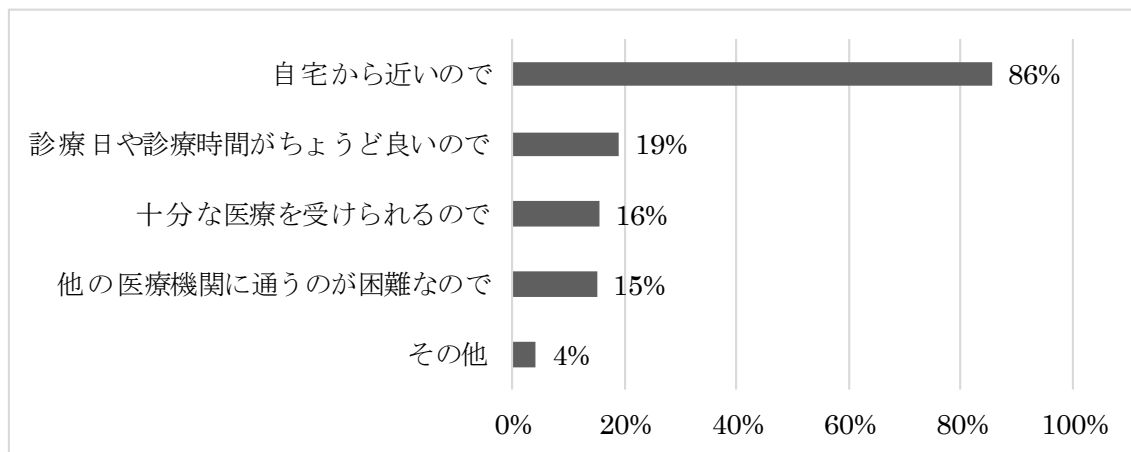
(単位：人)

	患者の出入りが多いと思うし、実際に自分もよく利用している	患者の出入りが多いと思うが、自分はあまり利用していない	あまり患者が出入りしていないが、自分はよく利用している	あまり患者が出入りしていないし、自分もほとんど利用していない	利用しないのでわからない	回答者数
高梁	16	39	3	29	502	589
高梁北	4	9	1	11	124	149
高梁東	1	6	0	3	101	111
有漢	7	2	10	27	57	103
成羽	12	18	1	4	169	204
川上	51	42	2	4	38	137
備中	25	19	9	3	42	98
市全域	115	136	26	81	1,033	1,391

問 5 4 公立診療所をよく利用する理由を教えてください。
(当てはまるもの全て選択)

- 「自宅から近いので」の割合が最も高く、86%に達している。

図表 2-7 6 公立診療所をよく利用する理由

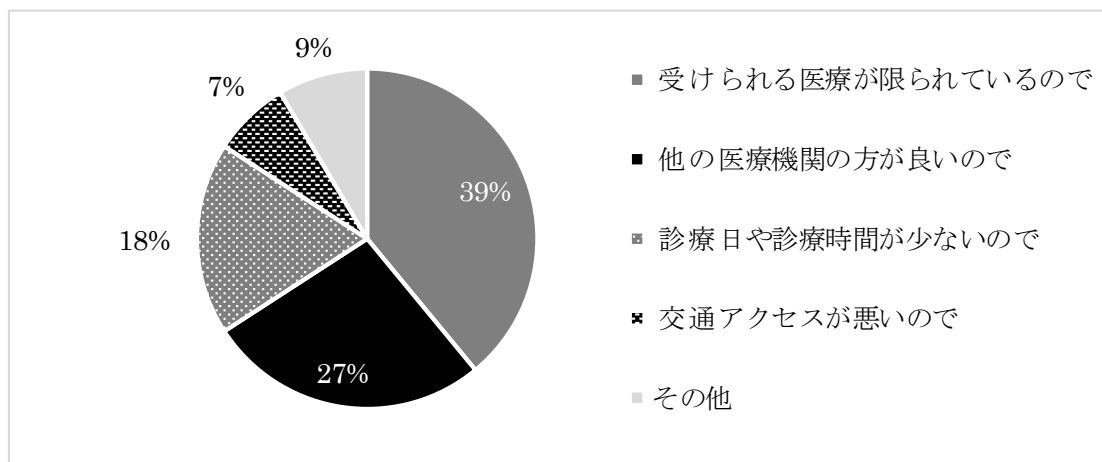


(回答者数：129 人)

問 5 5 公立診療所の利用率が低い原因は何だと思いますか。

- 公立診療所の利用率が低い原因に関しては、「受けられる医療が限られているので」の割合が最も高く、39%である。

図表 2-7 7 公立診療所の利用率が低い原因

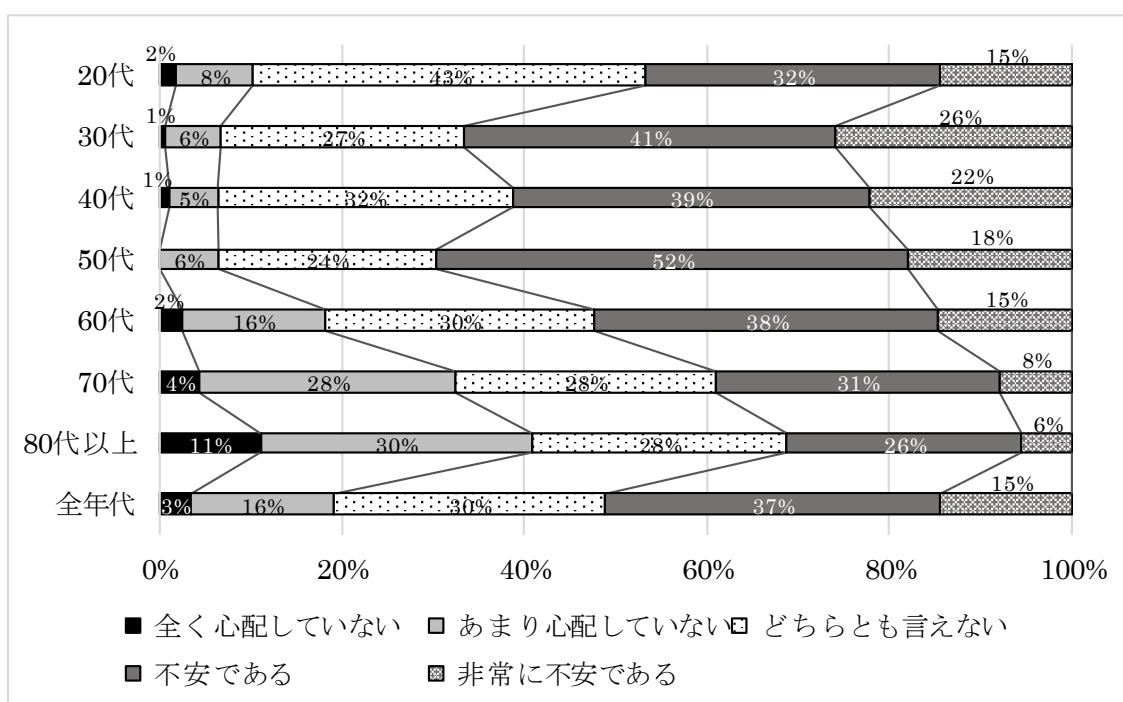


(回答者数：82 人)

問56 10年後といった近い将来の高梁市内の医療について、あなたのお気持ちを教えてください。

- 近い将来の高梁市の医療について、20代～60代は「不安である」「非常に不安である」が「全く心配していない」「あまり心配していない」を大きく上回っている。
- 70代以上は「全く心配していない」「あまり心配していない」が増加し、80代以上においては「不安である」「非常に不安である」を上回っている。

図表 2-78 近い将来の高梁市の医療についての考え（年代別集計）

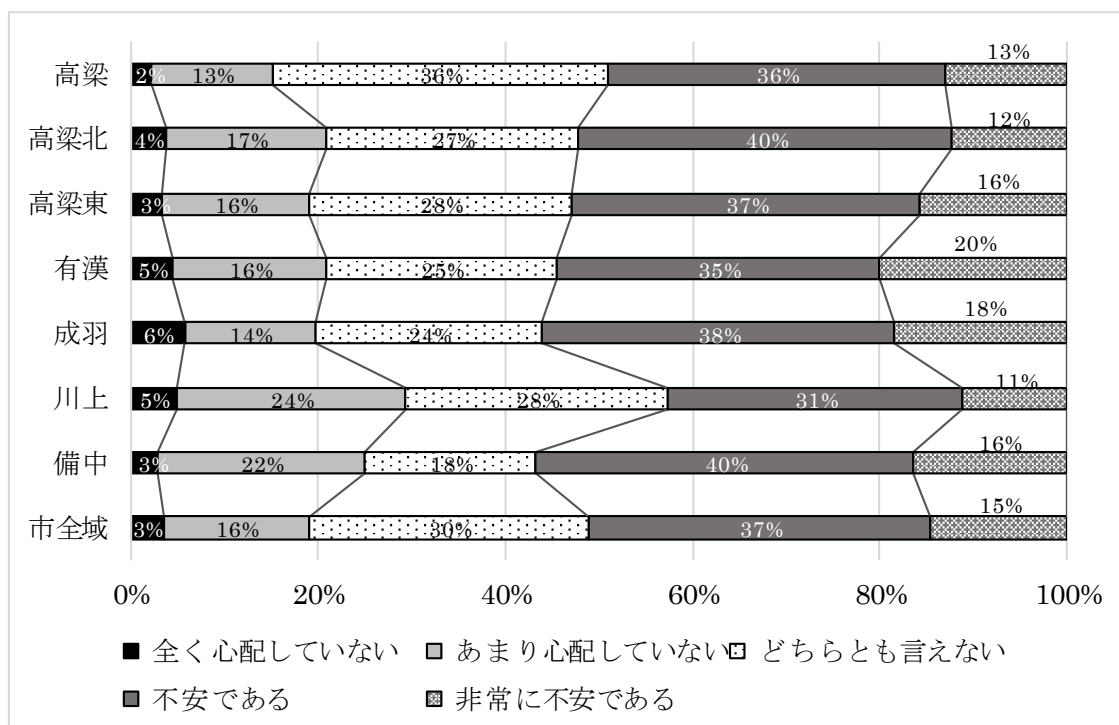


（単位：人）

	全く心配していない	あまり心配していない	どちらとも言えない	不安である	非常に不安である	回答者数
20代	3	14	71	53	24	165
30代	1	10	43	66	42	162
40代	2	10	61	74	42	189
50代	0	14	52	113	39	218
60代	8	50	95	121	47	321
70代	10	63	64	70	18	225
80代以上	30	81	76	70	15	272
全年代	53	243	463	567	226	1,552

- 近い将来の高梁市の医療について、ほとんどの地域で同様の傾向が見られるものの、川上地域においては「あまり心配していない」が24%とやや多く、「不安である」「非常に不安である」が合わせて42%と他地域よりも低い。

図表 2-79 近い将来の高梁市の医療についての考え（地域別集計）



(単位：人)

	全く心配していない	あまり心配していない	どちらとも言えない	不安である	非常に不安である	回答者数
高梁	15	88	245	246	89	683
高梁北	6	28	44	65	20	163
高梁東	4	19	34	45	19	121
有漢	5	18	27	38	22	110
成羽	13	32	55	86	42	228
川上	7	35	40	45	16	143
備中	3	23	19	42	17	104
市全域	53	243	463	567	226	1,552

問 5 7 将来の高梁市内の医療について、何が不安ですか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- ほとんどの年代において「急病時にすぐ診てくれる医師がいるか」「重い病気をしたときに診てくれる医師がいるか」といった、医師確保に関する不安が上位に入っている。
- 年代別の特徴としては、以下の傾向がある。
 - 20代においては、医療従事者の高齢化の中での地域医療の維持、出産体制についての不安が大きい。
 - 30代においては、子どもの医療についての不安が大きい。
 - 40代、50代においては、医療従事者の高齢化の中での地域医療の維持についての不安が大きい
 - 60代以上については、「はっきりとは分からないが、不安を感じる」の割合が大きい。また、70代以上については、医療機関への交通手段の不安が大きい。

図表 2-80 将来の高梁市内の医療への不安（年代別集計）

1 位	2 位	3 位
-----	-----	-----

	医療機関への交通手段	急病時にすぐ診てくれる医師がいるか	重い病気をしたときに診てくれる医師がいるか	近隣の医療機関が廃業・撤退してしまわないか	分娩施設がないため、安心して出産ができない	子どもが適切な医療を受けられるか	医療従事者が高齢化しており、地域医療が維持できないのではないか	自身が希望する場所で最期を迎えられないのではないか	はつきりとは分らないが、不安を感じる	その他	回答者数（人）
20 代	19%	29%	<u>52%</u>	34%	<u>41%</u>	18%	55%	7%	5%	2%	72
30 代	17%	67%	<u>41%</u>	23%	33%	<u>40%</u>	33%	1%	11%	2%	98
40 代	23%	65%	<u>45%</u>	27%	18%	38%	<u>44%</u>	8%	11%	2%	113
50 代	26%	62%	<u>46%</u>	27%	22%	11%	<u>40%</u>	4%	19%	2%	143
60 代	26%	58%	<u>43%</u>	15%	17%	11%	31%	14%	<u>32%</u>	1%	165
70 代	<u>43%</u>	59%	33%	16%	13%	5%	18%	15%	<u>34%</u>	1%	83
80 代以上	50%	50%	22%	6%	9%	6%	26%	13%	<u>45%</u>	2%	83
全年代	28%	57%	<u>41%</u>	21%	21%	18%	<u>35%</u>	9%	23%	2%	757

- 全ての地域において、「急病時にすぐ診てくれる医師がいるか」「重い病気をしたときに診てくれる医師がいるか」の割合が高い。

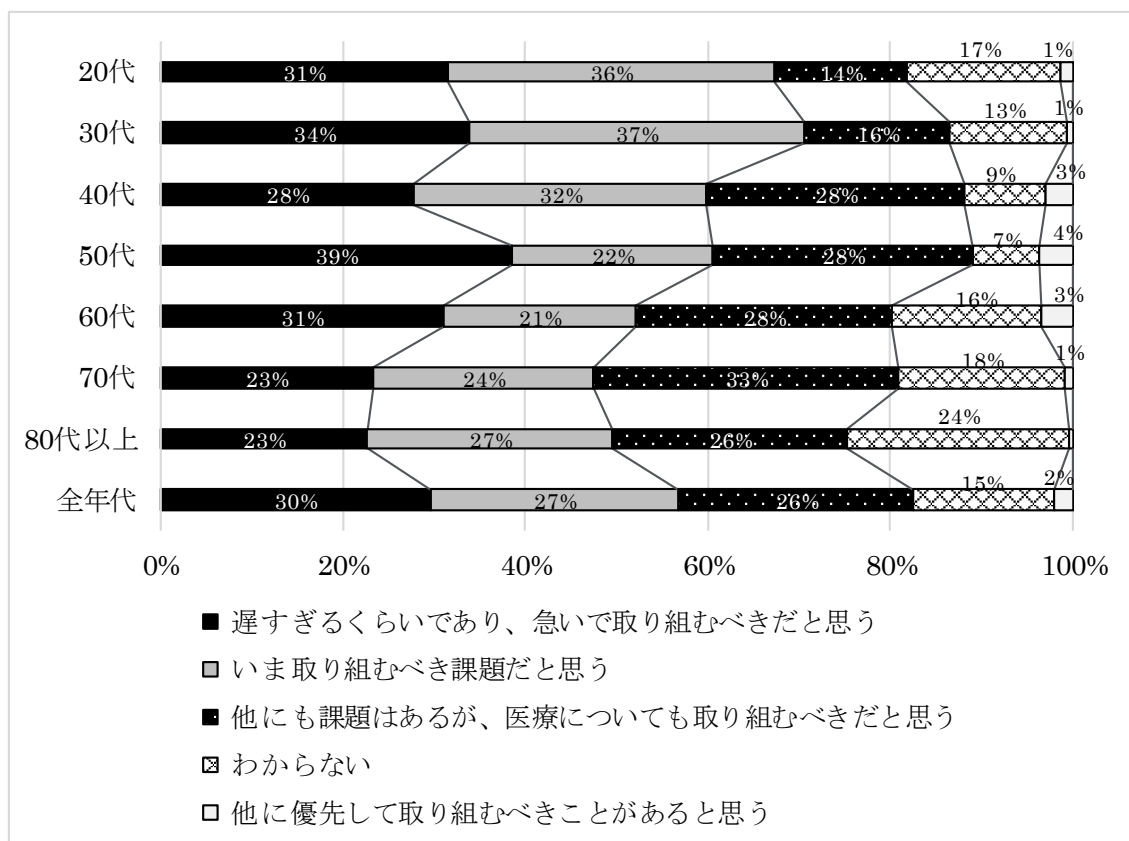
図表 2-8 1 将来の高梁市内の医療への不安（地域別集計）

1 位 2 位 3 位											
	医療機関への交通手段	急病時にすぐ診てくれる医師がいるか	重い病気をしたときに診てくれる医師がいるか	近隣の医療機関が廃業・撤退してしまわないか	分娩施設がないため、安心して出産ができない	子どもが適切な医療を受けられるか	医療従事者が高齢化しており、地域医療が維持できないのではないか	自身が希望する場所で最期を迎えられないのではないか	はつきりとは分らないが、不安を感じる	その他	回答者数（人）
高梁	16%	54%	43%	22%	24%	23%	41%	12%	18%	1%	317
高梁北	38%	65%	39%	14%	20%	14%	30%	12%	27%	3%	81
高梁東	27%	57%	43%	18%	27%	21%	34%	5%	24%	3%	62
有漢	42%	56%	44%	23%	16%	12%	22%	7%	34%	3%	58
成羽	32%	62%	44%	17%	16%	16%	39%	4%	26%	0%	125
川上	38%	52%	30%	28%	18%	11%	30%	9%	24%	3%	57
備中	51%	59%	31%	31%	17%	12%	24%	5%	24%	1%	56
市全域	28%	57%	41%	21%	21%	18%	35%	9%	23%	2%	757

問 5 8 高梁市は地域医療の維持に危機感を持ち、医療計画を策定しようとしています。このことについてあなたのお考えを教えてください。

- 20代及び30代では「遅すぎるくらいであり、急いで取り組むべきだと思う」「いま取り組むべき課題だと思う」が70%前後を占めている。一方で、40代及び50代では同60%程度、60代以上では同50%程度となっている。
- 全年代を通して、「他に優先して取り組むべきことがあると思う」はほとんど見られない。

図表 2-8 2 高梁市の医療計画策定についての考え（年代別集計）

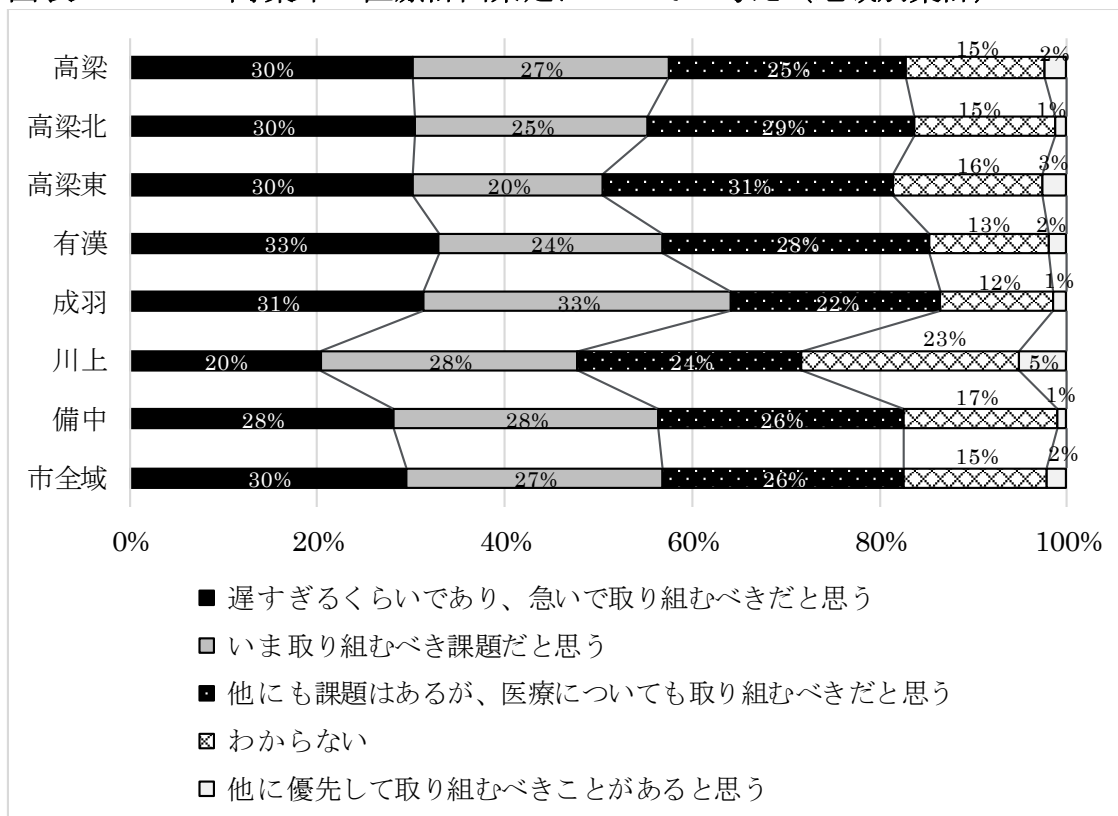


(単位：人)

	遅すぎるくらいであり、急いで取り組むべきだと思う	いま取り組むべき課題だと思う	他にも課題はあるが、医療についても取り組むべきだと思う	わからない	他に優先して取り組むべきことがあると思う	回答者数
20代	50	57	23	27	2	159
30代	55	60	26	21	1	163
40代	54	62	55	17	6	194
50代	84	48	62	16	8	218
60代	99	67	90	52	11	319
70代	51	53	73	40	2	219
80代以上	54	64	61	58	1	238
全年代	447	412	390	232	32	1,513

- 地域別の意向を見ると、積極的肯定意見はほとんどの地域で半数を超えており、川上地域では半数弱となっている。「他に優先して取り組むべきことがあると思う」はいずれの地域においてもほとんど見られない。

図表 2-83 高梁市の医療計画策定についての考え（地域別集計）



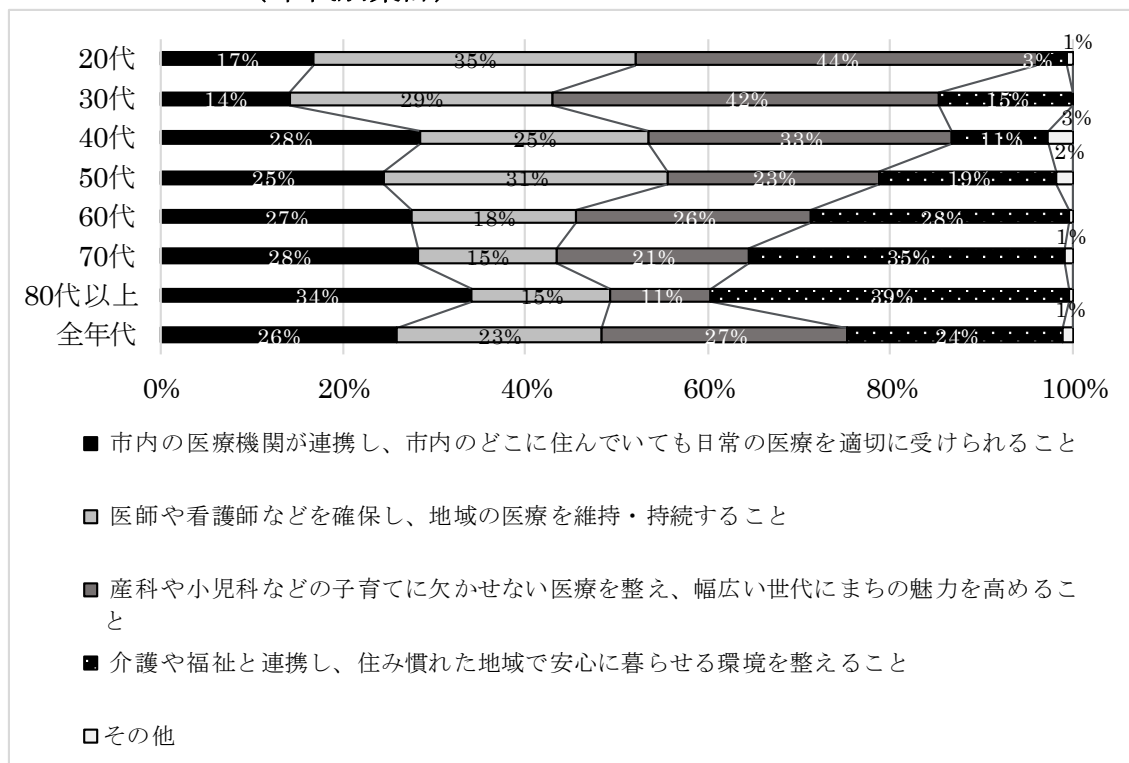
(単位：人)

	遅すぎるくらいであり、急いで取り組むべきだと思う	いま取り組むべき課題だと思う	他にも課題はあるが、医療についても取り組むべきだと思う	わからない	他に優先して取り組むべきことがあると思う	回答者数
高梁	199	181	167	99	15	661
高梁北	49	40	46	24	2	161
高梁東	36	24	37	19	3	119
有漢	36	26	31	14	2	109
成羽	70	73	50	27	3	223
川上	28	38	33	32	7	138
備中	29	29	27	17	1	103
市全域	447	412	390	232	32	1,513

問 5 9 高梁市内の医療に関連するテーマのうち、特に重要だと思うものを教えてください。

- 高梁市の医療に関するテーマに関して、20代から40代では「産科や小児科などの子育てに欠かせない医療を整え、幅広い世代にまちの魅力を高めること」が30～40%程度を占めて1位となっている。50代では「医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・存続すること」の31%が1位である。60代以上では「介護や福祉と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えること」が30～40%程度で1位である。
- 「市内の医療機関が連携し、市内のどこに住んでいても日常の医療を適切に受けられること」については、30代以下は選択が少ないが、40代以上では選択が多い。
- 「医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・持続すること」については、50代以下は選択が多いが、60代以上では選択が少ない。
- 「産科や小児科などの子育てに欠かせない医療を整え、幅広い世代にまちの魅力を高めること」については、30代以下で顕著に多く、80代以上で顕著に少ない。
- 「介護や福祉と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えること」については、50代以下では選択が少なく、60代以上で選択が多い。

図表 2-8 4 高梁市の医療に関するテーマで特に重要だと思うもの
(年代別集計)

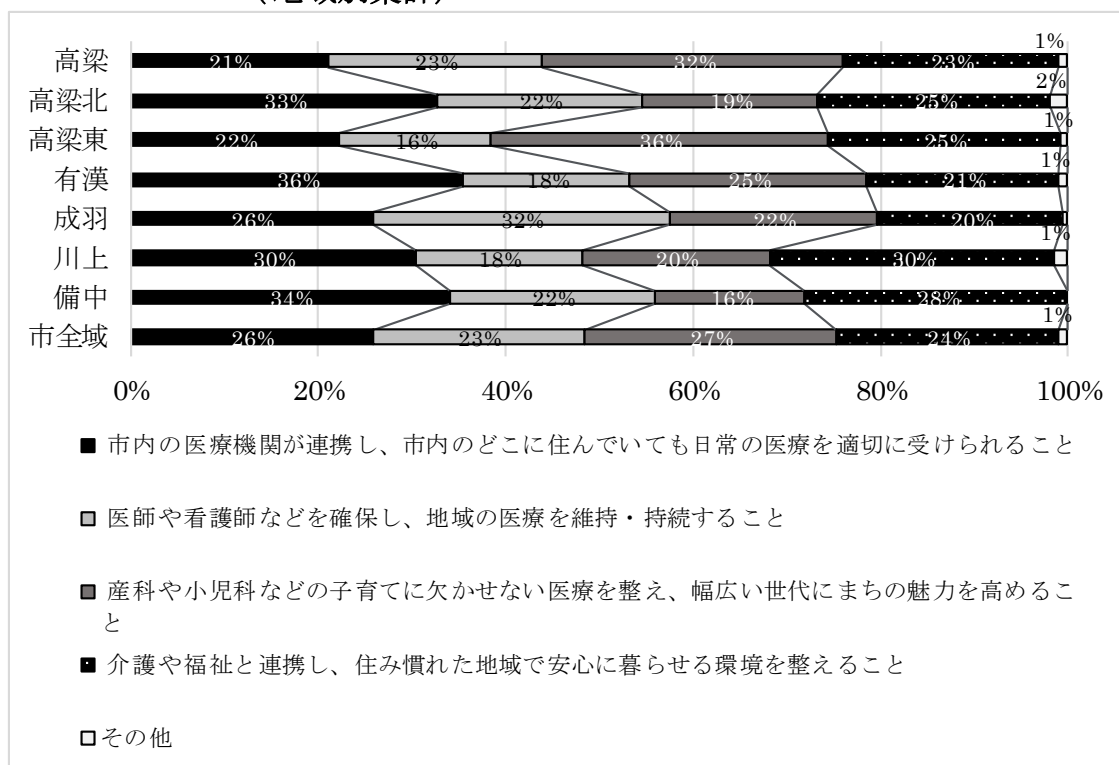


(単位：人)

	市内の医療機関が連携し、市内のどこに住んでいても日常の医療を適切に受けられること	医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・持続すること	産科や小児科などの子育てに欠かせない医療を整え、幅広い世代にまちの魅力を高めること	介護や福祉と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えること	その他	回答者数
20代	25	53	66	5	1	150
30代	22	45	66	23	0	156
40代	53	47	62	20	5	187
50代	53	67	50	42	4	216
60代	87	57	82	90	1	317
70代	61	33	46	75	2	217
80代以上	86	38	28	99	1	252
全年代	386	340	402	355	16	1,499

- 高梁の医療に関するテーマについて、地域別に見ると、以下のような傾向が見られる。
 - 「市内の医療機関が連携し、市内のどこに住んでいても日常の医療を適切に受けられること」については、20～35%程度の支持を得ている。高梁北、有漢、川上、備中の4地域において、最も支持されている。
 - 「医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・持続すること」については、15～30%程度の支持を得ている。成羽地域において、最も支持されている。
 - 「産科や小児科などの子育てに欠かせない医療を整え、幅広い世代のまちの魅力を高めること」については、20～35%程度の支持を得ている。高梁、高梁東の2地域において、最も支持されている。
 - 「介護や福祉と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えること」については、20～30%程度の支持を得ている。川上地域において、最も支持されている。

図表 2-85 高梁市の医療に関するテーマで特に重要だと思うもの
(地域別集計)



(単位：人)

	市内の医療機関が連携し、市内のどこに住んでいても日常の医療を適切に受けられること	医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・持続すること	産科や小児科などの子育てに欠かせない医療を整え、幅広い世代にまちの魅力を高めること	介護や福祉と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えること	その他	回答者数
高梁	137	150	210	149	7	653
高梁北	54	36	31	41	3	165
高梁東	26	19	42	29	1	117
有漢	38	19	27	22	1	107
成羽	57	70	49	44	1	221
川上	41	24	27	41	2	135
備中	34	22	16	28	0	100
市全域	386	340	402	355	16	1,499

問 6 0 高梁市内の医療について、今後どのような対策を充実させるべきだと思いますか。(当てはまるもの3つまで選択)

- 高梁市内の医療で充実させるべきだと思うものに関して、傾向として「日常的な医療」「初期救急医療」「医師・看護師の育成と確保」「安心して出産できるサポート体制」が多く選択されている。
- 20代、30代と60代において、「安心して出産できるサポート体制」が1位となっている。
- 40代と50代において、「医師・看護師の育成と確保」が1位となっている。
- 70代と80代以上において、「日常的な医療」が1位となっている。

図表 2-86 高梁市内の医療で充実させるべきだと思うもの（年代別集計）

											1 位	2 位	3 位
	日常的な医療	初期救急医療	二次救急医療	医療機関の連携	医師・看護師の育成と確保	専門家同士の職種を超えた連携	医療に関する情報提供	安心して出産できるサポート体制	患者の家族に対するサポート	行政の効率化と無駄の排除	回答者数（人）		
20 代	21%	19%	26%	5%	50%	25%	8%	57%	20%	17%	154		
30 代	30%	22%	19%	24%	39%	23%	17%	51%	21%	17%	158		
40 代	33%	35%	29%	17%	41%	26%	11%	40%	17%	12%	187		
50 代	30%	35%	32%	16%	45%	23%	12%	37%	20%	8%	222		
60 代	33%	33%	29%	21%	31%	25%	9%	39%	17%	12%	312		
70 代	34%	32%	28%	26%	28%	27%	9%	29%	20%	10%	206		
80 代 以上	41%	30%	32%	17%	32%	26%	12%	22%	16%	11%	236		
全年代	32%	30%	28%	19%	37%	25%	11%	38%	19%	12%	1,474		

- 地域別に見ると、高梁、高梁東の2地域を中心に「安心して出産できるサポート体制」「医師・看護師の育成と確保」の割合が高く、有漢、川上、備中の3地域を中心に「日常的な医療」「初期救急医療」の割合が高い。

図表 2-8 7 高梁市内の医療で充実させるべきだと思うもの（地域別集計）

医療に関する施策の認知度（%）											
	1 位	2 位	3 位								
	日常的な医療	初期救急医療	二次救急医療	医療機関の連携	医師・看護師の育成と確保	専門家同士の職種を超えた連携	医療に関する情報提供	安心して出産できるサポート体制	患者の家族に対するサポート	行政の効率化と無駄の排除	回答者数（人）
高梁	29%	27%	26%	18%	38%	24%	11%	42%	19%	13%	656
高梁北	32%	35%	33%	26%	31%	29%	14%	33%	19%	10%	157
高梁東	36%	29%	32%	18%	33%	26%	8%	42%	18%	16%	114
有漢	43%	34%	30%	18%	31%	24%	13%	33%	12%	14%	106
成羽	28%	29%	30%	13%	45%	25%	9%	38%	22%	13%	221
川上	42%	32%	23%	20%	34%	24%	10%	30%	22%	5%	125
備中	41%	40%	32%	22%	35%	26%	10%	25%	15%	8%	95
市全域	32%	30%	28%	19%	37%	25%	11%	38%	19%	12%	1,474

問 6 1 高梁市内の専門的な医療について、今後どのような対策を充実させるべきだと思いますか。(当てはまるもの3つまで選択)

- 高梁市内の専門的な医療で充実させるべきだと思うものに関して、全年代に共通して「へき地医療」の割合が高い。
- 40代以下では「周産期医療」「小児医療」の割合が高く、60代以上では「三次救急医療」「在宅医療」の割合が高い。50代は中間的な傾向である。

図表 2-88 高梁市内の専門的な医療で充実させるべきだと思うもの
(年代別集計)

医療体制の充実状況												1位	2位	3位
	三次救急医療	災害医療	へき地医療	周産期医療	小児医療	在宅医療	がんの専門的な医療体制	脳卒中の専門的な医療体制	急性心筋梗塞の専門的な医療体制	糖尿病の専門的な医療体制	精神疾患の専門的な医療体制	回答者数（人）		
20代	25%	11%	43%	53%	30%	20%	25%	8%	14%	9%	18%	156		
30代	23%	15%	42%	48%	66%	16%	31%	6%	7%	4%	8%	157		
40代	27%	14%	50%	38%	46%	32%	25%	14%	8%	4%	14%	179		
50代	26%	12%	60%	39%	30%	36%	20%	17%	14%	4%	6%	210		
60代	33%	11%	48%	32%	23%	36%	25%	19%	12%	7%	5%	301		
70代	33%	15%	53%	22%	13%	41%	29%	20%	18%	9%	7%	191		
80代以上	31%	13%	58%	15%	11%	39%	23%	26%	22%	5%	6%	220		
全年代	29%	13%	51%	34%	29%	33%	25%	17%	14%	6%	9%	1,414		

- 全ての地域に共通して「へき地医療」「周産期医療」の割合が高い。
- 高梁北、成羽、川上、備中の4地域では「在宅医療」の割合が高い。

図表 2-89 高梁市内の専門的な医療で充実させるべきだと思うもの
(地域別集計)

	三次救急医療	災害医療	へき地医療	周産期医療	小児医療	在宅医療	がんの専門的な医療体制	脳卒中の専門的な医療体制	急性心筋梗塞の専門的な医療体制	糖尿病の専門的な医療体制	精神疾患の専門的な医療体制	回答者数(人)
高梁	29%	14%	40%	38%	35%	27%	28%	17%	15%	7%	10%	622
高梁北	33%	13%	61%	26%	23%	37%	26%	16%	16%	3%	6%	158
高梁東	34%	12%	50%	39%	35%	33%	21%	16%	15%	6%	5%	114
有漢	30%	14%	63%	33%	27%	26%	20%	18%	13%	6%	8%	101
成羽	32%	12%	55%	35%	23%	41%	24%	17%	12%	6%	9%	204
川上	17%	10%	58%	27%	20%	37%	24%	16%	13%	9%	10%	119
備中	25%	12%	80%	25%	17%	41%	16%	13%	9%	5%	6%	95
市全域	29%	13%	51%	34%	29%	33%	25%	17%	14%	6%	9%	1,414

問 6 2 高梁市の地域医療に関して、ご意見やご要望がございましたらご記入ください。(自由記述)

- 20代～40代において、産科・小児科の充実を求めるコメントが特に多いが、全年代をとおして見ても多くなっている。
- 50代以上において、待ち時間や診療日数など、医療機関の対応の改善に関するコメントが多い。70代以上においては、医療アクセスに関するコメントが多い。

図表 2-90 高梁市の地域医療に関する意見・要望（自由記述の傾向分析）

	1位	2位	3位								
	産科・小児科の充実	他の診療科の充実	救急・休日夜間対応の充実	へき地医療、医療アクセスの充実	医療の質の向上	医療機関の対応（待ち時間、診療日数などによる受診のしにくさ）の改善	医師・看護師の確保	医師・看護師、病院スタッフ等の資質	高度医療の充実	その他	回答者数（人）
20代	36%	4%	0%	20%	8%	16%	12%	0%	0%	44%	25
30代	53%	15%	18%	6%	6%	15%	18%	12%	3%	26%	34
40代	35%	15%	28%	25%	8%	23%	20%	10%	5%	35%	40
50代	22%	12%	12%	16%	6%	24%	6%	12%	4%	37%	49
60代	13%	0%	11%	13%	3%	21%	11%	15%	6%	44%	71
70代	12%	0%	8%	20%	2%	16%	6%	6%	0%	47%	49
80代以上	0%	0%	2%	24%	4%	18%	2%	10%	2%	53%	49
全年代	21%	6%	11%	18%	5%	20%	10%	10%	3%	42%	317

3. 医療機関アンケート調査結果

＜ 3. 1. 調査結果の概要＞

（１）回答者の属性（3. 3 関係）

- 市内の 4 病院すべて、12 の民間診療所、7 の公立診療所から回答を得た。公立診療所を除いては、高梁地域からの回答が過半を占めている。

（２）診療所の経営環境（3. 3. 1 関係）

- 民間、公立を問わず、ほとんどの診療所が将来的不安を抱えていることが可視化された。（診療所向け問 3）
- 患者数の減少が最大の不安となっており、さらに民間診療所においてはスタッフの高齢化に対する懸念が深刻である。（診療所向け問 4）
- 患者数やスタッフの人数、年齢、採用等について、様々な観点から踏み込んだ把握を行うことができた。（診療所向け問 5 ～ 1 6）

（３）診療所の在宅医療の取組み（3. 3. 2 関係）

- 民間診療所の半数が訪問診療・往診に取り組んでいる。（診療所向け問 1 7、1 8、2 0、2 1）
- 一方で、人手が足りないために実施が難しいとする診療所も多い。（診療所向け問 1 9、2 2）
- また、民間診療所の多職種連携研修会への参加姿勢については、「可能な限り参加」は 3 割程度であった。（診療所向け問 2 3）

（４）診療所の市の医療提供体制に関する意識（3. 3. 3 関係）

- 医療計画の策定について、全ての診療所から支持が得られている。（診療所向け問 2 4）
- 民間診療所と公立診療所で、重要と考えるテーマの比重が異なっている。（診療所向け問 2 5）

- 市内の初期・二次救急体制について、一定数の診療所があまり充実していないと考えており、医療従事者の不足のほか、医療機関の連携の不足等の問題意識が確認できた。（診療所向け問26～29）
- 市外への患者流出については、一定程度の認識を持ちつつ、やむをえないとする考え方、相談に応じて再受け入れを行っている姿がうかがわれる。（診療所向け問30、32、34）

（5）病院の経営環境（3. 4. 1 関係）

- 全ての病院が将来的不安を抱えていることが可視化された。（病院向け問3）
- その具体的な内容は、医療スタッフの不足と医療スタッフの高齢化となっている。（病院向け問4）
- 病床削減については、7割弱の病院が、数年後を目途に取組み予定としている。（病院向け問5～7）
- 患者数やスタッフの人数、年齢、採用等について、様々な観点から踏み込んだ把握を行うことができた。（病院向け問8～22）

（6）病院の在宅医療の取組み（3. 4. 2 関係）

- 訪問診療や往診については、人手不足等により取組みが進んでいない状況にある。（病院向け問23～28）
- 退院支援担当者を配置しているものの、人数が不足しているという認識が多い。（病院向け問29～31）
- 退院時カンファレンスには関連職種が積極的に参加している様子がうかがわれる。（病院向け問32、33）

（7）病院の市の医療提供体制に関する意識（3. 4. 3 関係）

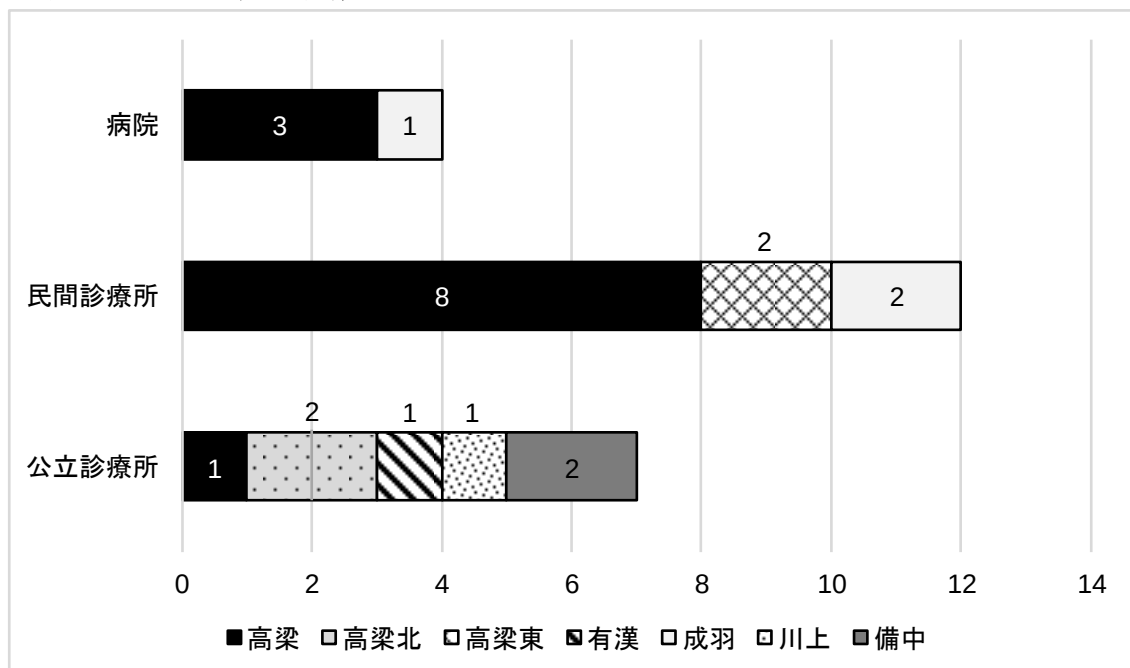
- 医療計画の策定について、全ての病院から支持が得られている。（病院向け問34）
- 重要と考えるテーマについては、医師や看護師の確保、地域医療の維持・持続となっている。（病院向け問35）

- 現在の初期・二次救急医療体制について、医療従事者の不足、医療機関の連携の不足等から十分な体制となっていないと認識していることがうかがわれる。（病院向け問36～39）
- 市外への患者流出については、一定程度の認識を持ちつつ、やむをえないとする考え方、相談に応じて再受け入れを行っている姿がうかがわれる。（病院向け問40、42、44）

＜ 3. 2. 回答者の属性＞

- 病院向けアンケートでは、配布対象の 4 病院全てから回答を得られた。
- 診療所向けアンケートでは、配布した 21 施設のうち 19 施設から回答が得られ、回答率は 90%だった。
※訪問看護ステーションについても、本調査では「診療所」として集計。
- 地域別の回答施設数としては、診療所・病院ともに高梁地域が最も多かった。

図表 3-1 回答施設数



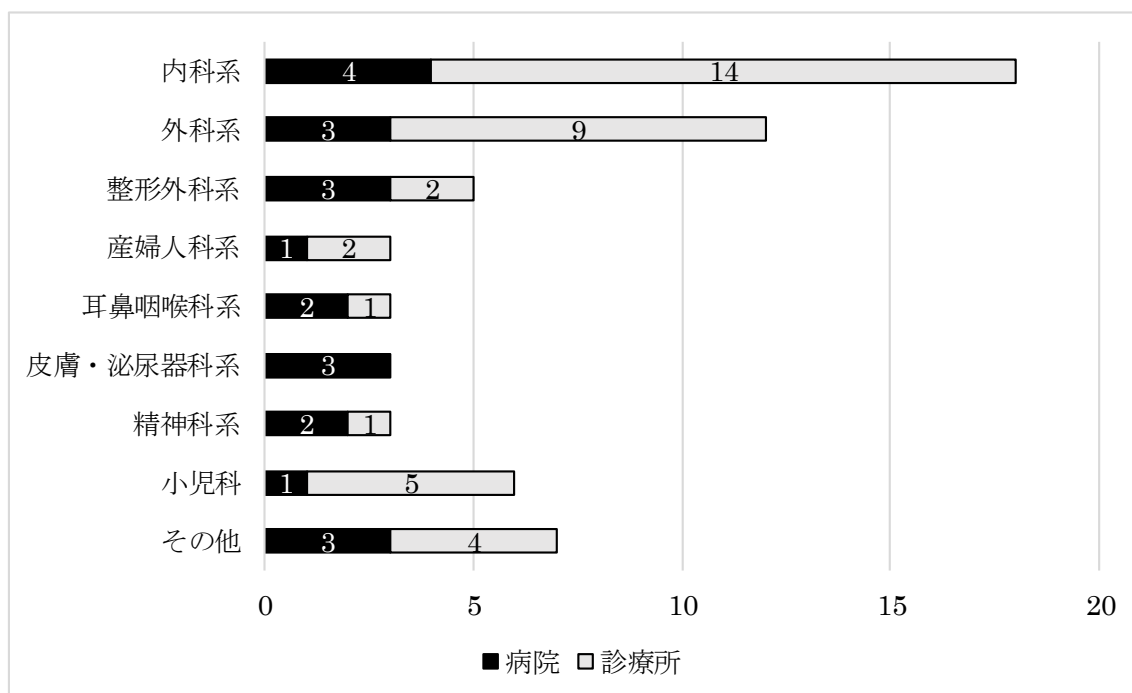
※公立診療所の調査票配布範囲について

上図に含まれる 7 か所の公立診療所のほか、成羽病院附属の田原診療所、吹屋診療所、湯野診療所、平川診療所の 4 か所の公立診療所に対して、患者数とスタッフ数のみ調査を実施した。これにより把握した項目については、本調査の集計に含めている。(成羽病院附属の 4 診療所については、成羽病院が経営的判断を実施しているため、独立した主体として調査票を配布する対象としなかったものである。)

問 2 標榜科を教えてください。

- 内科系、外科系を標榜している医療機関が多い。
- 皮膚・泌尿器科系を標榜している医療機関は、病院のみである。

図表 3-2 回答のあった医療機関の標榜科（複数の標榜科を持つ施設は重複して集計）



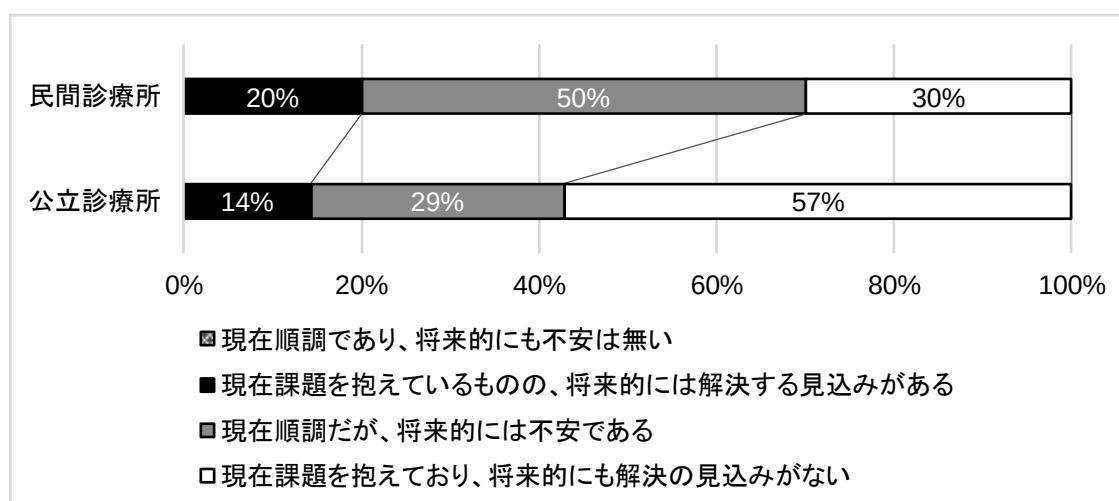
＜ 3. 3. 診療所の意識と取り組み＞

3. 3. 1. 経営環境

問 3 貴機関の経営環境について教えてください。

- 民間診療所では、現在は順調と回答した 50%も含めて、80%が将来的不安を抱えている。現在課題を抱えているものの将来的には解決する見込みがあるとしているのは 20%のみである。
- 公立診療所も民間診療所と同様の傾向であるが、現在は順調であると回答した割合が 29%となっている。

図表 3-3 経営環境に対する診療所の認識



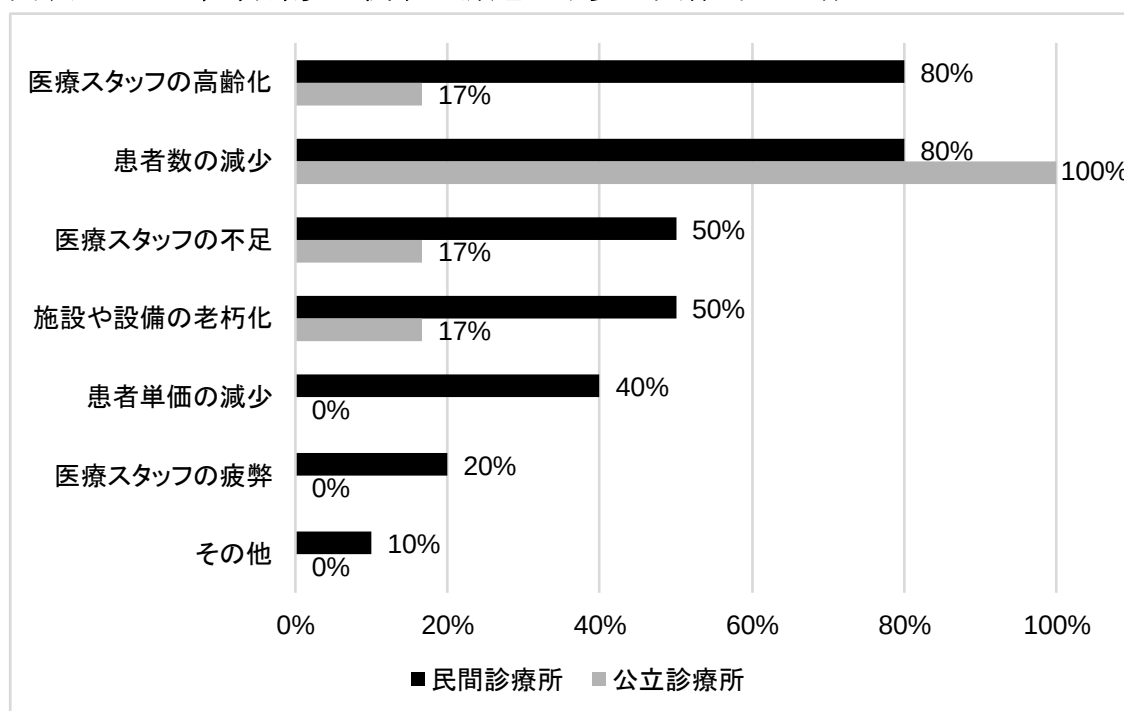
(単位：施設)

	現在順調であり、将来的にも不安は無い	現在課題を抱えているものの、将来的には解決する見込みがある	現在順調だが、将来的には不安である	現在課題を抱えており、将来的にも解決の見込みがない	回答施設数
民間診療所	0	2	5	3	10
公立診療所	0	1	2	4	7

問 4 課題・不安の具体的な内容を教えてください。
（当てはまるもの全て選択）

- 民間診療所における課題・不安は、「医療スタッフの高齢化」と「患者数の減少」の両方の要因がともに 80%であり、同率で 1 位となっている。
- 公立診療所における課題・不安については、「患者数の減少」を全診療所が選択しており、突出している。
- 一方で、「医療スタッフの疲弊」は民間診療所の 20%が選択したのみである。

図表 3-4 経営環境に関する課題・不安の具体的な内容



（回答施設数：民間診療所 10 施設、公立診療所 6 施設）

問 5 平成 28 年度の外来・在宅の患者数を教えてください。

- 平成 28 年度の 1 年間に於いて対応した外来患者数、在宅患者数については、各診療所の回答を集計すると以下のとおりである。

図表 3-5 平成 28 年度における診療所の患者数の総計

	一般外来	救急外来	訪問診療	往診	回答 施設数
民間診療所	66,260 人	110 人	261 人	483 人	9 施設
公立診療所	29,832 人	0 人	1,978 人	129 人	11 施設

※公立診療所に関して、この他に、内訳が不明な在宅患者が 608 人いる。

- 患者数の規模別の観点から診療所の分布を見ると、民間診療所と公立診療所のそれぞれの取組みの傾向が見られる。
- 一般外来については、民間診療所は、年間「5,000 人以上 10,000 人未満」が 50%を占めている。一方で、公立診療所においては、年間「100 人以上 1,000 人未満」が 45%を占めており、「100 人未満」も 18%存在している。
 - 救急外来については、公立診療所においては実施していない。民間診療所においても、実施していない診療所がほとんどである。
 - 訪問診療については、民間診療所、公立診療所ともに 60%程度が実施しておらず、残りの半数程度が年間 100 人未満の規模で実施している。しかしながら総数において公立診療所 1,978 人と民間診療所を大幅に上回っており、大規模に訪問診療を展開している公立診療所が寄与しているものと考えられる。
 - 往診については、訪問診療と近い傾向が見られるものの、公立診療所は年間 10 人未満というところが多く、総数としては民間診療所が往診する患者数が、公立診療所が往診する患者数を上回っている。

図表 3-6 平成 28 年度における診療所の一般外来患者数

	100 人未満	100 人以上 1,000 人未満	1,000 人以上 5,000 人未満	5,000 人以上 10,000 人未満	10,000 人 以上	回答 施設数
民間 診療所	なし (0%)	1 施設 (13%)	1 施設 (13%)	4 施設 (50%)	2 施設 (25%)	8 施設 (100%)
公立 診療所	2 施設 (18%)	5 施設 (45%)	3 施設 (27%)	なし (0%)	1 施設 (9%)	11 施設 (100%)

図表 3-7 平成 28 年度における診療所の救急外来患者数

	0 人	10 人未満	10 人以上 100 人未満	100 人以上	回答 施設数
民間 診療所	6 施設 (75%)	なし (0%)	1 施設 (13%)	1 施設 (13%)	8 施設 (100%)
公立 診療所	11 施設 (100%)	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)	11 施設 (100%)

図表 3-8 平成 28 年度における診療所の訪問診療患者数

	0 人	10 人未満	10 人以上 100 人未満	100 人以上	回答 施設数
民間 診療所	6 施設 (67%)	なし (0%)	2 施設 (22%)	1 施設 (11%)	8 施設 (100%)
公立 診療所	6 施設 (60%)	1 施設 (10%)	2 施設 (20%)	1 施設 (10%)	10 施設 (100%)

図表 3-9 平成 28 年度における診療所の往診患者数

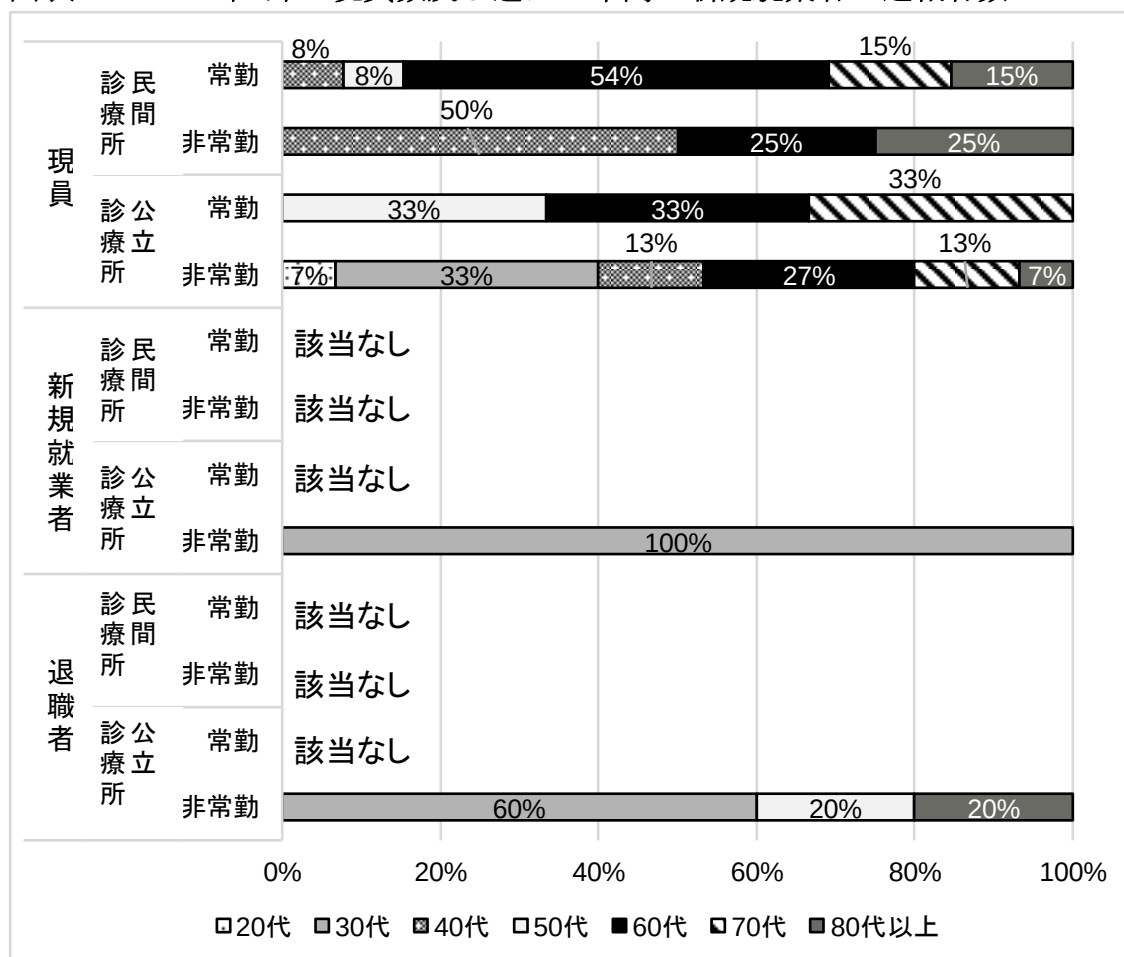
	0 人	10 人未満	10 人以上 100 人未満	100 人以上	回答 施設数
民間 診療所	5 施設 (71%)	なし (0%)	1 施設 (14%)	1 施設 (14%)	7 施設 (100%)
公立 診療所	6 施設 (60%)	3 施設 (30%)	なし (0%)	1 施設 (10%)	10 施設 (100%)

問6 貴事業所における、年齢区分ごとの現員数・退職者数・新規就業者数を教えてください。（退職者数、新規就業者数は平成26年度～平成28年度の3年間の合計）

【医師について】

- 医師の高齢化の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 民間診療所の医師は、常勤医師13名のうち85%が60代以上である。一方で、非常勤医師4名のうち2名は、30代である。
 - 公立診療所の医師は、常勤医師はそもそも総数が3名と少なく、かつ、50代～70代である。非常勤医師は15名であり、40代以下が8名いるが、残り7名は60代～80代である。
- 医師の流出入の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 民間診療所では、直近3か年の間は、常勤、非常勤ともに新規就業、退職のいずれも発生していない。
 - 公立診療所では、直近3か年の間に30代の医師が3名非常勤として新規就業した。一方で、非常勤医師5名がこの間に退職しており、その中には30代医師3名が含まれていた。

図表 3-10 医師の現員数及び過去3年間の新規就業者・退職者数



(単位：人)

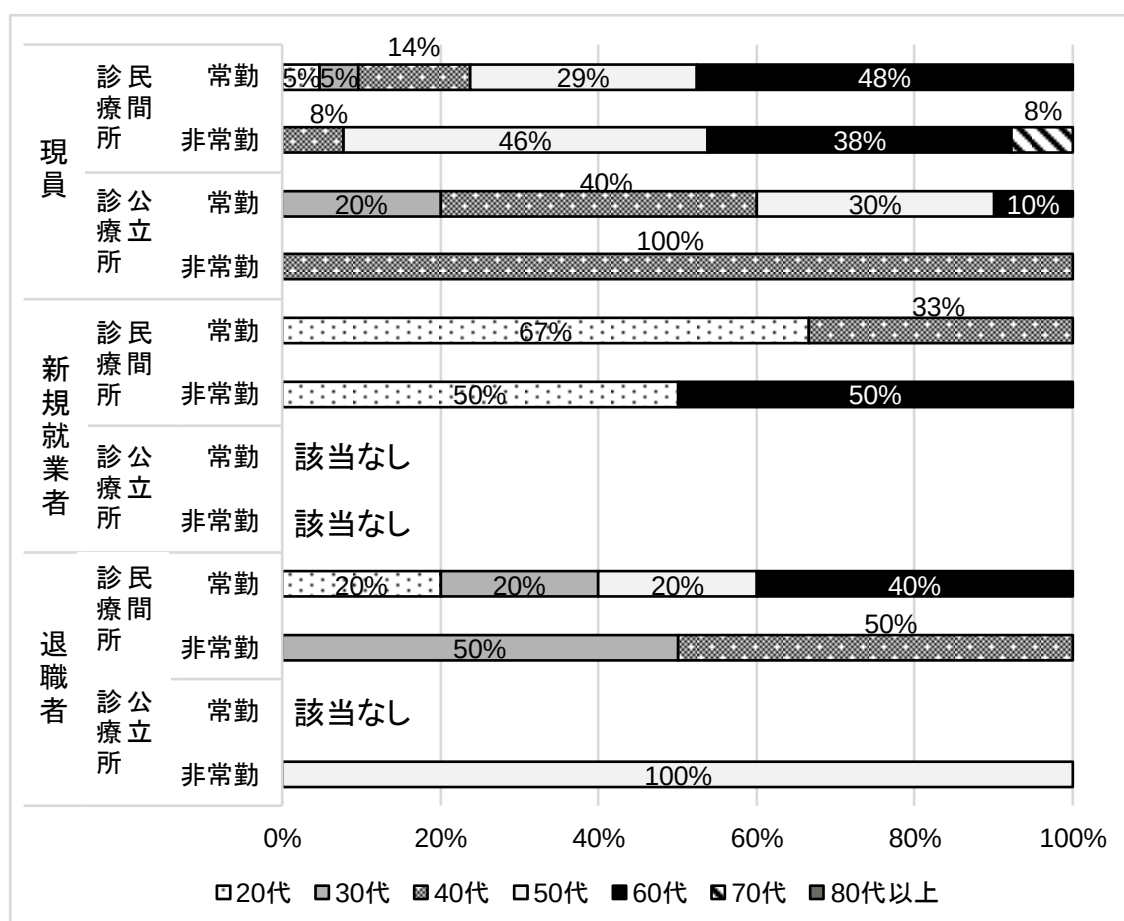
			20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
現員	民間診療所	常勤	0	0	1	1	7	2	2	13
		非常勤	0	0	2	0	1	0	1	4
	公立診療所	常勤	0	0	0	1	1	1	0	3
		非常勤	1	5	2	0	4	2	1	15
新規就業者	民間診療所	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
		非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
	公立診療所	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
		非常勤	0	3	0	0	0	0	0	3
退職者	民間診療所	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
		非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
	公立診療所	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
		非常勤	0	3	0	1	0	0	1	5

(回答施設数：民間診療所 10 施設、公立診療所 11 施設)

【看護師・准看護師について】

- 看護師・准看護師の高齢化の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 民間診療所の看護師・准看護師は、常勤 21 名のうち約半数が 60 代である。非常勤 13 名のうち 6 名は、60 代～70 代である。
 - 公立診療所の看護師・准看護師は、常勤 10 名であり、比較的バランスのとれた年齢構成となっている。非常勤 5 名は、40 代である。
- 看護師・准看護師の就業・退職の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 民間診療所では、直近 3 か年の間に、常勤については 3 名が就業し 5 名が退職している。非常勤については 2 名が就業し 2 名が退職している。
 - 公立診療所では、直近 3 か年の間に、就業者はおらず非常勤 1 名が退職している。

図表 3-1-1 看護師・准看護師の現員数及び過去3年間の新規就業者・退職者数



(単位：人)

			20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
現員	民間診療所	常勤	1	1	3	6	10	0	0	21
		非常勤	0	0	1	6	5	1	0	13
	公立診療所	常勤	0	2	4	3	1	0	0	10
		非常勤	0	0	5	0	0	0	0	5
新規就業者	民間診療所	常勤	2	0	1	0	0	0	0	3
		非常勤	1	0	0	0	1	0	0	2
	公立診療所	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
		非常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
退職者	民間診療所	常勤	1	1	0	1	2	0	0	5
		非常勤	0	1	1	0	0	0	0	2
	公立診療所	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
		非常勤	0	0	0	1	0	0	0	1

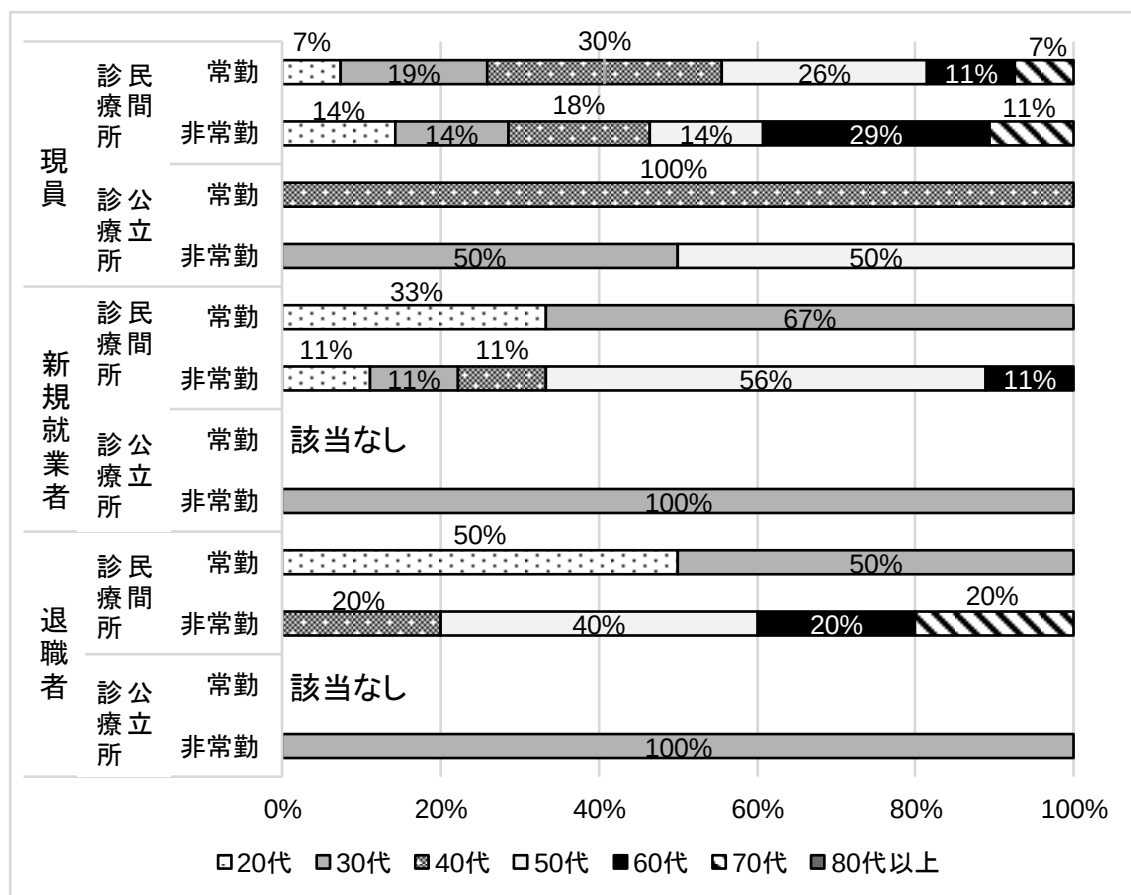
（回答施設数：民間診療所 10 施設、公立診療所 11 施設）

【その他の専門職スタッフ（※）について】

※医師・看護師・准看護師以外の専門職（歯科医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・精神保健福祉士・ケアマネジャー・介護職）のいずれかに該当するスタッフを便宜上まとめて集計している。

- 専門職スタッフの高齢化の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 民間診療所の専門職スタッフは、常勤 27 名のうち 5 名が 60 代～70 代である。非常勤 28 名については、11 名が 60 代～70 代である。
 - 公立診療所の専門職スタッフは、常勤 2 名、非常勤 2 名であり、30 代～50 代で構成されている。
- 専門職スタッフの就業・退職の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 民間診療所では、直近 3 か年の間に、常勤については 3 名が就業し 2 名が退職している。非常勤については 9 名が就業し 5 名が退職している。
 - 公立診療所では、直近 3 か年の間に、非常勤 1 名が就業、1 名が退職している。

図表 3-12 その他の専門職スタッフの現員数及び過去3年間の新規就業者・退職者数



(単位：人)

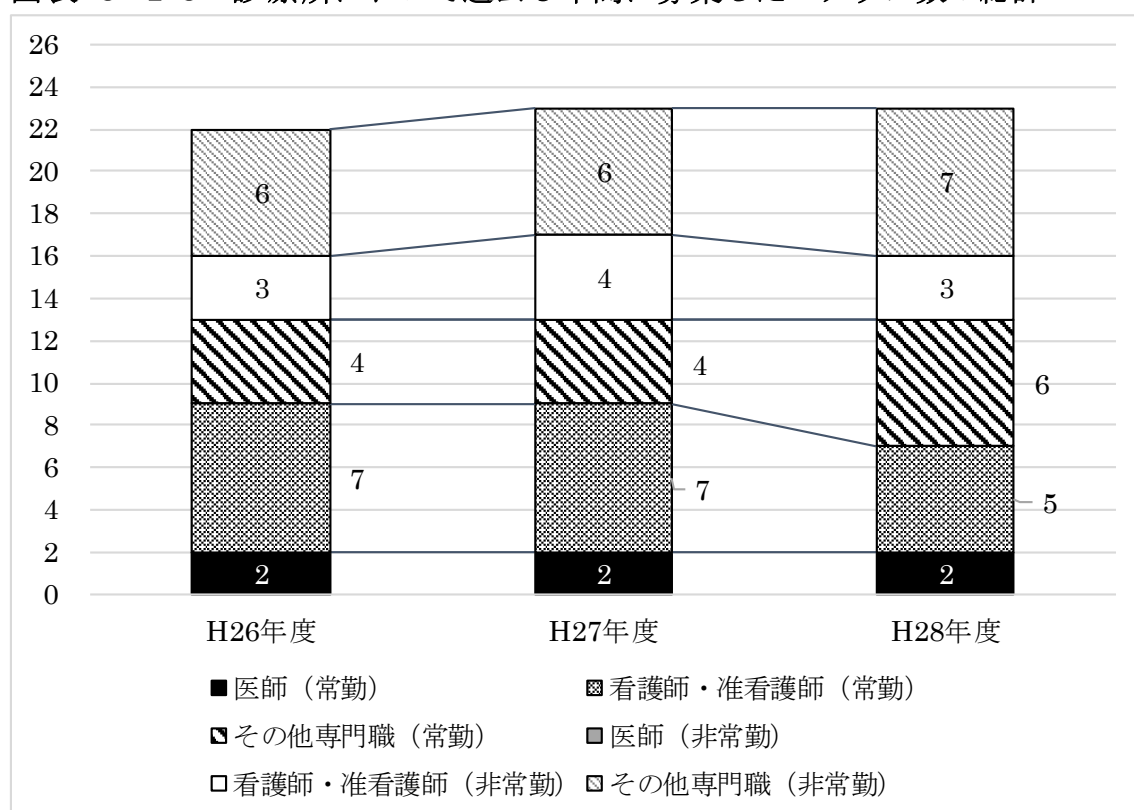
			20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
現員	民間診療所	常勤	2	5	8	7	3	2	0	27
		非常勤	4	4	5	4	8	3	0	28
	公立診療所	常勤	0	0	2	0	0	0	0	2
		非常勤	0	1	0	1	0	0	0	2
新規就業者	民間診療所	常勤	1	2	0	0	0	0	0	3
		非常勤	1	1	1	5	1	0	0	9
	公立診療所	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
		非常勤	0	1	0	0	0	0	0	1
退職者	民間診療所	常勤	1	1	0	0	0	0	0	2
		非常勤	0	0	1	2	1	1	0	5
	公立診療所	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
		非常勤	0	1	0	0	0	0	0	1

(回答施設数：民間診療所 10 施設、公立診療所 11 施設)

問 7 平成 26 年度から平成 28 年度の 3 年間ににおける各職種の募集人数の延べ数を教えてください。

- 平成 26 年度から平成 28 年度の間、高梁市内の診療所における募集人数はおおむね横ばいであった。

図表 3-13 診療所において過去 3 年間に募集したスタッフ数の総計



（回答施設数：民間診療所 10 施設、公立診療所 11 施設）

問 8 平成 26 年度から平成 28 年度の間、自治医科大学あるいは岡山大学
地域枠の義務年限で勤務していた医師数と、そのうち継続して勤務し
ている医師数を教えてください。

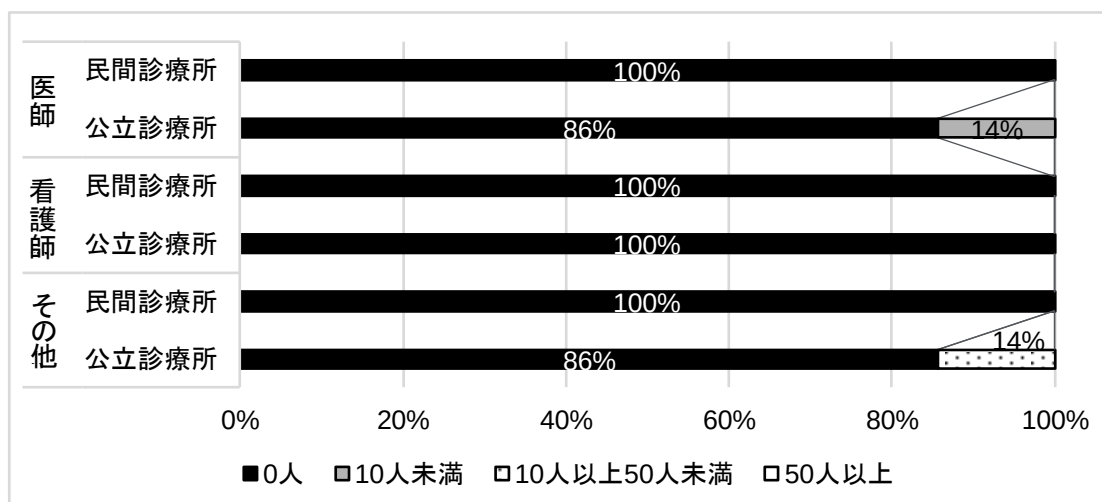
- 民間診療所、公立診療所のいずれにおいても、平成 26 年から平成 28 年
の間において、自治医科大学あるいは岡山大学地域枠の義務年限で勤務して
いた医師は存在しない。

※なお、別途把握している情報として、平成 29 年度に岡山大学の地域
枠の医師 1 名が市内医療機関へ就職している。

問 9 問 6 でお答えいただいた職種に関して、平成 26 年度から平成 28 年度の間に研修・実習の受入れ実績がある場合にお答えください。受入れ人数と、研修・実習後に貴機関に就職した人数を教えてください。

- 民間診療所においては、いずれの職種においても、直近 3 か年の研修・実習受入れ実績はない。
- 公立診療所においては、直近 3 か年の研修・実習受入れ人数は、医師が 1 人、看護師が 0 人、その他の専門職が 14 人であった。そのうち、研修・実習後に就職したスタッフは 0 人であった。

図表 3-14 診療所における、過去 3 年間の研修受入れ人数



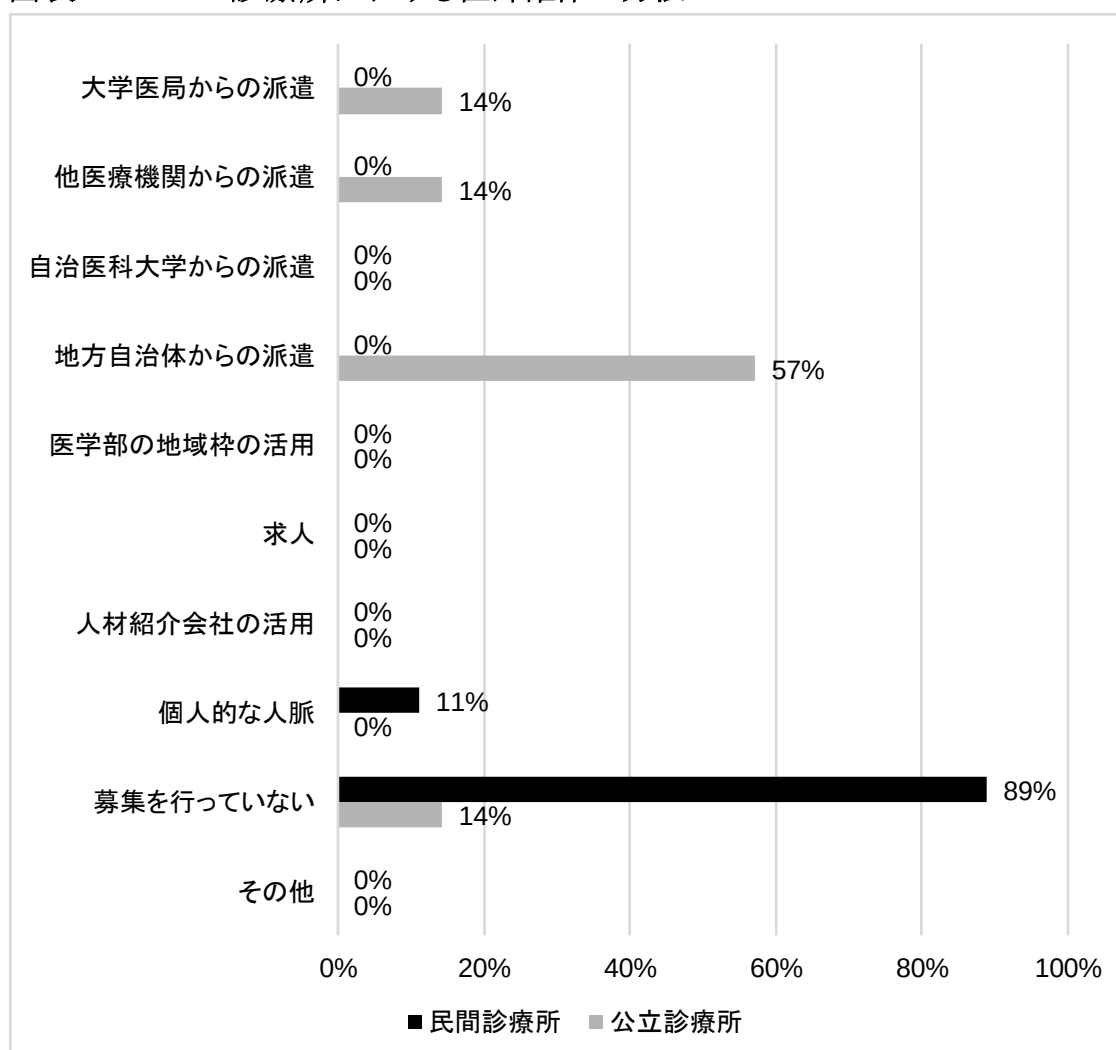
		受入れ人数区分ごとの施設数				受入れ人数 総計
		0 人	10 人未満	10 人以上 50 人未満	50 人以上	
医師	民間診療所	12 施設	0 施設	0 施設	0 施設	0 人
	公立診療所	6 施設	1 施設	0 施設	0 施設	1 人
看護師	民間診療所	12 施設	0 施設	0 施設	0 施設	0 人
	公立診療所	7 施設	0 施設	0 施設	0 施設	0 人
その他	民間診療所	12 施設	0 施設	0 施設	0 施設	0 人
	公立診療所	6 施設	0 施設	1 施設	0 施設	14 人

(回答施設数：民間診療所 12 施設、公立診療所 7 施設)

問 10 どのようにして医師を確保していますか。
（当てはまるもの全て選択）

- 民間診療所と公立診療所で大きく異なる傾向が見られる。
 - 民間診療所においては、89%の診療所で医師の募集を行っていない。
 - 公立診療所においては、派遣がすべてであり、特に「地方自治体からの派遣」が大半を占める。

図表 3-15 診療所における医師確保の方法

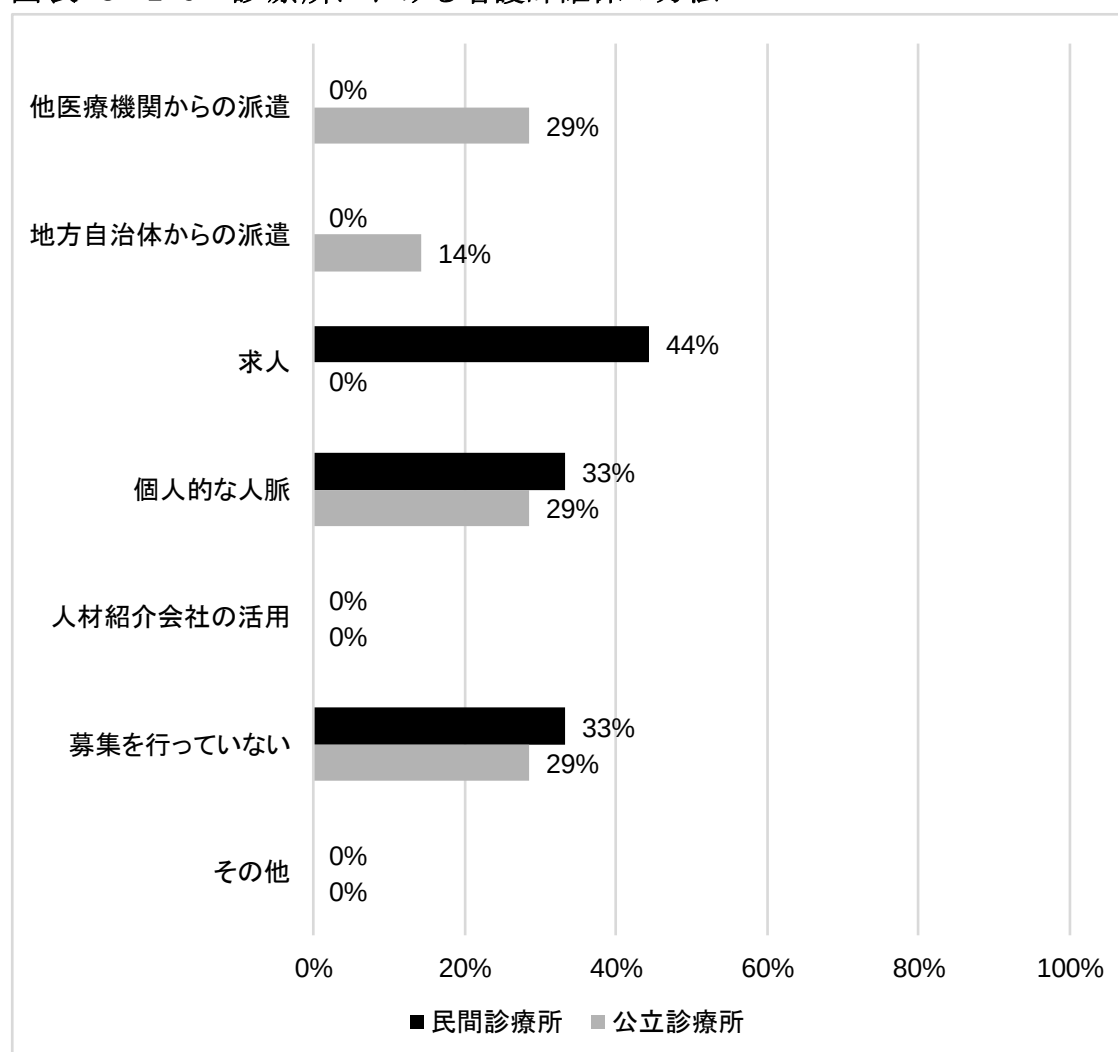


（回答施設数：民間診療所 9 施設、公立診療所 7 施設）

問 1 1 どのようにして看護師を確保していますか。
（当てはまるもの全て選択）

- 民間診療所と公立診療所で異なる傾向が見られるものの、「個人的な人脈」はいずれにおいても大きな割合を占めている。

図表 3-16 診療所における看護師確保の方法

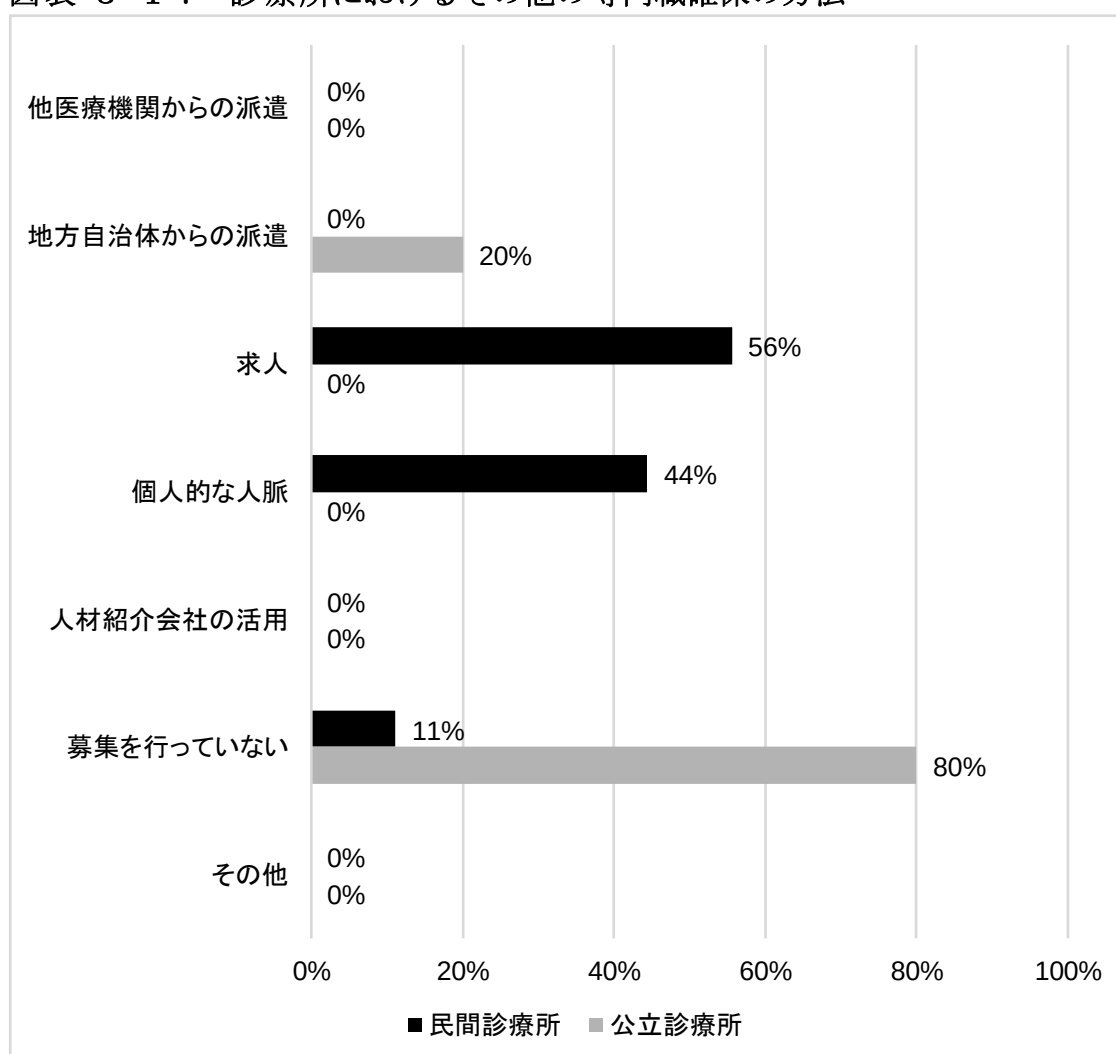


（回答施設数：民間診療所 9 施設、公立診療所 7 施設）

問 1 2 医師・看護師以外のスタッフについて、どのようにして確保していますか。（当てはまるもの全て選択）

- 民間診療所と公立診療所で大きく異なる傾向が見られる。
 - 民間診療所においては、「求人」と「個人的な他医療機関からの派遣」が多い。
 - 公立診療所においては、「募集を行っていない」が 80% と大半を占めている。

図表 3-17 診療所におけるその他の専門職確保の方法



（回答施設数：民間診療所 9 施設、公立診療所 5 施設）

問 1 3 応募を増やすために貴機関で取り組んでいることがあれば教えてください。（自由記述）

■ 本設問に対する回答は、以下のとおりである。

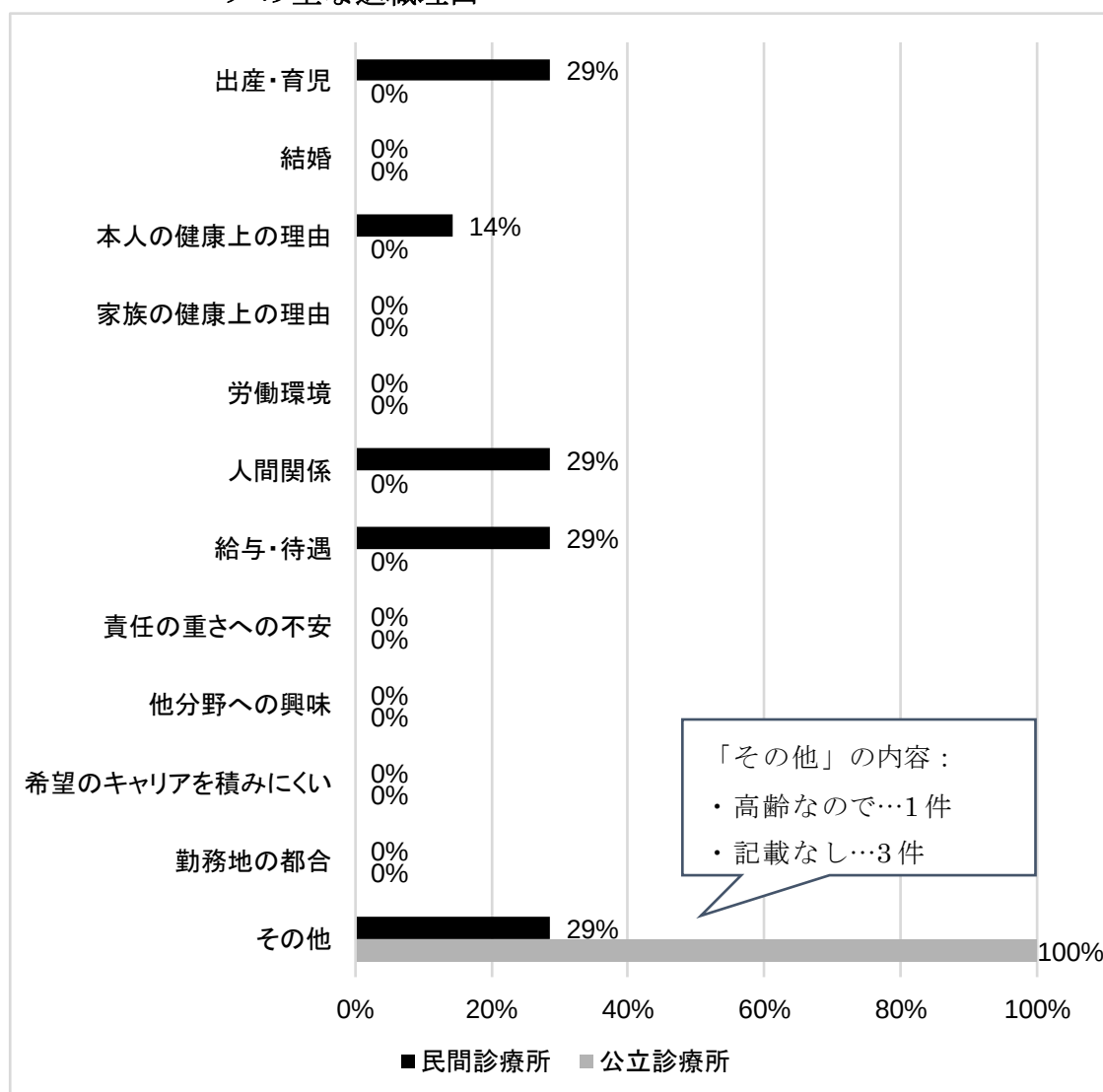
図表 3-18 応募を増やすために取り組んでいること（自由記述）

回答施設の地域	回答
高梁	➤ ハローワークに申込み。
備中	➤ 人口減少に伴う患者数の減少があり、施設としては downsizing が必要である。欠員が生じても補充するかどうかは？です。
成羽	➤ 勤務時間の改善、給与条件

問 1 4 平成 2 6 年度から平成 2 8 年度の間に定年退職以外で退職したスタッフの、主な退職理由を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- 民間診療所においては、「出産育児」「人間関係」がそれぞれ 29%、「本人の健康上の理由」「給与・待遇」が 14%となっている。
- 公立診療所においては、その他の理由が 100%であった。

図表 3-19 診療所において、過去 3 年間に定年退職以外で退職したスタッフの主な退職理由

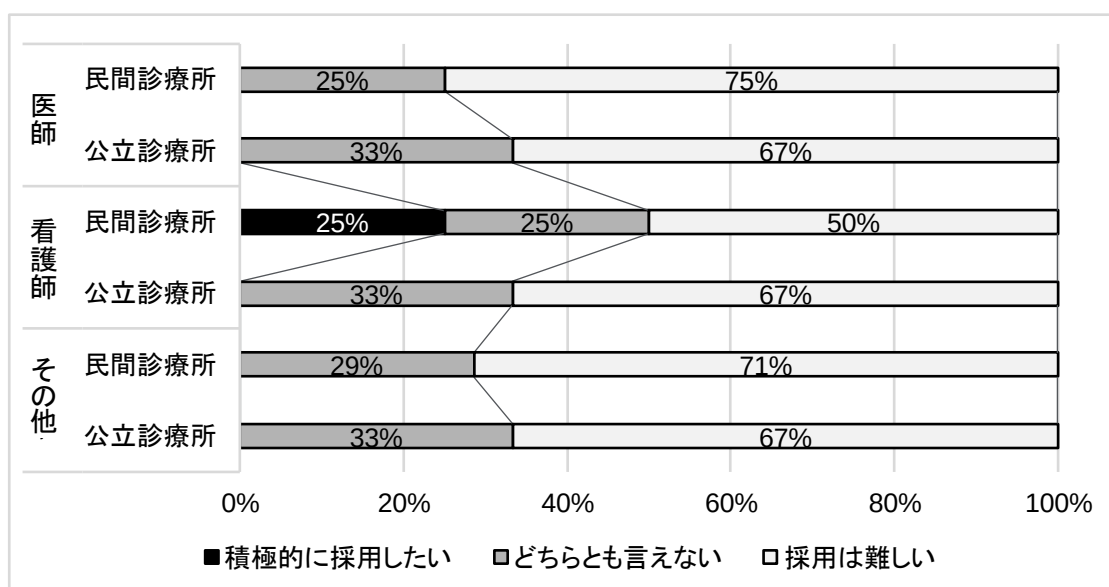


（回答施設数：民間診療所 7 施設、公立診療所 1 施設）

問 1 5 離職者の復帰について、貴機関の考えを教えてください。
（職種ごとに選択）

- 離職者の復帰について、全ての職種において「採用は難しい」が 50%以上を占めている。医師、その他の専門職については、積極的採用意向は見られない。
- 民間診療所においては、看護師について 25%が「積極的に採用したい」としている。
- 公立診療所においては、看護師についても積極的採用の意向は見られない。

図表 3-20 離職者の復帰に関する診療所の考え



（単位：施設）

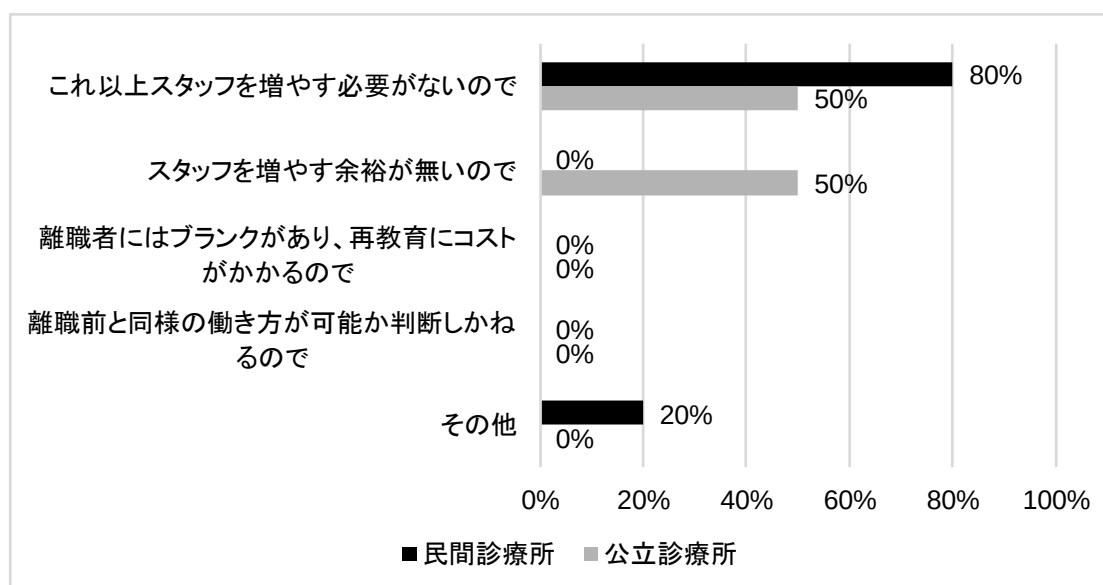
		積極的に採用したい	どちらとも言えない	採用は難しい
医師	民間診療所	0	2	6
	公立診療所	0	1	2
看護師	民間診療所	2	2	4
	公立診療所	0	1	2
その他	民間診療所	0	2	5
	公立診療所	0	1	2

（回答施設数：民間診療所 8 施設、公立診療所 3 施設）

問 1 6 離職者の復帰が難しい理由を教えてください。
（当てはまるもの全て選択）

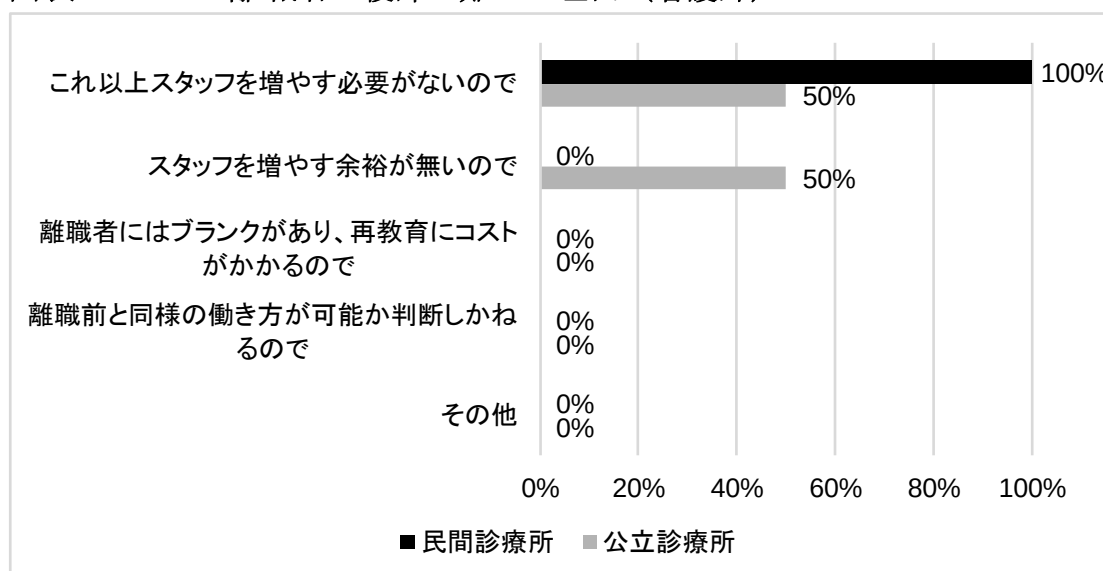
- どの職種に関しても、「これ以上スタッフを増やす必要がないので」の割合が最も多く、次いで、「スタッフを増やす余裕が無いので」の割合が多い。

図表 3-2 1 離職者の復帰が難しい理由（医師）



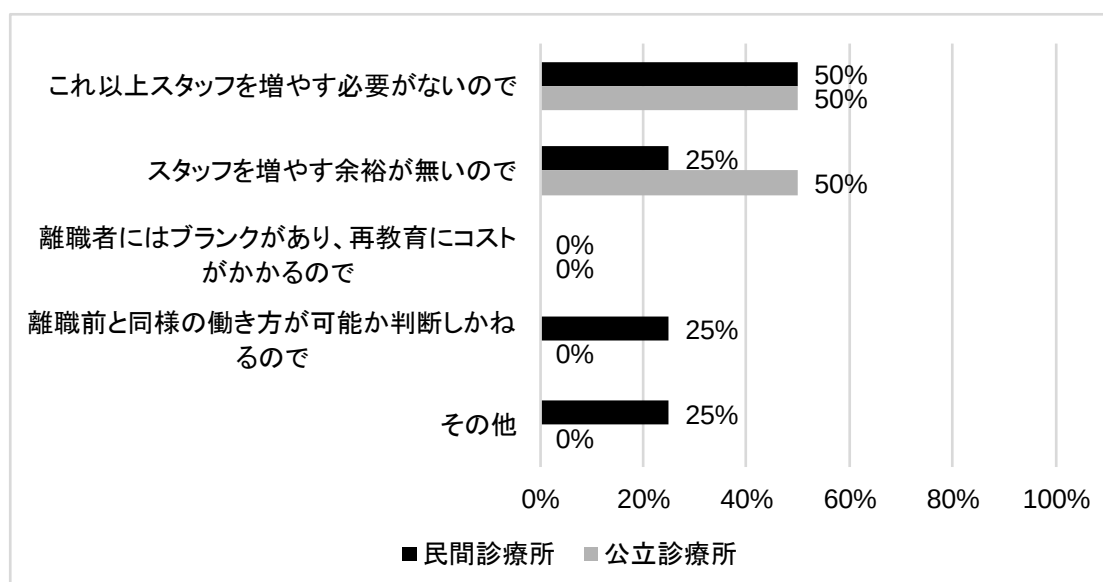
（回答施設数：民間診療所 5 施設、公立診療所 2 施設）

図表 3-2-2 離職者の復帰が難しい理由（看護師）



（回答施設数：民間診療所 4 施設、公立診療所 2 施設）

図表 3-2-3 離職者の復帰が難しい理由（その他の専門職）



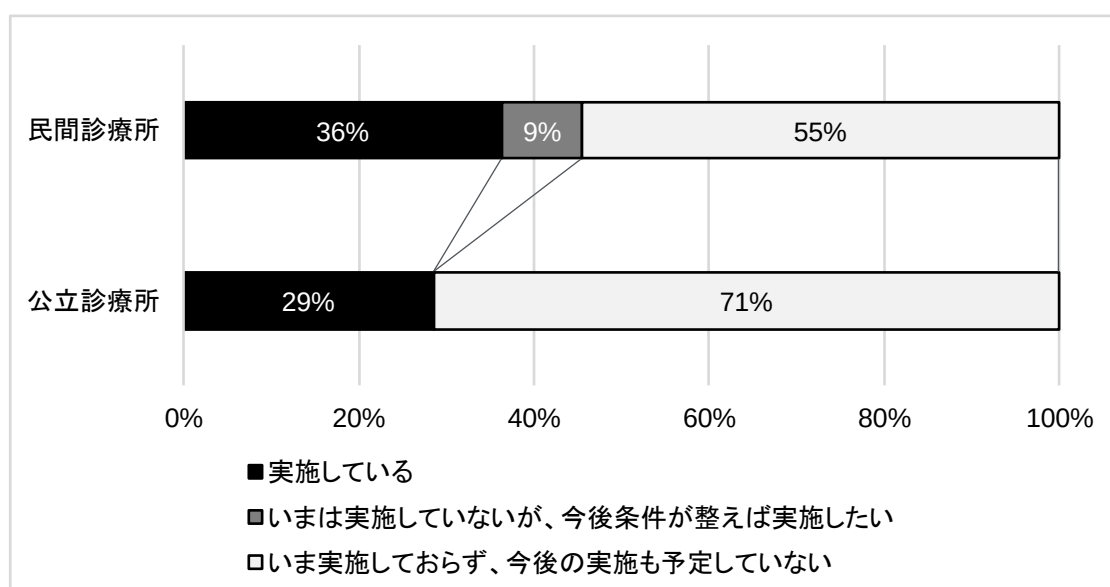
（回答施設数：民間診療所 4 施設、公立診療所 2 施設）

3. 3. 2. 在宅医療

問 1 7 貴機関では訪問診療を実施していますか。

- 民間診療所の 36%、公立診療所の 29%が訪問診療に取り組んでいる。
- 民間診療所、公立診療所ともに、実施予定がないところが 50%を超えている。

図表 3-2 4 診療所の訪問診療の実施状況



（単位：施設）

	実施している	いまは実施していないが、今後条件が整えば実施したい	いま実施しておらず、今後の実施も予定していない	回答施設数
民間診療所	4	1	6	11
公立診療所	2	0	5	7

問 18 訪問診療を行っているスタッフ（同行者含む）の人数を教えてください。

- 訪問診療を行っている各診療所とも、1名の医師が訪問診療を担当している。
- 担当している看護師及び准看護師の数にはばらつきがある。
- その他の専門職について、訪問診療を行っているとする回答はなかった。

図表 3-25 民間診療所の訪問診療を行うスタッフ数

民間診療所		医師数			
		0名	1名	2名	3名以上
看護師・ 准看護師数	0名	なし (0%)	1施設 (25%)	なし (0%)	なし (0%)
	1名	なし (0%)	1施設 (25%)	なし (0%)	なし (0%)
	2名	なし (0%)	1施設 (25%)	なし (0%)	なし (0%)
	3名以上	なし (0%)	1施設 (25%)	なし (0%)	なし (0%)

(回答施設数：4施設)

図表 3-26 公立診療所の訪問診療を行うスタッフ数

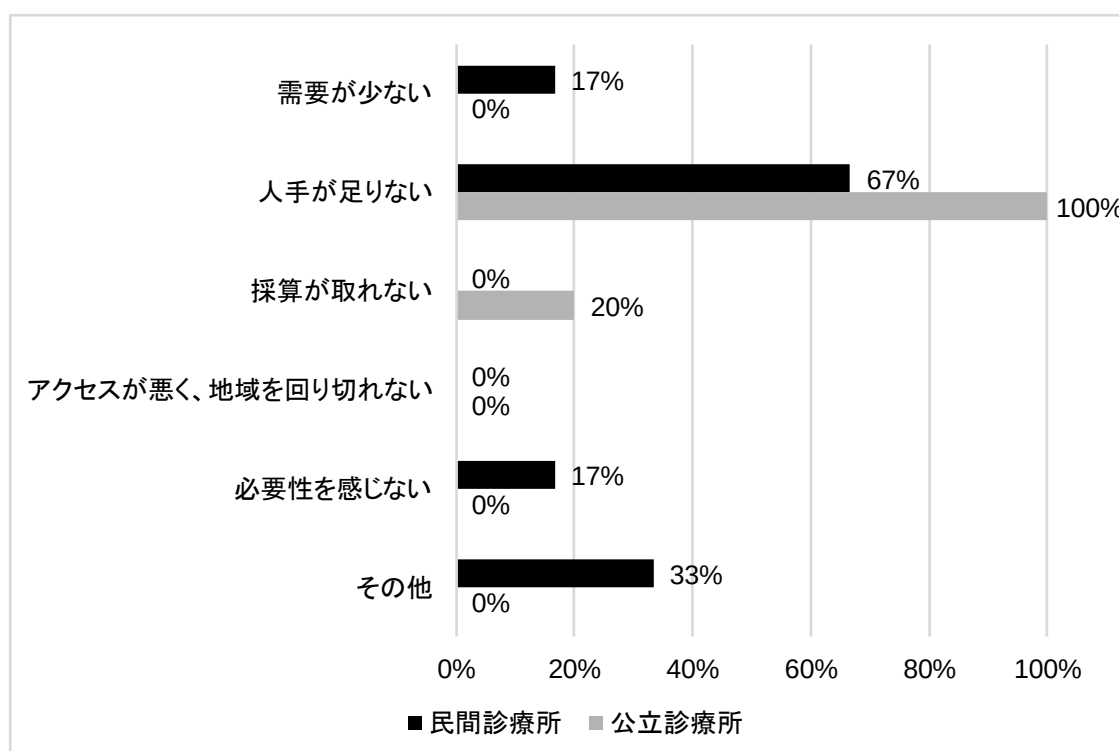
公立診療所		医師数			
		0名	1名	2名	3名以上
看護師・ 准看護師数	0名	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)
	1名	なし (0%)	1施設 (50%)	なし (0%)	なし (0%)
	2名	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)
	3名以上	なし (0%)	1施設 (50%)	なし (0%)	なし (0%)

(回答施設数：4施設)

問 1 9 訪問診療について「いま実施しておらず、今後の実施も予定していない」を選択した理由を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- 訪問診療の実施が難しい理由として、民間診療所、公立診療所ともに、「人手が足りない」が最も多い。

図表 3-27 訪問診療の実施が難しい理由

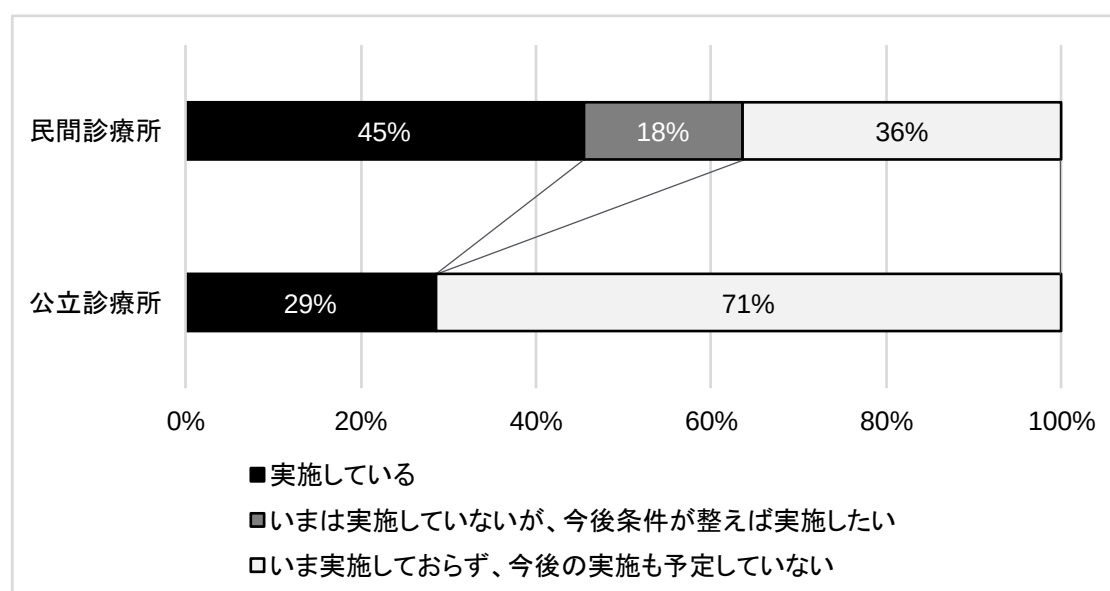


（回答施設数：民間診療所 6 施設、公立診療所 5 施設）

問 20 貴機関では往診を実施していますか。

- 民間診療所は、45%が実施しており、18%が「いまは実施していないが、今後条件が整えば実施したい」としている
- 公立診療所は、訪問診療（問 17）とほとんど同じ傾向が見られる。

図表 3-28 診療所の往診の実施状況



（単位：施設）

	実施している	いまは実施していないが、今後条件が整えば実施したい	いま実施しておらず、今後の実施も予定していない	回答施設数
民間診療所	5	2	4	13
公立診療所	2	0	5	7

問 2 1 往診を行っているスタッフ（同行者含む）の人数を教えてください。

■ 訪問診療（問 1 8）とほとんど同じ傾向が見られる。

図表 3-29 民間診療所の往診を行うスタッフ数

民間診療所		医師数			
		0 名	1 名	2 名	3 名以上
看護師・ 准看護師数	0 名	なし (0%)	1 施設 (20%)	なし (0%)	なし (0%)
	1 名	なし (0%)	2 施設 (40%)	なし (0%)	なし (0%)
	2 名	なし (0%)	1 施設 (20%)	なし (0%)	なし (0%)
	3 名以上	なし (0%)	1 施設 (20%)	なし (0%)	なし (0%)

（回答施設数：4 施設）

図表 3-30 公立診療所の往診を行うスタッフ数

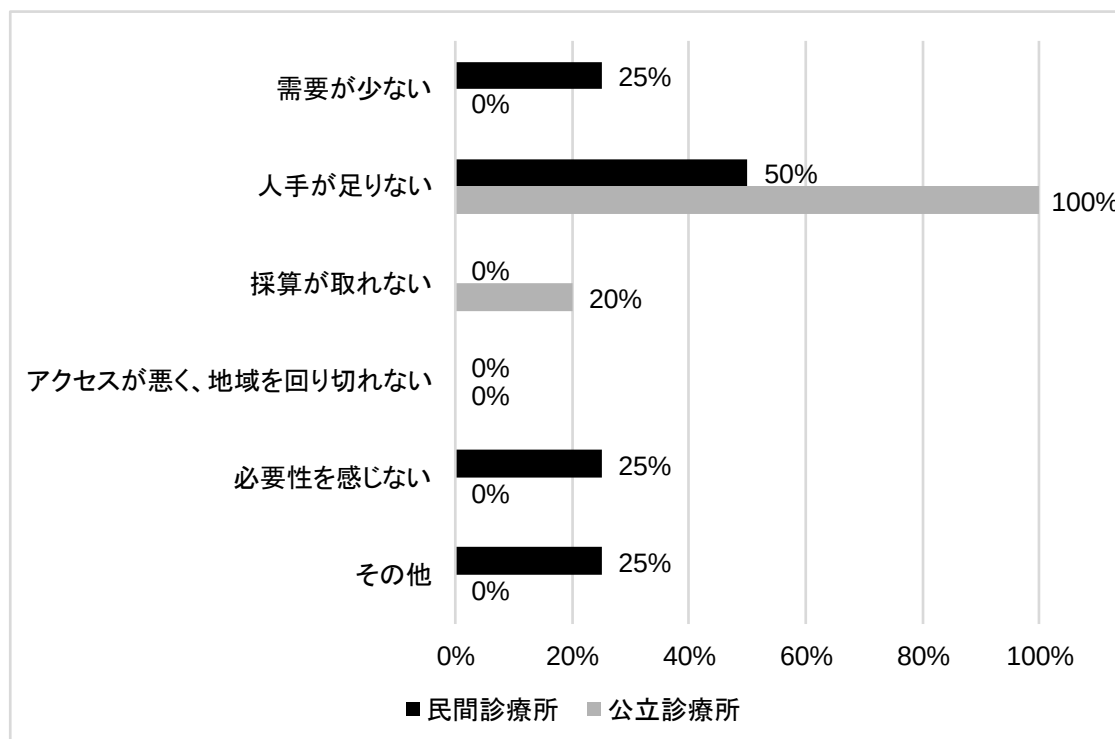
公立診療所		医師数			
		0 名	1 名	2 名	3 名以上
看護師・ 准看護師数	0 名	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)
	1 名	なし (0%)	1 施設 (50%)	なし (0%)	なし (0%)
	2 名	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)
	3 名以上	なし (0%)	1 施設 (50%)	なし (0%)	なし (0%)

（回答施設数：2 施設）

問 2 2 往診について「いま実施しておらず、今後の実施も予定していない」を選択した理由を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

■ 訪問診療（問 1 9）とほとんど同じ傾向が見られる。

図表 3-3 1 往診の実施が難しい理由

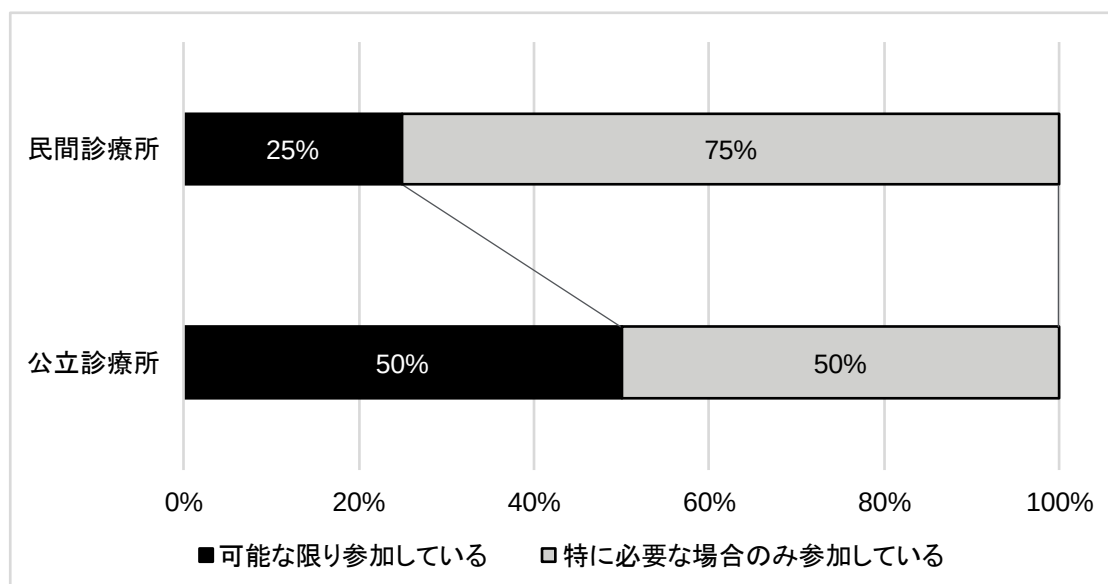


（回答施設数：民間診療所 4 施設、公立診療所 5 施設）

問 2 3 多職種連携研修会への程度参加していますか。

- 多職種連携研修会に「可能な限り参加している」のは、民間診療所の 25%、公立診療所の 50%である。

図表 3-3 2 診療所の多職種連携研修会への参加状況



(単位：施設)

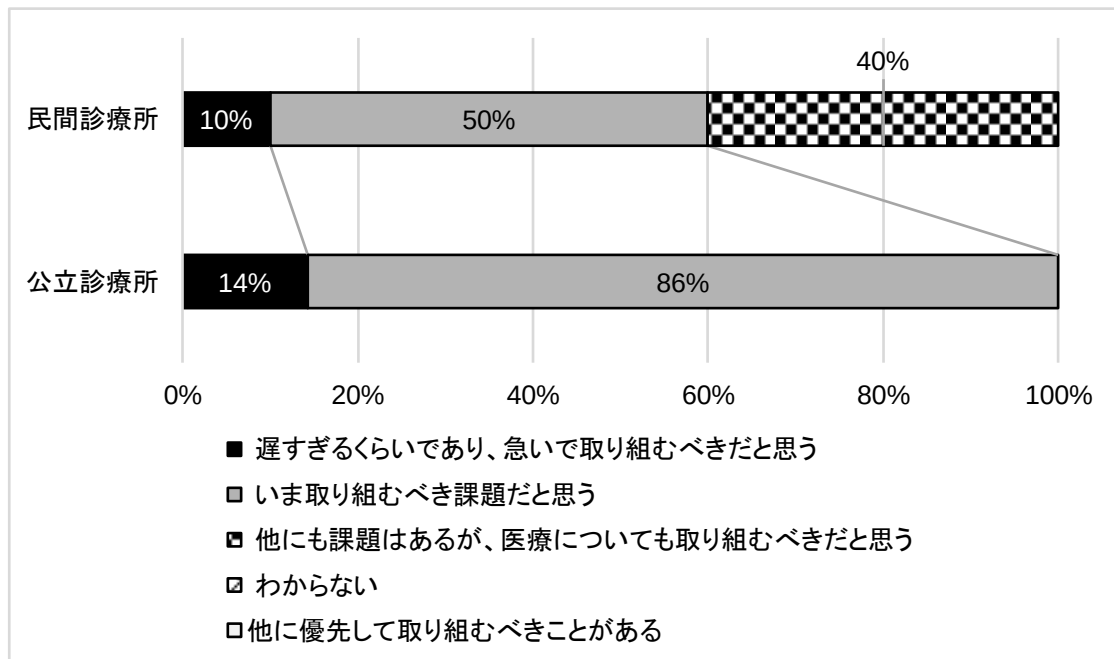
	可能な限り参加している	特に必要な場合のみ参加している	回答施設数
民間診療所	2	6	8
公立診療所	1	1	2

3. 3. 3. 市の医療提供体制

問 2 4 高梁市も地域医療の維持に危機感を持ち、医療計画を策定しようとしています。このことについて貴機関のお考えを教えてください。

- 高梁市の医療計画策定に関しては、「遅すぎるくらいであり、急いで取り組むべきだと思う」「いま取り組むべき課題だと思う」といった積極的な回答が大半を占めている。

図表 3-3 3 高梁市の医療計画策定についての診療所の考え



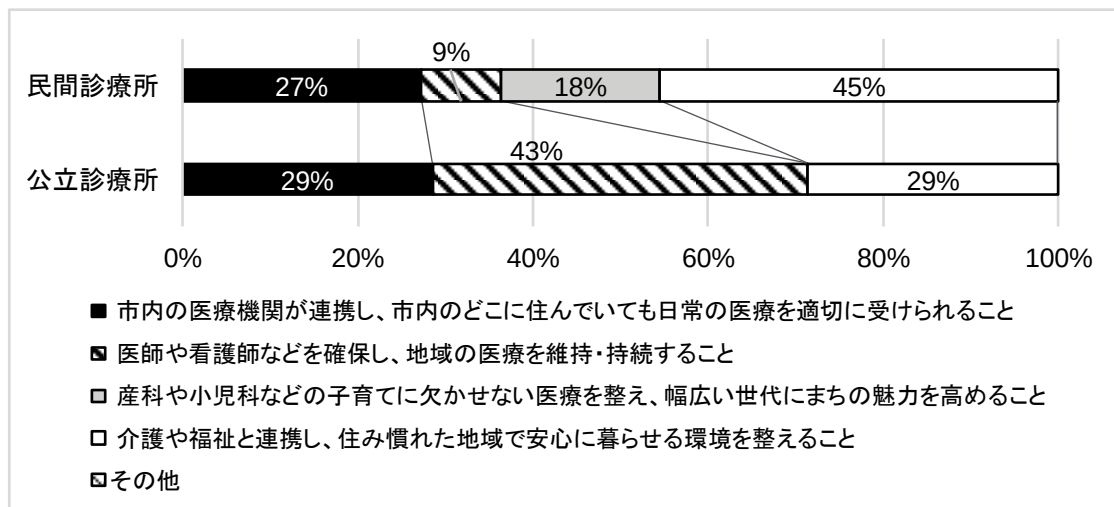
(単位：施設)

	遅すぎるくらいであり、急いで取り組むべきだと思う	いま取り組むべき課題だと思う	他にも課題はあるが、医療についても取り組むべきだと思う	わからない	他に優先して取り組むべきことがある	回答施設数
民間診療所	1	5	4	0	0	10
公立診療所	1	6	0	0	0	7

問 2 5 高梁市内の医療に関連するテーマのうち、特に重要だと思うものを教えてください。

- 民間診療所では、「介護や福祉と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えること」が 45%で 1 位、一方で「医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・存続すること」は 9%で 4 位である。
- 公立診療所では、「医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・存続すること」が 43%で 1 位、一方で「産科や小児科などの子育てに欠かせない医療を整え、幅広い世代にまちの魅力を高めること」は選択されていない。

図表 3-3 4 高梁市内の医療に関するテーマで重要だと考えること



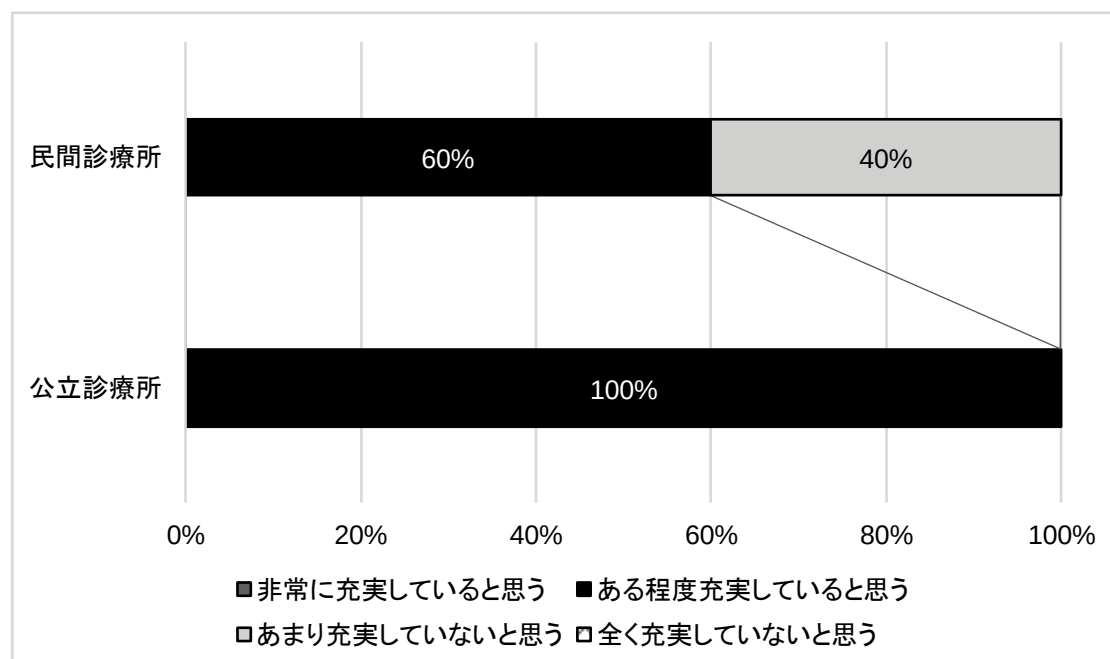
(単位：施設)

	市内の医療機関が連携し、市内のどこに住んでいても日常の医療を適切に受けられること	医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・持続すること	産科や小児科などの子育てに欠かせない医療を整え、幅広い世代にまちの魅力を高めること	介護や福祉と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えること	その他	回答施設数
民間診療所	3	1	2	5	0	11
公立診療所	2	3	0	2	0	7

問 2 6 高 梁 市 内 の 初 期 救 急 医 療 体 制 は 充 実 し て い る と 思 い ま す か。

- 高梁市の初期救急医療体制に対する認識として、「ある程度充実していると思う」という認識が半数以上を占めている。

図表 3-35 高梁市内の初期救急医療体制に対する診療所の認識



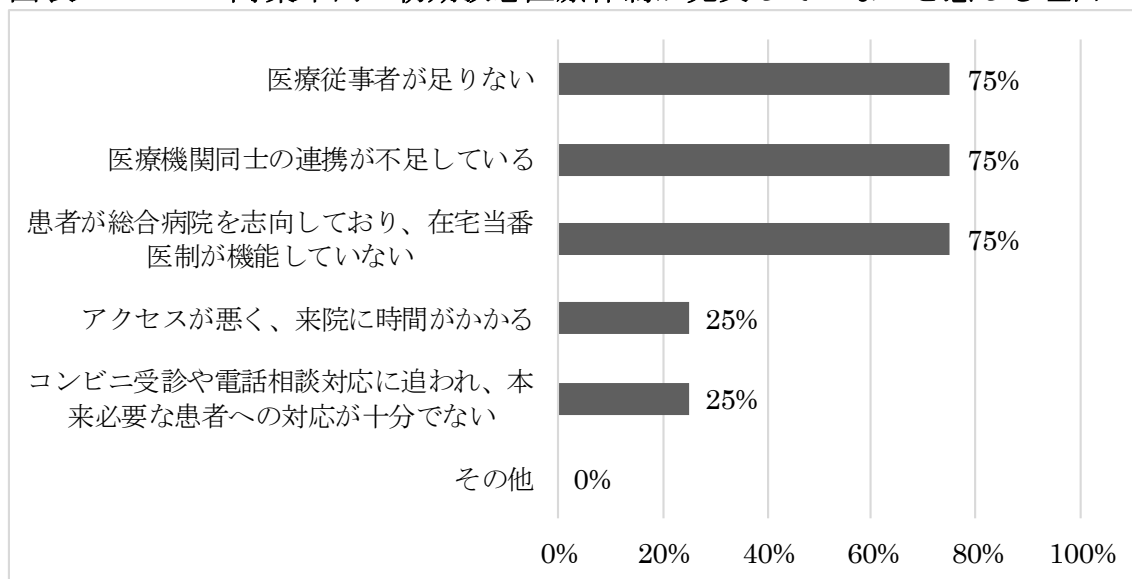
（単位：施設）

	非常に充実していると思う	ある程度充実していると思う	あまり充実していないと思う	全く充実していないと思う	回答施設数
民間診療所	0	6	4	0	10
公立診療所	0	7	0	0	7

問 2 7 高梁市内の初期救急医療体制が「あまり充実していない」「全く充実していない」と思う理由を教えてください。
（当てはまるもの全て選択）

- 高梁市の初期救急医療体制が充実していないと感じる理由として、「医療従事者が足りない」「医療機関同士の連携が不足している」「患者が総合病院を志向しており、在宅当番医制が機能していない」が同率 1 位で 75%であった。

図表 3-36 高梁市内の初期救急医療体制が充実していないと感じる理由

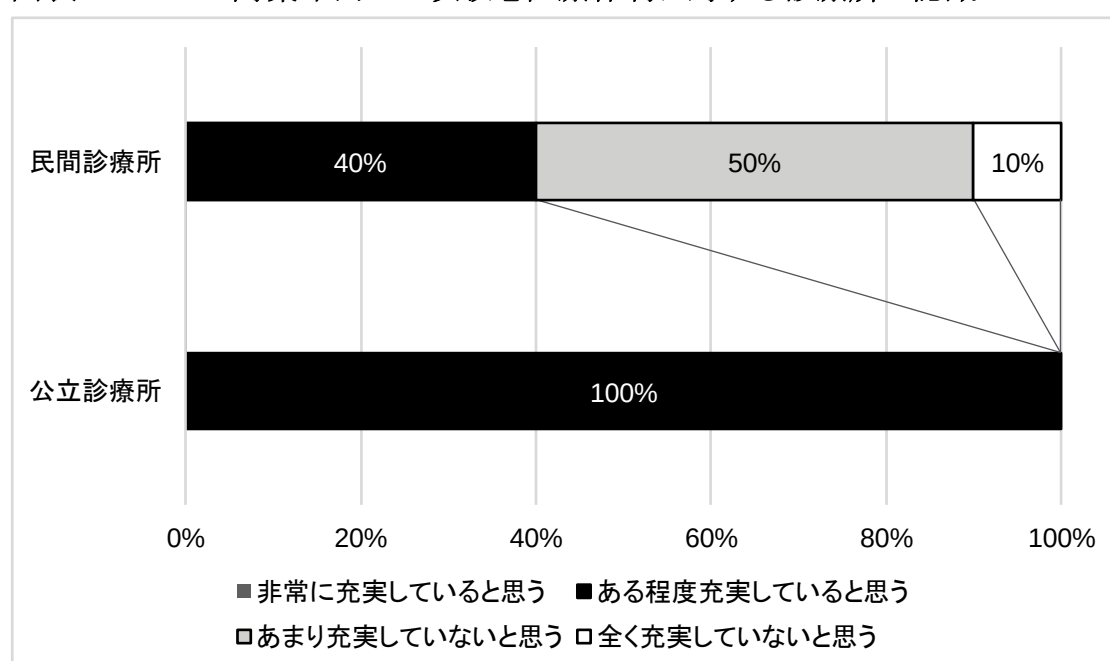


（回答施設数：民間診療所 4 施設、公立診療所施設 0 施設）

問 2 8 高 梁 市 内 の 二 次 救 急 医 療 体 制 は 充 実 し て い る と 思 い ま す か。

- 民間診療所においては、50%が「あまり充実していないと思う」、10%が「全く充実していないと思う」としている。
- 公立診療所においては、初期救急（問 2 6）と同様に、全ての診療所が「ある程度充実していると思う」としている。

図表 3-3 7 高 梁 市 内 の 二 次 救 急 医 療 体 制 に 対 す る 診 療 所 の 認 識



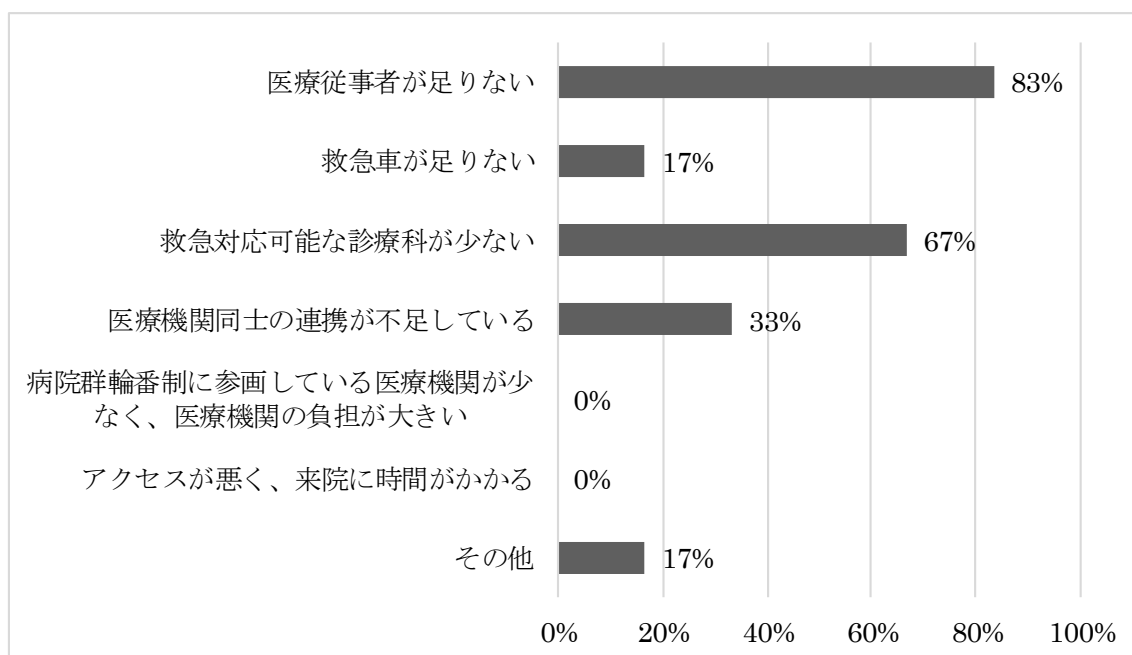
（単位：施設）

	非常に充実していると思う	ある程度充実していると思う	あまり充実していないと思う	全く充実していないと思う	回答施設数
民間診療所	0	4	5	1	10
公立診療所	0	7	0	0	7

問 2 9 高梁市内の二次救急医療体制が「あまり充実していない」「全く充実していない」と思う理由を教えてください。
（当てはまるもの全て選択）

- 高梁市の二次救急医療体制が充実していないと感じる理由として、83%の診療所が「医療従事者が足りない」としている。
- 次いで多かったのが「救急対応可能な診療科が少ない」であり、67%の診療所が選択している。

図表 3-38 高梁市内の二次救急医療体制が充実していないと感じる理由

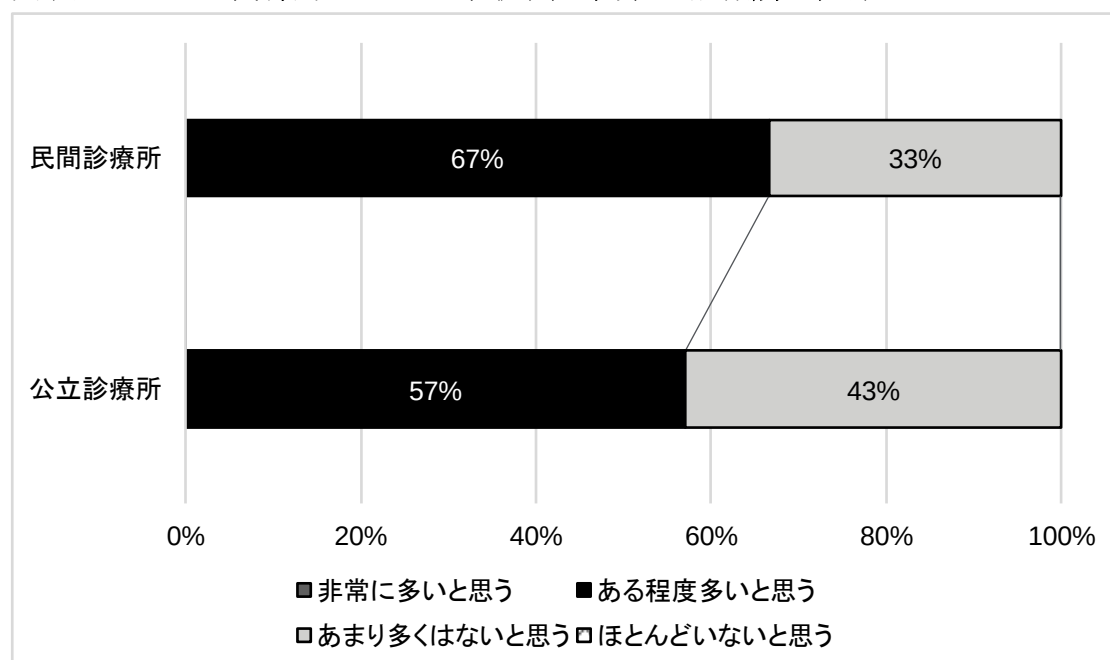


（回答施設数：民間診療所 4 施設、公立診療所 0 施設）

問 3 0 高梁市からの他市町村への患者の流出について、貴機関の認識を教えてください。

- 高梁市からの患者流出に関する認識として、「ある程度多いと思う」が民間診療所の 67%、公立診療所の 57%を占めている。

図表 3-39 高梁市からの患者流出に関する診療所の認識



(単位：施設)

	非常に多いと思う	ある程度多いと思う	あまり多くはないと思う	ほとんどいないと思う	回答施設数
民間診療所	0	6	3	0	9
公立診療所	0	4	3	0	7

問 3 1 どのような患者が流出していると思いますか。（自由記述）

- 高度な医療を要する患者のほか、総合病院・大病院志向の患者が流出していると指摘するコメントが多くみられる。

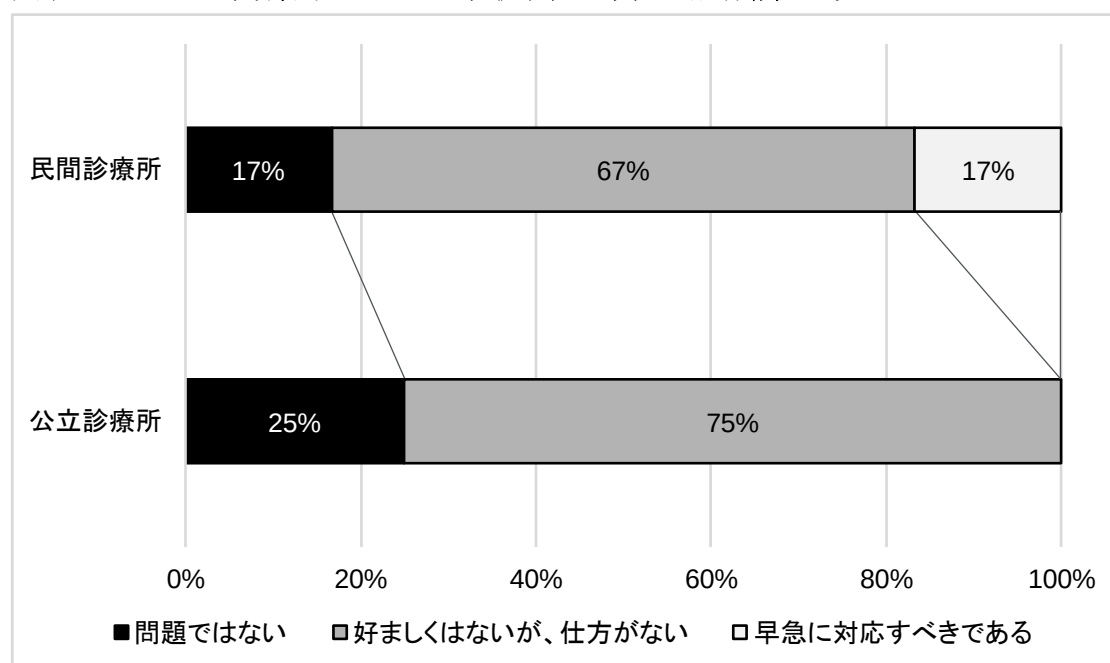
図表 3-40 流出していると思われる患者（自由記述）

No.	回答
1	➤ 総合病院志向。
2	➤ 医療設備が充実し、医療関係者も充実しているところを信頼するのは当然なので、そういう施設を希望すると思われる。
3	➤ 市内の病院での対応が難しい患者。 ➤ 患者さん又は家族の方が希望される場合。
4	➤ 大病院志向の患者。 ➤ 専門的医療の必要な患者
5	➤ 3次救急患者。 ➤ 2次救急患者でも、診療可能な担当科医師がいない。（特に時間外）
6	➤ 症状による。 ➤ 旧高梁市の市街地の患者。 ➤ 有漢 IC から岡山市の医療機関へ
7	➤ 専門的医療が必要な患者
8	➤ 診療科不足と患者の大病院志向及び病病、病診の連携不足によるものと思われる。
9	➤ 癌、心疾患、外傷（重篤）
10	➤ 三次救急の患者。 ➤ 術後管理の困難な患者。

問 3 2 高梁市からの他市町村への患者の流出について、貴機関ではどのようにお考えですか。

- 高梁市からの患者流出に対しては、民間診療所、公立診療所ともに「好ましくはないが、仕方がない」が大半を占めている。一方で、民間診療所の17%は「早急に対処すべきである」としている。

図表 3-4 1 高梁市からの患者流出に対する診療所の考え



(単位：施設)

	問題ではない	好ましくはないが、仕方がない	早急に対処すべきである	回答施設数
民間診療所	1	4	1	6
公立診療所	1	3	0	4

問 3 3 患者流出について、問 3 2 のように考えている理由を教えてください。（自由記述）

■ 本設問に対する回答は、以下のとおりである。

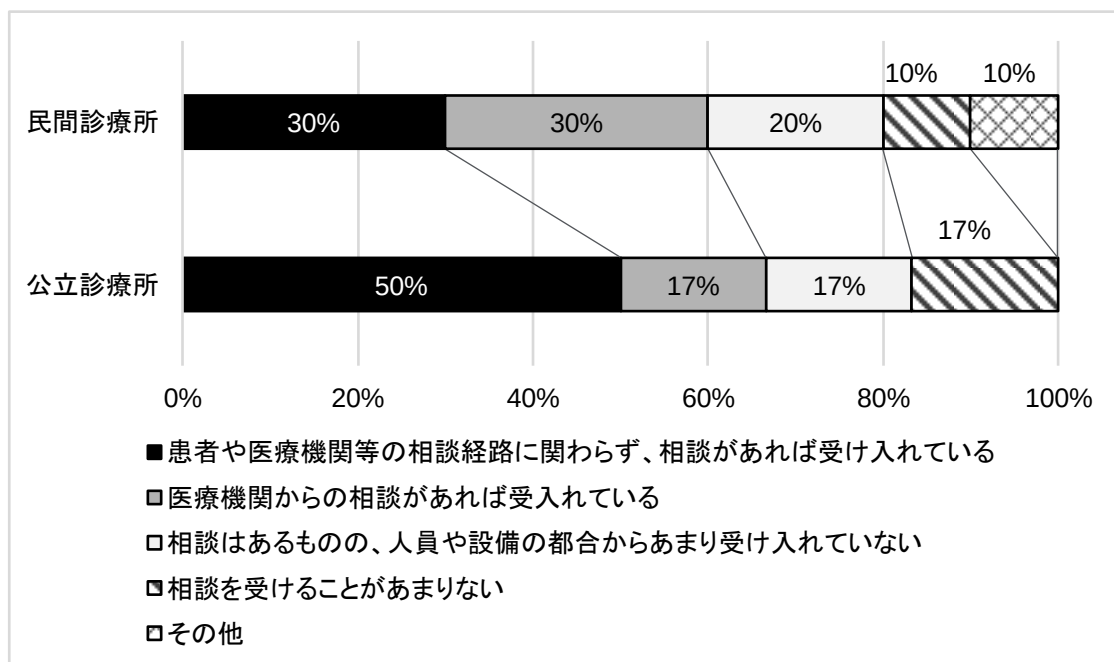
図表 3-4 2 患者流出に対する考えの根拠（自由記述）

問 3 2 の回答	回答
問題ではない	➤ man power の問題。一人の患者にかけられる man power を考えれば高梁でできることは限られている。現状維持で O.K. と思う。 ➤ 患者の意志は尊重してよい。重症者は積極的に紹介している。
好ましくはないが、仕方がない	➤ 専門医が少ないから。 ➤ 採算の問題が大きいでしょう。 ➤ 患者個人の生存権の問題であり、それを担保出来る施設がなければ仕方ない。 ➤ 受け皿がないため。 ➤ 治療後の受け入れに力を入れるべきだと思う。

問 3 4 流出患者の他市町村医療機関からの再受入れについて、貴機関の受入れ状況を教えてください。

- 流出患者の他市町村医療機関からの再受入れに関しては、民間診療所、公立診療所ともに、相談があれば受け入れているとする回答が半数以上を占めている。

図表 3-4 3 診療所における、流出患者の他市町村医療機関からの再受入れ状況



（単位：施設）

	患者や医療機関等の相談経路に関わらず、相談があれば受け入れている	医療機関からの相談があれば受け入れている	相談はあるものの、人員や設備の都合からあまり受け入れていない	相談を受けることがあまりない	その他	回答施設数
民間診療所	3	3	2	1	1	10
公立診療所	3	1	1	1	0	6

問 3 5 高梁市内の現在の医療提供体制について、課題だと感じていることがあれば教えてください。（自由記述）

- 市内の状況を厳しく受け止めるコメントが多くみられる。

図表 3-4 4 高梁市内の現在の医療提供体制の課題（自由記述）

No.	回答
1	➤ 高齢化が進み、特に独居高齢者が増えてきており、見守りがあれば在宅可能な人も、困難になっている。
2	➤ 医師の高齢化、不足。
3	➤ 看護師不足。
4	➤ 救急患者の受け入れ態勢（救急病院）について。
5	➤ 在宅医療は医療と介護の両輪で成り立っていると思います。医療だけで考えてもダメで、もっと介護分野を考える必要があると思います。救急医療は高次医療機関の搬送時間の短縮と時間かせぎのための応急処置が必要です。
6	➤ 平日昼間の体制には大きな問題はないと思われる。夜間、休日の医療体制については少々問題がある。当番医と言えども医療機関によってはすべてを受入れることは出来ない。その様なとき、外科、内科、二次救急体制は必ずしも整っていない。だが、数年前に比べ改善はしている。
7	➤ すべての職種での人手不足。特に医師・看護師の不足。救急医療に対する人手不足とシステム不備。訪問看護師の不足。人口が少ない地域での診療所の活用、に、看護師、保健師に力を出してもらうこと。
8	➤ 課題をあげればきりが無い。この規模の自治体としては充分がんばっていると思うが、これから先、高齢化、少子化が進み、過疎地域の問題は「まったなし」「かならず」「相当の重量」で自治体を襲う。同じことが医療機関にも必ず来る。30年先（団塊世代の老人が減少する）を見据えて考えて欲しい。

問 3 6 高梁市内の医療提供体制整備に向けて、市に期待することがあれば教えてください。（自由記述）

- 市内の状況を厳しく受け止めるコメントが多くみられる。

図表 3-4 5 高梁市内の医療体制整備に向けて市に期待すること（自由記述）

No.	回答
1	➤ 2025 年以降の市民、特に高齢者の暮らし方についてのビジョンによって医療提供体制整備は変わっていくと思います。
2	➤ 介護・福祉関係の人材確保、待遇改善。
3	➤ 人材確保に対する補助金等の支給。
4	➤ 人口減少にともなう組織の downsizing。旧高梁市内と成羽・備中・川上・有漢では地域事情が全く異なるという事を認識する事がすべてのスタートと考えます。
5	➤ 医師・看護師の募集を各機関と連携して強力にすすめる。過疎地の診療所の中心に看護師をおいて医師と遠隔診療で結ぶ。救急体制の整備と人員確保。
6	➤ 首長には是非、30 年先を見据え、英断をもって医療も含め「コンパクト化」を計ってもらいたい。人は見たくない現実は見ない様にするが、この先は見たくないものが必ず現れると信じて、考えて欲しい。
7	➤ 市からの人口流出が多くなると、医療体制の維持は難しい。産業誘致等で、人口流出対策、さらに人口増対策を今以上に期待したい。
8	➤ 医療機関を受診する際には、常にお薬手帳を持参するよう、調剤薬局等と連携し、患者に徹底を図ってほしい。

＜ 3. 4 病院の意識と取組み＞

3. 4. 1. 経営環境

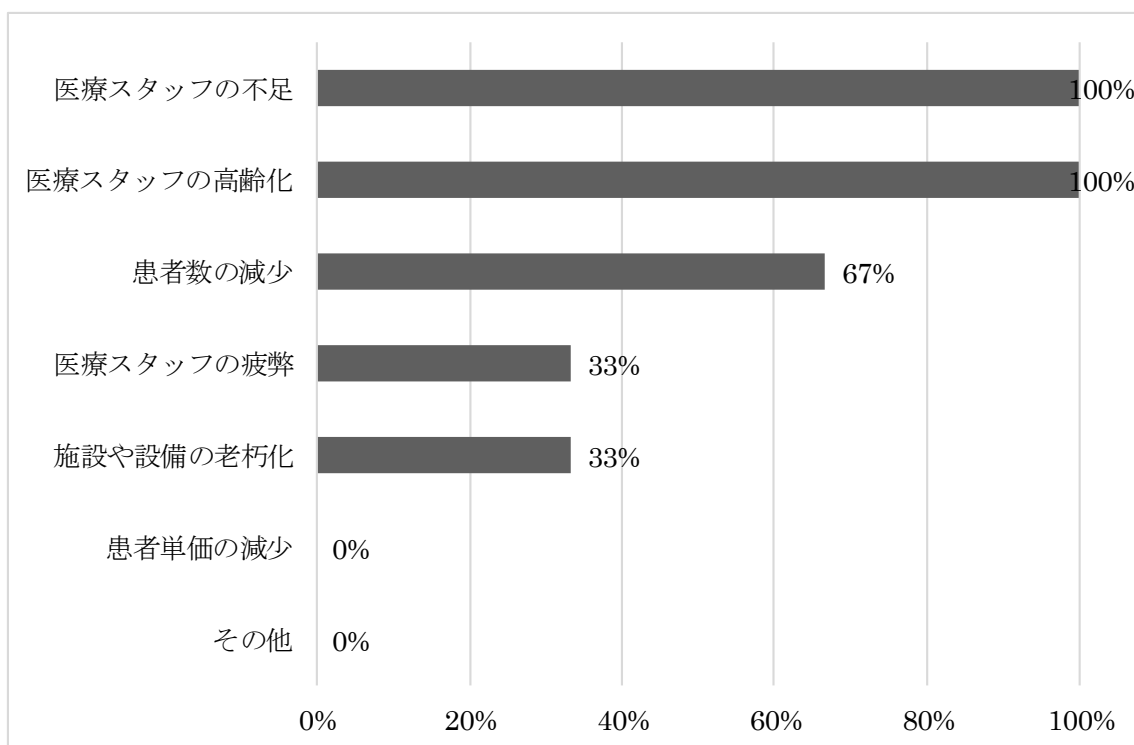
問 3 貴機関の経営環境について教えてください。

- 回答のあった3病院全てが将来的な不安を抱えている。
- 2か所の病院は、「現在課題を抱えており、将来的にも解決の見込みがない」としている。

問 4 課題・不安の具体的な内容を教えてください。
（当てはまるもの全て選択）

- 課題・不安の具体的な内容として、「医療スタッフの不足」「医療スタッフの高齢化」を全ての病院が選択している。

図表 3-4 6 経営環境に関する課題・不安の具体的な内容



（回答施設数：4施設）

問 5 岡山県は今後病床数を削減する方針を掲げていますが、貴機関の病床削減の予定を教えてください。

- 病床削減に対する意向として、2 か所の病院が「病床削減に取り組む予定である」と回答し、1 か所が「病床削減の予定はない」としている。

問 6 いつごろの病床削減を予定していますか。

- 「病床削減に取り組む予定である」と回答したすべての病院が、「数年後を目途に実施する予定である」としている。

問 7 どれだけの病床数を削減する予定ですか。

- 「病床削減に取り組む予定である」と回答したすべての病院において、慢性期に関して「30 床以上 60 床未満」の規模で削減する予定としている。

図表 3-47 病床削減予定数

	0 床	30 床未満	30 床以上 60 床未満	60 床以上
高度急性期	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
急性期	2 施設 (100%)	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)
回復期	2 施設 (100%)	なし (0%)	なし (0%)	なし (0%)
慢性期	なし (0%)	なし (0%)	2 施設 (100%)	なし (0%)

(回答施設数：2 施設)

問 8 病床削減を妨げている要因を教えてください。（自由記述）

- 本設問に対する回答は、以下のとおりである。

図表 3-4 8 病床削減を妨げている要因（自由記述）

No.	回答
1	➤ 入院病床はほぼ満床状態である為。満床状態で救急患者の受け入れも難しい場合がある

問 9 平成 28 年度の入院・外来・在宅の患者数を教えてください。

- 平成 28 年度における入院患者の総数は約 2.3 万人であり、70%弱が急性期の入院である。慢性期の入院患者も 20%程度存在する。
※たいようの丘ホスピタルの入院患者は高度急性期・急性期・回復期・慢性期のいずれにも属さないため、本結果に含まれていない。
- 一般外来患者数は総数約 14 万人である。
- 救急外来患者数は総数約 2 千人であり、病院別の構成としては、年間 100 人未満が 1 か所、100 人以上 1000 人未満が 2 か所、1000 人以上が 1 か所である。
- 訪問診療は約 300 人であり、訪問診療を実施していない病院が 2 か所、100 人未満が 1 か所、100 人以上 1000 人未満が 1 か所である。
- 往診は 9 名であり、外来患者数と比較するとほとんど実施していない状況である。

図表 3-4 9 平成 28 年度における病院の患者数の総計

（単位：人）

	入院				外来		在宅	
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	一般外来	救急外来	訪問診療	往診
患者数	—	15,234	3,010	4,484	143,547	2,275	284	9

（回答施設数：4 施設）

図表 3-50 平成 28 年度における入院患者数

（単位：施設）

	500 人未満	500 人以上 1,000 人未満	1,000 人以上 5,000 人未満	5,000 人以上 10,000 人未満	10,000 人以上	回答 施設数
高度 急性期	—	—	—	—	—	0
急性期	1 (33%)	なし (0%)	1 (33%)	なし (0%)	1 (33%)	3 (100%)
回復期	2 (67%)	なし (0%)	1 (33%)	なし (0%)	なし (0%)	3 (100%)
慢性期	2 (67%)	なし (0%)	1 (33%)	なし (0%)	なし (0%)	3 (100%)

図表 3-51 平成 28 年度における病院の一般外来患者数

（単位：施設）

	1,000 人以上 5,000 人未満	5,000 人以上 10,000 人未満	10,000 人以上	回答施設数
病院別の 構成割合	1 (25%)	1 (25%)	2 (50%)	4 (100%)

図表 3-52 平成 28 年度における病院の救急外来患者数

（単位：施設）

	100 人未満	100 人以上 1,000 人未満	1,000 人以上	回答施設数
病院別の 構成割合	1 (25%)	2 (50%)	1 (25%)	4 (100%)

図表 3-53 平成 28 年度における病院の訪問診療患者数

（単位：施設）

	0 人	100 人未満	100 人以上 1,000 人未満	1,000 人以上	回答 施設数
病院別の 構成割合	2 (50%)	1 (25%)	1 (25%)	なし (0%)	4 (100%)

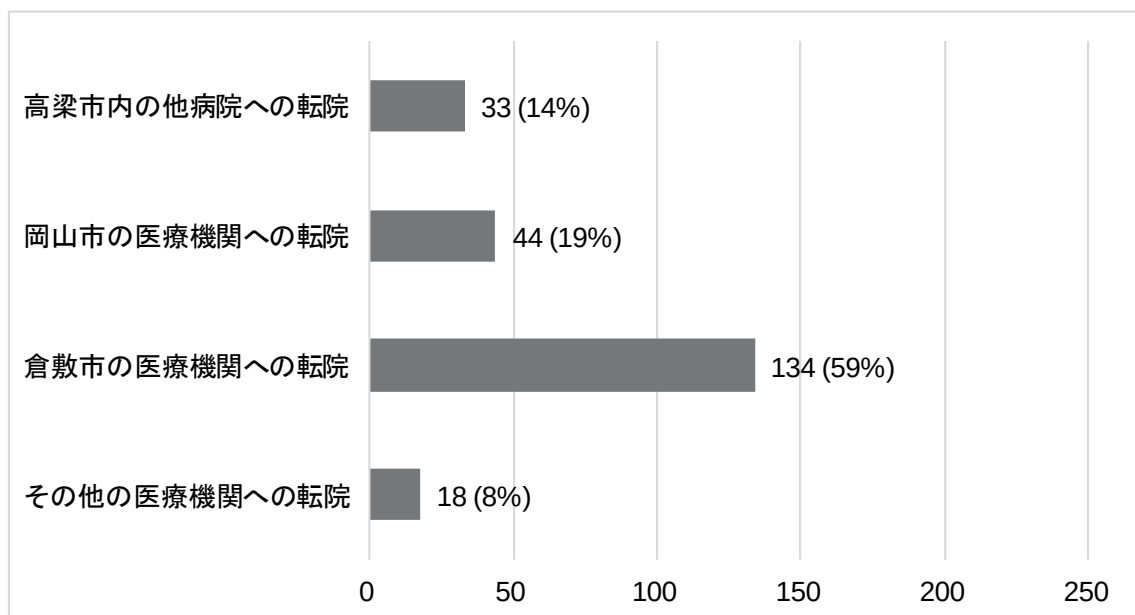
図表 3-5 4 平成 28 年度における病院の往診患者数

	0 人	10 人未満	10 人以上	回答施設数
病院別の 構成割合	2 (50%)	2 (50%)	なし (0%)	4 (100%)

問 1 0 平成 2 8 年度に貴機関から転院した入院患者数を教えてください。

- 平成 28 年度における転院患者数は合計 229 人で、うち 134 人が倉敷市の医療機関への転院となっている。

図表 3-5 5 平成 28 年度における他病院への転院患者数の総計

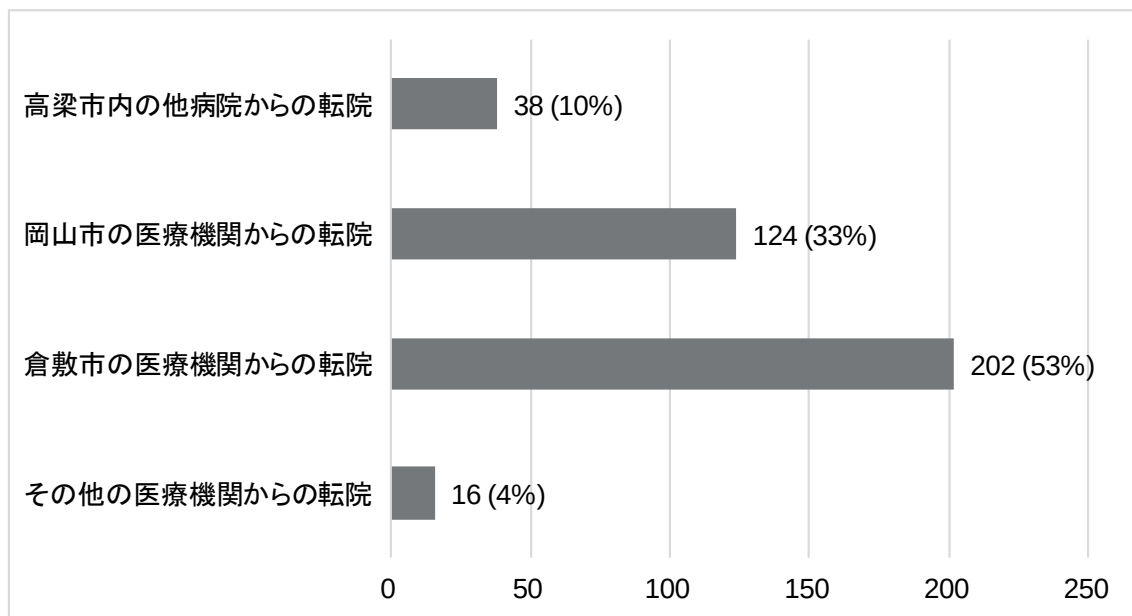


(回答施設数：4 施設)

問 1 1 平成 2 8 年度に他医療機関から受け入れた入院患者数を教えてください。

- 平成 28 年度に転院を受け入れた患者数は 380 人であり、うち 202 人が倉敷市の医療機関からの転院となっている。

図表 3 - 5 6 平成 28 年度における転院を受入れた患者数の総計



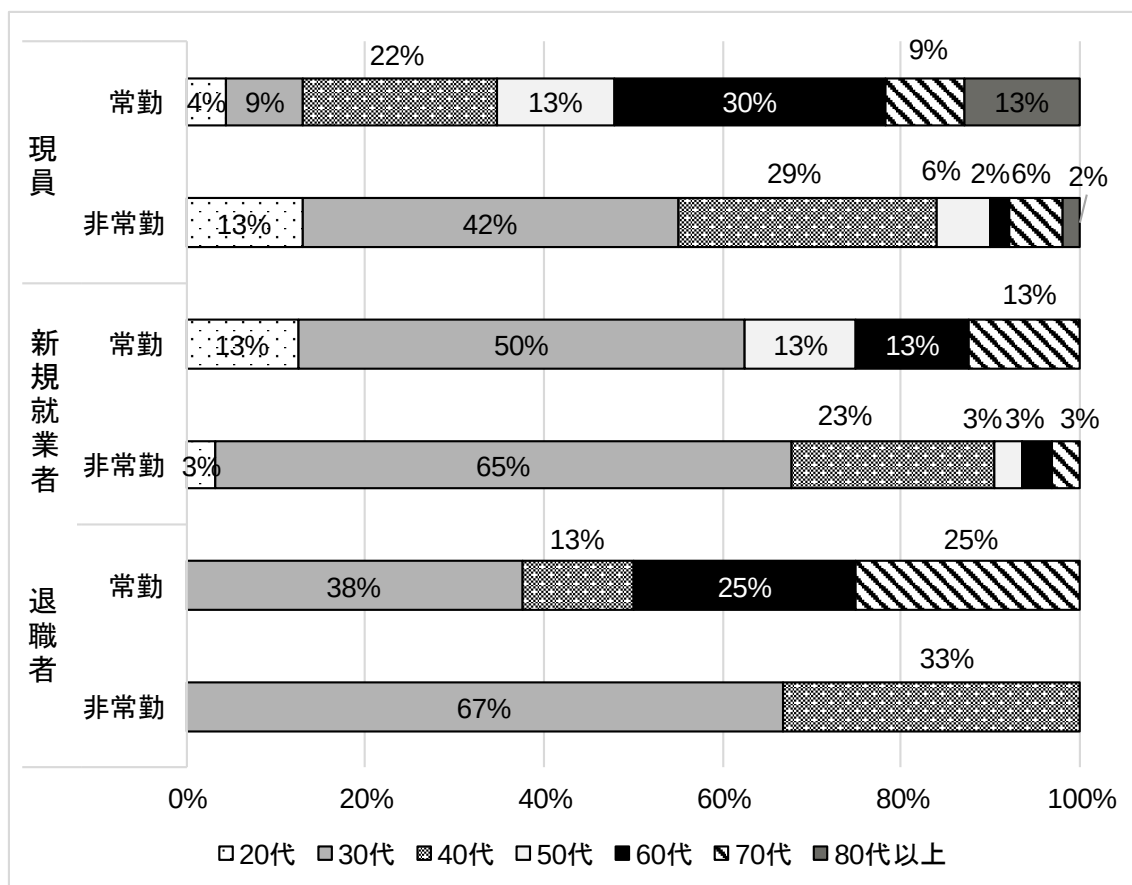
(回答施設数：4 施設)

問 1 2 年齢区分ごとの現員数・退職者数・新規就業者数を教えてください。
（退職者数、新規就業者数は平成 2 6 年度～平成 2 8 年度の 3 年間の合計）

【医師について】

- 医師の高齢化の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 病院に勤務している医師は、常勤医師 23 名のうち 52%が 60 代以上であり、60 代が最も人数が多い層となっている。一方、非常勤医師 100 名のうち 60 代以上は 10%であり、最も人数が多い層である 30 代は 42%を占めている。
- 医師の流出入の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 常勤医師については、直近 3 か年での退職、新規就業はともに 8 名である。退職者のうち 4 名は 30 代～40 代であり、4 名は 60 代～70 代であった。新規就業者のうち 5 名は 20 代～30 代であり、2 名は 60 代～70 代であった。
 - 非常勤医師については、直近 3 か年での退職 18 名に対して新規就業 31 名である。退職、新規就業ともに 30 代～40 代が大半を占めている。

図表 3-57 病院における医師の現員数及び過去3年間の新規就業者数・退職者数



(単位：人)

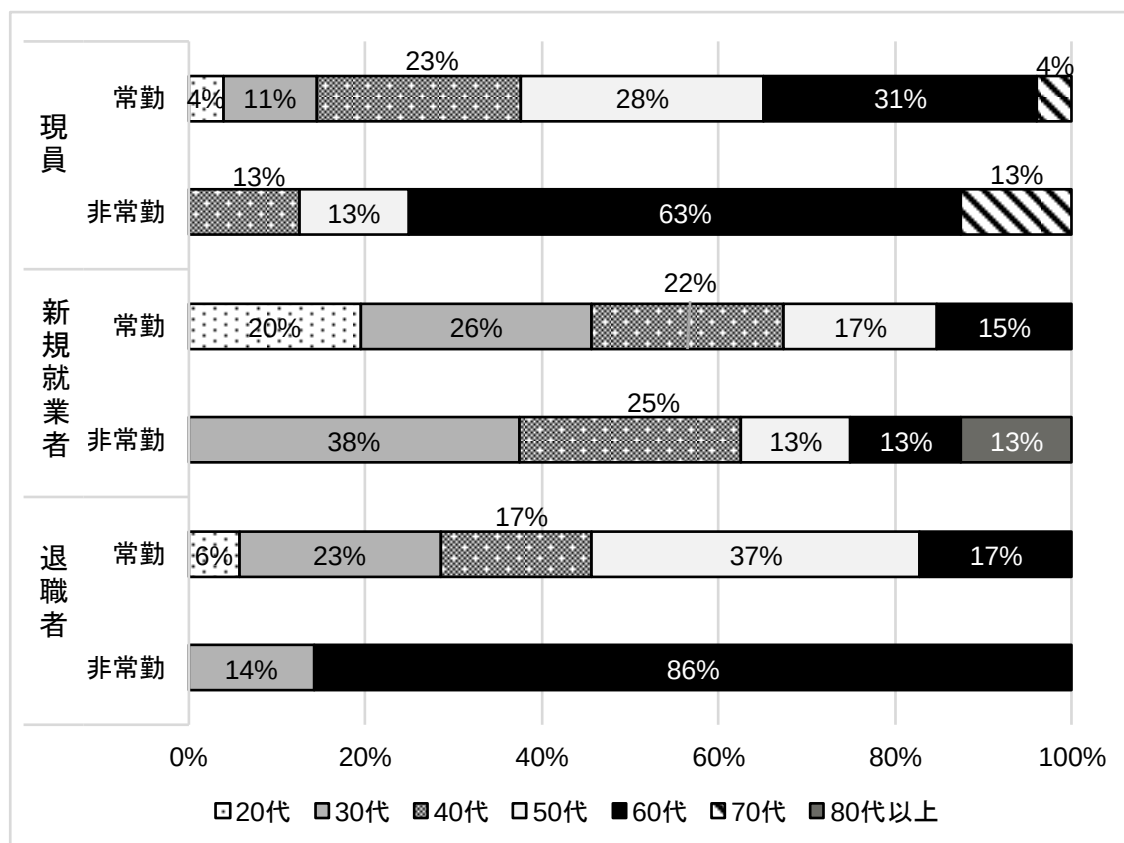
医師		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
現員	常勤	1	2	5	3	7	2	3	23
	非常勤	13	42	29	6	2	6	2	100
新規就業者	常勤	1	4	0	1	1	1	0	8
	非常勤	1	20	7	1	1	1	0	31
退職者	常勤	0	3	1	0	2	2	0	8
	非常勤	0	12	6	0	0	0	0	18

(回答施設数：4施設)

【看護師・准看護師について】

- 看護師・准看護師の高齢化の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 病院に勤務している看護師・准看護師は、年齢の分かっている常勤 178 名のうち 35%が 60 代以上であり、60 代が最も人数が多い層となっている。また非常勤 8 名のうち 76%が 60 代以上であり、60 代が最も人数が多い層となっている。
- 看護師・准看護師の流出入の状況として、以下の傾向が見られる。
 - 常勤については、直近 3 か年での退職 35 名に対して新規就業 46 名である。退職者のうち最も人数が多い層は 50 代の 13 名であり 37%を占めている。また、40 代以下の退職者は 16 名に達する。新規就業者は、20 代～40 代が合計 31 名で 68%を占めている。
 - 非常勤については、直近 3 か年での退職 7 名に対して新規就業は 8 名である。退職は 60 代が 86%、新規就業は 30 代～40 代が 63%を占めている。

図表 3-58 病院における看護師・准看護師の現員数及び過去3年間の新規就業者数・退職者数



(単位：人)

看護師・准看護師		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
現員	常勤	7	19	41	49	55	7	0	178 ^{*1}
	非常勤	0	1	1	2	4	1	0	9 ^{*1}
新規就業者	常勤	9	12	10	8	7	0	0	46
	非常勤	0	3	2	1	1	0	1	8
退職者	常勤	2	8	6	13	6	0	0	35
	非常勤	0	1	0	0	6	0	0	7

*1：この他に加えて、年齢・勤務形態の内訳が不明なスタッフが112人いる。

(回答施設数：3施設)

【その他の専門職スタッフ（※）について】

※医師・看護師・准看護師以外の専門職（歯科医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・精神保健福祉士・ケアマネジャー・介護職）のいずれかに該当するスタッフを便宜上まとめて集計している。

■ 専門職スタッフの高齢化の状況として、以下の傾向が見られる。

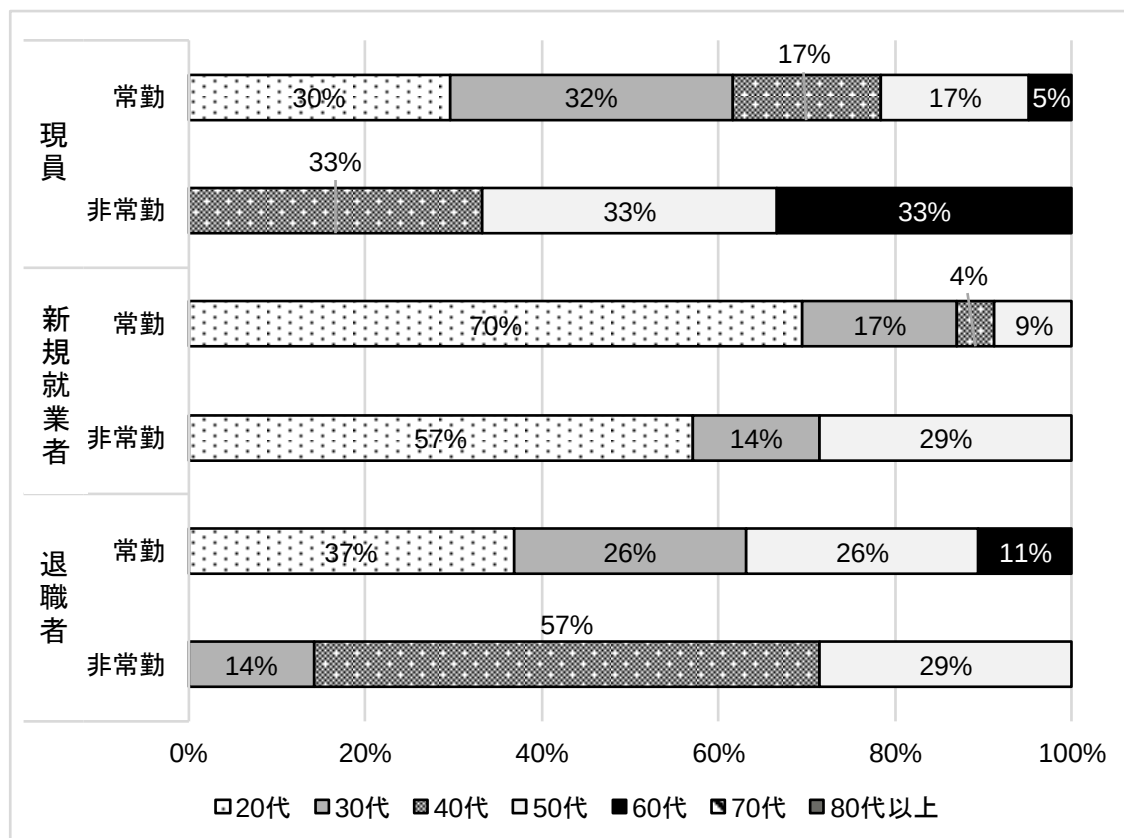
➤ 常勤は 125 名であり、そのうち 60 代は 6 名である。非常勤は 12 名であり、60 代は 4 名である。

■ 専門職スタッフの就業・退職の状況として、以下の傾向が見られる。

➤ 常勤の直近 3 か年の退職は 19 名、新規就業は 23 名である。退職者の年代は 20 代の 7 名、30 代及び 50 代の各 5 名の順に多く、新規就業の年代は 20 代の 16 名、30 代の 4 名の順に多い。

➤ 非常勤の直近 3 か年の退職、新規就業はともに 7 名である。退職は 40 代 4 名、50 代 2 名の順に多く、新規就業は 20 代 4 名、50 代 2 名の順に多い。

図表 3-59 病院におけるその他の専門職スタッフの現員数及び過去3年間の新規就業者数・退職者数



(単位：人)

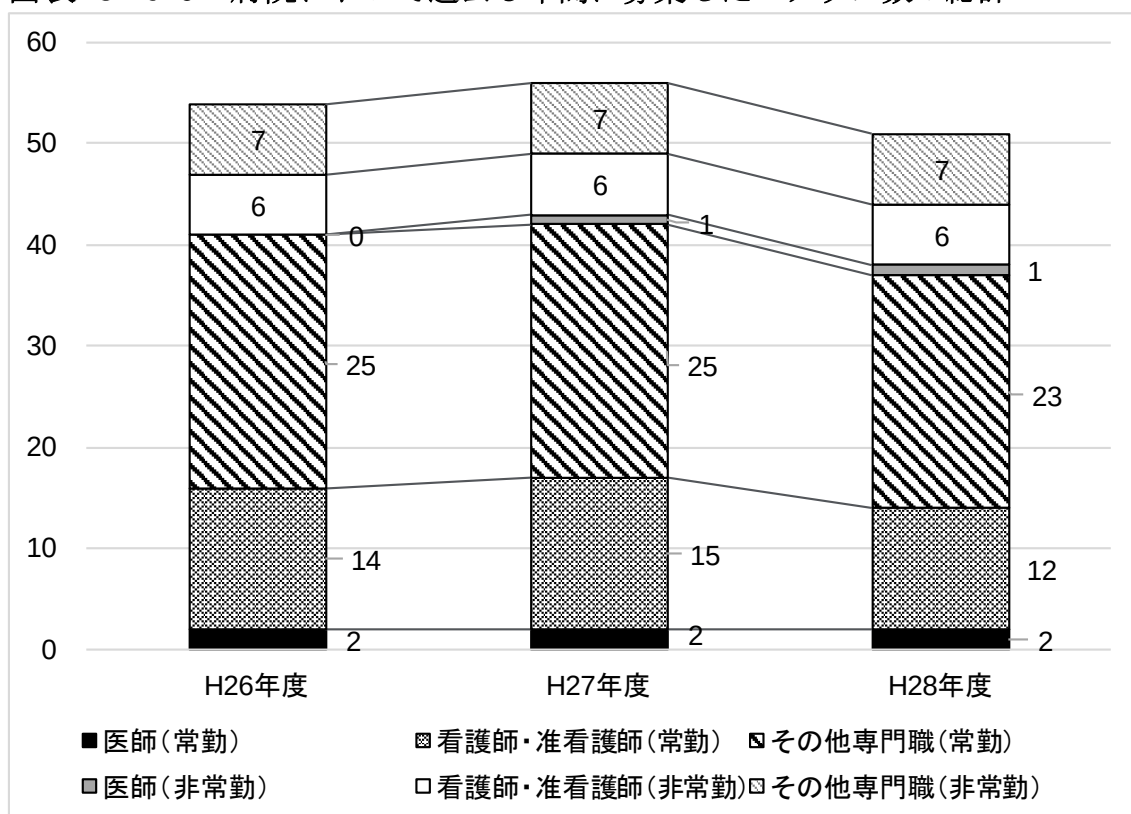
その他の専門職		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
現員	常勤	37	40	21	21	6	0	0	125
	非常勤	0	0	4	4	4	0	0	12
新規就業者	常勤	16	4	1	2	0	0	0	23
	非常勤	4	1	0	2	0	0	0	7
退職者	常勤	7	5	0	5	2	0	0	19
	非常勤	0	1	4	2	0	0	0	7

(回答施設数：4施設)

問 1 3 平成 2 6 年度から平成 2 8 年度の 3 年間に於ける各職種の募集人数の延べ数を教えてください。

- 平成 26 年度から平成 28 年度の間、高梁市内の病院に於ける募集人数はおおむね横ばいであるが、看護師・准看護師にやや減少の傾向が見られる。

図表 3-60 病院に於いて過去 3 年間に募集したスタッフ数の総計



(回答施設数：4 施設)

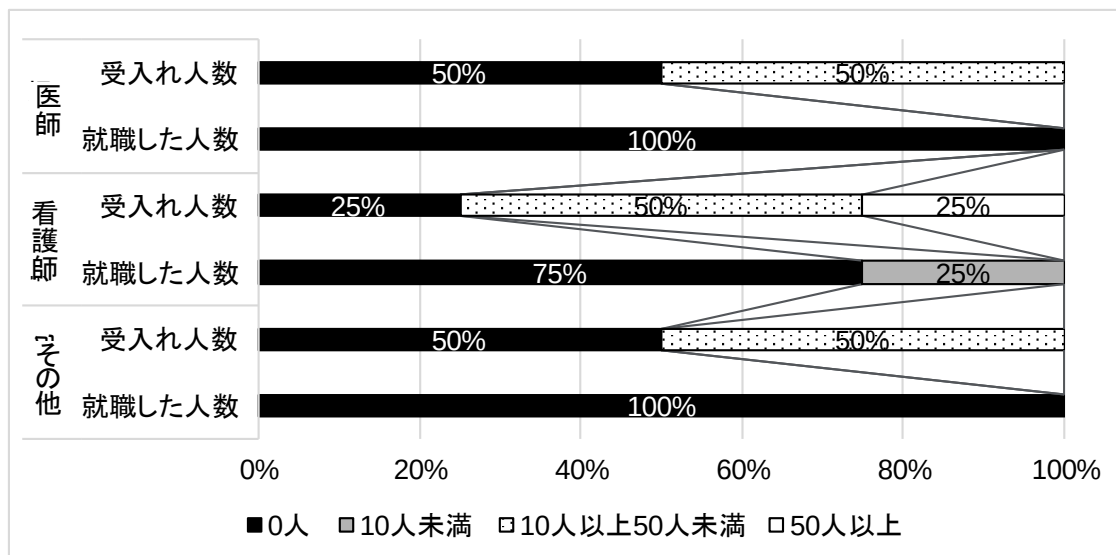
問 1 4 平成 2 6 年度から平成 2 8 年度の間、自治医科大学あるいは岡山大学地域枠の義務年限で勤務していた医師数と、そのうち継続して勤務している医師数を教えてください。

- 平成 26 年度から平成 28 年度の間、自治医科大学あるいは岡山大学地域枠の義務年限で勤務していた医師は 4 人で、うち継続して勤務しているのは 0 人である。

問 1 5 平成 2 6 年度から平成 2 8 年度の間に研修・実習の受入れ実績がある職種について、受入れ人数と、研修・実習後に貴機関に就職した人数を教えてください。

- 平成 26 年度から平成 28 年度の間、研修・実習の受け入れ人数は、医師が 43 名、看護師が 347 名、その他専門職が 50 名である。
- うち研修・実習後に就職したスタッフは、看護師 5 名である。

図表 3-6 1 病院において、過去3年間に研修・実習を受入れた人数



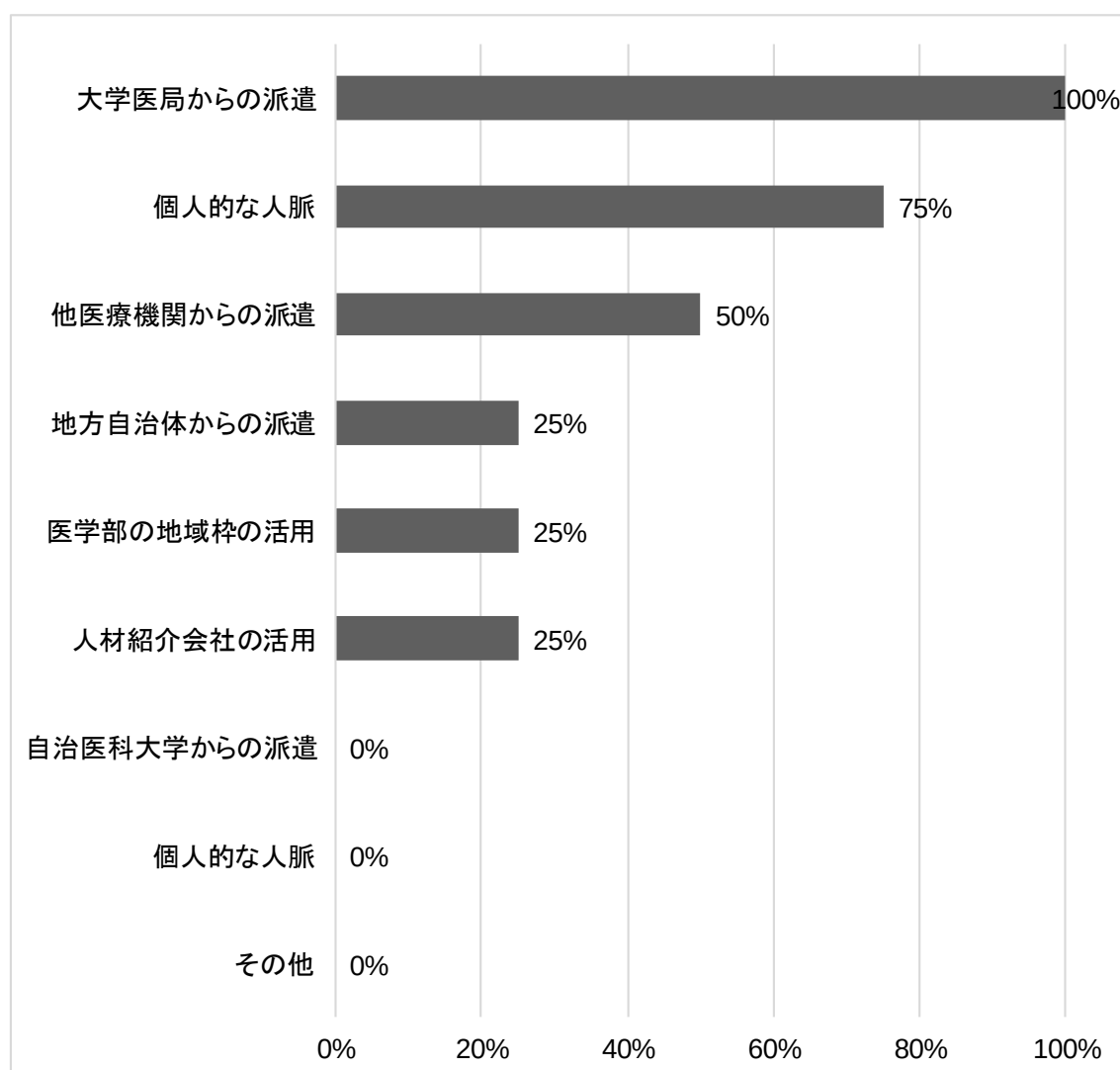
		受入れ 人数総計	受入れ人数区分ごとの施設数			
			0人	10人未満	10人以上 50人未満	50人以上
医師	受入れ人数	43人	2施設	0施設	2施設	0施設
	就職した人数	0人	4施設	0施設	0施設	0施設
看護師	受入れ人数	347人	1施設	0施設	2施設	1施設
	就職した人数	5人	3施設	1施設	0施設	0施設
その他	受入れ人数	50人	2施設	0施設	2施設	0施設
	就職した人数	0人	4施設	0施設	0施設	0施設

(回答施設数：4施設)

問 1 6 どのようにして医師を確保していますか。
（当てはまるもの全て選択）

- 全ての病院が「大学医局からの派遣」を選択している。
- 2 番目に「個人的な人脈」が多く、75%の病院が選択している。

図表 3 - 6 2 病院における医師確保の方法

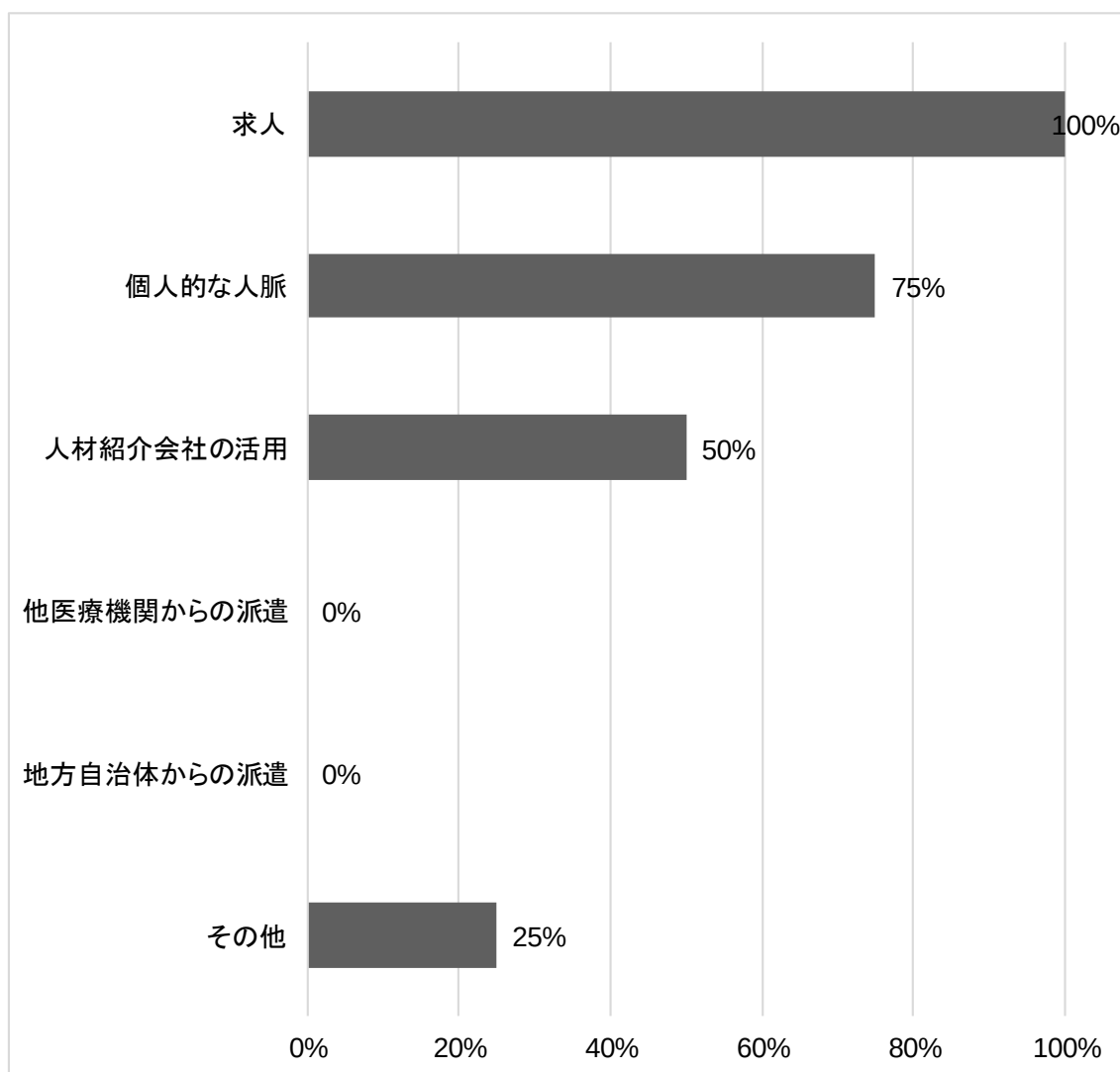


（回答施設数：4 施設）

問 17 どのようにして看護師を確保していますか。
（当てはまるもの全て選択）

- 全ての病院で「求人」を選択している。
- 2 番目に「個人的な人脈」の割合が高く、75%の病院が選択している。
- 「人材紹介会社の活用」も 50%の病院が選択している。

図表 3-63 病院における看護師確保の方法

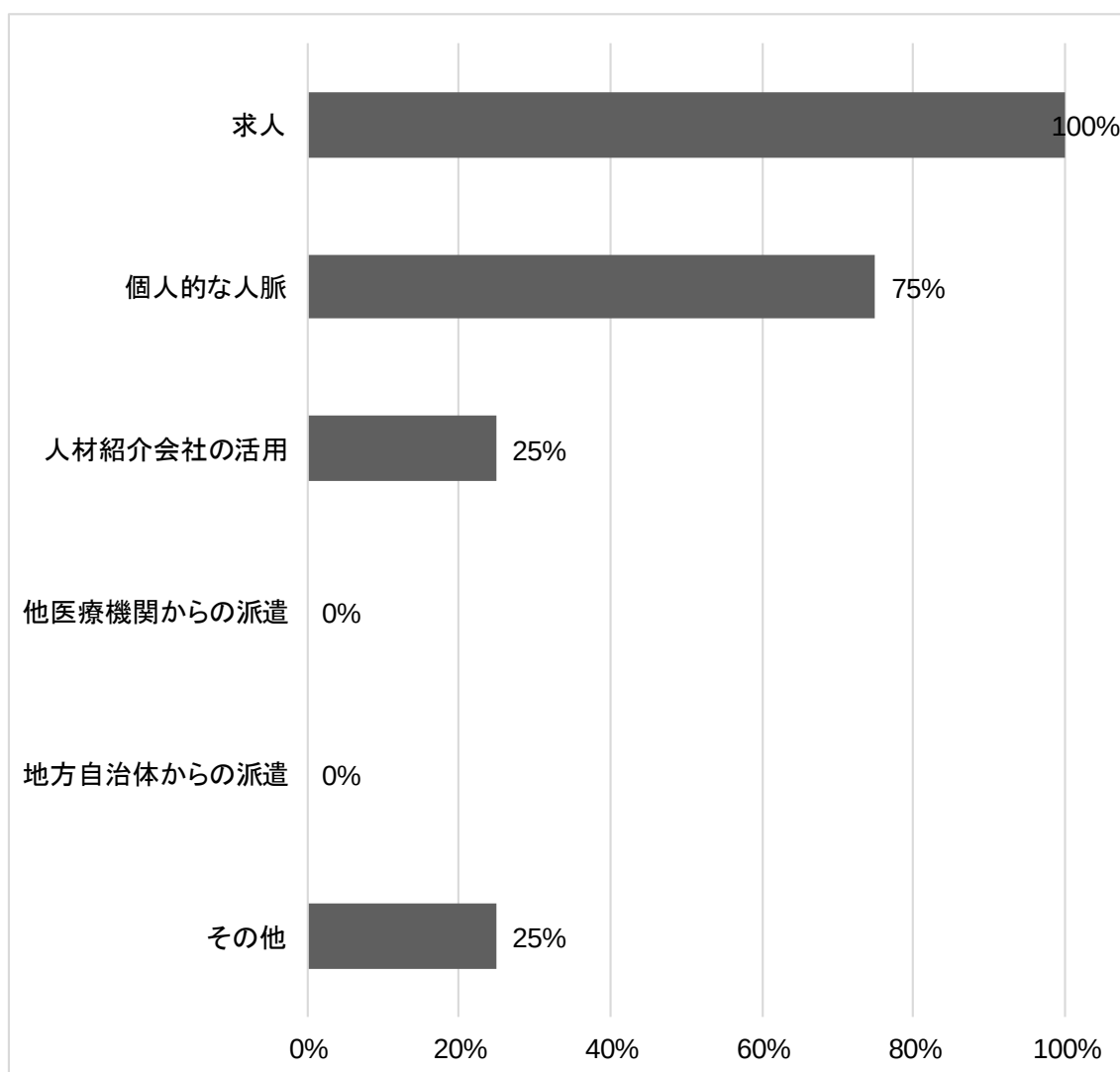


（回答施設数：4 施設）

問 18 どのようにして医師・看護師以外のスタッフを確保していますか。
（当てはまるもの全て選択）

- 看護師と同様に、全ての病院で「求人」が選択され、2 番目に多かったのが「個人的な人脈」である。

図表 3-6 4 病院におけるその他の専門職確保の方法



（回答施設数：4 施設）

問 19 応募を増やすために貴機関で取り組んでいることがあれば教えてください。（自由記述）

■ 本設問に対する回答は、以下のとおりである。

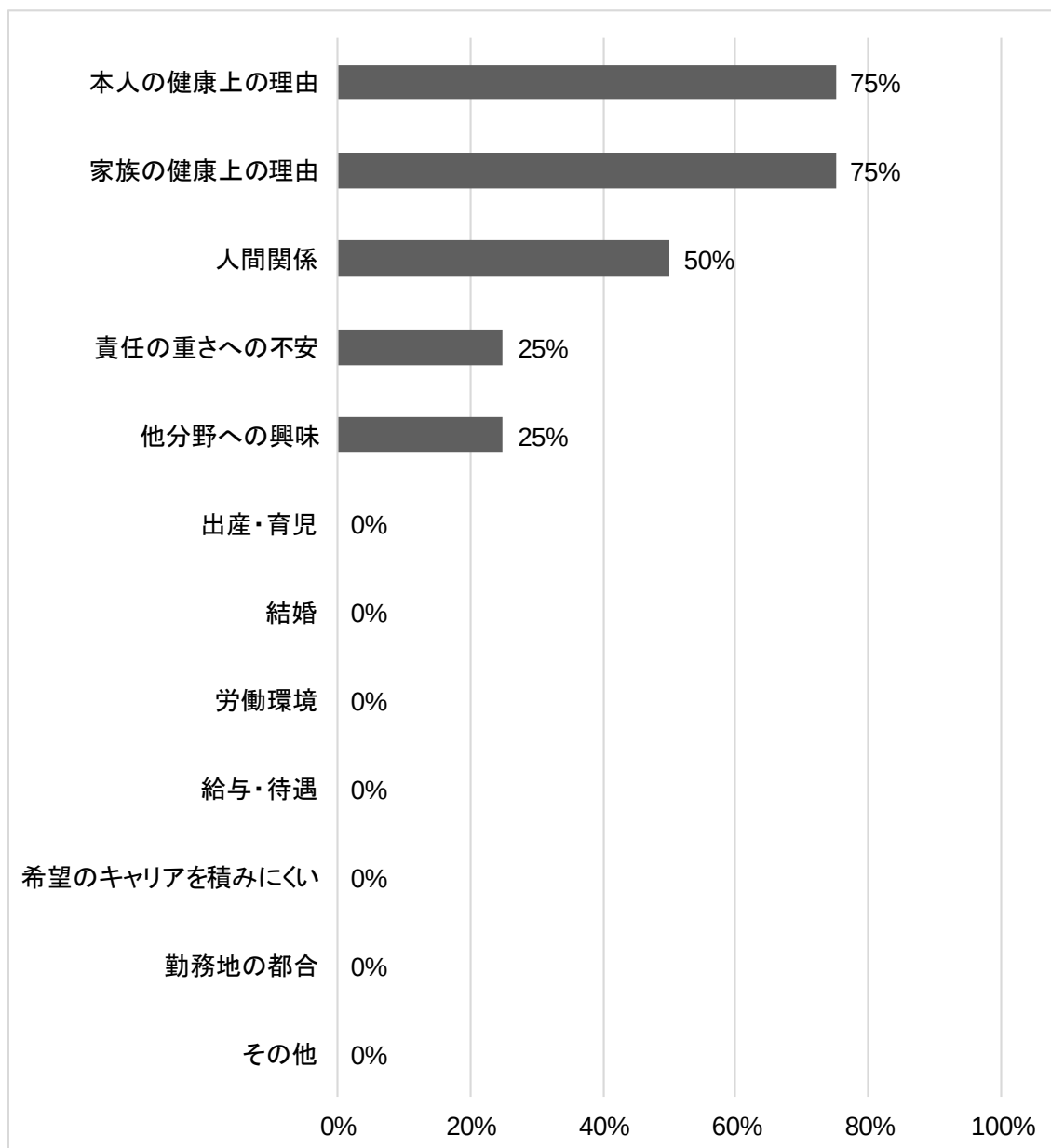
図表 3-65 応募を増やすために取り組んでいること（自由記述）

No.	回答
1	➤ 学校訪問。
2	➤ 養成校への挨拶回り。 ➤ ホームページ求人欄の充実。 ➤ 合同就職説明会への参加。

問 2 0 平成 2 6 年度から平成 2 8 年度の間に定年退職以外で退職したスタッフの、主な退職理由を教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- 「本人の健康上の理由」「家族の健康上の理由」がそれぞれ 75%、「人間関係」が 50%、「責任の重さへの不安」「他分野への興味」がそれぞれ 25%である。

図表 3 - 6 6 病院において、過去 3 年間に定年退職以外で退職したスタッフの主な退職理由



(回答施設数：4 施設)

問 2 1 離職者の復帰について、貴機関の考えを教えてください。

- 医師・看護師・准看護師に関しては、全ての病院が離職者について「積極的に採用したい」と回答している。
- その他専門職に関しては「積極的に採用したい」と「どちらとも言えない」がそれぞれ 50%となっている。

問 2 2 離職者の復帰が難しい理由を教えてください。
(当てはまるもの全て選択)

- 離職者の復帰について「採用は難しい」と回答した病院はなかった。

3. 4. 2. 在宅医療

問 2 3 貴機関では訪問診療を実施していますか。

- 市内病院のうち、訪問診療を実施している病院は 2 か所である。
- 他の 2 か所の病院は、「いま実施しておらず、今後の実施も予定していない」としている。

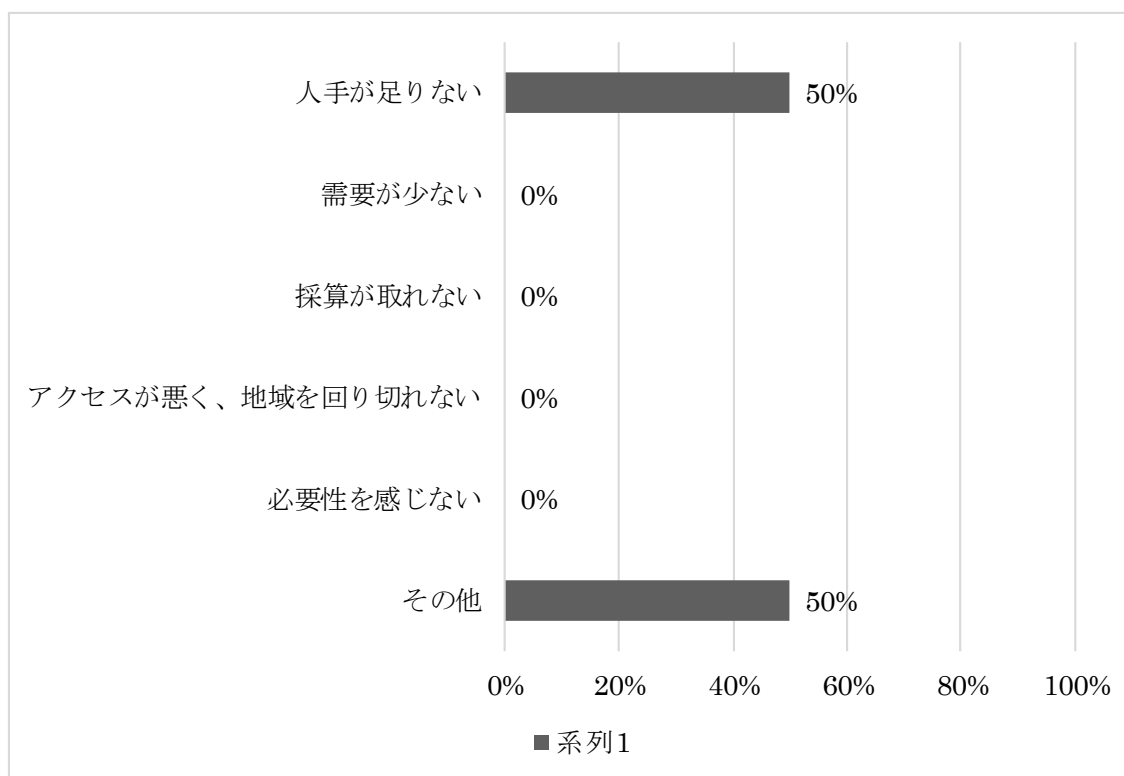
問 2 4 訪問診療を行っているスタッフの人数を教えてください。

- 訪問診療を行っている 2 か所の病院においては、医師・看護師は各 1 名ずつの体制で担当している。
- 2 か所のうち 1 か所の病院では医師・看護師以外は訪問診療を担当しておらず、もう 1 か所の病院では医師・看護師以外に 1 名が訪問診療を担当している。

問 2 5 訪問診療の実施予定が無い理由を教えてください。
(当てはまるもの全て選択)

- 訪問診療の実施が難しい理由としては、「人手が足りない」が 50%であった。

図表 3-67 病院において訪問診療の実施が難しい理由



問 2 6 貴機関では往診を実施していますか。

- 市内病院のうち、往診を実施している病院は1か所であり、「いまは実施していないが、今後条件が整えば実施したい」としている病院が1か所である。
- 他の2か所の病院は、「いま実施しておらず、今後の実施も予定していない」としている。

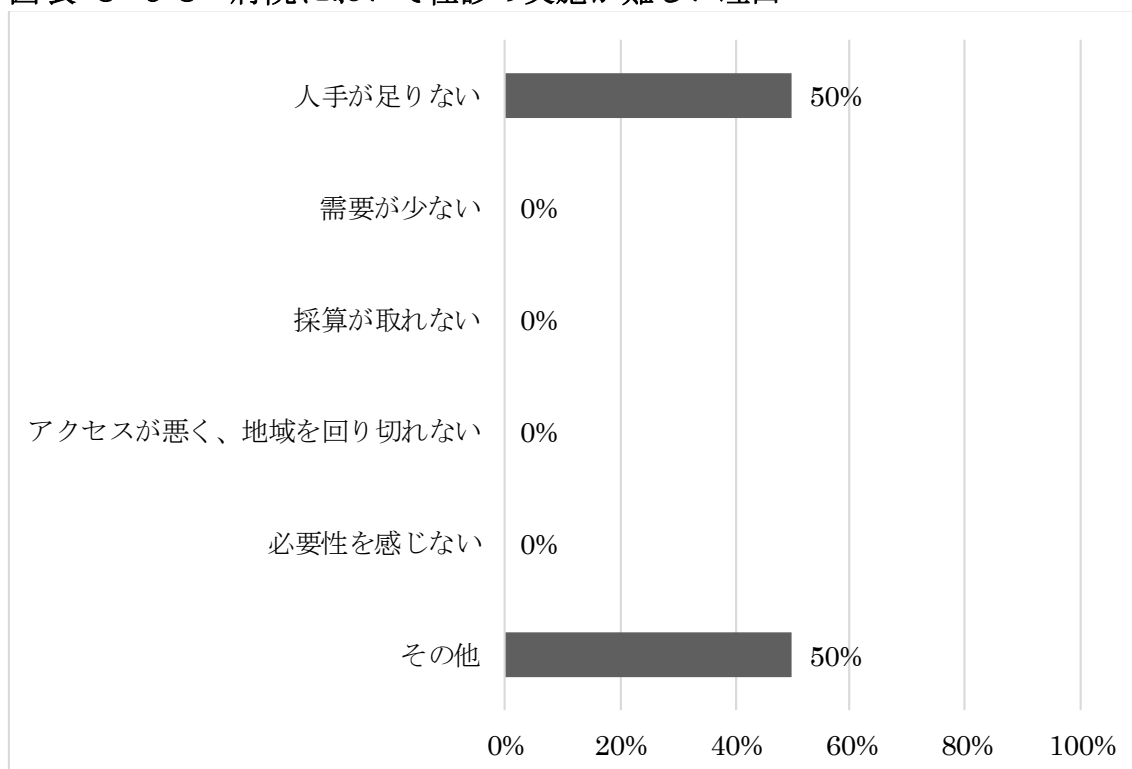
問 2 7 往診を行っているスタッフの人数を教えてください。

- 往診を実施している市内病院（1か所）において、医師1名のみが往診を担当していた。

**問 2 8 往診の実施予定が無い理由を教えてください。
（当てはまるもの全て選択）**

- 訪問診療（問25）と同じ傾向が見られる。

図表 3-68 病院において往診の実施が難しい理由



問 29 貴機関の退院支援担当者数を教えてください。

- 退院支援に関して、3 か所の病院が 1 名以上 5 名未満、1 か所の病院が 10 名以上の担当者を配置している。

問 30 貴機関の退院支援担当者は足りていると感じていますか。

- 退院支援の担当者数に関して、3 か所の病院が「不足している」としており、1 か所の病院が「どちらとも言えない」としている。

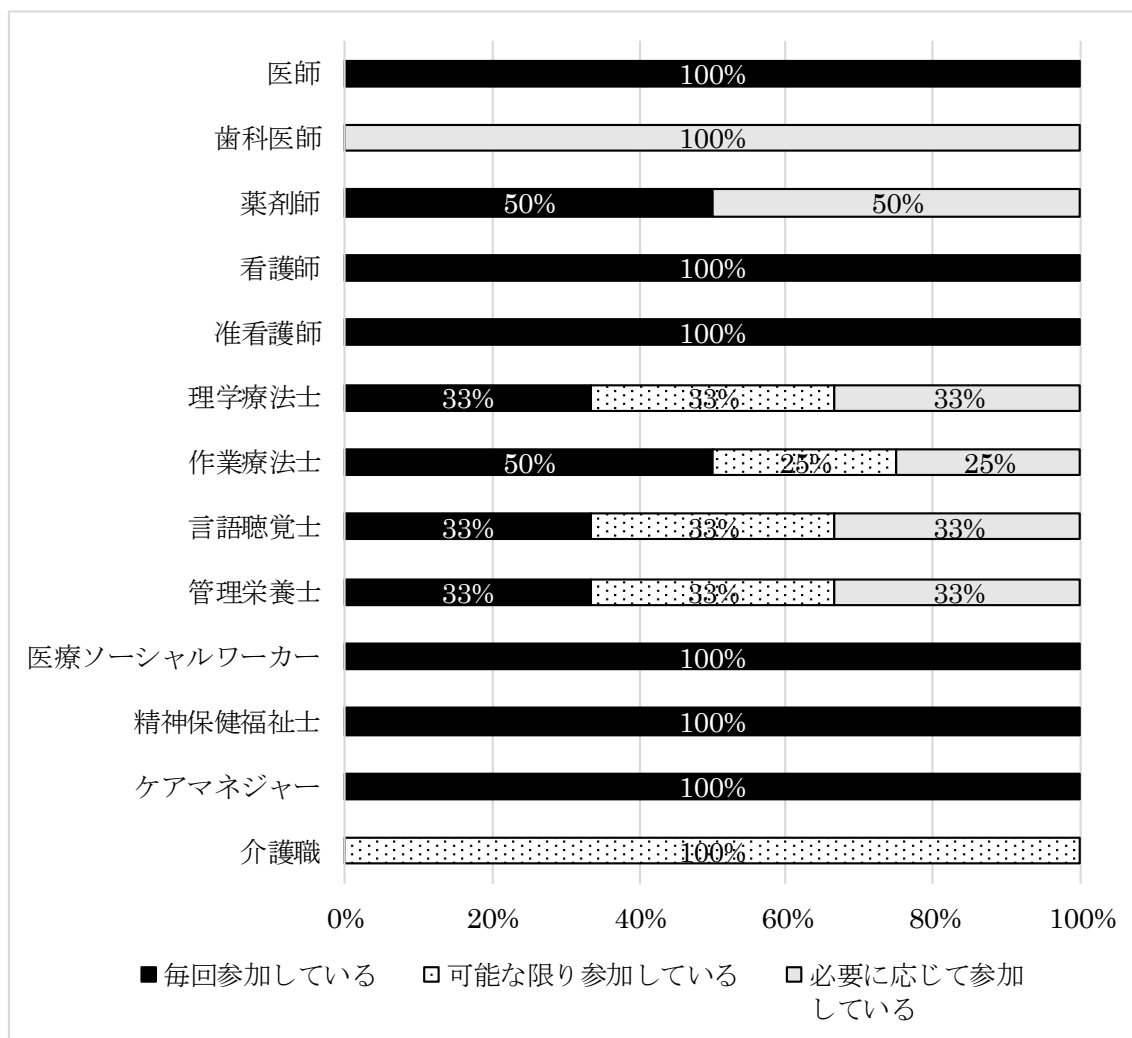
問 31 平成 28 年度で、退院時カンファレンスを開催した患者の割合を教えてください。

- 4 か所のうち 2 か所の病院が、退院患者の 80%以上に対して退院時カンファレンスを実施している。
- その他は、実施割合が 20%未満の病院と、60%以上 80%未満の病院が 1 か所ずつである。

問 3 2 各職種の退院時カンファレンスへの参加頻度を教えてください。

- 全ての病院において、医師・看護師・准看護師・医療ソーシャルワーカー・精神保健福祉士・ケアマネジャーは、退院時カンファレンスに毎回参加している。

図表 3-6 9 各職種の退院時カンファレンスへの参加状況



3. 医療機関アンケート（病院向け）調査結果

（単位：施設）

	毎回参加している	可能な限り参加している	必要に応じて参加している	回答施設数
医師	2	0	0	2
歯科医師	0	0	1	1
薬剤師	1	0	1	2
看護師	4	0	0	4
准看護師	2	0	0	2
理学療法士	1	1	1	3
作業療法士	2	1	1	4
言語聴覚士	1	1	1	3
管理栄養士	1	1	1	3
医療ソーシャルワーカー	3	0	0	3
精神保健福祉士	1	0	0	1
ケアマネジャー	1	0	0	1
介護職	0	1	0	1

問 3 3 多職種連携研修会への参加をどの程度奨励していますか。

- 全ての病院において多職種連携研修会の参加を奨励している。

3. 4. 3. 市の医療提供体制

問 3 4 高梁市も地域医療の維持に危機感を持ち、医療計画を策定しようとしています。このことについて貴機関のお考えを教えてください。

- 回答のあった3か所全ての病院が「遅すぎるくらいであり、急いで取り組むべきだと思う」または「いま取り組むべき課題だと思う」としている。

問 3 5 高梁市内の医療に関連するテーマのうち、特に重要だと思うものを教えてください。

- 高梁市の医療に関するテーマで重要だと考えることとして、「医師や看護師などを確保し、地域の医療を維持・持続すること」が75%、「介護や福祉と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えること」が25%となっている。

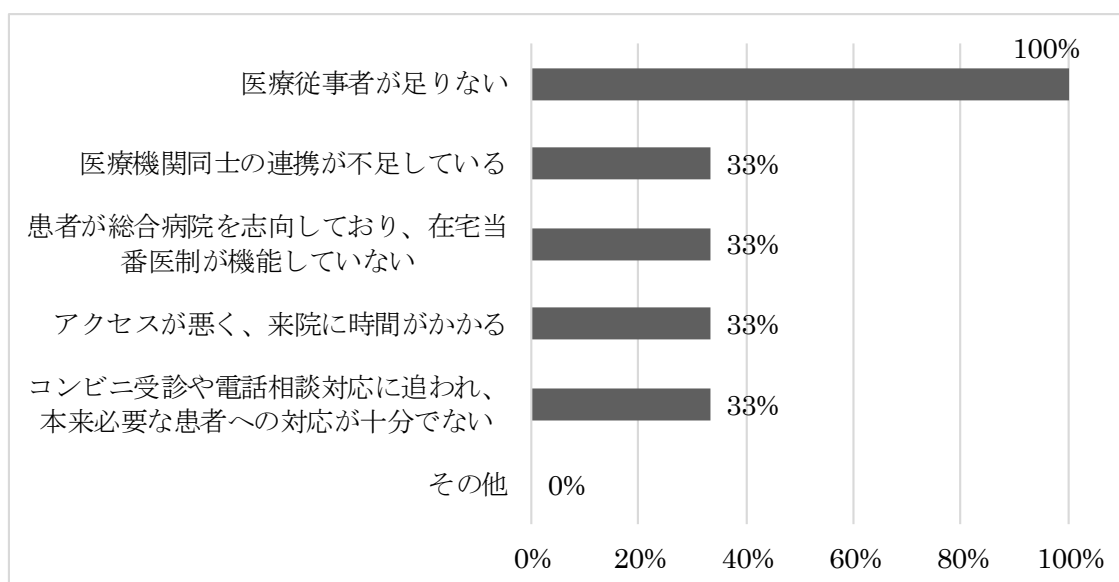
問 3 6 高梁市内の初期救急医療体制は充実していると思いますか。

- 高梁市の初期救急医療体制に対する認識として、「ある程度充実していると思う」と回答した病院は1か所で、「あまり充実していないと思う」と回答した病院が3か所である。

問 3 7 高梁市内の初期救急医療体制が「あまり充実していない」「全く充実していない」と思う理由を教えてください。
（当てはまるもの全て選択）

- 全ての病院が初期救急医療の課題として「医療従事者が足りない」としている。

図表 3-70 高梁市内の初期救急医療体制が充実していないと感じる理由



（回答施設数：3 施設）

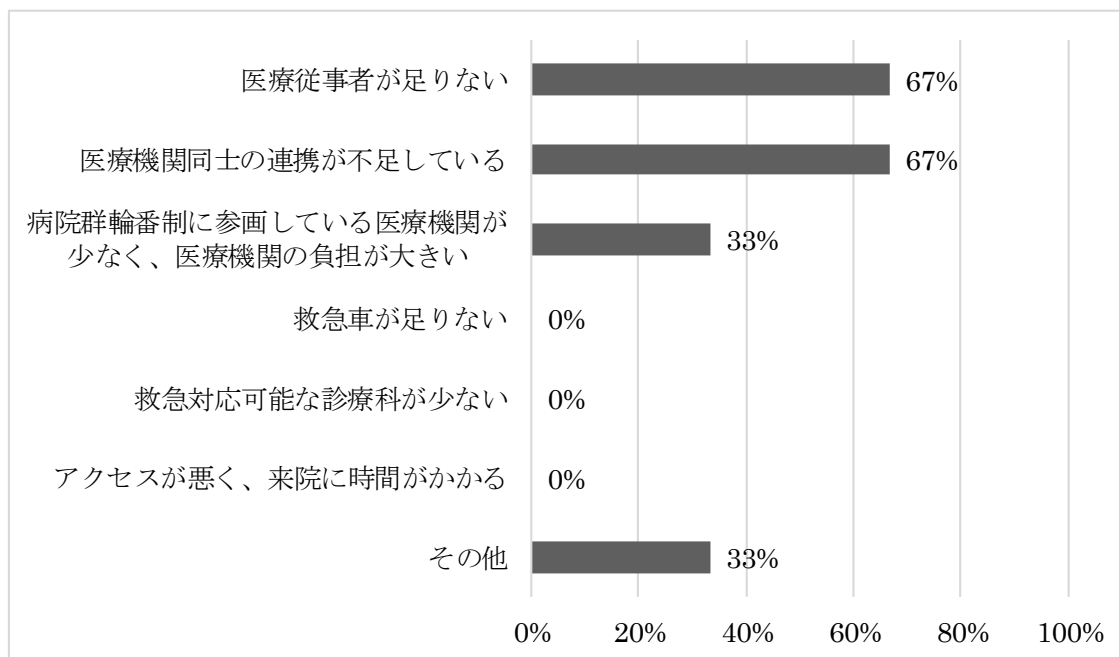
問 3 8 高梁市内の二次救急医療体制は充実していますか。

- 高梁市の二次救急医療体制に対する認識として、「ある程度充実していると思う」と回答した病院は1か所で、「あまり充実していないと思う」と回答した病院が3か所である。

問 3 9 高梁市内の二次救急医療体制が「あまり充実していない」「全く充実していない」と思う理由を教えてください。
(当てはまるもの全て選択)

- 高梁市の二次救急医療体制が充実していないと感じる理由として、「医療従事者が足りない」「医療機関同士の連携が不足している」が67%で同率1位、「病院群輪番制に参画している医療機関が少なく、医療機関の負担が大きい」が33%で2位となっている。

図表 3-7 1 高梁市内の二次救急医療体制が充実していないと感じる理由



(回答施設数：3施設)

問 4 0 高梁市からの他市町村への患者の流出について、貴機関の認識を教えてください。

- 高梁市からの患者流出に関する認識として、3 か所の病院が「ある程度多いと思う」と回答し、1 か所の病院が「あまり多くはないと思う」と回答している。

問 4 1 どのような患者が流出していると思いますか。（自由記述）

- 本設問に対する回答は、以下のとおりである。

図表 3-7 2 流出していると思われる患者（自由記述）

No.	回答
1	➤ 市内での対応で全てをみる体制ではないため、市外の救急外来へ行く。専門科での治療が不十分なため、整った総合病院を希望する。
2	➤ 循環器系、小児科。
3	➤ この地域で対応できない疾患。 ➤ 家族が県南に住んでいる場合。

問 4 2 高梁市からの他市町村への患者の流出について、貴機関ではどのようにお考えですか。

- 高梁市からの患者流出に対しては、全ての病院が「好ましくはないが、仕方がない」としている。

問 4 3 患者流出について、問 4 2 のように考えている理由を教えてください。（自由記述）

- 本設問に対する回答は、以下のとおりである。

図表 3-7 3 患者流出に対する考えの根拠（自由記述）

No.	回答
1	➤ 全てを受け止めるように充実させることは困難。
2	➤ 専門の医師が不足している。 ➤ 医療従事者が足りない。

問 4 4 流出患者の他市町村医療機関からの再受入れについて、貴機関の受入れ状況を教えてください。

- 流出患者の他市町村医療機関からの再受入れに関しては、全ての病院で「患者や医療機関等の相談経路に関わらず、相談があれば受入れている」としている。

問 4 5 高梁市内の現在の医療提供体制について、課題だと感じていることがあれば教えてください。（自由記述）

- 本設問に対する回答は、以下のとおりである。

図表 3-7 4 高梁市内の現在の医療提供体制の課題（自由記述）

No.	回答
1	➤ 総合診療、専門医療のはざまで中途半端な体制となっているため、病院間での補完ができるよう整備が望まれる。

問 4 6 高梁市内の医療提供体制整備に向けて、市に期待することがあれば教えてください。（自由記述）

- 本設問において、記載はなかった。

4. 医療従事者アンケート調査結果

＜ 4. 1. 調査結果の概要＞

(1) 回答者の属性（4. 2 関係）

- 高齢化においては医師が突出して顕著であり、60 代以上が 66%を占めている。80 代以上の医師も見られる。
- その他の職種においては、准看護師の 47%が 60 代以上である以外は、歯科医師、薬剤師、看護師においては 40 代、50 代を中核とした構成となっている。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士においては、20 代、30 代がほとんどを占めている。
- 高梁で働く理由としては、自身や家族・親戚の出身地という地縁による理由が最大である。
- 勤務先施設については、医師を除いて病院に集中している。
- 勤務地域については、高梁、成羽の 2 地域に集中している。

(2) 労働・教育環境（4. 3. 1 関係）

- 人手不足、後継者不足に対する課題感が強い。(問 1 0)
- 教育システムの機能に対する評価は職種によってさまざまとなっており、医師、看護師 4 割以上が機能不全・教育システムの不在を感じている。作業療法士においては、その割合が 7 割近くに達する。(問 1 1)
- 労働環境について、改善してほしいものの現実的には難しいという認識がすべての職種で半数以上を占めている。(問 1 4)
- 1 週間の勤務時間は 60 時間未満が最多となっているが、医師においてはより長時間勤務する者も多く、週に 80 時間以上勤務する割合が 17%となっている。看護師、准看護師においても、週 60 時間以上勤務する者が 1～2 割程度となっている(問 1 5)

(3) 多職種連携 (4. 3. 2 関係)

- 連携が不足していると感じる職種が、職種によって大きく異なることが明らかとなった。特に医師との連携が不足しているという声が全職種から見られる一方で、医師は連携不足は特にないとしており、意識にかい離が見られる。(問18)
- 「やまぼうし」の認知は概ね高いが、利用の程度は低い。(問21～24)

(4) 在宅医療 (4. 3. 3 関係)

- 在宅医療のニーズについては、増えてきているとする回答とわからないとする回答が拮抗する傾向が見られるものの、職種による認識の違いも大きいことが明らかとなった。(問26)
- 在宅医療への移行については、現実的には難しいという考えが7割程度を占めており、課題として時間的な余裕のなさや医療の質の担保の難しさを挙げる声が多い。(問27、29)
- 遠隔診療については、賛成が大多数であるものの、導入は難しいという声が大半を占めている。(問30)

(5) 市の医療提供体制に関する意識 (4. 3. 4 関係)

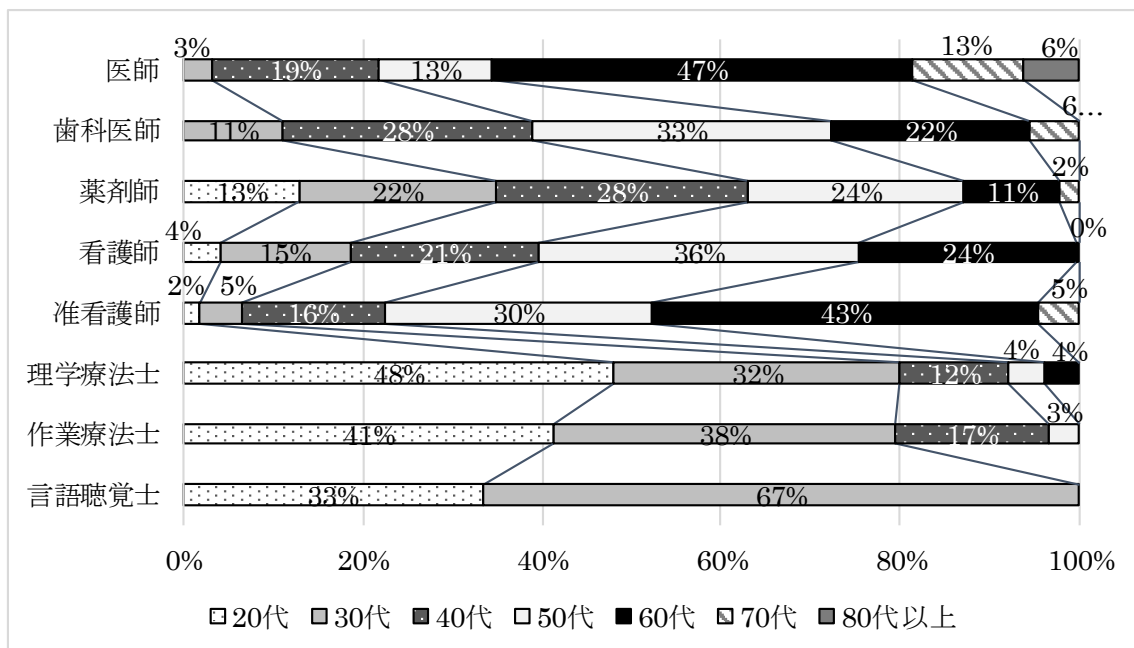
- 医療計画の策定について、すべての職種において一定の支持が見られる。特に医師における課題感が強い。(問16)
- 地域の課題認識として、看護師の不足が7割以上で1位、次いで医師の不足が5割と、人材不足が並んで上位を占めている。(問17)
- 今後充実を求める取組みとして、医師・看護師の育成・確保が最多であり、次いで安心して出産できるサポート体制となっている。(問32)
- 分野としては、へき地医療、在宅医療、小児医療、周産期医療を挙げる声が多い。(問33)
- 今後必要になるスキルとして、全ての職種が「患者や家族とのコミュニケーション」「医療従事者間のコミュニケーション」を挙げている。(問34)

＜ 4. 2. 回答者の属性＞

【各職種の人数と年齢構成】

- 60 代以上の割合は、医師 66%、歯科医師 28%、薬剤師 13%、看護師 25%、准看護師 47%、理学療法士 4%となっている。（作業療法士及び言語聴覚士においては 60 代以上という回答はない。）
- 医師の高齢化は突出して顕著であり、80 代以上という回答も見られる。

図表 4-1 回答者の年齢・職種



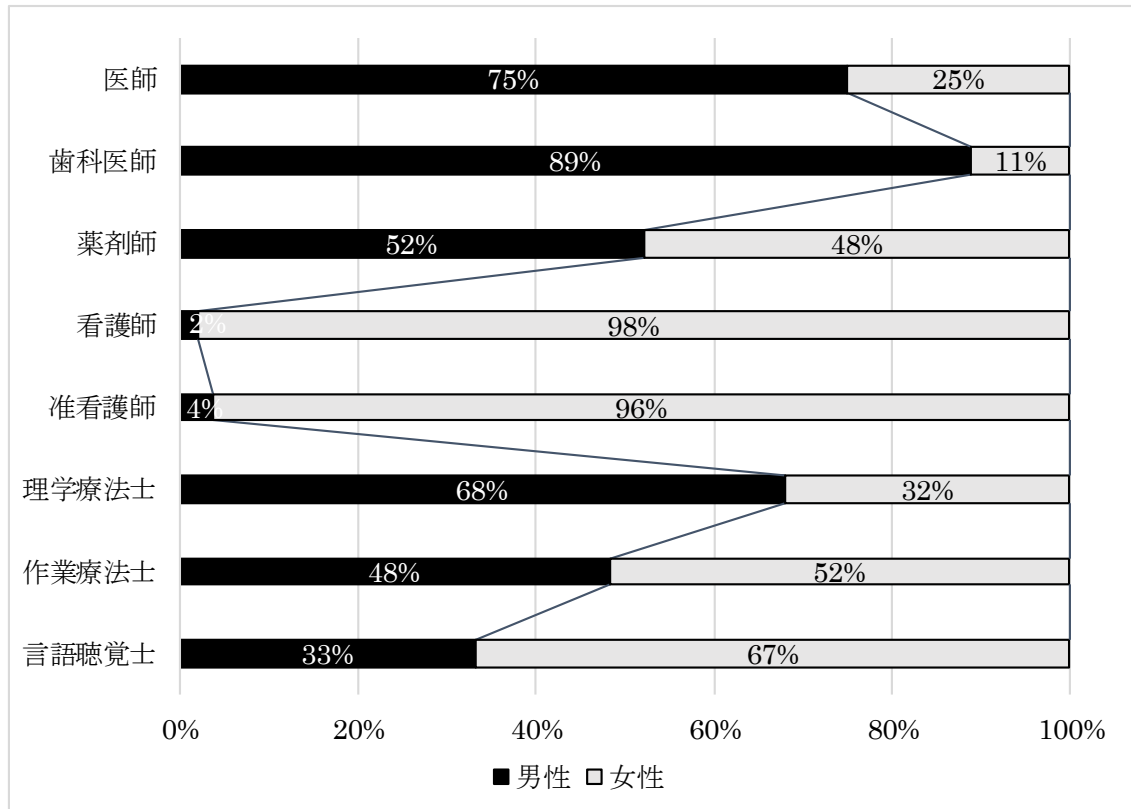
（単位：人）

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代 以上	回答者数
医師	0	1	6	4	15	4	2	32
歯科医師	0	2	5	6	4	1	0	18
薬剤師	6	10	13	11	5	1	0	46
看護師	10	36	52	88	60	1	0	247
准看護師	2	5	17	32	46	5	0	107
理学療法士	12	8	3	1	1	0	0	25
作業療法士	12	11	5	1	0	0	0	29
言語聴覚士	1	2	0	0	0	0	0	3

【各職種の性別構成】

- 医師、歯科医師、理学療法士において男性の方が多く、看護師、准看護師においてほとんどが女性である。薬剤師、作業療法士は男女が同程度である。

図表 4-2 回答者の性別構成



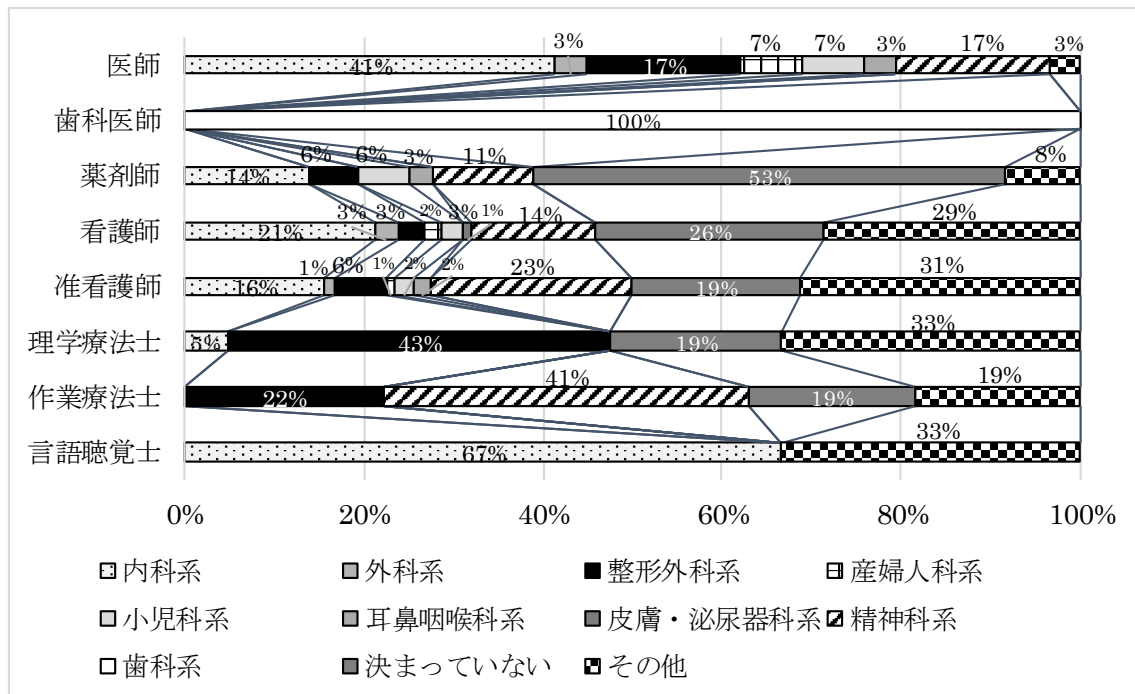
(単位：人)

	男性	女性	回答者数
医師	24	8	32
歯科医師	16	2	18
薬剤師	24	22	46
看護師	5	242	247
准看護師	4	103	107
理学療法士	17	8	25
作業療法士	14	15	29
言語聴覚士	1	2	3

【各職種の主たる診療科構成】

- 医師は内科系、整形外科系、精神科系の順に多い。
- 医師、歯科医師以外は「決まっていない」「その他」が多く、30～50%程度を占めている。

図表 4-3 回答者の主たる診療科



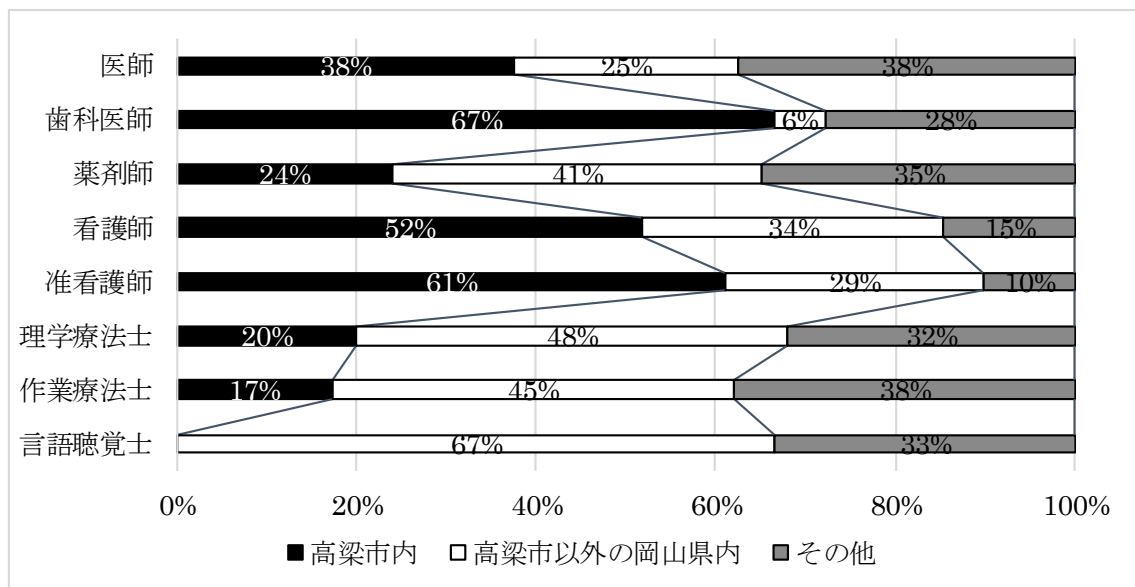
(単位：人)

	内科系	外科系	整形外科系	産婦人科系	小児科系	耳鼻咽喉科系	皮膚・泌尿器科系	精神科系	歯科系	決まっていない	その他	回答者数
医師	12	1	5	2	2	1	0	5	0	0	1	29
歯科医師	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	17
薬剤師	5	0	2	0	2	1	0	4	0	19	3	36
看護師	49	6	7	4	6	0	2	32	0	59	66	231
准看護師	16	1	6	1	2	2	0	23	0	19	32	102
理学療法士	1	0	9	0	0	0	0	0	0	4	7	21
作業療法士	0	0	6	0	0	0	0	11	0	5	5	27
言語聴覚士	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3

【出身地】

- 歯科医師、看護師、准看護師では高梁市出身が 50%を超えており、その他の職種では高梁市出身は 40%以下である。
- 全ての職種において、岡山県外出身者が一定数いる。

図表 4-4 回答者の出身地



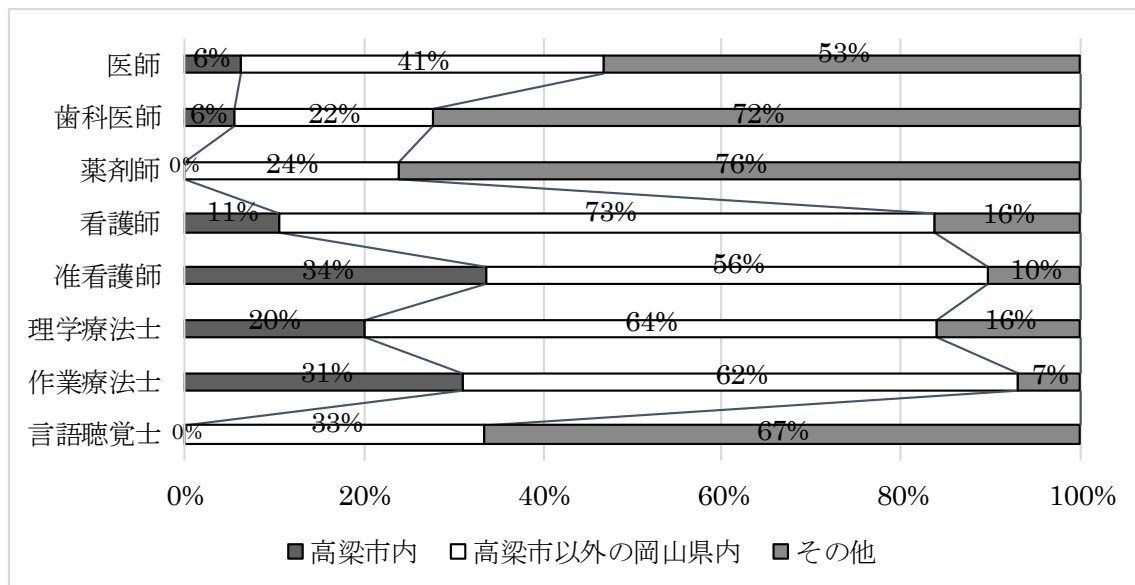
(単位：人)

	高梁市内	高梁市以外の岡山県内	その他	回答者数
医師	12	8	12	32
歯科医師	12	1	5	18
薬剤師	11	19	16	46
看護師	128	83	36	247
准看護師	66	31	11	108
理学療法士	5	12	8	25
作業療法士	5	13	11	29
言語聴覚士	0	2	1	3

【出身校の地域】

- 医師、歯科医師、薬剤師、言語聴覚士は岡山県外の学校出身者が 50%を超えている。
- 看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士は高梁市以外の岡山県内の学校出身者が多く、高梁市内の学校出身者も一定数いる。

図表 4-5 回答者の出身校（現職の資格を取った学校）地域



(単位：人)

	高梁市内	高梁市以外の岡山県内	その他	回答者数
医師	2	13	17	32
歯科医師	1	4	13	18
薬剤師	0	11	35	46
看護師	26	179	40	245
准看護師	36	60	11	107
理学療法士	5	16	4	25
作業療法士	9	18	2	29
言語聴覚士	0	1	2	3

- 医師は岡山県外出身者が比較的多い。
- 歯科医師は「高梁市内出身で岡山県外の学校出身」が 50%を超えている。
- 看護師及び准看護師は「高梁市内出身で高梁市以外の岡山県内の学校出身」が多い。
- 准看護師は「高梁市内出身で高梁市内の学校出身」が 25%だが、他の職種では総じて 10%を下回っている。
- リハ職は出身地も出身校も「高梁市以外の岡山県内」が多い。

図表 4-6 回答者の出身校地域（出身地別集計）

1 位	2 位	3 位
-----	-----	-----

	出身地	高梁市内			岡山県内 高梁市以外の			その他			回答者数（人）
	出身校	高梁市内	岡山県内 高梁市以外の	その他	高梁市内	岡山県内 高梁市以外の	その他	高梁市内	岡山県内 高梁市以外の	その他	
医師		6%	<u>19%</u>	<u>13%</u>	0%	<u>13%</u>	<u>13%</u>	0%	9%	28%	32
歯科医師		6%	6%	56%	0%	0%	6%	0%	<u>17%</u>	<u>11%</u>	18
薬剤師		0%	2%	<u>22%</u>	0%	13%	28%	0%	9%	<u>26%</u>	46
看護師		<u>8%</u>	37%	7%	1%	<u>29%</u>	3%	2%	7%	6%	245
准看護師		<u>25%</u>	32%	5%	6%	<u>21%</u>	2%	3%	4%	4%	107
理学療法士		4%	<u>16%</u>	0%	0%	44%	4%	<u>16%</u>	4%	12%	25
作業療法士		7%	7%	3%	10%	31%	3%	<u>14%</u>	<u>24%</u>	0%	29
言語聴覚士		0%	0%	0%	0%	33%	33%	0%	0%	33%	3

【高梁で働く理由】

- 高梁市で働く理由は、自身や家族・親戚の出身地だからという理由が最も多いが、職種によってやや傾向が異なる。
 - 医師においては、「高梁市に貢献したい」が2位である。
 - 理学療法士においては、「高梁市に貢献したい」「地域医療に興味がある」「勤務先の労働環境が良い」「勤務先の給与・福利厚生が良い」といった理由が上位を占めている。

図表 4-7 高梁市で働く理由

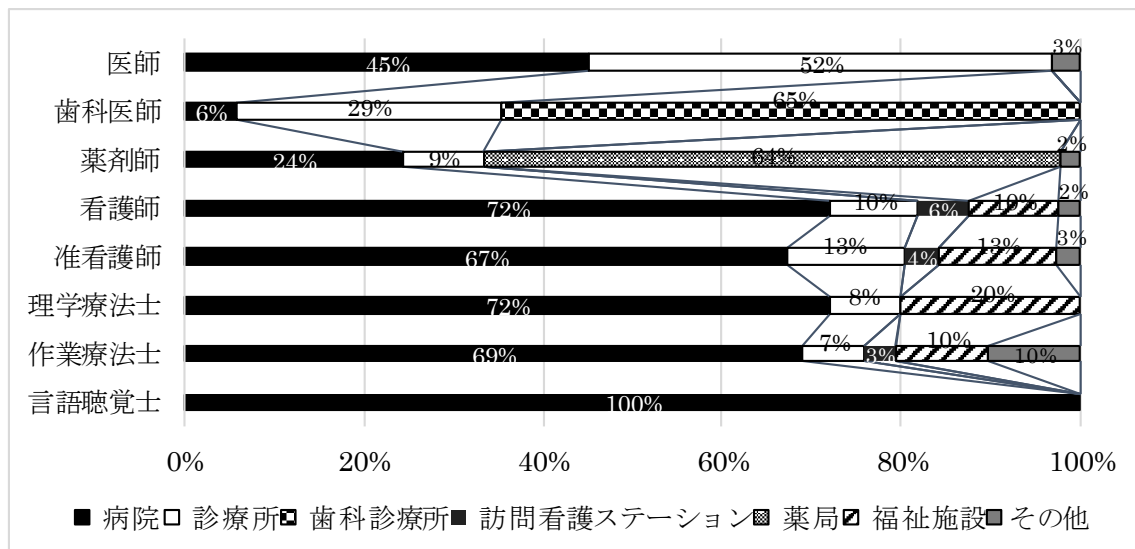
	1位			2位			3位					
	高梁市が自身の出身地なので	高梁市が家族・親戚の出身地なので	高梁市に知人がいるので	高梁市に有名な先生がいるので	勤務先の労働環境が良いので	勤務先の給与・福利厚生が良いので	地域医療に興味があるので	高梁市に貢献したいので	派遣を命じられたので	奨学金の義務年限があるので	その他	回答者数(人)
医師	34%	22%	6%	0%	9%	0%	13%	28%	16%	3%	16%	32
歯科医師	61%	50%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	0%	18
薬剤師	20%	20%	0%	0%	9%	7%	0%	2%	24%	0%	31%	46
看護師	34%	28%	6%	0%	4%	2%	2%	2%	0%	2%	34%	247
准看護師	44%	22%	7%	0%	8%	0%	2%	4%	1%	1%	25%	108
理学療法士	16%	8%	12%	0%	20%	20%	24%	28%	16%	0%	20%	25
作業療法士	14%	10%	10%	0%	38%	14%	10%	7%	0%	0%	41%	29
言語聴覚士	0%	0%	0%	0%	33%	67%	0%	0%	0%	0%	33%	3

※その他の理由…高梁市で結婚したので、家が近かったなので、等

【勤務先の施設種類】

- 医師においては、病院が 45%、診療所が 52%となっている。
- 歯科医師においては、歯科診療所が 65%、診療所が 29%となっている。
- 薬剤師においては、薬局が 64%であるが、病院が 24%となっている。
- 看護師、准看護師においては、病院が大半を占めており、次いで診療所と福祉施設が同程度、その次が訪問看護ステーションとなっている。
- 理学療法士、作業療法士においては看護師、准看護師と近い傾向であり、言語聴覚士においてはすべて病院となっている。

図表 4-8 主に勤務している施設



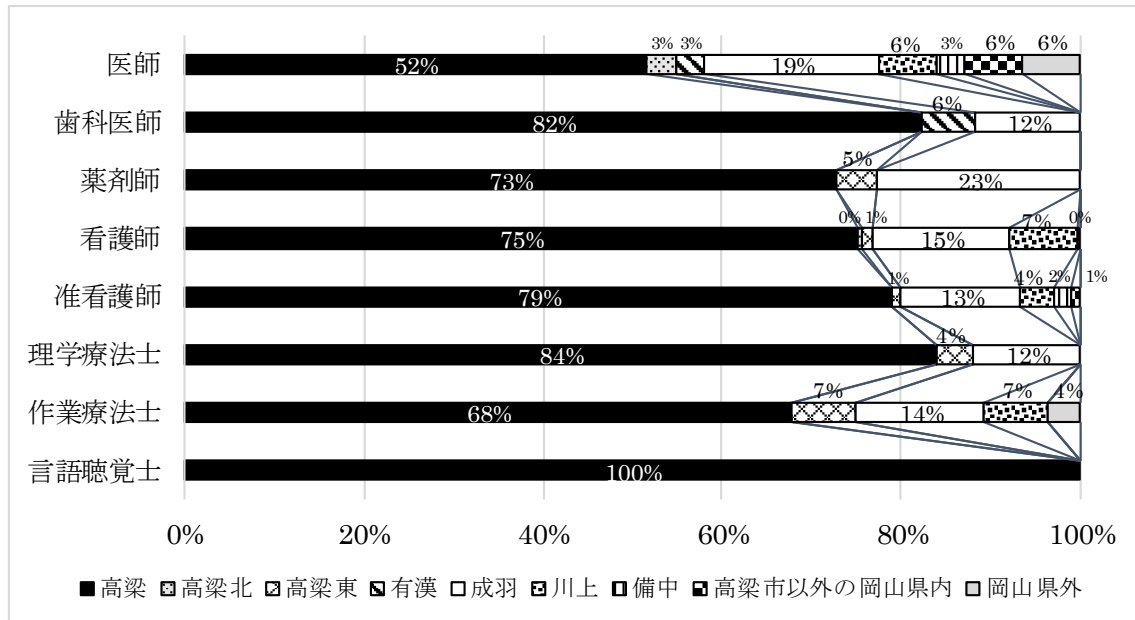
(単位：人)

	病院	診療所	診療所 歯科	訪問看護 ステーション	薬局	福祉施設	その他	回答者数
医師	14	16	0	0	0	0	1	31
歯科医師	1	5	11	0	0	0	0	17
薬剤師	11	4	0	0	29	0	1	45
看護師	178	24	0	14	0	25	6	247
准看護師	72	14	0	4	0	14	3	107
理学療法士	18	2	0	0	0	5	0	25
作業療法士	20	2	0	1	0	3	3	29
言語聴覚士	3	0	0	0	0	0	0	3

【勤務地域】

- すべての職種において、高梁地域が最も多く、次いで成羽地域となっている。
- 医師の勤務地域は比較的分散している。

図表 4-9 主に勤務している地域



(単位：人)

	高梁	高梁北	高梁東	有漢	成羽	川上	備中	高梁市以外の岡山県内	岡山県外	回答者数
医師	16	1	0	1	6	2	1	2	2	31
歯科医師	14	0	0	1	2	0	0	0	0	17
薬剤師	32	0	2	0	10	0	0	0	0	44
看護師	181	1	3	0	37	18	1	0	0	241
准看護師	83	0	1	0	14	4	2	1	0	105
理学療法士	21	0	1	0	3	0	0	0	0	25
作業療法士	19	0	2	0	4	2	0	0	1	28
言語聴覚士	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3

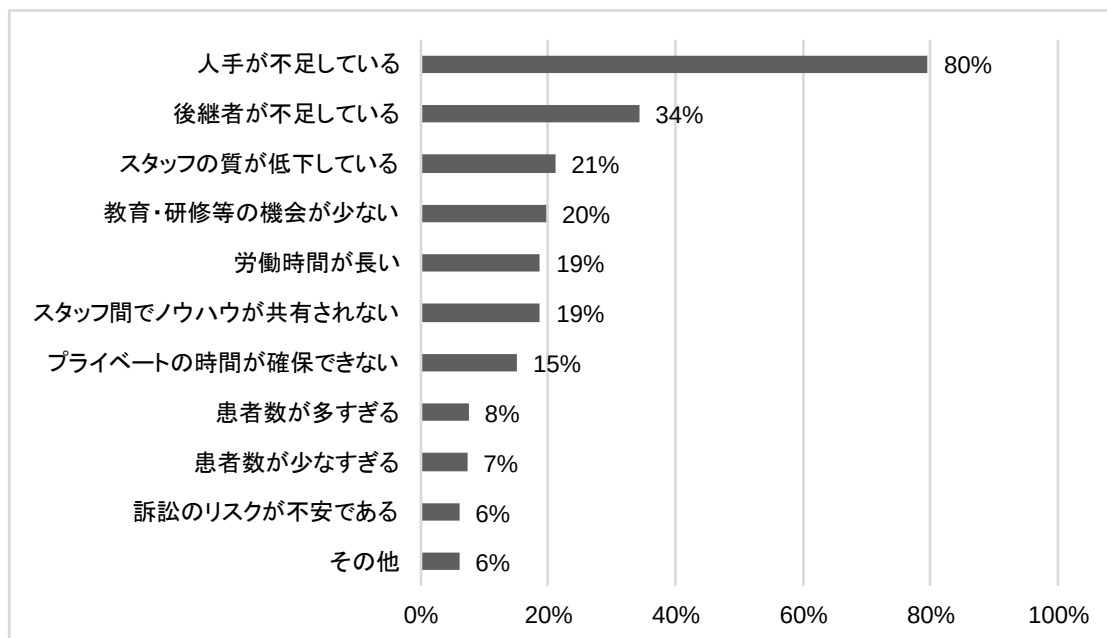
＜ 4. 3. 医療従事者の意識＞

4. 3. 1. 労働・教育環境

問 1 0 日常の勤務において、課題と感じていることがあれば教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- 日常の勤務において課題と感じていることに関して、「人手が不足している」が最も多く、78%の医療従事者が課題を感じている。
- 「後継者が不足している」が 34%で 2 番目に多い。

図表 4 - 1 0 日常の勤務において、課題と感じていること

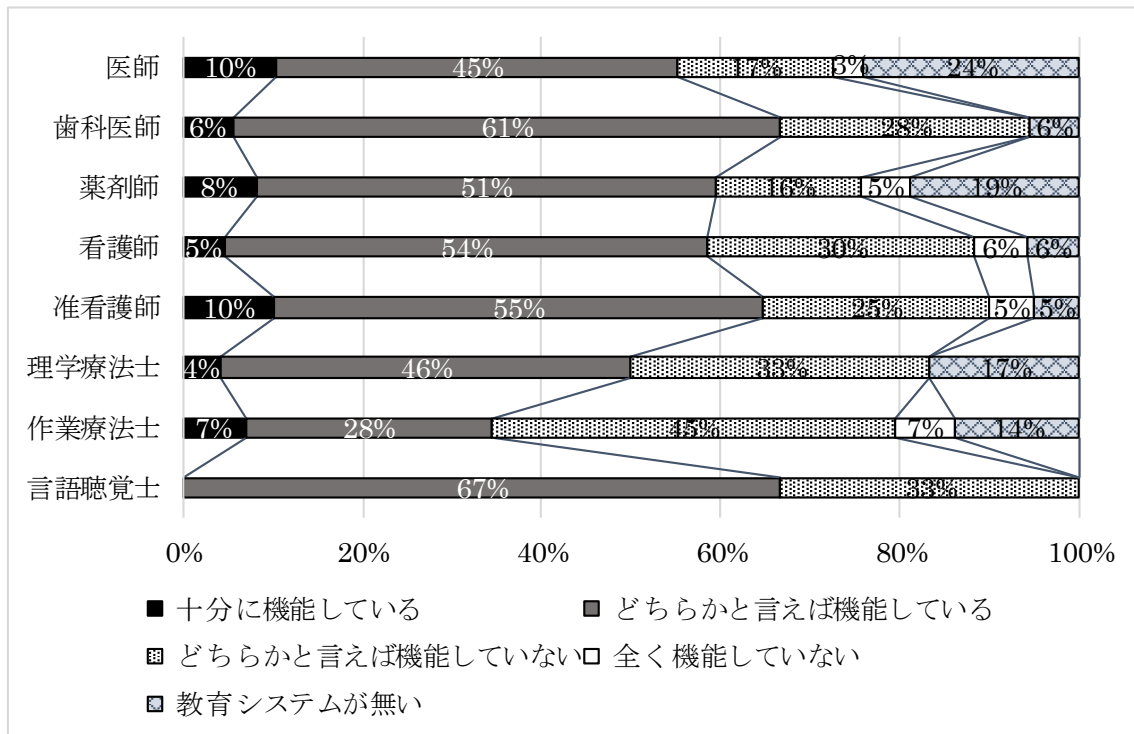


（回答者数：464 人）

問 1 1 勤務先の教育システムについて、どう感じていますか。

- 勤務先の教育システムに関しては、作業療法士及び理学療法士を除いた職種においては「十分に機能している」「どちらかと言えば機能している」が「どちらかと言えば機能していない」「全く機能していない」「教育システムが無い」を上回っている。

図表 4-1 1 勤務先の教育システムに関する認識



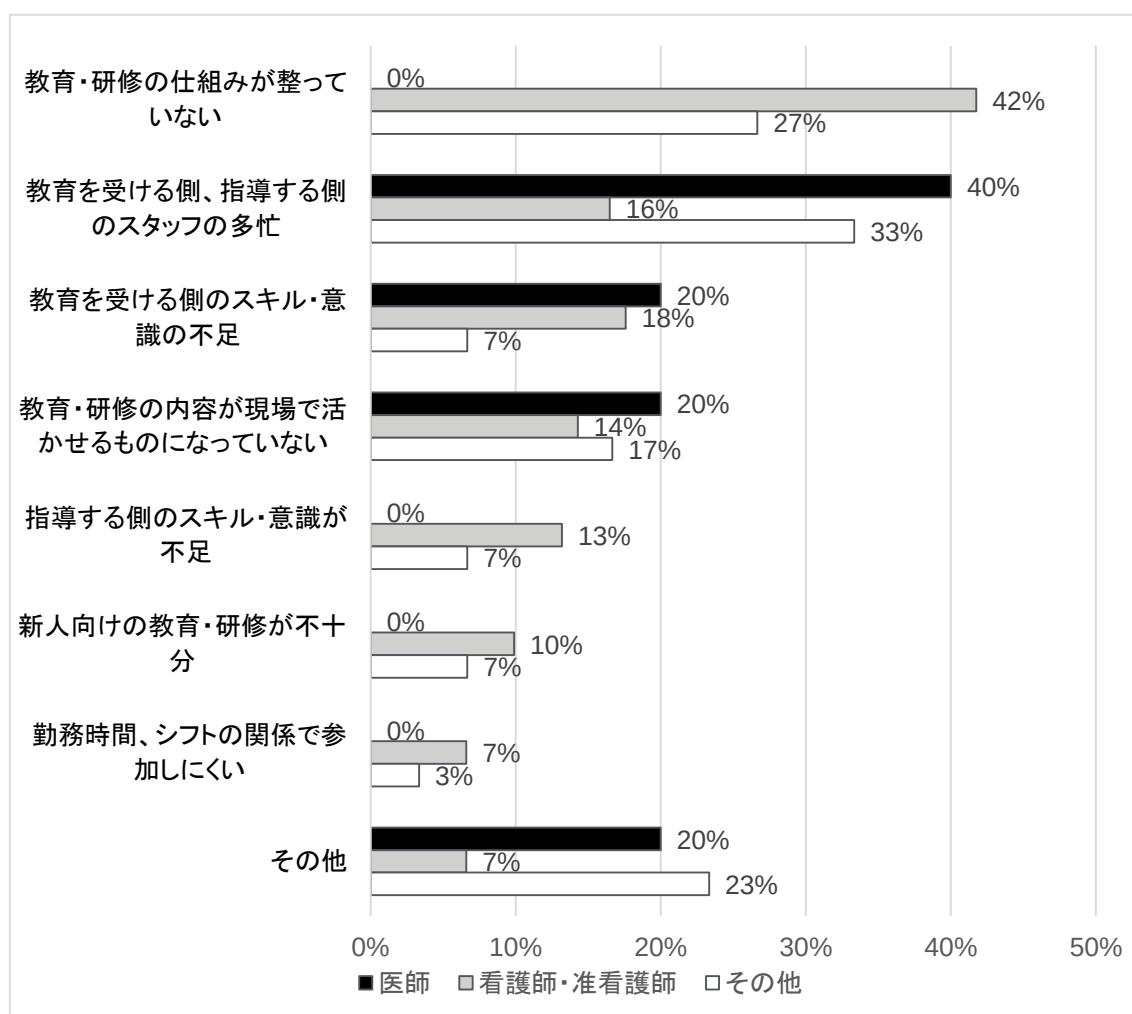
(単位：人)

	十分に機能している	どちらかと言えば機能している	どちらかと言えば機能していない	全く機能していない	教育システムが無い	回答者数
医師	3	13	5	1	7	29
歯科医師	1	11	5	0	1	18
薬剤師	3	19	6	2	7	37
看護師	11	129	71	14	14	239
准看護師	10	54	25	5	5	99
理学療法士	1	11	8	0	4	24
作業療法士	2	8	13	2	4	29
言語聴覚士	0	2	1	0	0	3

問 1 2 教育システムが機能していないと感じる理由を教えてください。
(自由記述)

- 医師においては、多忙であることを挙げるコメントの割合が最多で、4割程度を占めている。次いで、教育を受ける側のスキル・意識の不足を挙げるコメントと教育・研修の内容が現場で活かせるものになっていないことを挙げるコメントがそれぞれ2割程度を占めている。
- 看護師・准看護師においては、教育・研修の仕組みが整っていないことを挙げるコメントが最多で、4割程度を占めている。次いで、教育を受ける側のスキル・意識の不足を挙げるコメント、多忙であることを挙げるコメント、教育・研修の内容が現場で活かせるものになっていないことを挙げるコメントの割合がそれぞれ2割程度を占めている。
- その他専門職においては、多忙であることを挙げるコメントが最多で、3割程度を占めている。次いで、教育・研修の仕組みが整っていないことを挙げるコメントも3割程度を占めている。

図表 4-12 教育システムが機能していないと感じる理由
(自由記述の傾向分析)

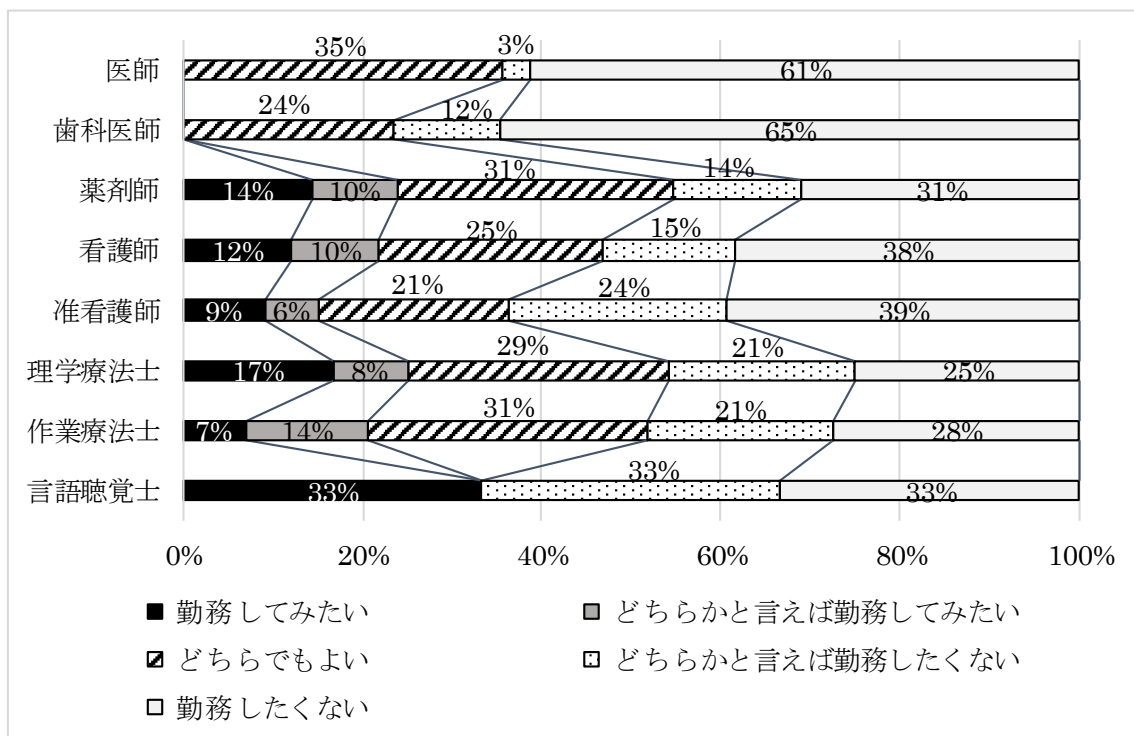


(回答者数：医師 5 人、看護師・准看護師 91 人、その他 30 人)

問 1 3 出向等で、市内の他の医療機関で勤務してみたいと思いますか。

- 市内の他医療機関での勤務への意向に関しては、全ての職種において「どちらかと言えば勤務したくない」「勤務したくない」が「勤務してみたい」「どちらかと言えば勤務してみたい」を上回っている。
- 医師及び歯科医師においては、肯定的な意見が全く見られない。
- 一方で、医師、歯科医師以外の専門職においては一定の関心があることがうかがわれる。

図表 4-1 3 出向等で市内の他の医療機関で勤務することへの意向



4. 医療従事者アンケート調査結果

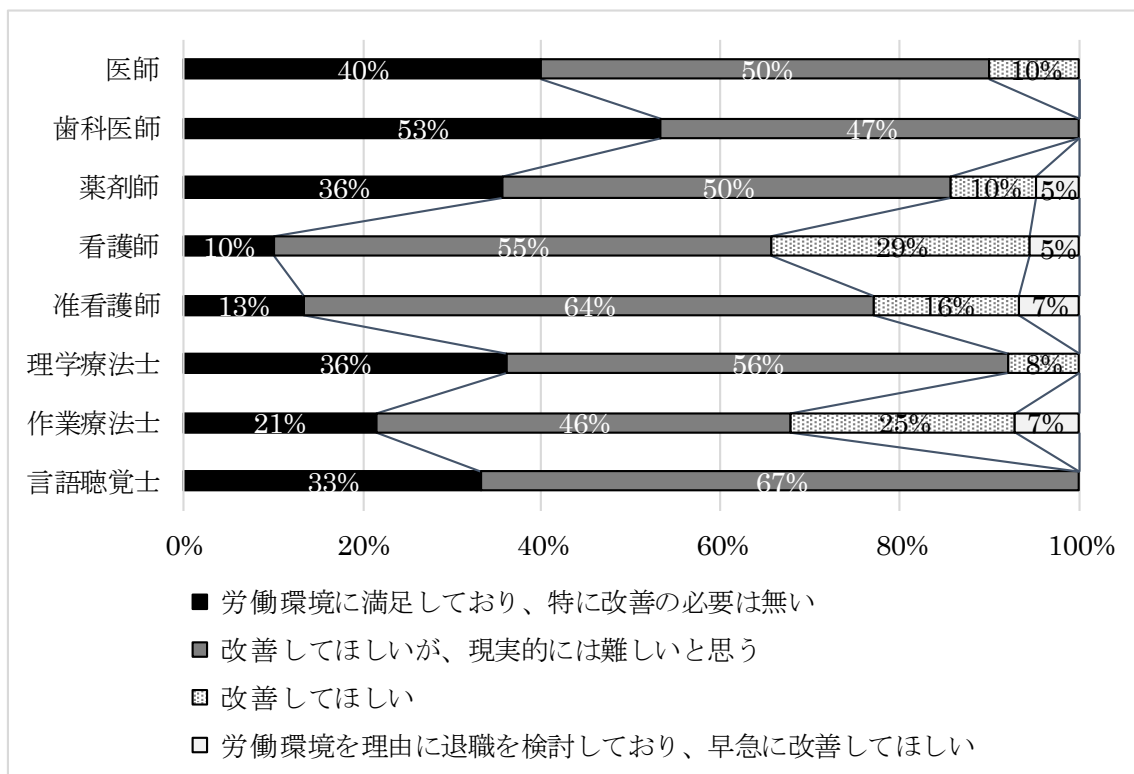
(単位：人)

	勤務してみたい	どちらかと言えば勤務してみたい	どちらでもよい	どちらかと言えば勤務したくない	勤務したくない	回答者数
医師	0	0	11	1	19	31
歯科医師	0	0	4	2	11	17
薬剤師	6	4	13	6	13	42
看護師	29	23	60	35	92	239
准看護師	9	6	21	24	39	99
理学療法士	4	2	7	5	6	24
作業療法士	2	4	9	6	8	29
言語聴覚士	1	0	0	1	1	3

問 1 4 あなたの現在の労働環境について教えてください。

- 全般的に「改善してほしいが、現実的には難しいと思う」の割合が最も高く、歯科医師を除く全職種で最多となっている。
- 看護師及び准看護師においては、「労働環境に満足しており、特に改善の必要はない」が10%程度と顕著に少なく、「改善してほしい」「労働環境を理由に退職を検討しており、早急に改善してほしい」が多い。労働環境の改善を求めている割合が高かった。

図表 4-1 4 現在の労働環境



4. 医療従事者アンケート調査結果

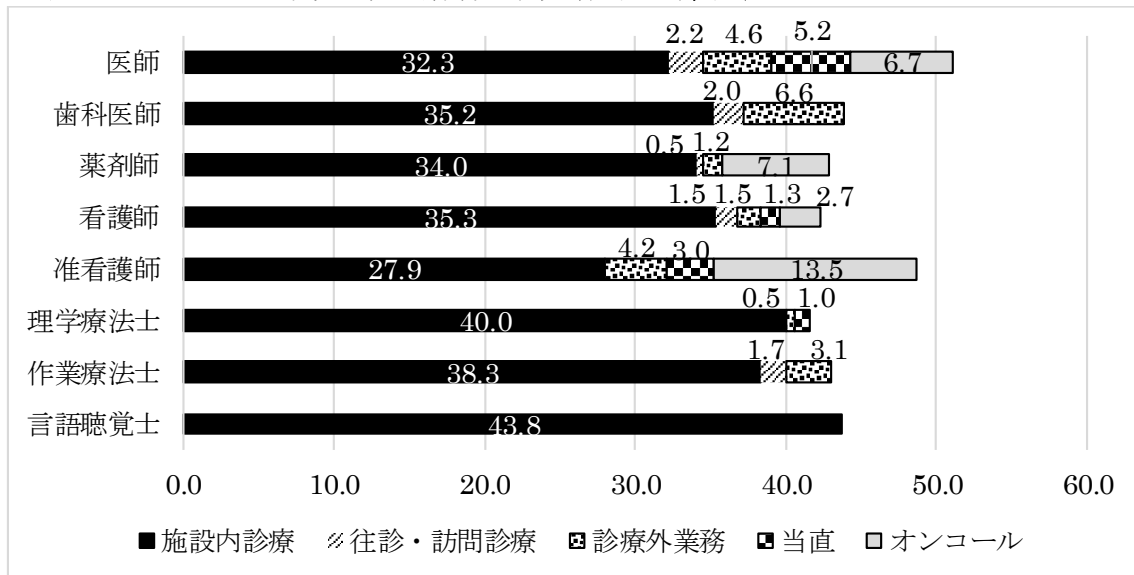
(単位：人)

	労働環境に満足しており、特に改善の必要は無い	改善してほしいが、現実的には難しいと思う	改善してほしい	労働環境を理由に退職を検討しており、早急に改善してほしい	回答者数
医師	12	15	3	0	30
歯科医師	8	7	0	0	15
薬剤師	15	21	4	2	42
看護師	24	132	69	13	238
准看護師	14	67	17	7	105
理学療法士	9	14	2	0	25
作業療法士	6	13	7	2	28
言語聴覚士	1	2	0	0	3

問 1 5 あなたの1週間の勤務時間について教えてください。

- 1週間の勤務時間を平均すると、医師及び准看護師の勤務時間が長く、他職種より5時間程度多くなっている。
- 往診・訪問診療にかけている時間は、最多の医師で週に2.2時間となっている。
- 医師の診療外業務、当直、オンコールを合わせると週に16.5時間となっている。
- 薬剤師及び准看護師において、オンコールが長くなっている。

図表 4-1 5 1週間の平均勤務時間（職種別集計）



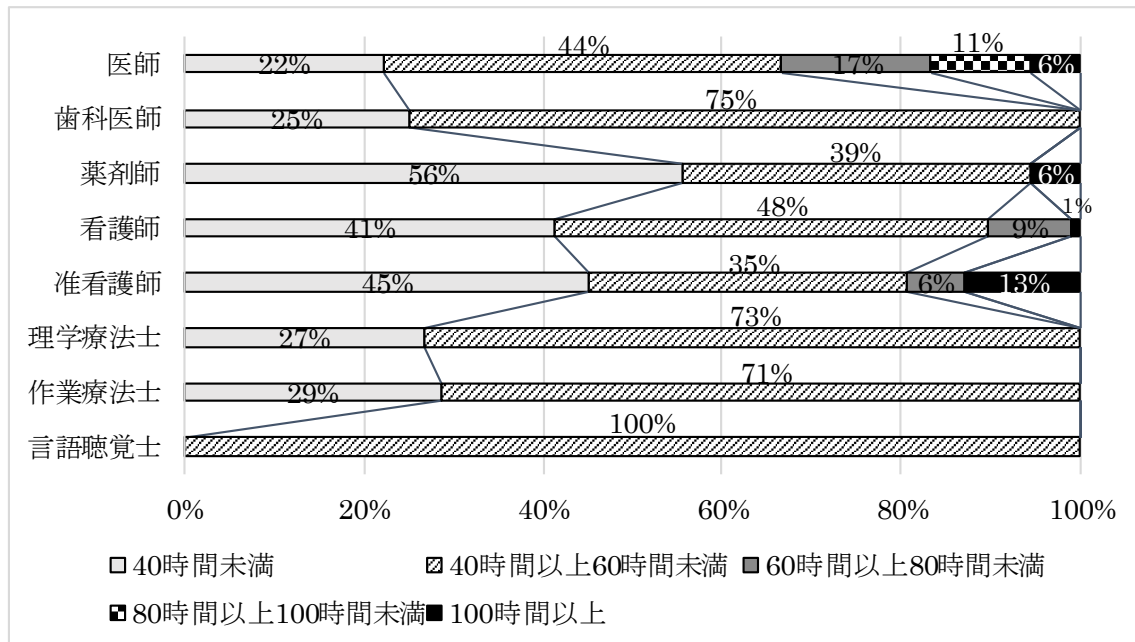
4. 医療従事者アンケート調査結果

(単位：時間)

	施設内 診療	往診・ 訪問診 療	診療外 業務	当直	オンコ ール	合計	回答者数 (人)
医師	32.3	2.2	4.6	5.2	6.7	51.1	18
歯科医師	36.0	1.8	6.1	0.0	0.0	43.8	12
薬剤師	34.0	0.5	1.2	0.0	7.1	42.9	18
看護師	35.3	1.5	1.5	1.3	2.7	42.3	97
准看護師	27.9	0.0	4.2	3.0	13.5	48.7	31
理学療法士	40.0	0.0	0.5	1.0	0.0	41.5	15
作業療法士	38.3	1.7	3.1	0.0	0.0	43.1	14
言語聴覚士	43.8	0.0	0.0	0.0	0.0	43.8	2

- 1週間の勤務時間に関して、歯科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士は回答者全てが60時間未満である一方、医師では60時間以上勤務している人の割合が30%を超えており、80時間以上勤務している人も17%存在している。

図表 4-16 1週間の勤務時間（職種別集計）

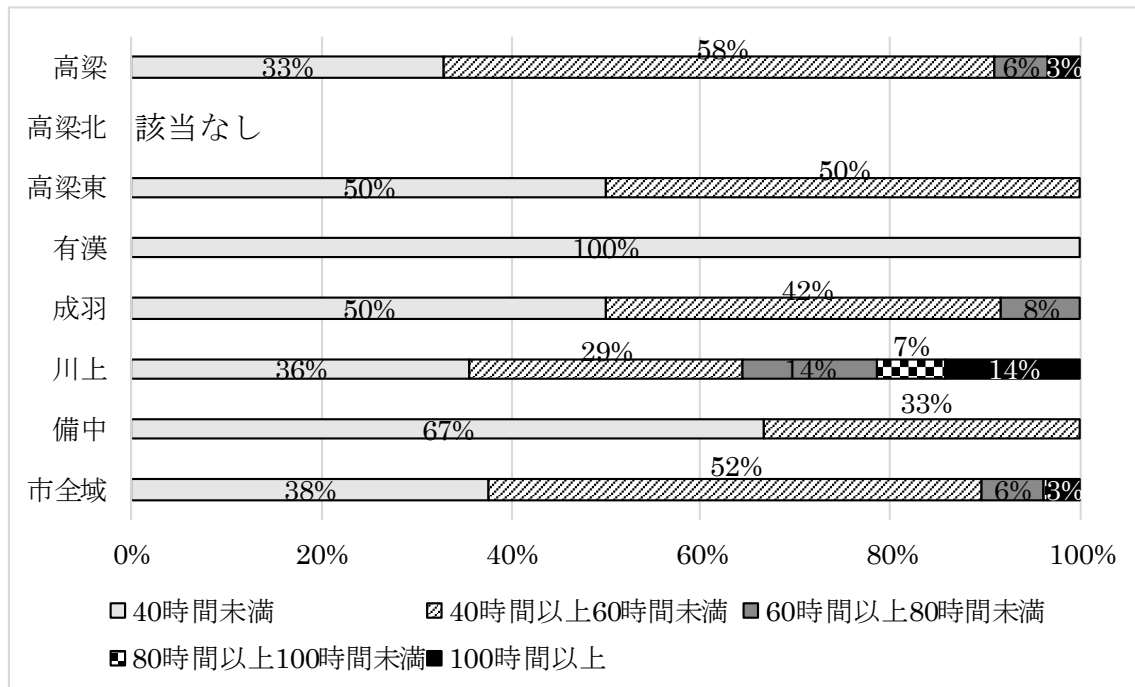


(単位：人)

	40 時間 未満	40 時間 以上 60 時間 未 満	60 時間 以上 80 時間 未 満	80 時間 以上 100 時間未満	100 時間 以上	回答者数
医師	4	8	3	2	1	18
歯科医師	3	9	0	0	0	12
薬剤師	10	7	0	0	1	18
看護師	40	47	9	0	1	97
准看護師	14	11	2	0	4	31
理学療法士	4	11	0	0	0	15
作業療法士	4	10	0	0	0	14
言語聴覚士	0	2	0	0	0	2

- 高梁地域及び成羽地域では 60 時間以上勤務している人の割合が約 10%であり、川上地域では 35%である。
- 他の地域では、回答者全て 60 時間未満の勤務である。

図表 4-17 1 週間の勤務時間（勤務地域別集計）



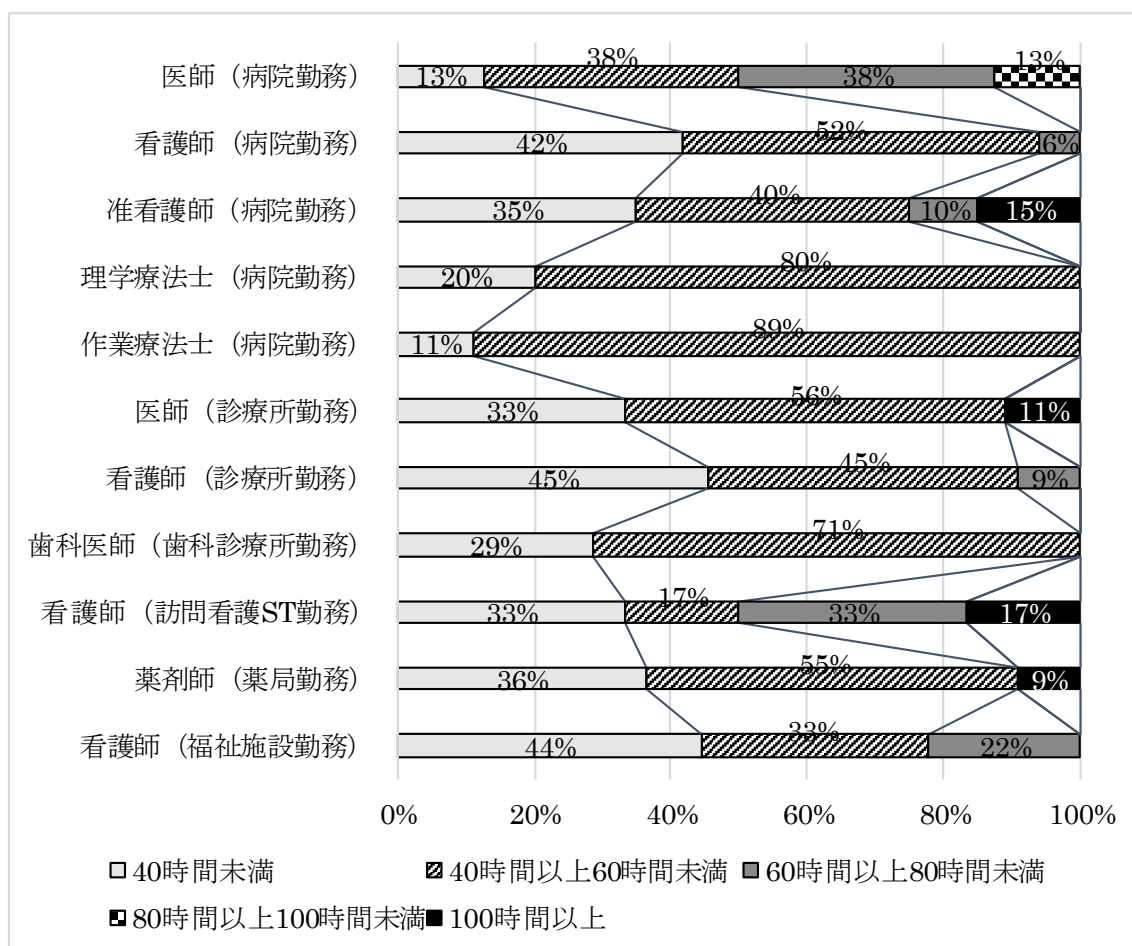
（単位：人）

	40 時間 未満	40 時間 以上 60 時間未満	60 時間 以上 80 時間未満	80 時間 以上 100 時間未満	100 時間 以上	回答者数
高梁	47	83	8	0	5	143
高梁北	0	0	0	0	0	0
高梁東	2	2	0	0	0	4
有漢	2	0	0	0	0	2
成羽	18	15	3	0	0	36
川上	5	4	2	1	2	14
備中	2	1	0	0	0	3
市全域	76	105	13	1	7	202

- 病院勤務の医師と、訪問看護ステーション勤務の看護師は、約 50%が週 60 時間以上勤務している。
- 病院勤務の理学療法士及び作業療法士は、病院勤務の他の職種と比較して勤務時間が短い。

図表 4-18 1 週間の勤務時間（職種、勤務施設別集計）

※回答者数が 6 人以上となる属性のみ抽出



4. 医療従事者アンケート調査結果

(単位：人)

	40 時間 未満	40時間以 上 60 時 間未満	60時間以 上 80 時 間未満	80時間以 上 100 時 間未満	100 時間 以上	回答者数
医師 (病院勤務)	1	3	3	1	0	8
看護師 (病院勤務)	28	35	4	0	0	67
准看護師 (病院勤務)	7	8	2	0	3	20
理学療法士 (病院勤務)	2	8	0	0	0	10
作業療法士 (病院勤務)	1	8	0	0	0	9
医師 (診療所勤務)	3	5	0	0	1	9
看護師 (診療所勤務)	5	5	1	0	0	11
歯科医師 (歯科診療所勤務)	2	5	0	0	0	7
看護師 (訪問看護 ST 勤務)	2	1	2	0	1	6
薬剤師 (薬局勤務)	4	6	0	0	1	11
看護師 (福祉施設勤務)	4	3	2	0	0	9

4. 3. 2. 多職種連携

問 1 8 あなたの職種と連携が不足していると感じる職種を教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- 医師以外のすべての職種において、医師との連携不足が1位または2位となっている。一方で、医師においては、「特にない」が1位となっている。
- 看護師との連携不足を挙げる声も多く、特に准看護師が看護師との連携不足を1位に挙げている。一方で、看護師においては、医師、看護師、医療ソーシャルワーカーとの連携が不足していると感じている。
- 医師、看護師に次いで、ケアマネジャーとの連携不足を指摘する声が多い。

図表 4-19 自分の職種と連携が不足していると感じる職種

1 位	2 位	3 位
-----	-----	-----

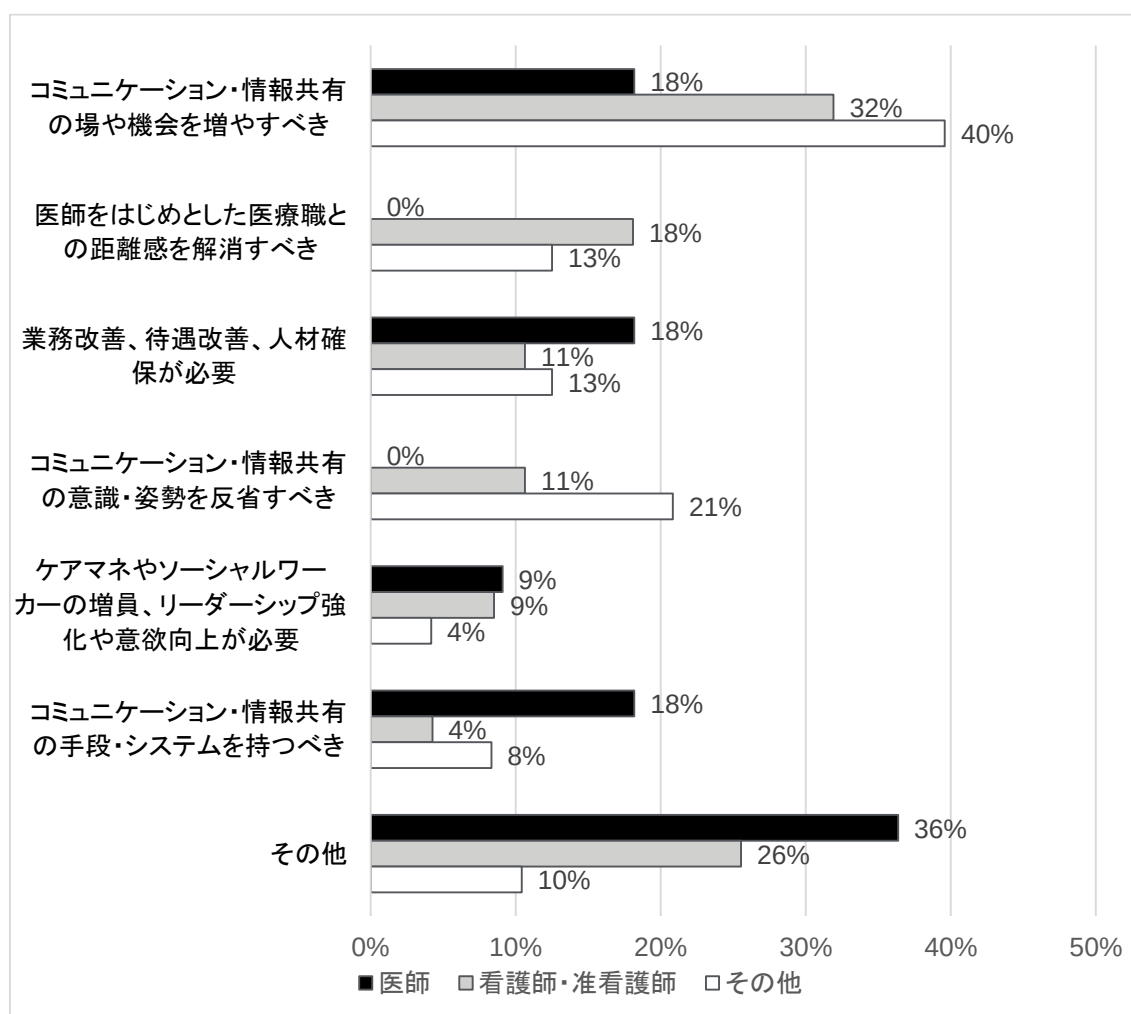
		対象職種							
		医師	歯科医師	薬剤師	看護師	准看護師	保健師	理学療法士	作業療法士
回答者職種	医師	16%	12%	8%	16%	8%	<u>20%</u>	16%	16%
	歯科医師	56%	13%	25%	<u>44%</u>	13%	13%	25%	19%
	薬剤師	56%	25%	8%	<u>39%</u>	14%	11%	22%	22%
	看護師	48%	11%	13%	<u>21%</u>	8%	14%	14%	14%
	准看護師	<u>43%</u>	1%	9%	47%	<u>30%</u>	6%	8%	9%
	理学療法士	40%	16%	<u>24%</u>	<u>24%</u>	0%	16%	8%	8%
	作業療法士	68%	4%	21%	<u>46%</u>	14%	11%	4%	11%
	言語聴覚士	<u>33%</u>	0%	0%	<u>33%</u>	0%	0%	0%	0%

		対象職種								回答者数（人）
		言語聴覚士	管理栄養士	医療ソーシャルワーカー	精神保健福祉士	ケアマネジャー	介護職	特にない	その他	
回答者職種	医師	16%	8%	4%	12%	<u>20%</u>	12%	44%	0%	25
	歯科医師	13%	19%	13%	13%	<u>31%</u>	<u>31%</u>	25%	0%	16
	薬剤師	17%	19%	25%	14%	<u>42%</u>	33%	25%	3%	36
	看護師	13%	11%	<u>20%</u>	13%	18%	10%	<u>20%</u>	3%	207
	准看護師	1%	8%	11%	6%	14%	26%	18%	0%	88
	理学療法士	8%	16%	24%	12%	40%	28%	20%	0%	25
	作業療法士	0%	4%	14%	11%	<u>32%</u>	21%	11%	0%	28
	言語聴覚士	0%	67%	0%	0%	<u>33%</u>	<u>33%</u>	<u>33%</u>	0%	3

問 1 9 問 1 8で選択した職種、あるいはあなたの職種において、多職種連携のために改善したほうが良いと思う点を教えてください。(自由記述)

- 医師においては、回答の傾向が分散したが、職種間の距離感の解消や、コミュニケーション・情報共有の意識・姿勢の反省を挙げるコメントは見られない。
- 看護師・准看護師においては、コミュニケーション・情報共有の場や機会を増やすべきとするコメントが最多で、3割程度を占めている。
- その他専門職においては、コミュニケーション・情報共有の場や機会を増やすべきとするコメントが最多で、4割程度を占めている。

図表 4-20 多職種連携のために改善したほうが良いと思う点
(自由記述の傾向分析)

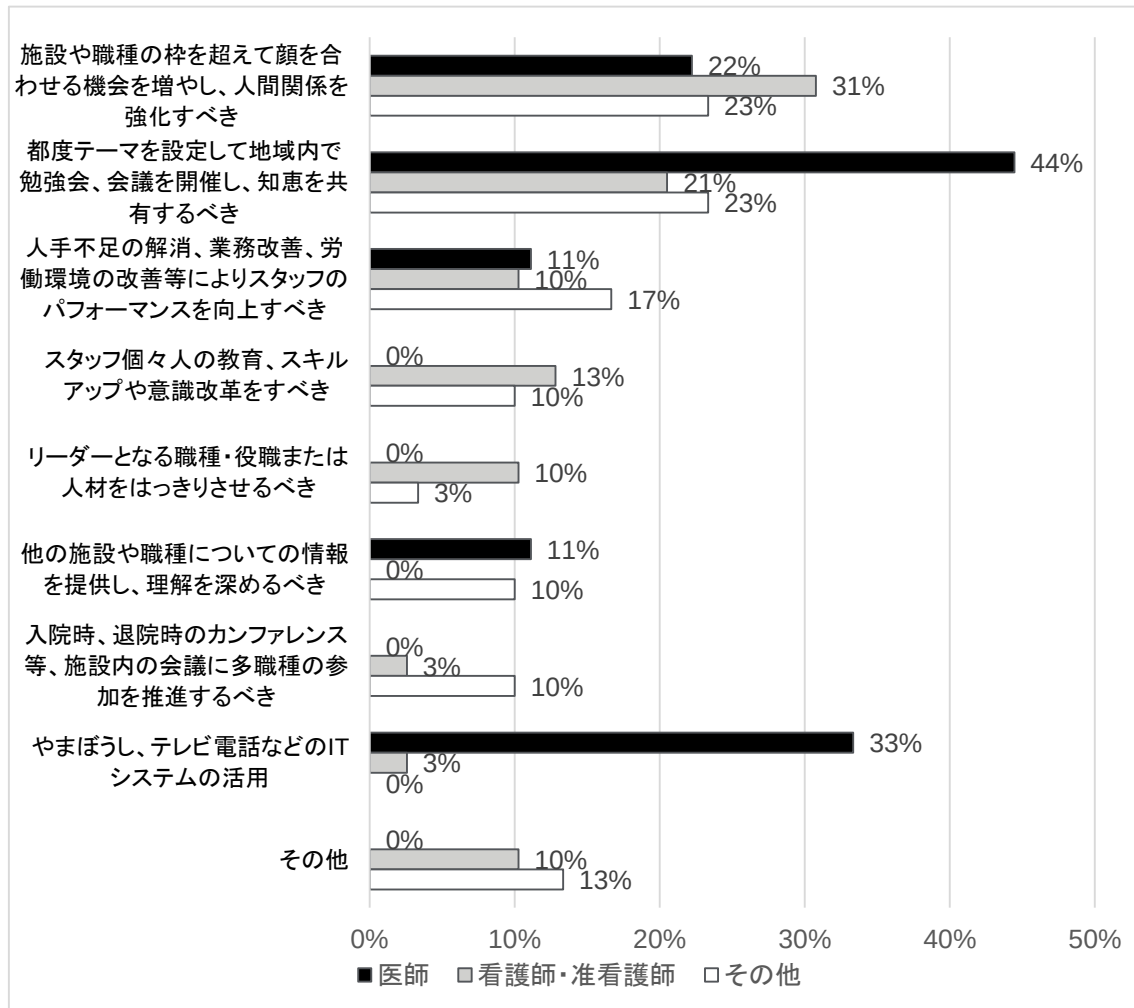


(回答者数：医師 11 人、看護師・准看護師 94 人、その他 48 人)

問 2 0 高梁市内の多職種連携促進のために、取り組むべきだと思うことがあれば教えてください。(自由記述)

- 医師においては、テーマを設定した勉強会を開催して知恵を共有すべきとするコメントが最多で、4割程度を占めている。次いで、ITシステムの活用を挙げるコメントが3割程度を占めている。
- 看護師・准看護師においては、顔を合わせる機会を増やして人間関係を強化すべきとするコメントが最多で、3割程度を占めている。
- その他専門職においては、テーマを設定した勉強会を開催して知恵を共有すべきとするコメントと顔を合わせる機会を増やして人間関係を強化すべきとするコメントがいずれも2割程度を占めている。

図表 4-2 1 多職種連携推進のために取り組むべきだと思うこと
(自由記述の傾向分析)

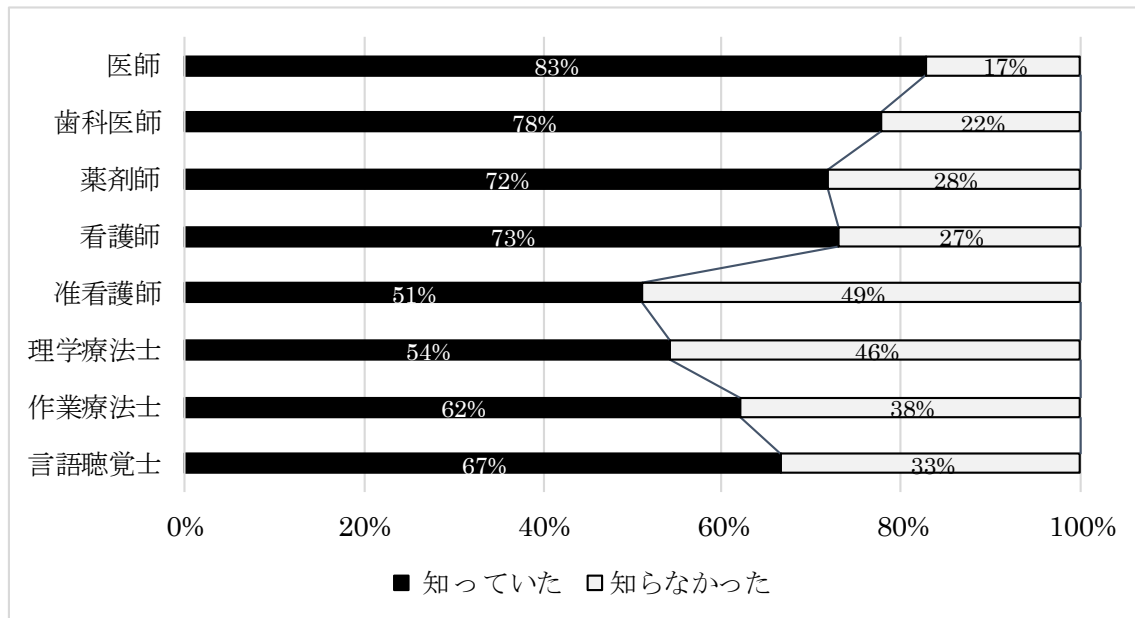


(回答者数：医師 9 人、看護師・准看護師 39 人、その他 30 人)

問 2 1 高梁市の情報共有サービス「やまぼうし」をご存知ですか。

- 「やまぼうし」の認知度に関しては、どの職種も認知度が 50%を超えているが、職種間での認知度に幅があり、医師では 80%を超えている一方、准看護師では 51%に留まっている。

図表 4-2 2 「やまぼうし」の認知度



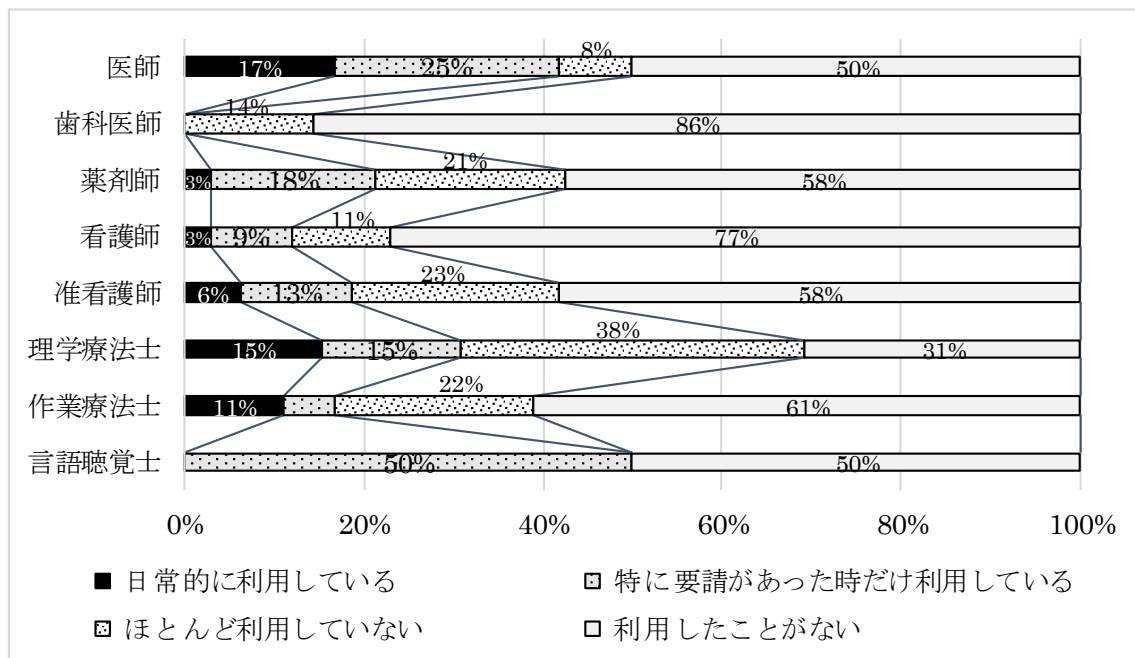
(単位：人)

	知っていた	知らなかった	回答者数
医師	24	5	29
歯科医師	14	4	18
薬剤師	33	13	46
看護師	168	62	230
准看護師	50	48	98
理学療法士	13	11	24
作業療法士	18	11	29
言語聴覚士	2	1	3

問 2 2 「やまぼうし」をどの程度利用していますか。

- 「やまぼうし」を「知っていた」と答えた人の中での使用頻度に関して、多くの職種で「ほとんど利用していない」「利用したことがない」が大半を占めている。

図表 4-2 3 「やまぼうし」の利用頻度



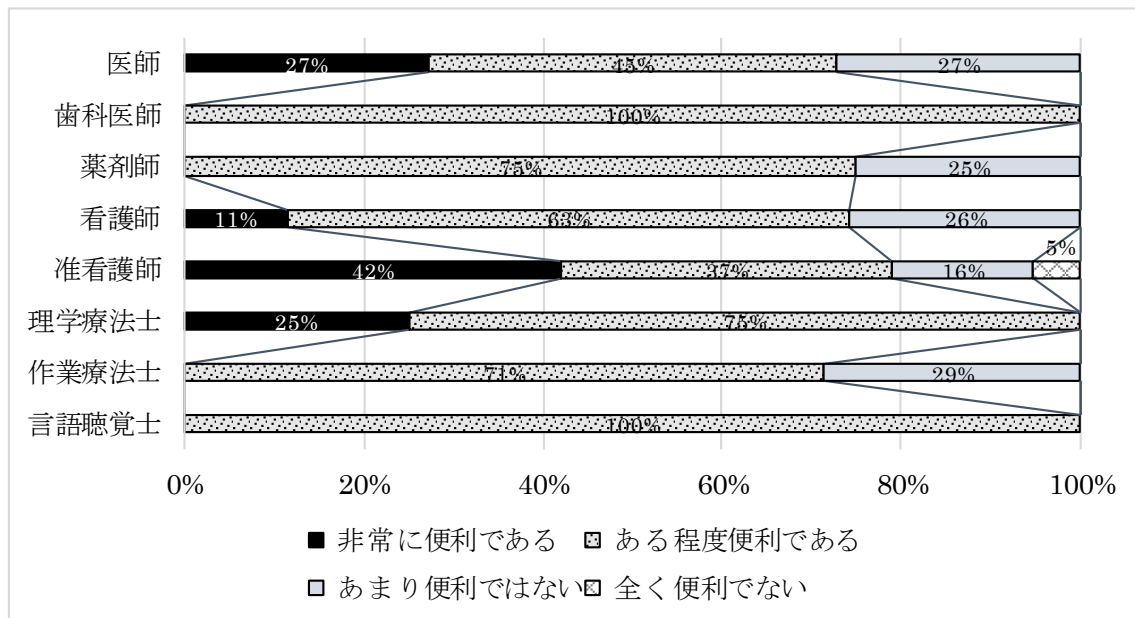
(単位：人)

	日常的に利用している	特に要請があった時だけ利用している	ほとんど利用していない	利用したことがない	回答者数
医師	4	6	2	12	24
歯科医師	0	0	2	12	14
薬剤師	1	6	7	19	33
看護師	5	15	18	128	166
准看護師	3	6	11	28	48
理学療法士	2	2	5	4	13
作業療法士	2	1	4	11	18
言語聴覚士	0	1	0	1	2

問 2 3 「やまぼうし」の使いやすさを教えてください。

- 「やまぼうし」を「日常的に利用している」「特に要請があった時だけ利用している」「ほとんど利用していない」と回答した人の使いやすさの認識に関しては、「非常に便利である」「ある程度便利である」が 50%以上を占めている。

図表 4-24 「やまぼうし」の使いやすさの認識



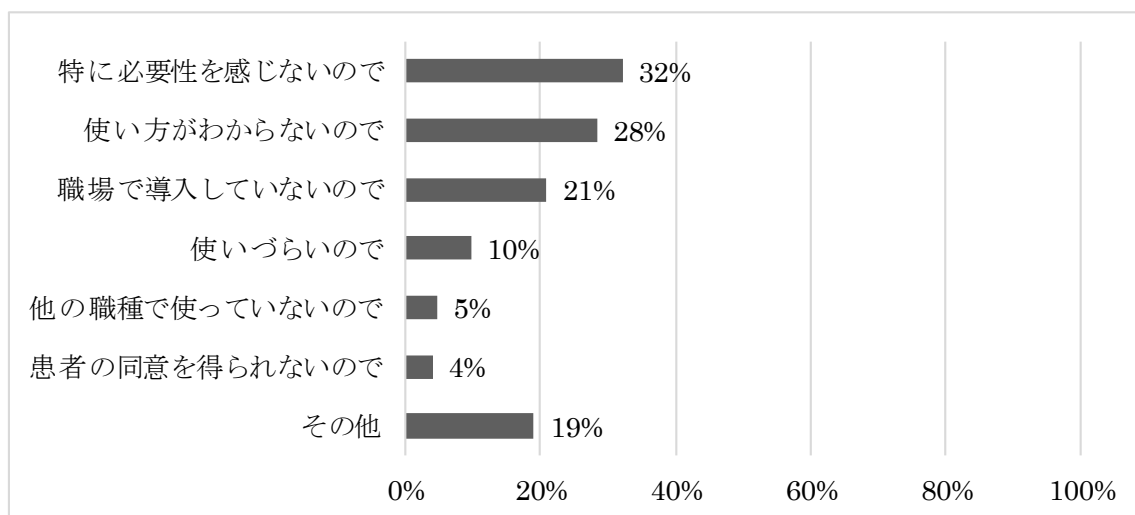
(単位：人)

	非常に便利 である	ある程度便 利である	あまり便利 ではない	全く便利で ない	回答者数
医師	3	5	3	0	11
歯科医師	0	2	0	0	2
薬剤師	0	9	3	0	12
看護師	4	22	9	0	35
准看護師	8	7	3	1	19
理学療法士	2	6	0	0	8
作業療法士	0	5	2	0	7
言語聴覚士	0	1	0	0	1

問 2 4 「やまぼうし」を使わない理由について教えてください。
(当てはまるもの全て選択)

- 「やまぼうし」を「特に要請があった時のみ利用している」「ほとんど利用していない」「利用したことがない」と回答した人の使わない理由に関しては、「特に必要性を感じないので」が最も多く、次いで「使い方がわからないので」「職場で導入していないので」が多い。

図表 4-25 「やまぼうし」を使わない理由

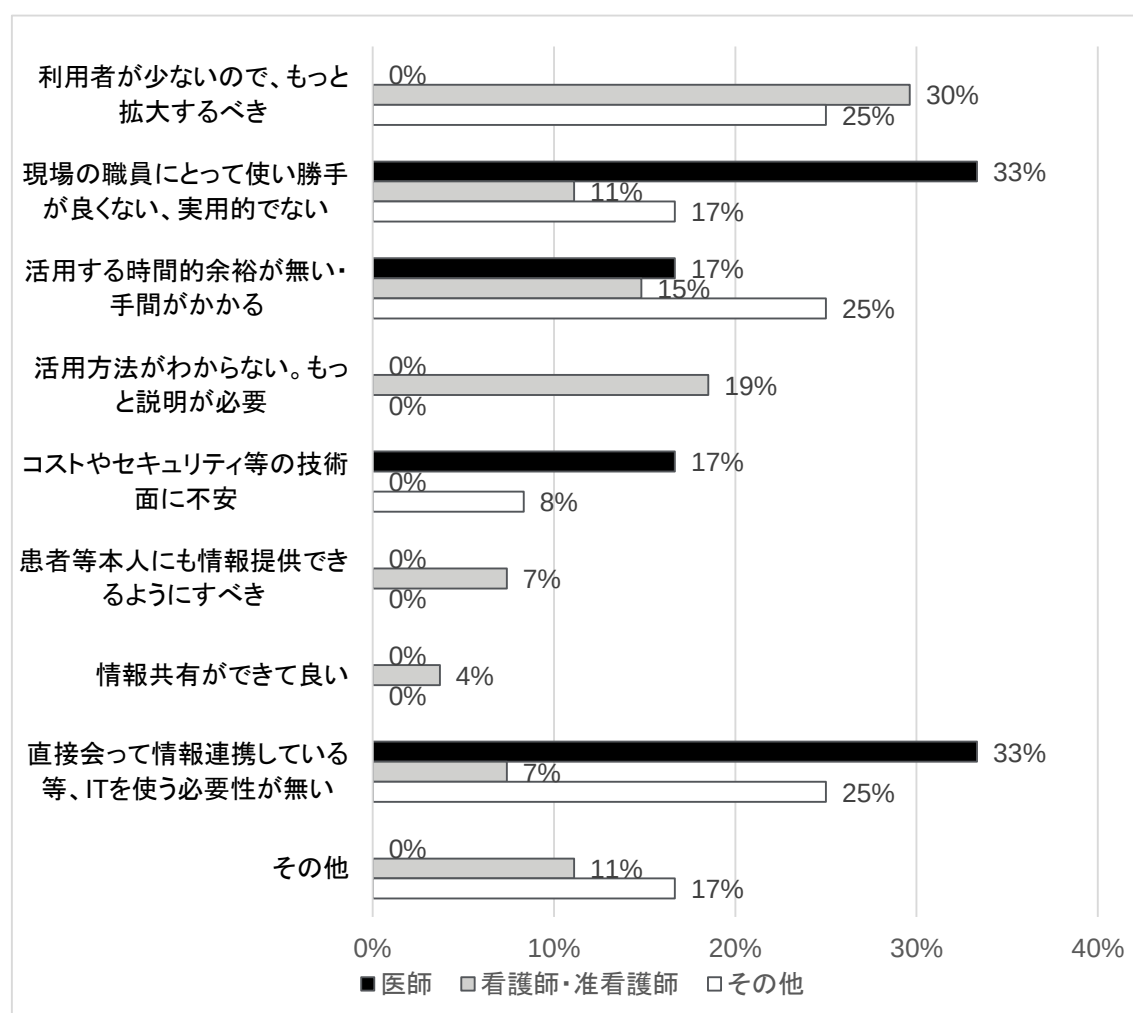


(回答者数 : 268 人)

問 2 5 「やまぼうし」について、ご意見がございましたらご記入ください。
(自由記述)

- 医師においては、実用的でないとするコメント、必要性がないとするコメントがいずれも 3 割程度を占めている。
- 看護師・准看護師においては、利用者が少ないのもっと拡大すべきとするコメントが最多で、3 割程度を占めている。次いで、活用方法がわからないのもっと説明が必要とするコメントが 2 割程度を占めている。
- その他専門職においては、利用者が少ないのもっと拡大すべきとするコメント、活用する時間的余裕がない・手間がかかるとするコメント、必要性がないとするコメントが同程度で、それぞれ 25%程度を占めている。

図表 4-26 「やまぼうし」についての意見（自由記述の傾向分析）



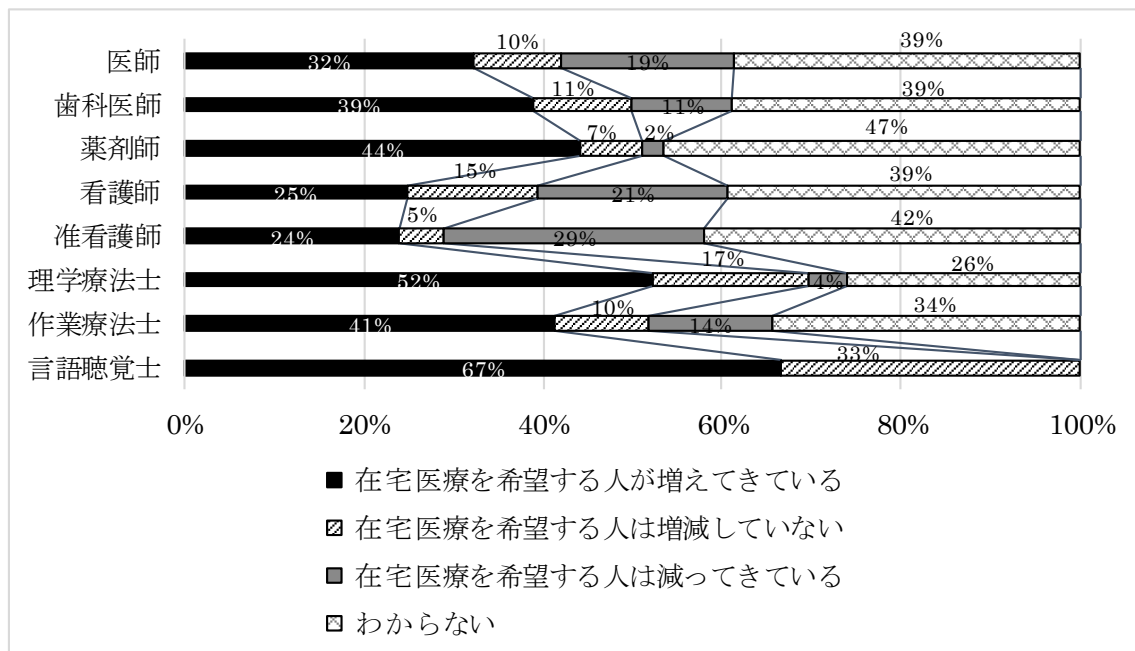
（回答者数：医師 6 人、看護師・准看護師 27 人、その他 12 人）

4. 3. 3. 在宅医療

問 2 6 在宅医療のニーズに関して、あなたの身の回りの状況を教えてください。

- 在宅医療のニーズに関する認識として、准看護師を除く職種は「在宅医療を希望する人が増えてきている」が「在宅医療を希望する人は減ってきている」を上回っているが、その割合については職種によるばらつきが大きい。
- ほとんどの職種で「わからない」も大きな割合を占めている。

図表 4-27 在宅医療のニーズに関する認識



4. 医療従事者アンケート調査結果

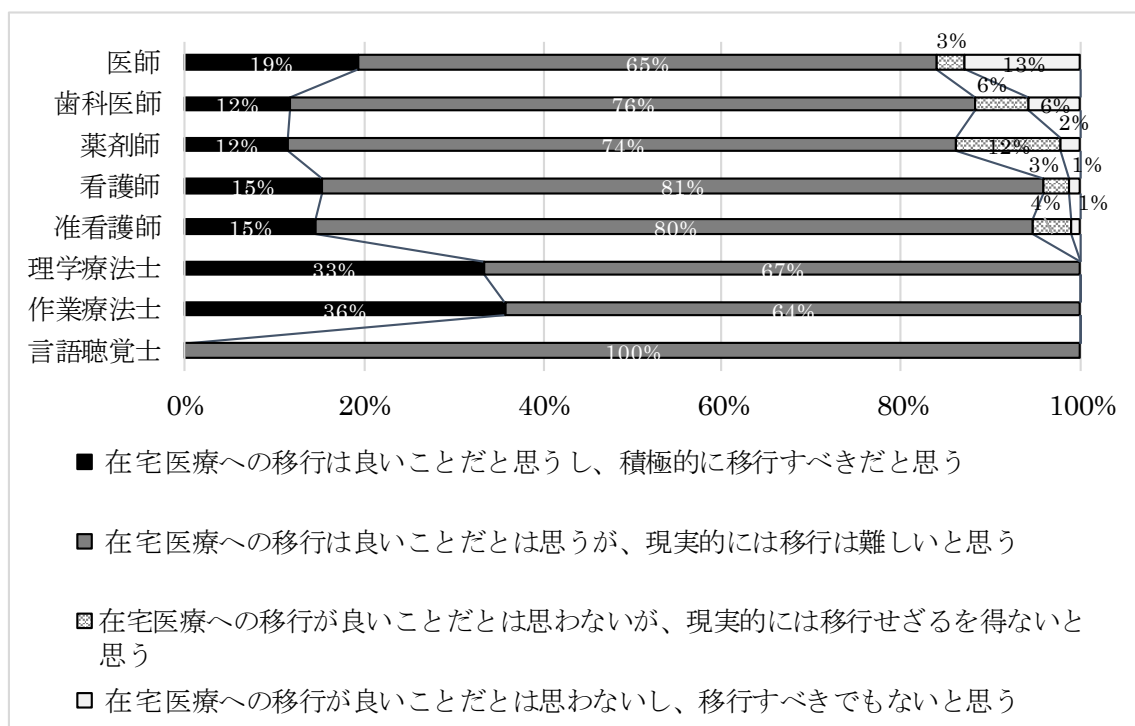
(単位：人)

	在宅医療を 希望する人 が増えてき ている	在宅医療を 希望する人 は減ってき ている	在宅医療を 希望する人 は増減して いない	わからない	回答者数
医師	10	6	3	12	31
歯科医師	7	2	2	7	18
薬剤師	19	1	3	20	43
看護師	58	50	34	92	234
准看護師	24	29	5	42	100
理学療法士	12	1	4	6	23
作業療法士	12	4	3	10	29
言語聴覚士	2	0	1	0	3

問 27 在宅医療について、あなたのお考えを教えてください。

- 在宅医療に対する考えとして、全ての職種において、「在宅医療への移行は良いことだと思うが、現実的には移行は難しいと思う」が最多であり、70%程度以上を占めている。
- 医師の 20%は積極的賛成、10%は反対となっている。

図表 4-28 在宅医療に対する考え



4. 医療従事者アンケート調査結果

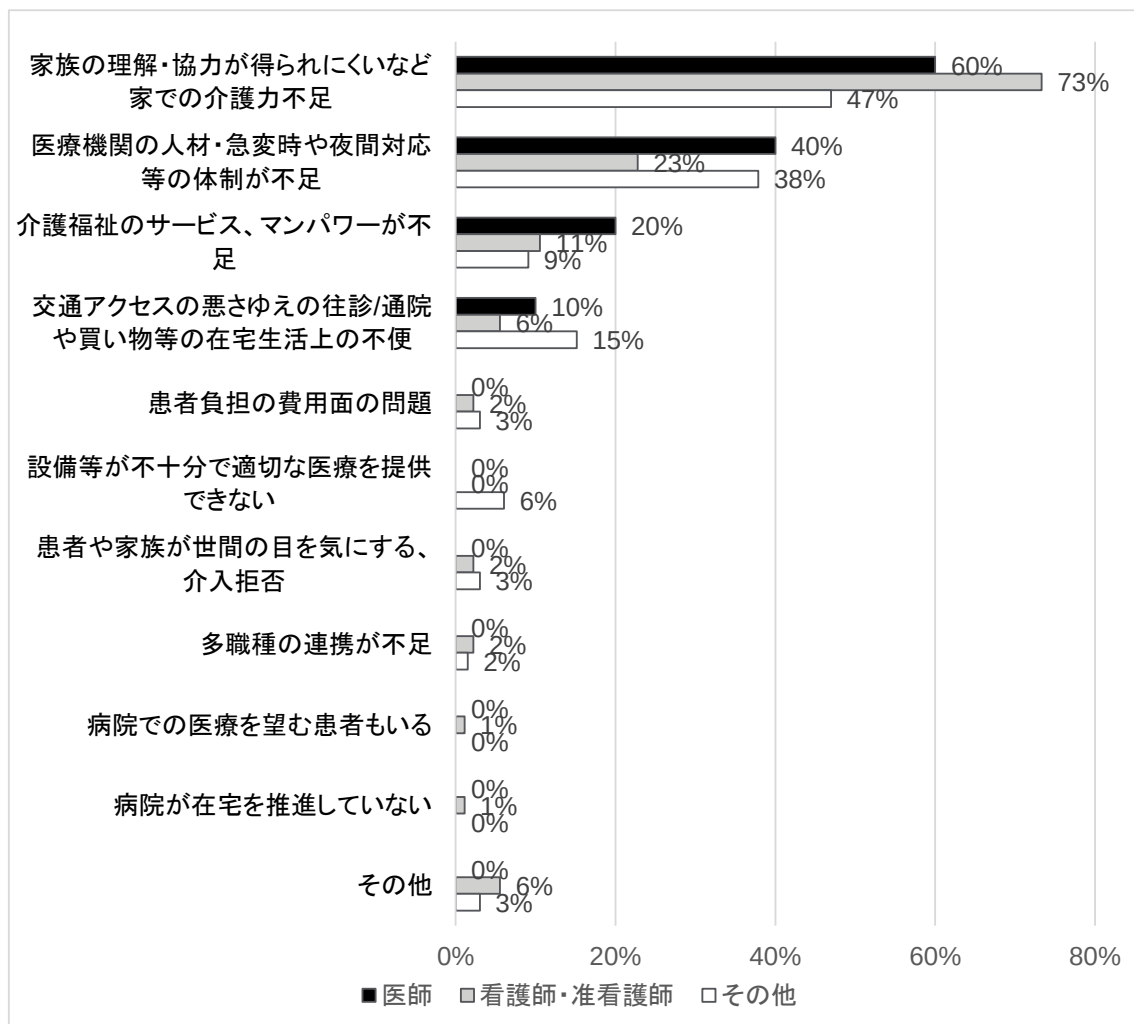
(単位：人)

	在宅医療への移行は良いことだと思 し、積極的に移行すべきだと思う	在宅医療への移行は良いことだと思 うが、現実的には移行は難しいと思う	在宅医療への移行が良いことだと思 わないが、現実的には移行せざるを得な いと思う	在宅医療への移行が良いことだと思 わないし、移行すべきでもないと思う	回答者数
医師	6	20	1	4	31
歯科医師	2	13	1	1	17
薬剤師	5	32	5	1	43
看護師	36	190	7	3	236
准看護師	14	76	4	1	95
理学療法士	8	16	0	0	24
作業療法士	10	18	0	0	28
言語聴覚士	0	3	0	0	3

問 2 8 問 2 7 の回答について、その理由を教えてください。(自由記述)

- 問 2 7 で「在宅医療への移行は良いことだとは思いますが、現実的には移行は難しいと思う」を選択した回答者においては、家族の理解・協力が得られにくいなど家での介護力不足を挙げるコメントが最多で、各職種で 5～7 割程度を占めている。

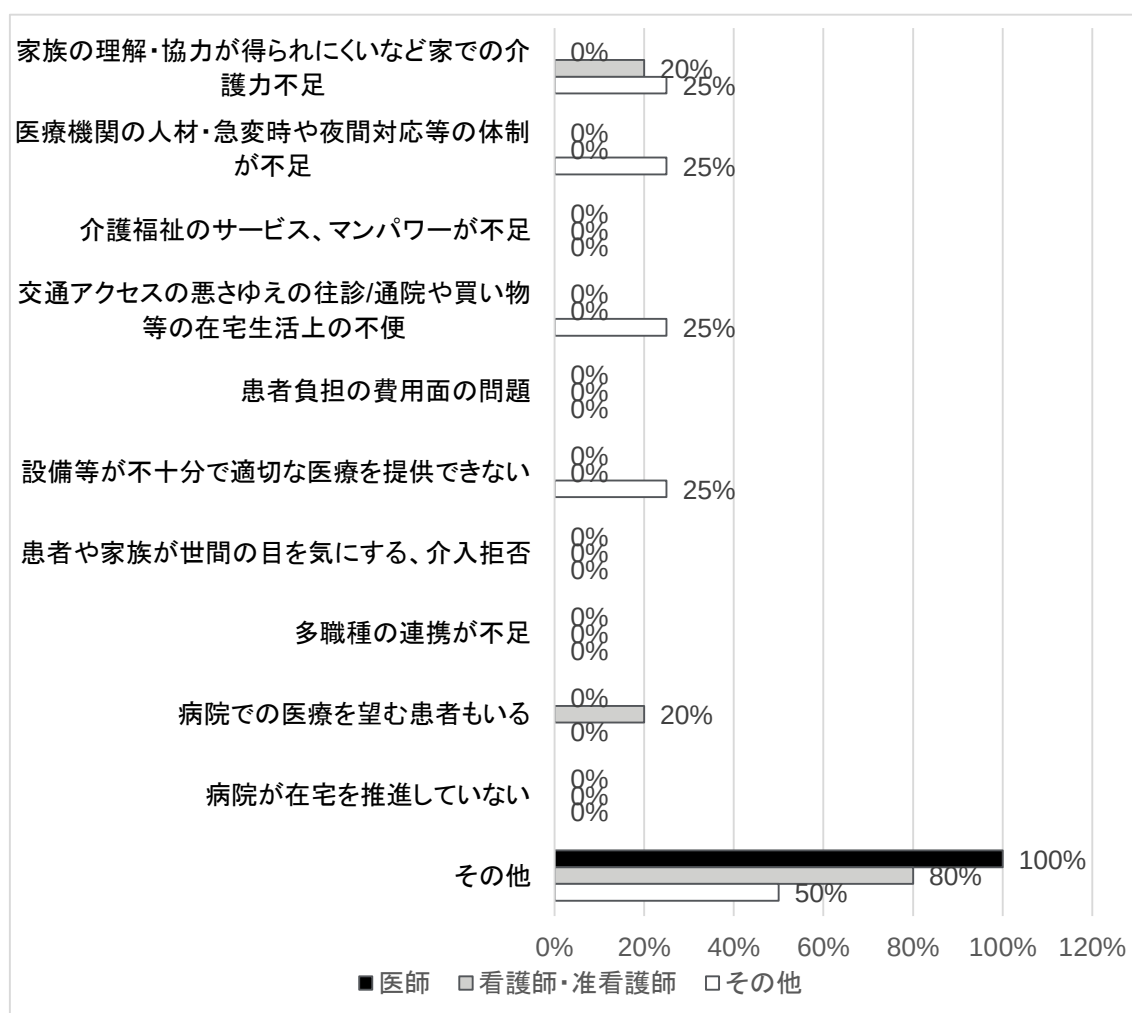
図表 4-2 9 在宅医療についての考えの理由 (自由記述の傾向分析。問 2 7 にて「在宅医療への移行は良いことだとは思いますが、現実的には移行は難しいと思う」を選んだ方の回答を集計)



(回答者数：医師 10 人、看護師・准看護師 180 人、その他 66 人)

- 問27で「在宅医療への移行が良いことだとは思わないが、現実的には移行せざるを得ないと思う」を選択した回答者においては、回答数は少ないものの、在宅医療が幸せとは限らないが国の政策だから仕方がない、といった様々なコメントがあった。

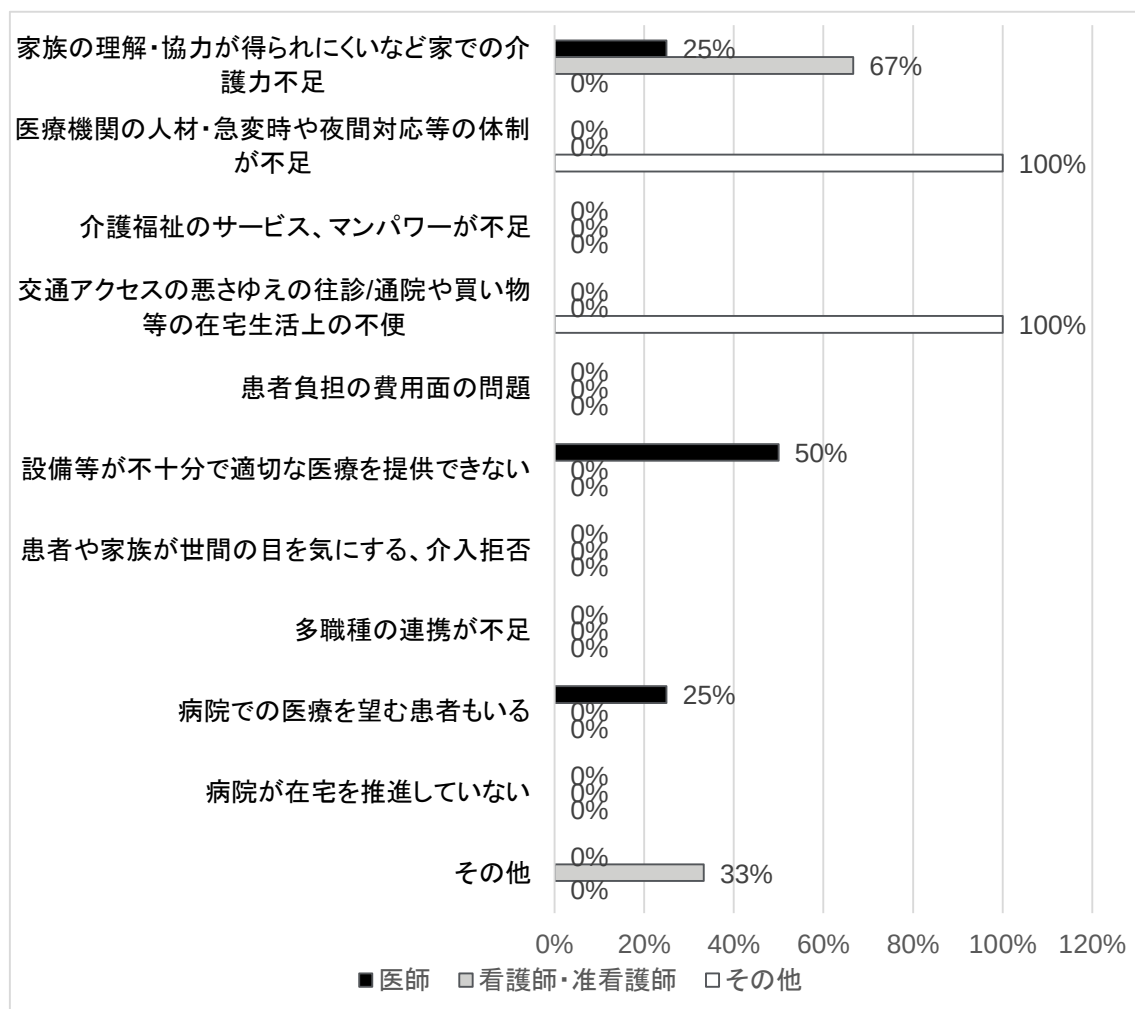
図表 4-30 在宅医療についての考えの理由（自由記述の傾向分析。問27にて「在宅医療への移行が良いことだとは思わないが、現実的には移行せざるを得ないと思う」を選んだ方の回答を集計）



（回答者数：医師 1 人、看護師・准看護師 5 人、その他 4 人）

- 問27で「在宅医療への移行が良いことだとは思わないし、移行すべきでもないと思う」を選択した回答者においては、職種により傾向が異なる。
 - 医師においては、設備等が不十分で適切な医療を提供できないとするコメントが半数を占めている。
 - 看護師・准看護師においては、家での介護力不足を挙げるコメントが7割程度を占めている。
 - その他の専門職においては、医療機関の体制の不足と、在宅生活上の不便について、それぞれ回答者全員が言及している。

表 4-3 1 在宅医療についての考えの理由（自由記述の傾向分析。問27にて「在宅医療への移行が良いことだとは思わないし、移行すべきでもないと思う」を選んだ方の回答を集計）

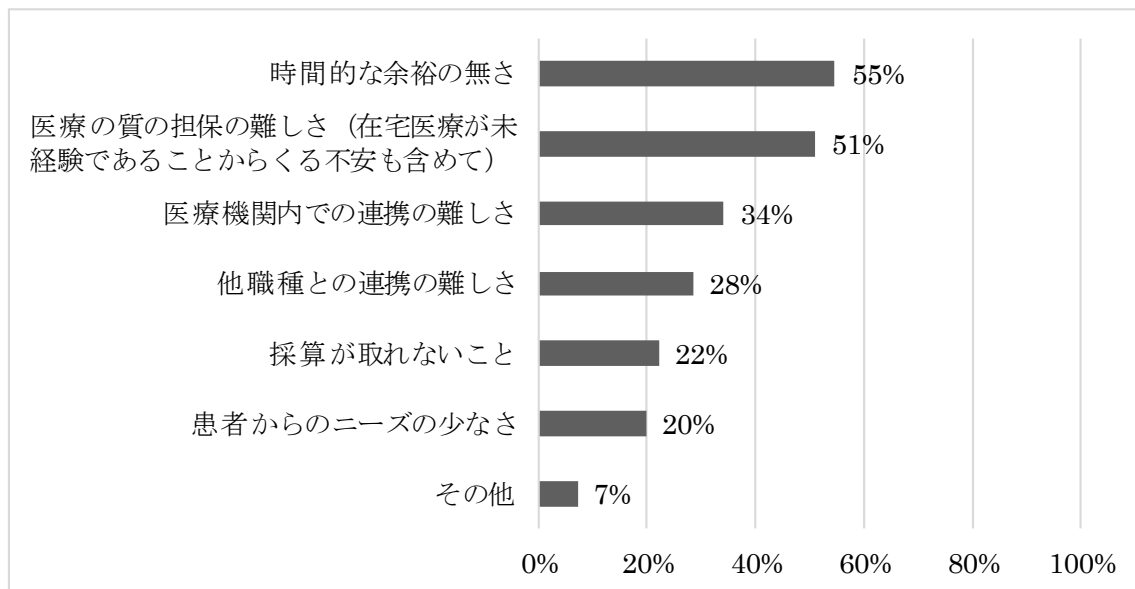


（回答者数：医師 4 人、看護師・准看護師 3 人、その他 1 人）

問 2 9 在宅医療の導入にあたって課題になると思うものを教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- 在宅医療の導入における課題として、「時間的な余裕の無さ」の回答が最も多い。

図表 4-3 2 在宅医療導入における課題

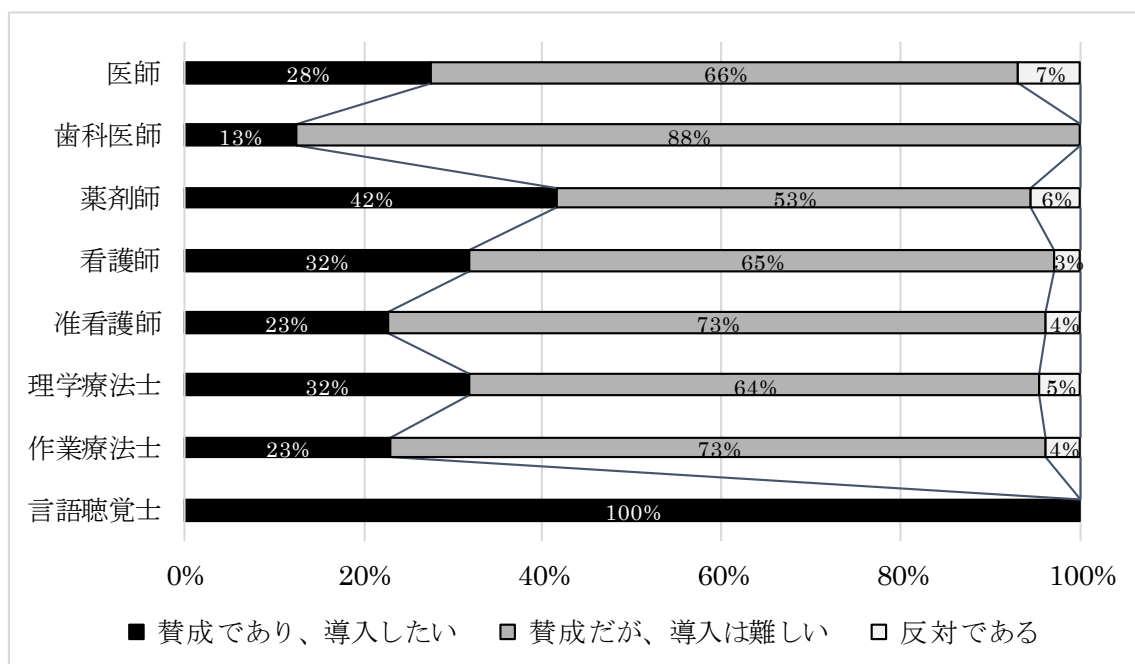


(回答者数：457 人)

問 3 0 遠隔診療の導入について、あなたの考えを教えてください。

- 遠隔診療に対する考えとして、言語聴覚士を除く職種において、「賛成だが、導入は難しい」が 50%を超えている。
- 一方で、全職種において「賛成であり、導入したい」も一定の割合を占めており、「反対である」はほとんど見られない。

図表 4-33 遠隔診療に対する考え



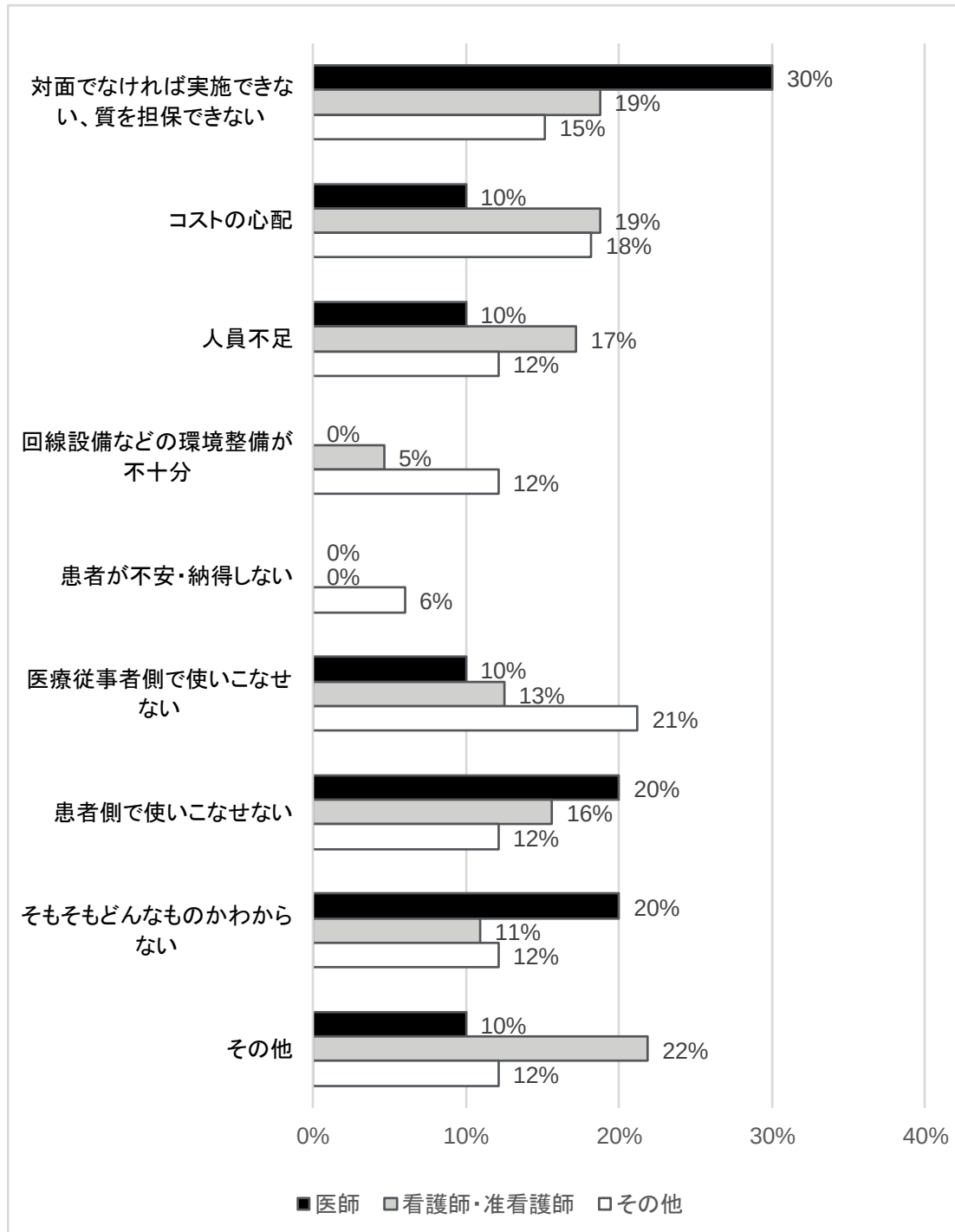
(単位：人)

	賛成であり、 導入したい	賛成だが、導 入は難しい	反対である	回答者数
医師	8	19	2	29
歯科医師	2	14	0	16
薬剤師	15	19	2	36
看護師	67	138	6	211
准看護師	18	58	3	79
理学療法士	7	14	1	22
作業療法士	6	19	1	26
言語聴覚士	3	0	0	3

問 3 1 問 3 0 の回答について、その理由を教えてください。(自由記述)

- 遠隔診療について「賛成だが、導入は難しい」を選んだ理由として、医師、看護師・准看護師においては対面でなければ医療の質を担保できないとするコメントが多く、2割から3割程度を占めている。
- 次いで、医師においては、患者側で使いこなせないとするコメントと、そもそも遠隔診療がどんなものかよくわからないとするコメントが同程度で、それぞれ2割程度を占めている。看護師・准看護師においては、コストの心配、人員不足を挙げるコメントが多く、2割程度を占めている。
- その他の職種においては、医療従事者側が使いこなせないという意見が多く、2割程度を占めている。次いで、コストの心配を挙げるコメント、対面でなければ医療の質を担保できないとするコメントがそれぞれ2割程度を占めている。

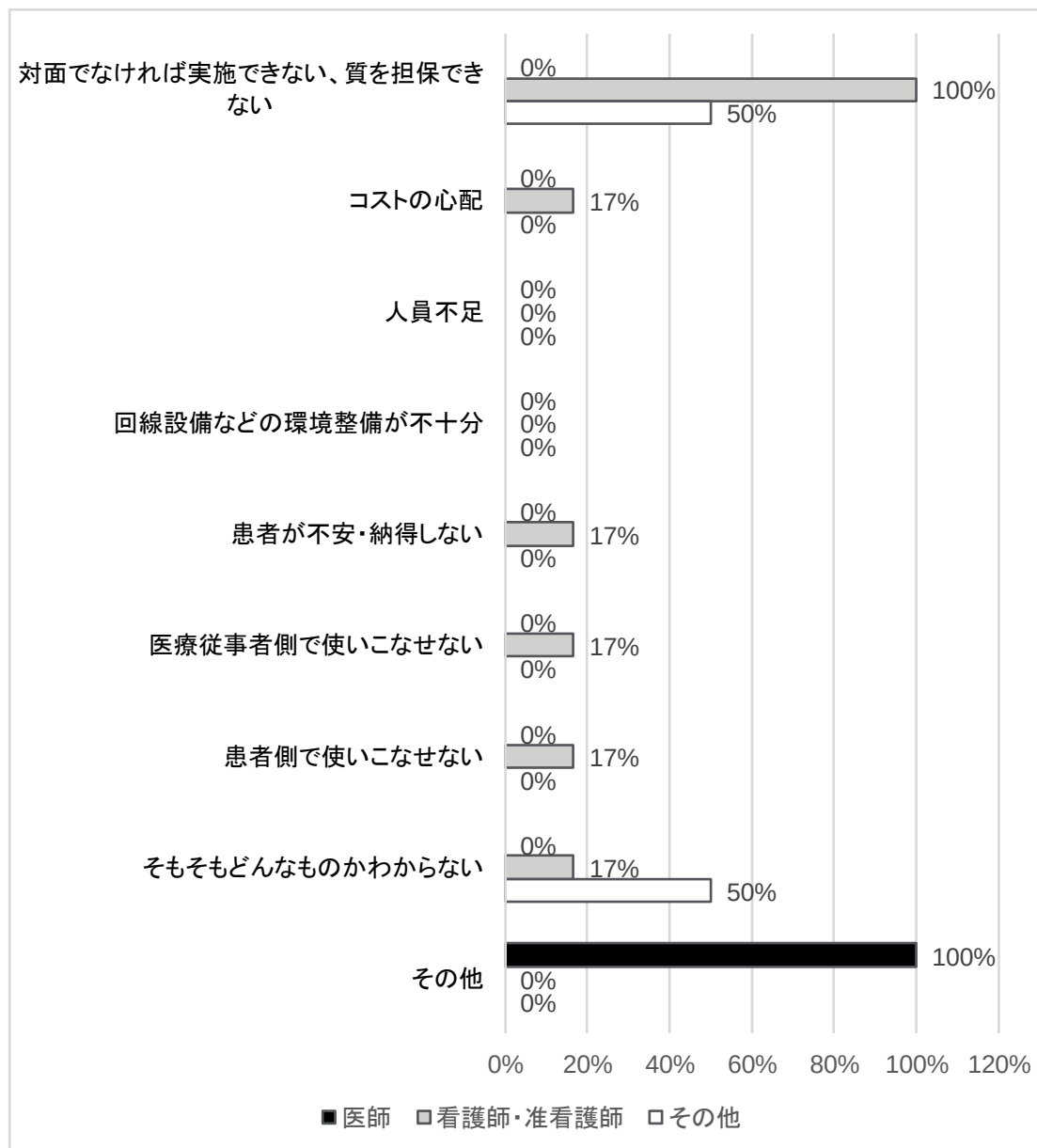
図表 4-34 遠隔診療についての考えの理由（自由記述の傾向分析。問30にて「賛成だが、導入は難しい」を選んだ方の回答を集計）



（回答者数：医師 10 人、看護師・准看護師 64 人、その他 33 人）

- 遠隔診療について「反対」と回答した理由として、看護師・准看護師の全員、その他の職種の半数が、対面でなければ医療の質を担保できないとしている。
- その他の職種においては、そもそもどんなものかわからないとするコメントが半数程度存在する。

図表 4-35 遠隔診療についての考えの理由（自由記述の傾向分析。問30にて「反対」を選んだ方のみ集計）



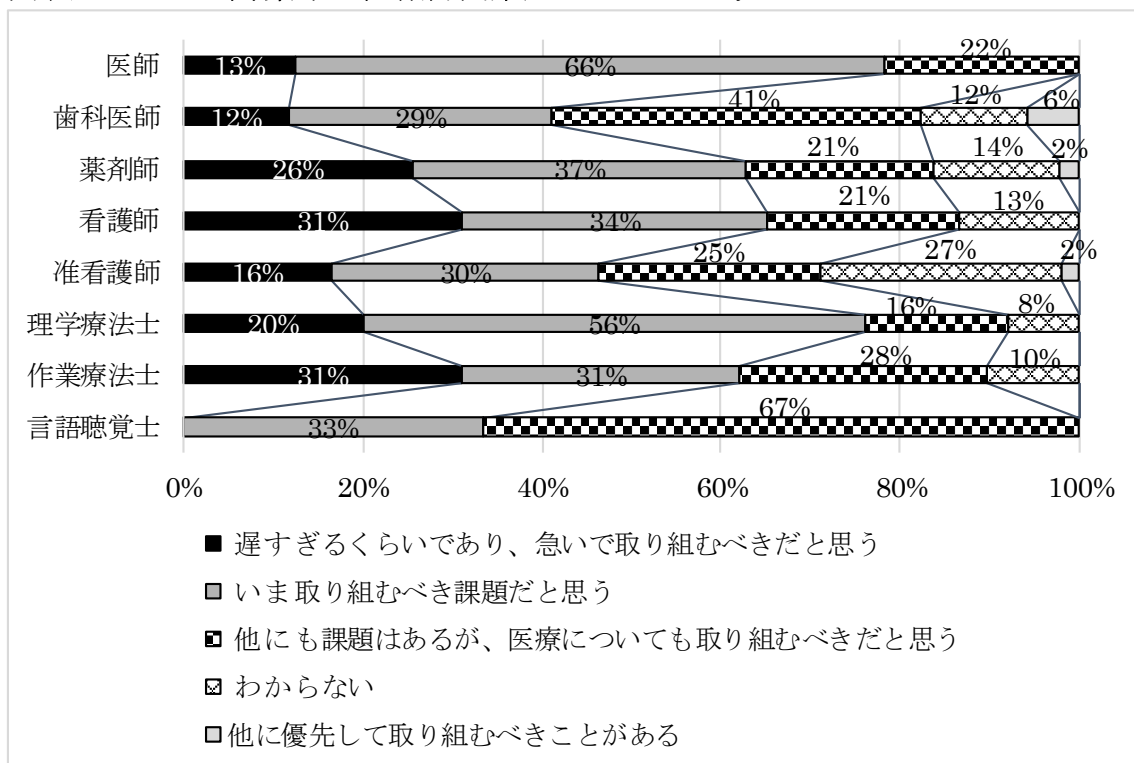
(回答者数：医師 2 人、看護師・准看護師 6 人、その他 4 人)

4. 3. 4. 市の医療提供体制

問 1 6 高梁市も地域医療の維持に危機感を持ち、医療計画を策定しようとしています。このことについてあなたのお考えを教えてください。

- 医療計画策定に対する認識は、医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士では「遅すぎるくらいであり、急いで取り組むべきだと思う」「いま取り組むべき課題だと思う」が多い。

図表 4-36 高梁市の医療計画策定についての考え



4. 医療従事者アンケート調査結果

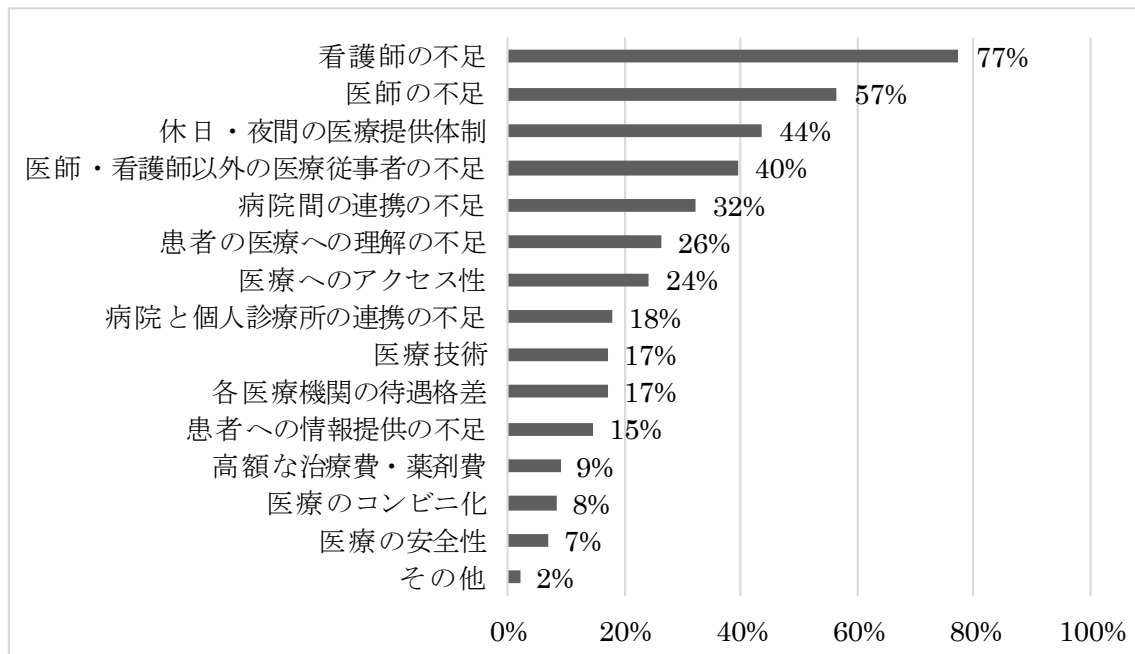
(単位：人)

	遅すぎる くらいで あり、急 いで取り 組むべき だと思う	いま取り 組むべき 課題だ と思う	他にも課 題はある が、医療 について も取り組 むべきだ と思う	わから ない	他に優先 して取り 組むべき ことがあ る	回答者数
医師	4	21	7	0	0	32
歯科医師	2	5	7	2	1	17
薬剤師	11	16	9	6	1	43
看護師	74	81	51	32	0	238
准看護師	16	29	24	26	2	97
理学療法士	5	14	4	2	0	25
作業療法士	9	9	8	3	0	29
言語聴覚士	0	1	2	0	0	3

問 1 7 高梁市内の医療提供体制について課題と感じているものを教えてください。(当てはまるもの全て選択)

- 高梁市内の医療において課題と感じることに関して、最も多かったのが「看護師の不足」、2 番目に多かったのが「医師の不足」であり、医療人材の不足が課題として広く認識されていることが分かった。

図表 4-3 7 高梁市内の医療提供体制で課題と感じているもの

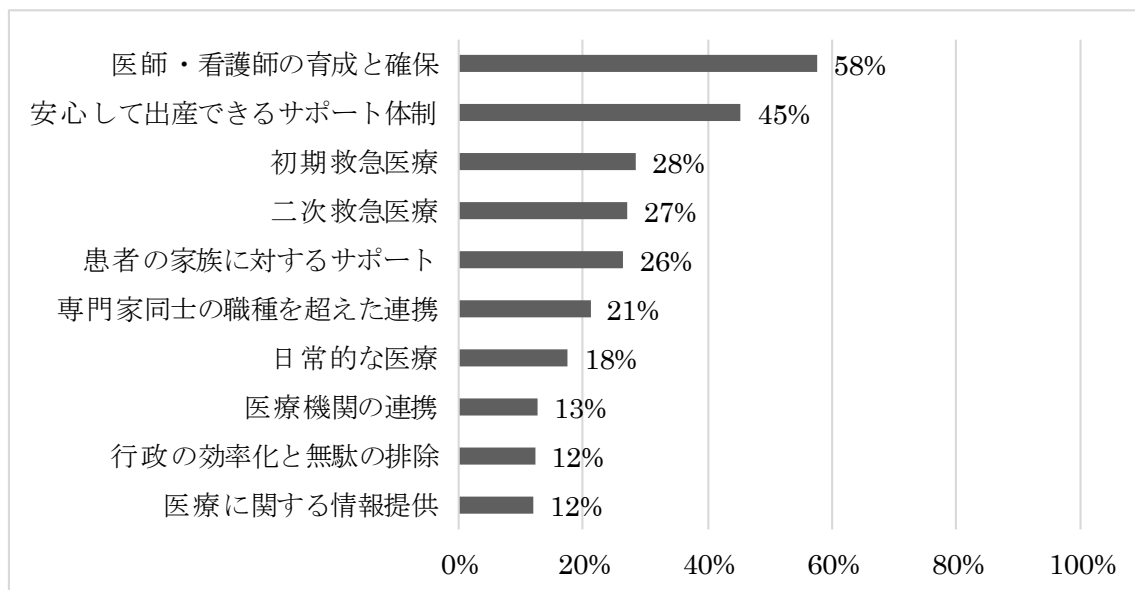


(回答者数：486 人)

問 3 2 高梁市内の医療について、今後どのような対策を充実させるべきだと思いますか。(当てはまるもの3つまで選択)

- 高梁市内の医療で充実させるべきだと思うこととして、「医師・看護師の育成と確保」が最も多い。
- 2 番目に「安心して出産できるサポート体制」が多く、回答者の 39%が選択している。

図表 4-3 8 高梁市内の医療で充実させるべきだと思うもの

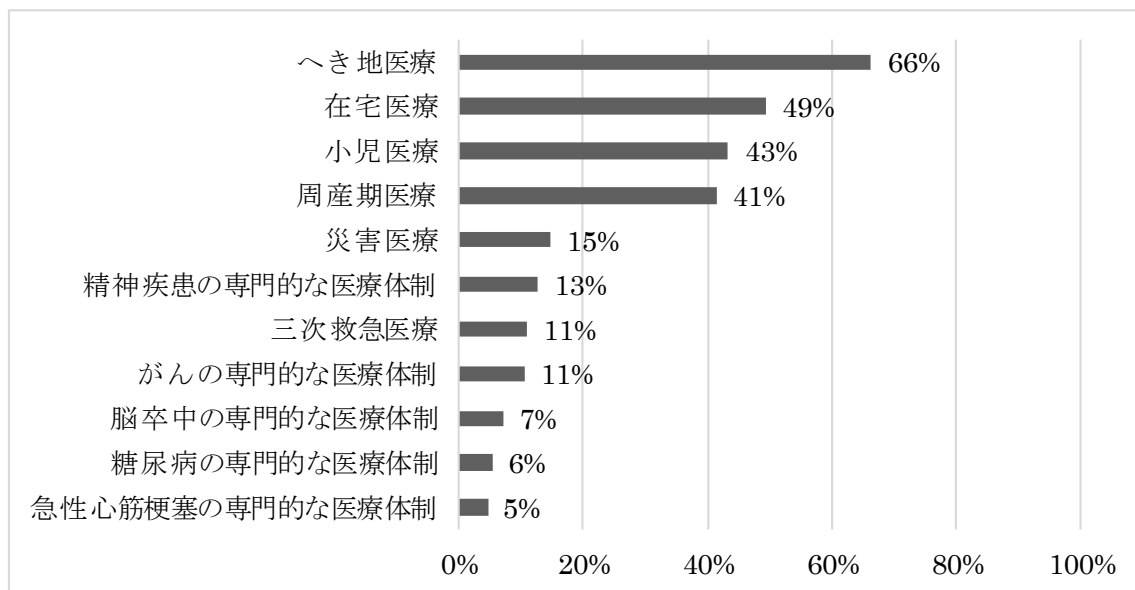


(回答者数：450 人)

問 3 3 高梁市内の専門的な医療について、今後どのような対策を充実させるべきだと思いますか。(当てはまるもの3つまで選択)

- 高梁市内の専門的な医療で充実させるべきだと思うこととして、「へき地医療」が最も多く、回答者の 66%が選択している。
- 次いで、「在宅医療」が 49%、「小児医療」が 43%、「周産期医療」が 41%となっている。

図表 4-3 9 高梁市内の専門的な医療で充実させるべきだと思うもの



(回答者数：454 人)

問34 高梁市の地域医療をより良くしていくために、あなたの職種ではどのようなスキルが必要になると思いますか。
(当てはまるもの3つまで選択)

- 全ての職種において「患者や家族とのコミュニケーション」「医療従事者間のコミュニケーション」の割合が高い。
- 次いで、医師、歯科医師、薬剤師、看護師は「プライマリ・ケア」、その他の職種は「他職種との連携のコーディネート」の割合が高い。

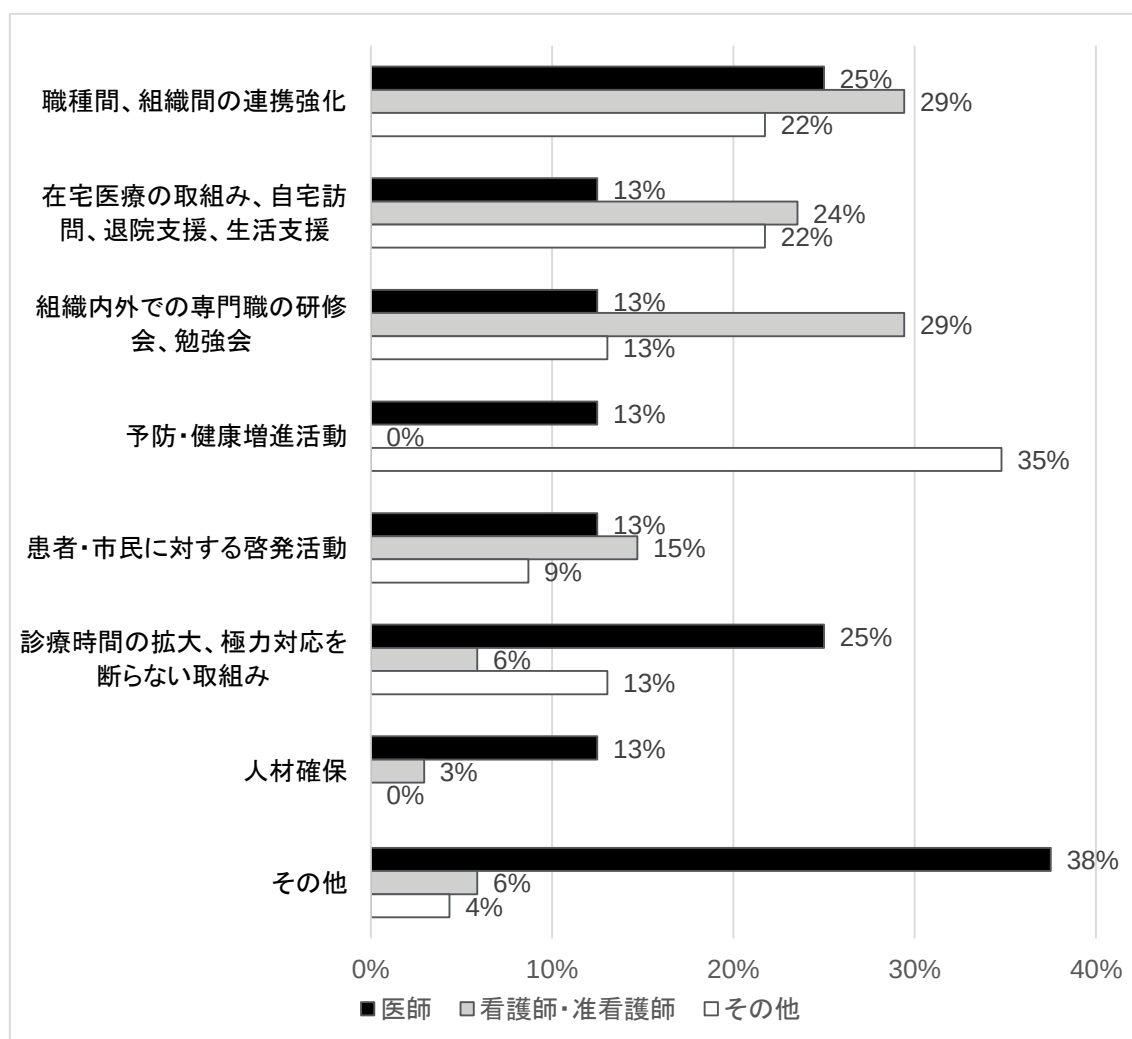
図表 4-40 今後必要になると思われるスキル

	1位			2位			3位			
	プライマリ・ケア	患者や家族とのコミュニケーション	行政機関とのコミュニケーション	医療従事者間のコミュニケーション	他職種との連携のコーディネート	高度先進的な医療技術	最新の医学的知見	経営的な感覚	その他	回答者数(人)
医師	30%	70%	26%	37%	22%	0%	33%	15%	4%	27
歯科医師	29%	65%	24%	41%	29%	12%	24%	18%	0%	17
薬剤師	33%	62%	10%	71%	29%	0%	17%	10%	0%	42
看護師	31%	60%	24%	47%	50%	10%	15%	10%	2%	221
准看護師	24%	67%	25%	56%	36%	11%	16%	7%	0%	85
理学療法士	22%	52%	9%	57%	48%	9%	39%	22%	0%	23
作業療法士	7%	90%	14%	76%	48%	7%	24%	7%	0%	29
言語聴覚士	0%	67%	33%	67%	67%	0%	33%	0%	0%	3

問 3 5 高梁市の地域医療をより良くするために、あなたやあなたの職場で独自に行っている取り組みがあれば教えてください。(自由記述)

- 医師においては、職種間、組織間の連携強化に関するコメント、診療時間の拡大、極力対応を断らない取り組みに関するコメントが同程度で 25%を占めている。
- 看護師・准看護師においては、勉強会、研修会の参加に関するコメント、職種間、組織間の連携強化に関するコメントが同程度で 3 割程度を占めている。
- その他専門職においては、予防・健康増進活動を挙げるコメントが多く、35%を占めている。

図表 4-4 1 地域医療をより良くするための独自の取り組み
(自由記述の傾向分析)

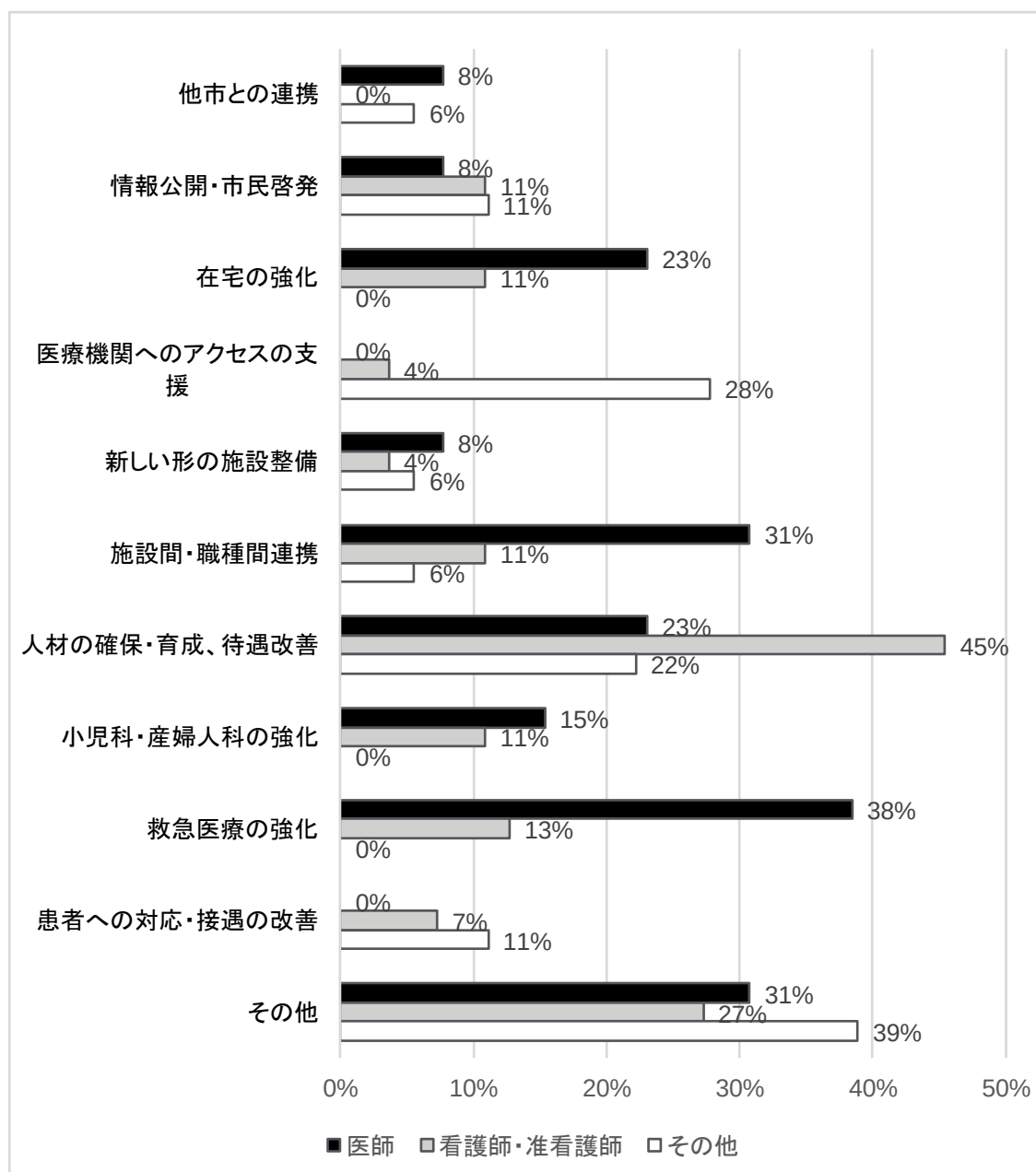


(回答者数：医師 8 人、看護師・准看護師 34 人、その他 23 人)

問 3 6 高梁市の地域医療に関して、ご意見がございましたらご記入ください。(自由記述)

- 医師においては、救急医療の強化についてのコメントが 4 割弱を占めており、次いで施設間・職種間連携療の強化が 3 割強、在宅医療の強化に関するコメントが 2 割強となっている。
- 看護師・准看護師においては、人材の育成・確保、待遇改善に関するコメントが 4 割強を占めている。
- その他専門職においては、医療機関へのアクセス支援に関するコメントが 3 割弱を占めている。

図表 4-4 2 高梁市の地域医療に関する意見（自由記述の傾向分析）



（回答者数：医師 13 人、看護師・准看護師 55 人、その他 18 人）

5. 関連専門職アンケート調査結果

< 5. 1. 調査結果の概要 >

(1) 回答者の属性 (5. 2 関係)

- 医療従事者と比較して高齢化は進んでおらず、ケアマネジャー、介護職で 60 代が 22%を占めているのが最多である。医療ソーシャルワーカーは 20 代～40 代となっている。
- 勤務地域が高梁地域に集中しており、成羽地域と合わせるとほとんどを占めている。次いで川上地域となっている。

(2) 在宅医療 (5. 3. 1 関係)

- 在宅医療のニーズについて、職種別にみると、増えているという認識は医療ソーシャルワーカーで 13%にとどまるのに対して、ケアマネジャーにおいて 28%、介護職において 24%となっている。勤務地域別にみると、有漢地域の関連専門職の 5 割、川上地域の関連専門職の 4 割以上、備中地域の関連専門職の 3 割以上が、在宅医療ニーズが増えていると感じている。(問 6)
- 全ての職種において、在宅移行を望ましいとしながら、ほとんどの関連専門職が現実的には移行は困難と考えている。(問 7)
- 勤務地域別にみると、有漢、川上の 2 地域の関連専門職は、積極的な認識を持つ者が比較的多い。(問 8)

(3) 多職種連携 (5. 3. 2 関係)

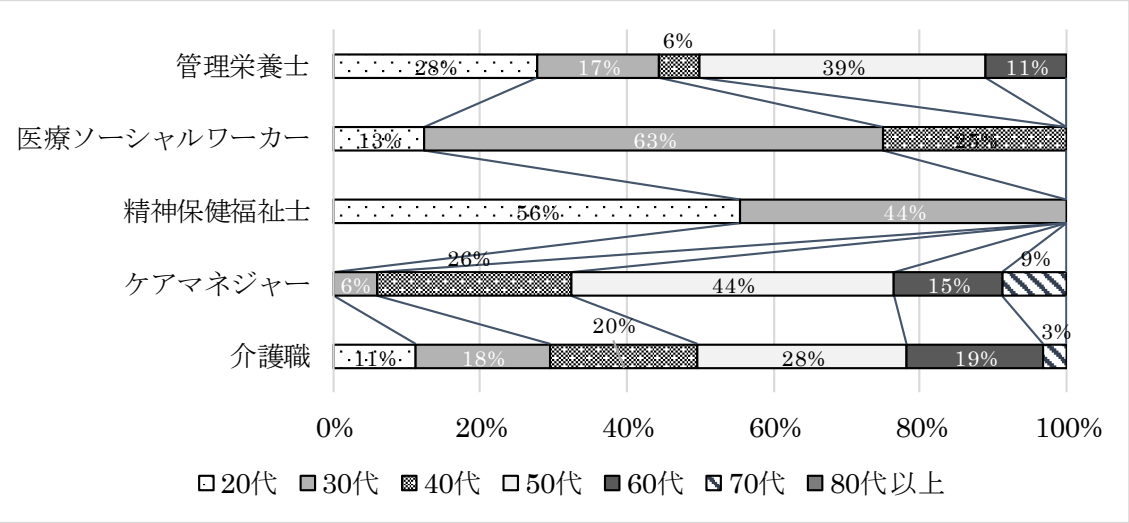
- 全ての職種において、医師との連携が不足しているという認識が大きい。(問 9)
- 「やまぼうし」の認知はおおむね高いが、介護職における認知が 20%にとどまっている。(問 11)
- 「やまぼうし」の利用の程度は低い。(問 12～14)

< 5. 2. 回答者の属性 >

【各職種の人数と年齢構成】

- 60 代以上の割合は、ケアマネジャー、介護職で 22%、管理栄養士で 11%となっている。これらの職種においては、40 代～50 代が中心となっている。
- 一方で、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士は 20 代～40 代のみとなっている。

図表 5-1 年齢・職種ごとの回答者数



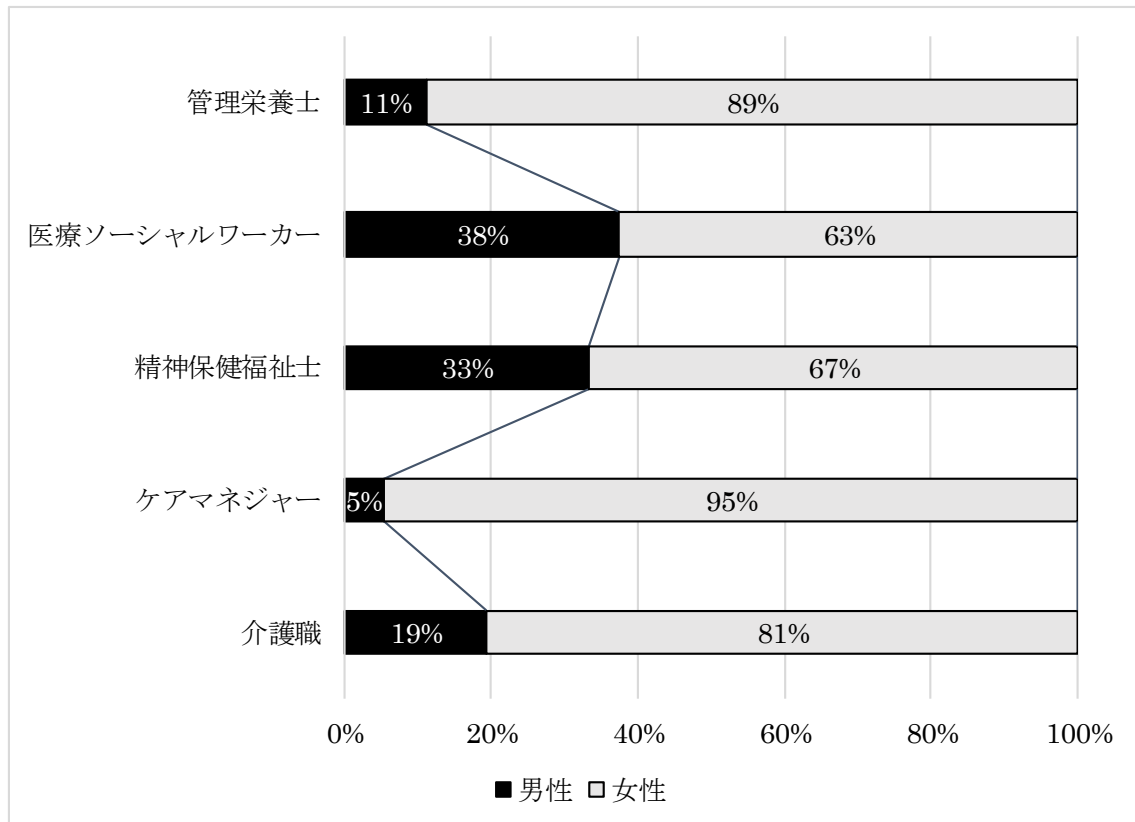
(単位：人)

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	合計
管理栄養士	5	3	1	7	2	0	0	18
医療ソーシャルワーカー	1	5	2	0	0	0	0	8
精神保健福祉士	5	4	0	0	0	0	0	9
ケアマネジャー	0	2	9	15	5	3	0	34
介護職	42	69	76	107	70	12	0	376

【各職種の性別構成】

- 全ての職種において女性の方が多い。医療ソーシャルワーカーにおいては38%が男性である。

図表 5-2 職種・性別ごとの回答者数



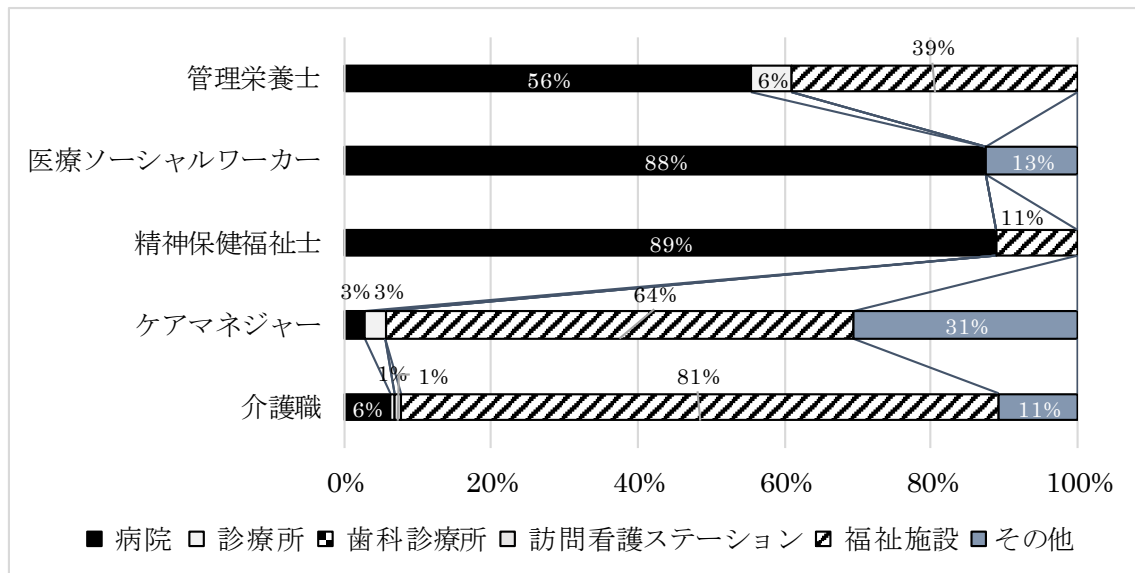
(単位：人)

	男性	女性	合計
管理栄養士	2	16	18
医療ソーシャルワーカー	3	5	8
精神保健福祉士	3	6	9
ケアマネジャー	2	35	37
介護職	73	302	375

【勤務先の施設種類】

- 管理栄養士の勤務施設は、病院と福祉施設に分かれる。
- 医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士は病院勤務がほとんどである。
- ケアマネジャーと介護職は福祉施設勤務がほとんどとなっているが、ケアマネジャーにおいてはその他も 29%存在する。

図表 5-3 主に勤務している施設



(単位：人)

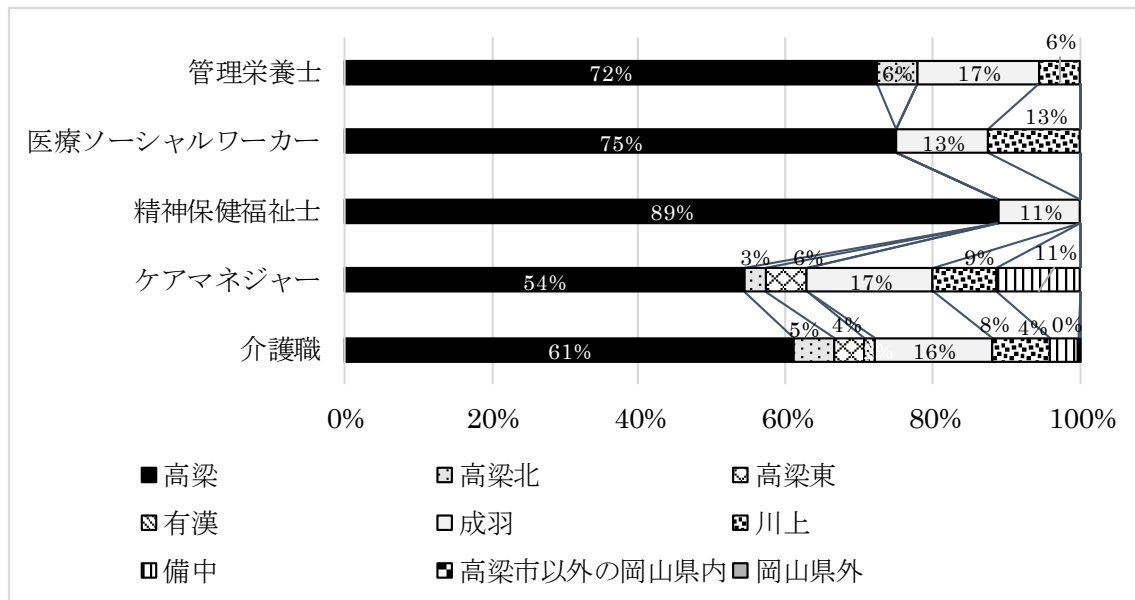
	病院	診療所	歯科診療所	訪問看護ステーション	福祉施設	その他	回答者数
管理栄養士	10	1	0	0	7	0	18
医療ソーシャルワーカー	7	0	0	0	0	1	8
精神保健福祉士	8	0	0	0	1	0	9
ケアマネジャー	1	1	0	0	23	11	36
介護職	23	2	0	4	303	40	372

【勤務地域】

全ての職種において高梁地域への集中が見られ、高梁、成羽の2地域でほとんどを占めている。次いで川上地域となっている。

ケアマネジャーと介護職については、高梁北、高梁東、有漢、備中での勤務も見られる。(ケアマネジャーについては有漢はなし。)

図表 5-4 主に勤務している地域



(単位：人)

	高梁	高梁北	高梁東	有漢	成羽	川上	備中	高梁市以外の岡山県内	岡山県外	回答者数
管理栄養士	13	1	0	0	3	1	0	0	0	18
医療ソーシャルワーカー	6	0	0	0	1	1	0	0	0	8
精神保健福祉士	8	0	0	0	1	0	0	0	0	9
ケアマネジャー	19	1	2	0	6	3	4	0	0	35
介護職	228	20	15	6	59	29	15	1	0	373

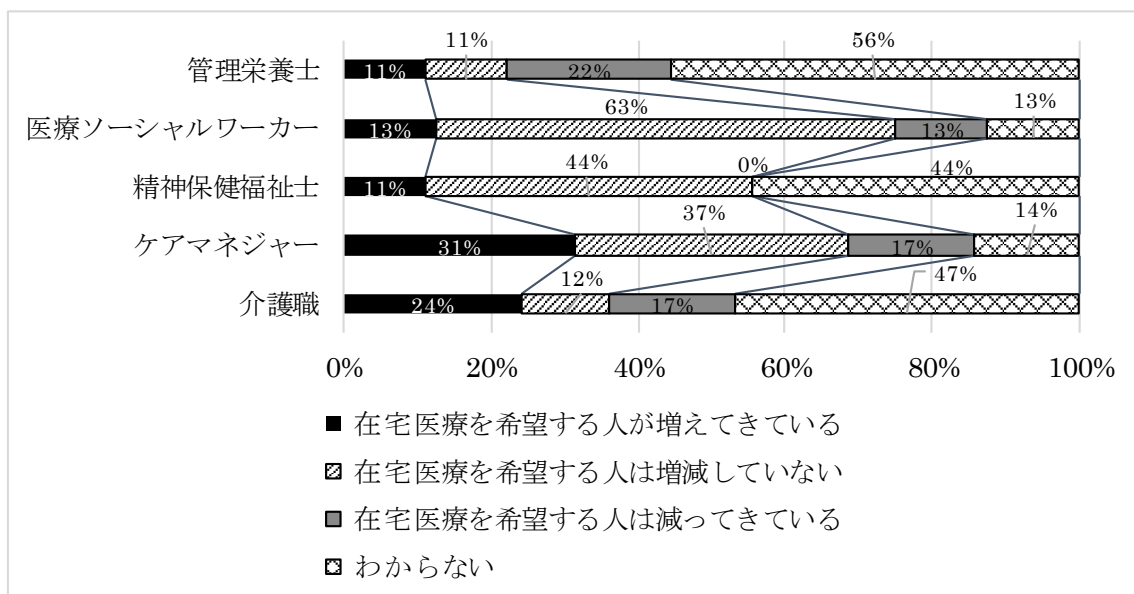
＜ 5. 3. 関連専門職の意識＞

5. 3. 1. 在宅医療

問 6 在宅医療のニーズに関して、あなたの身の回りの状況を教えてください。

- 在宅医療ニーズの増加を感じているのは、医療ソーシャルワーカーの 13% に対し、ケアマネジャーの 30%、介護職の 24%となっている。

図表 5-5 在宅医療のニーズに関する認識（職種別集計）

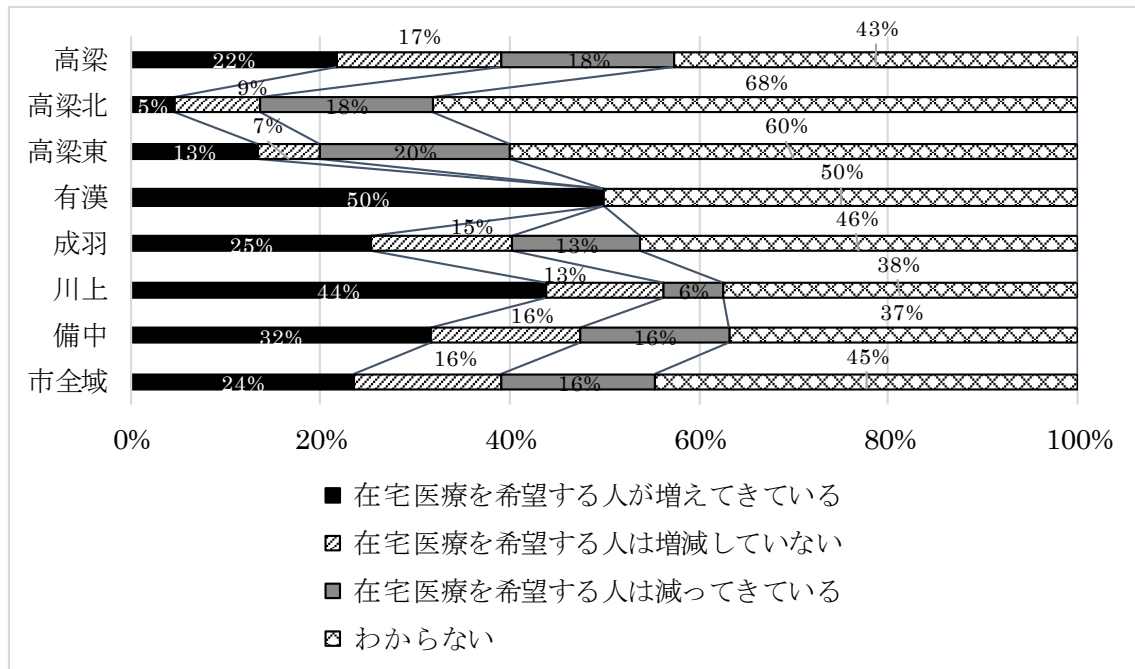


(単位：人)

	在宅医療を希望する人が増えてきている	在宅医療を希望する人は減ってきている	在宅医療を希望する人は増減していない	わからない	回答者数
管理栄養士	2	4	2	10	18
医療ソーシャルワーカー	1	1	5	1	8
精神保健福祉士	1	0	4	4	9
ケアマネジャー	11	6	13	5	35
介護職	87	61	43	169	360

- 高梁北、高梁東を除いた5地域において「在宅医療を希望する人は増えてきている」が「在宅医療を希望する人は減ってきている」を上回っている。

図表 5-6 在宅医療のニーズに関する認識（勤務地域別集計）



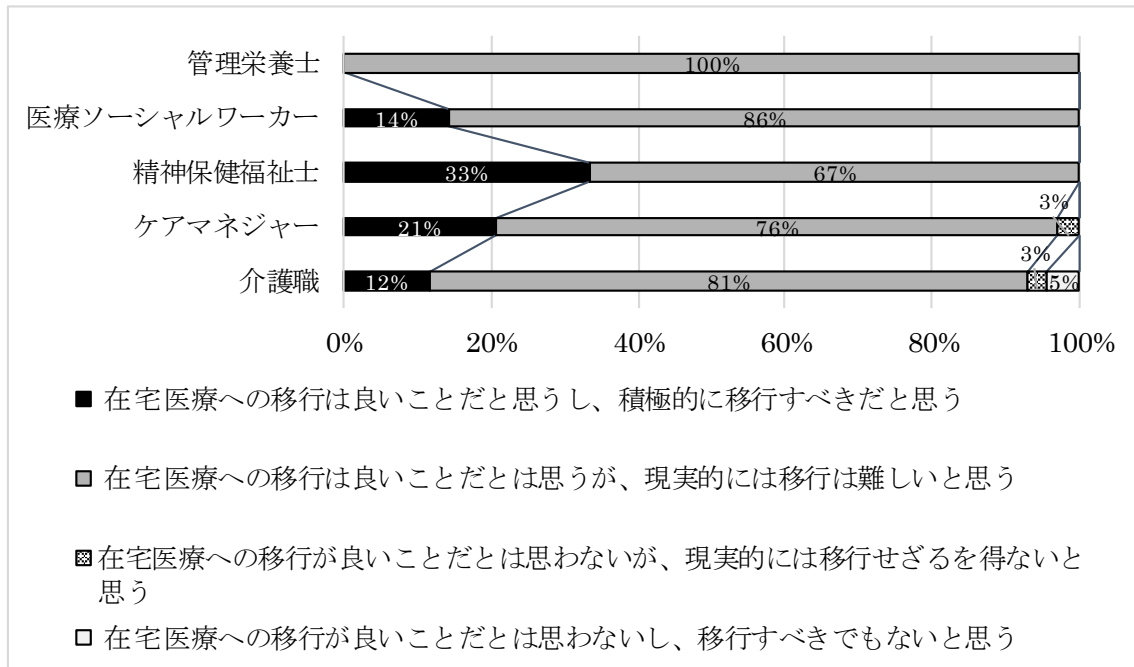
(単位：人)

	在宅医療を希望する人が増えてきている	在宅医療を希望する人は減ってきている	在宅医療を希望する人は増減していない	わからない	回答者数
高梁	57	48	46	112	263
高梁北	1	4	2	15	22
高梁東	2	3	1	9	15
有漢	3	0	0	3	6
成羽	17	9	10	31	67
川上	14	2	4	12	32
備中	6	3	3	7	19
市全域	100	69	66	189	424

問 7 在宅療養について、あなたのお考えを教えてください。

- 在宅医療への認識について、全ての職種において、「在宅医療への移行が良いことだとは思いますが、現実的には移行は難しいと思う」が大半を占めている。

図表 5-7 在宅医療に対する考え（職種別集計）

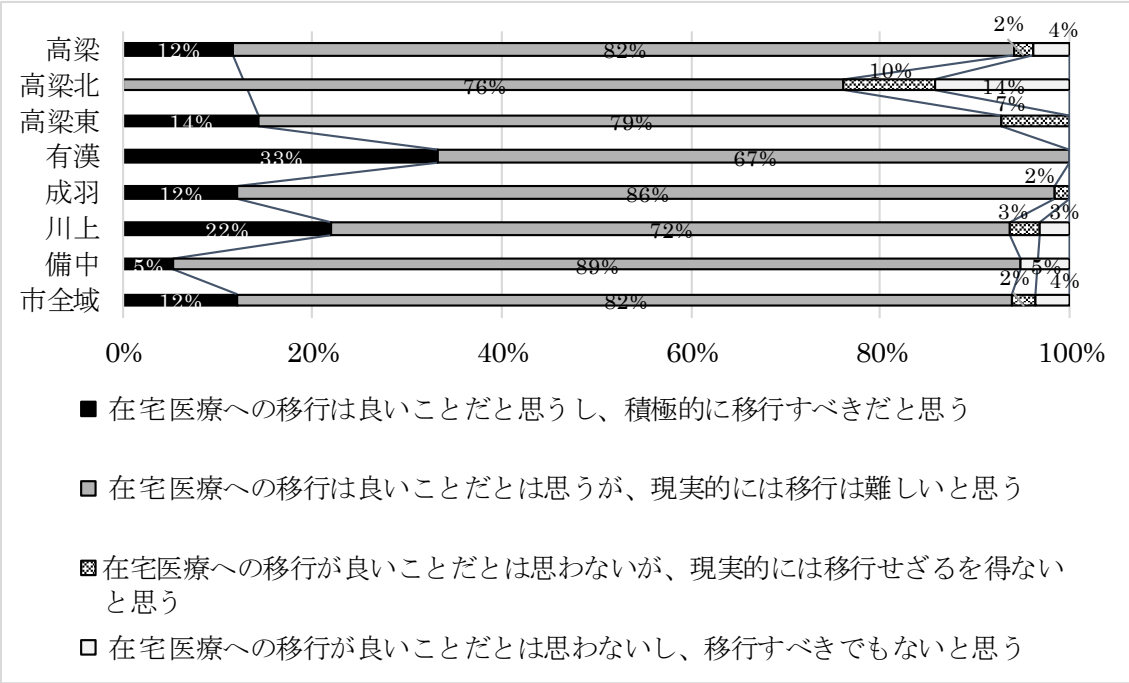


(単位：人)

	在宅医療への移行は良いことだと思うし、積極的に移行すべきだと思う	在宅医療への移行は良いことだとは思いますが、現実的には移行は難しいと思う	在宅医療への移行が良いことだとは思わないが、現実的には移行せざるを得ないと思う	在宅医療への移行が良いことだとは思わないし、移行すべきでもないと思う	回答者数
管理栄養士	0	18	0	0	18
医療ソーシャルワーカー	1	6	0	0	7
精神保健福祉士	3	6	0	0	9
ケアマネジャー	7	26	1	0	34
介護職	41	288	9	16	354

- 地域別にみても、「在宅医療への移行が良いことだとは思いますが、現実的には移行は難しいと思う」が大半を占めているが、有漢、川上の2地域では「積極的に移行すべき」が比較的多くを占めている。

図表 5-8 在宅医療に対する考え（勤務地域別集計）



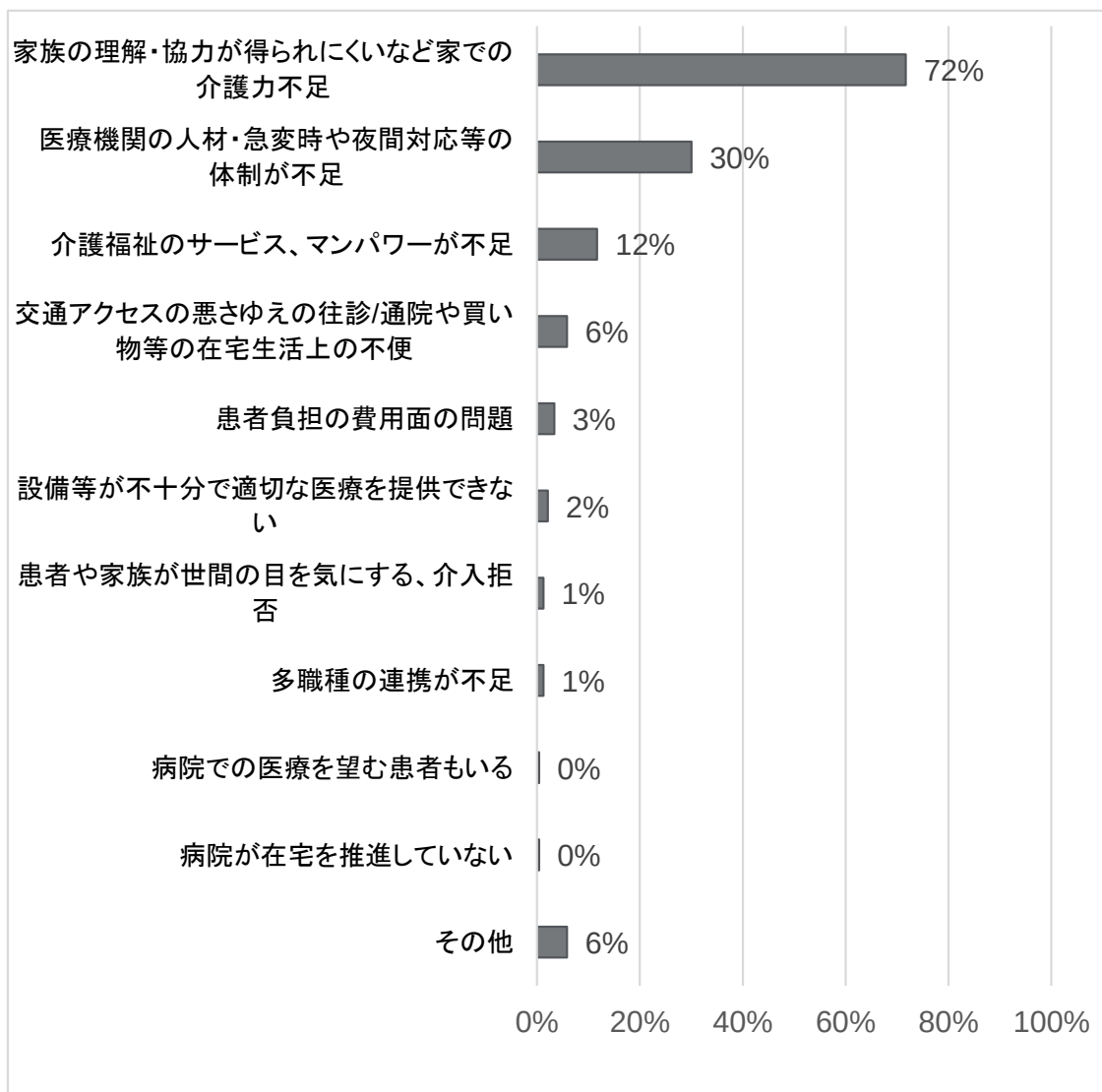
（単位：人）

	在宅医療への移行は良いことだし、積極的に移行すべきだと思う	在宅医療への移行は良いことだとは思いますが、現実的には移行は難しいと思う	在宅医療への移行が良いことだとは思わないが、現実的には移行せざるを得ないと思う	在宅医療への移行が良いことだとは思わないし、移行すべきでもないと思う	回答者数
高梁	30	212	5	10	257
高梁北	0	16	2	3	21
高梁東	2	11	1	0	14
有漢	2	4	0	0	6
成羽	8	57	1	0	66
川上	7	23	1	1	32
備中	1	17	0	1	19
市全域	50	340	10	15	415

問 8 在宅医療について、問 7 のように回答した理由を教えてください。
(自由記述)

- 問 7 にて「在宅医療への移行は良いことだとは思いますが、現実的には移行は難しいと思う」を選択した回答者においては、家での介護力不足を挙げるコメントが最多で、7 割程度を占めている。

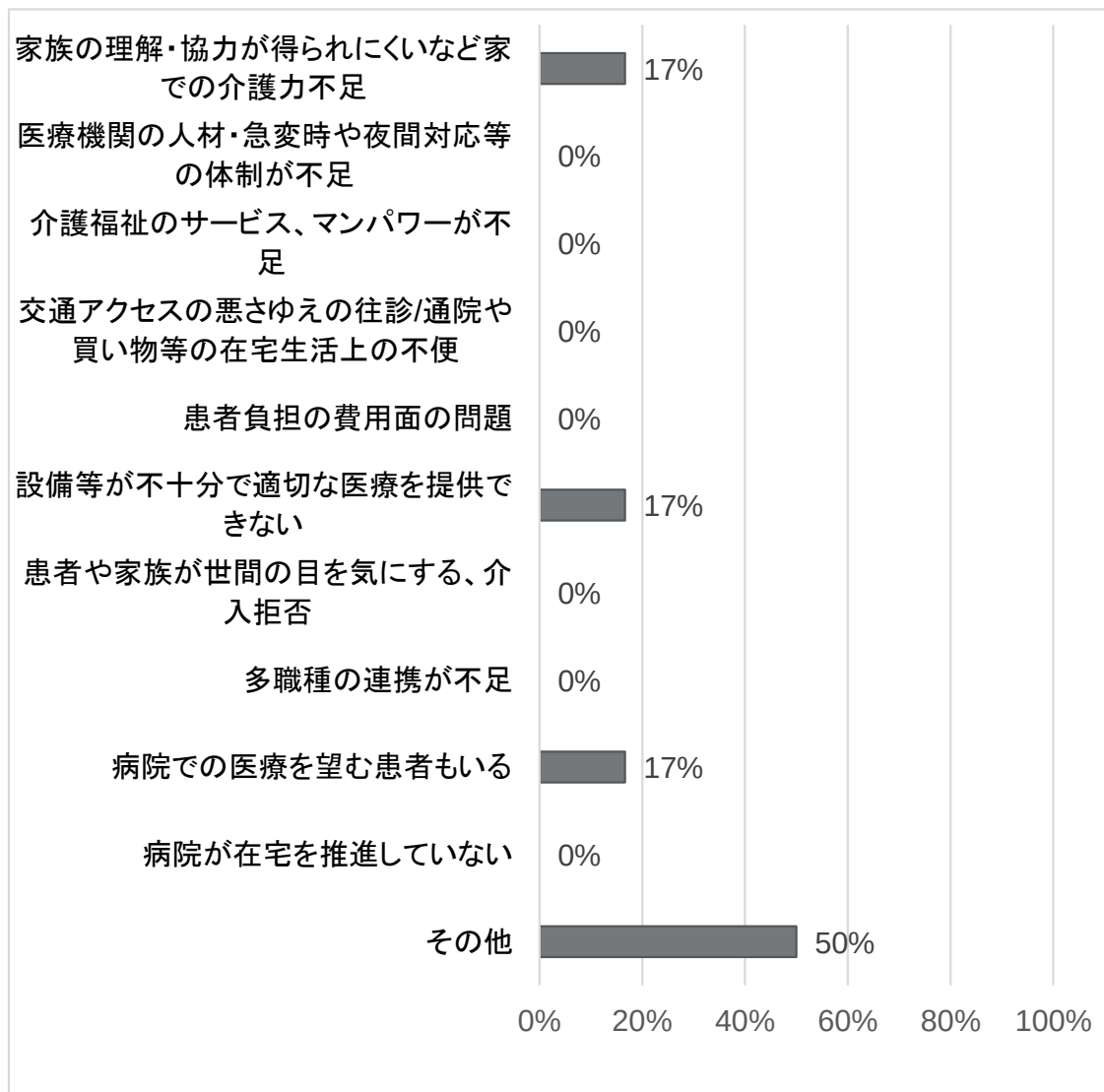
図表 5-9 在宅医療についての考えの理由（自由記述の傾向分析。問 7 にて「在宅医療への移行は良いことだとは思いますが、現実的には移行は難しいと思う」を選んだ方の回答を集計）



(回答者数：240 人)

- 問7にて「在宅医療への移行が良いことだとは思わないが、現実的には移行せざるを得ないと思う」を選択した回答者においては、回答数は少ないものの、病院依存が高まりすぎないように、在宅と病院で役割分担が必要といった様々なコメントがあった。

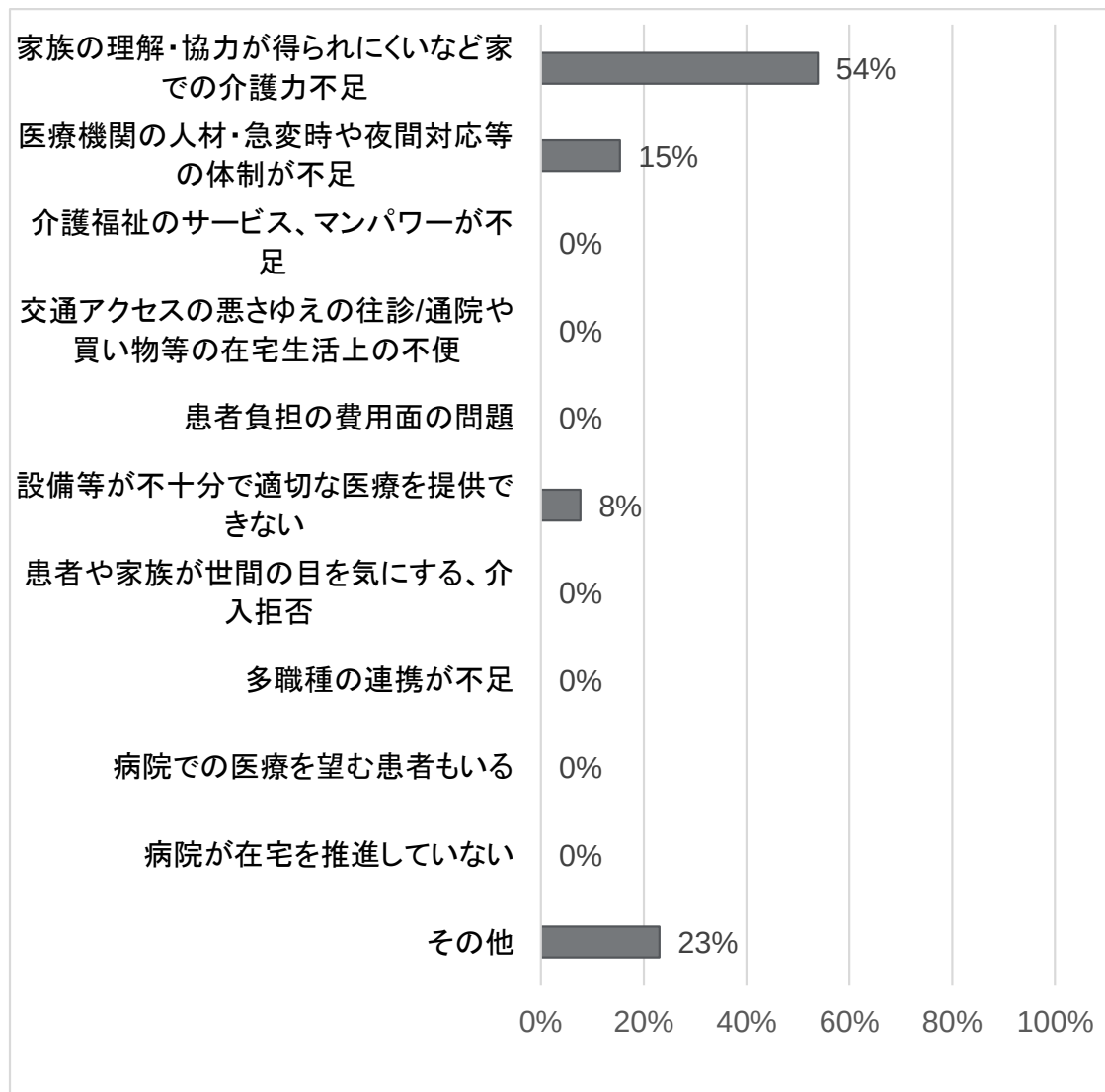
図表 5-10 在宅医療についての考えの理由（自由記述の傾向分析。問7にて「在宅医療への移行が良いことだとは思わないが、現実的には移行せざるを得ないと思う」を選んだ方の回答を集計）



(回答者数：6人)

- 問7にて「在宅医療への移行が良いことだとは思わないし、移行すべきでもないと思う」を選択した回答者においては、家での介護力不足を挙げるコメントが最多で、半数程度を占めている。

図表 5-1 1 在宅医療についての考えの理由（自由記述の傾向分析。問7にて「在宅医療への移行が良いことだとは思わないし、移行すべきでもないと思う」を選んだ方の回答を集計）



（回答者数：13人）

5. 3. 2. 多職種連携

問9 あなたの職種と連携が不足していると感じる職種を教えてください。
(当てはまるもの全て選択)

- 全ての職種において、医師との連携不足の認識が大きい。
- その他の職種間連携については、職種によって様々となっている。医療ソーシャルワーカーにおいては保健師、ケアマネジャーにおいては言語聴覚士、介護職においては介護職自身が2位となっている。

図表 5-12 自分の職種と連携が不足していると感じる職種

1 位	2 位	3 位
-----	-----	-----

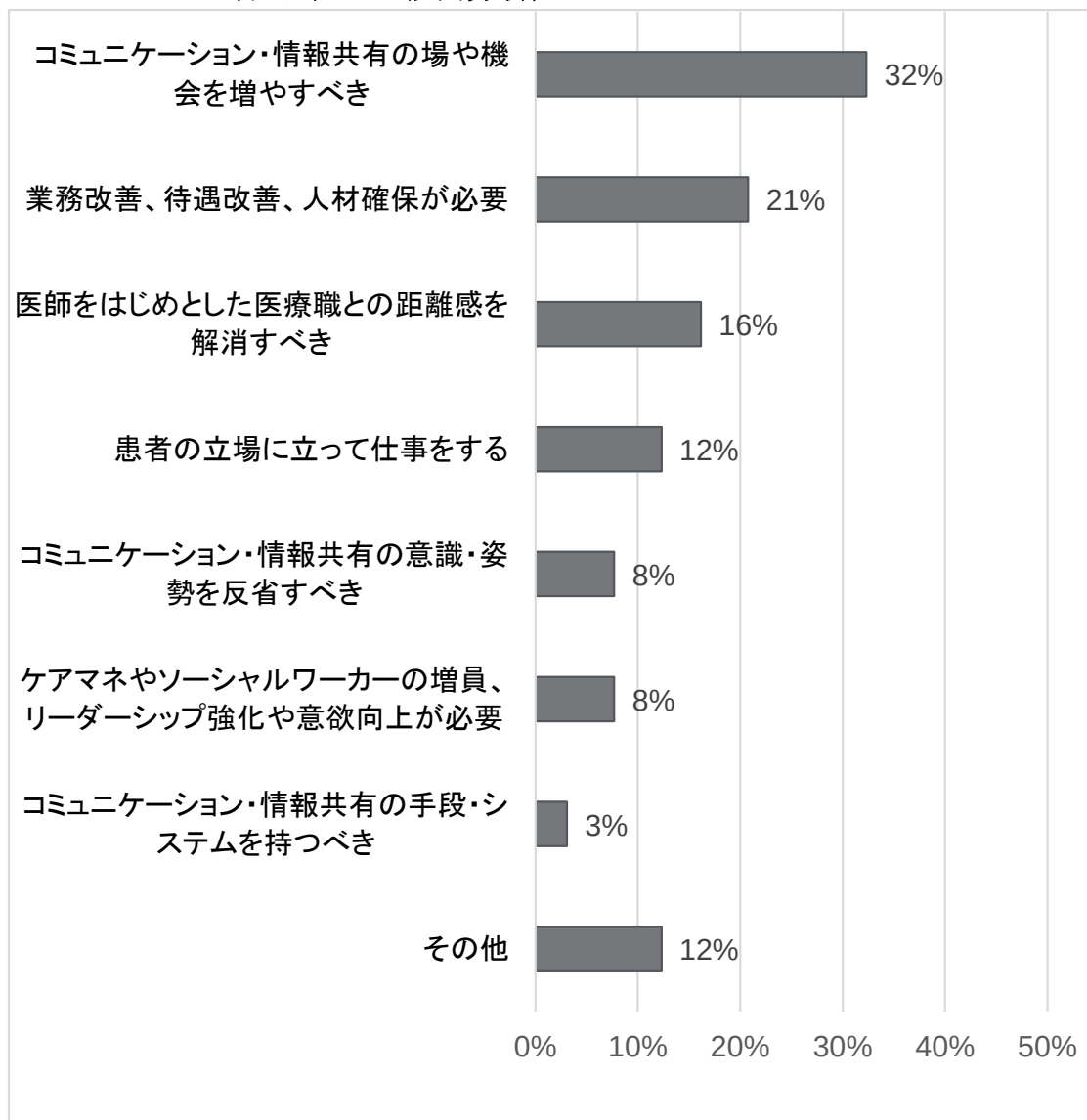
		対象職種							
		医師	歯科医師	薬剤師	看護師	准看護師	保健師	理学療法士	作業療法士
回答者職種	管理栄養士	67%	40%	40%	27%	20%	13%	60%	47%
	医療ソーシャルワーカー	57%	14%	29%	14%	14%	43%	14%	29%
	精神保健福祉士	33%	22%	33%	33%	11%	44%	22%	11%
	ケアマネジャー	38%	16%	25%	25%	13%	16%	25%	22%
	介護職	26%	18%	15%	28%	7%	13%	23%	22%

		対象職種								回答者数（人）
		言語聴覚士	管理栄養士	医療ソーシャルワーカー	精神保健福祉士	ケアマネジャー	介護職	特にない	その他	
回答者職種	管理栄養士	33%	27%	40%	27%	27%	20%	27%	7%	15
	医療ソーシャルワーカー	29%	29%	0%	29%	0%	14%	29%	14%	7
	精神保健福祉士	22%	22%	11%	0%	44%	33%	22%	0%	9
	ケアマネジャー	34%	16%	6%	19%	3%	16%	22%	3%	32
	介護職	15%	10%	15%	20%	15%	31%	20%	2%	321

問 1 0 多職種連携のために改善したほうが良いと思う点を教えてください。（自由記述）

- コミュニケーション・情報共有の場や機会を増やすべきとするコメントが最多で、3割程度を占めている。次いで、業務改善、待遇改善、人材確保が必要とするコメントが2割程度を占めている。

図表 5・1 3 多職種連携のために改善したほうが良いと思う点
（自由記述の傾向分析）

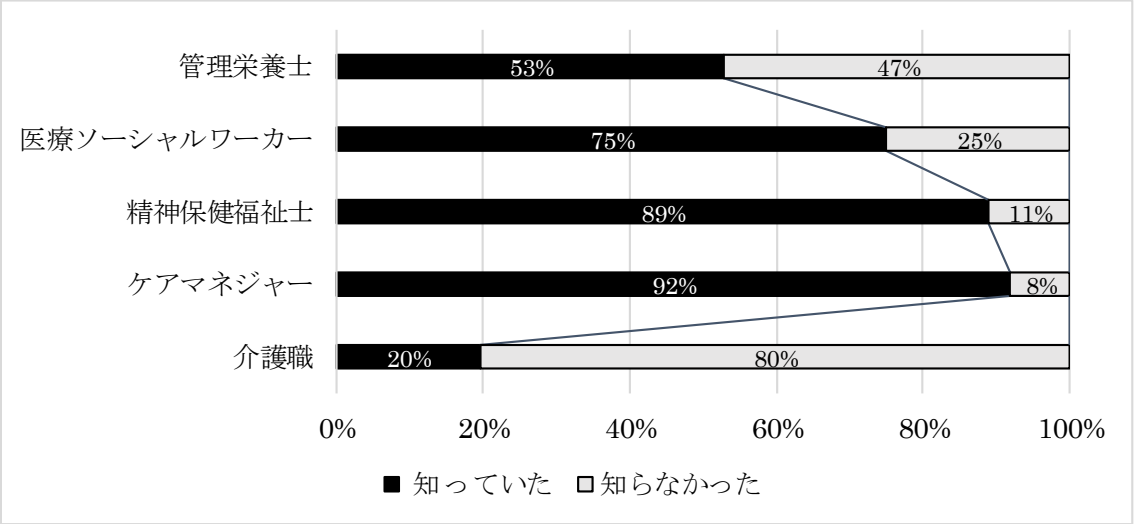


（回答者数：130人）

問 1 1 高梁市の情報共有サービス「やまぼうし」をご存知ですか。

- 「やまぼうし」の認知度に関して、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士、ケアマネジャーは「知っていた」が「知らなかった」を大きく上回っていたが、管理栄養士及び介護職は「知らなかった」の方が上回っている。特に介護士においては、「知っていた」が 21%に留まっている。

図表 5-1 4 「やまぼうし」の認知度



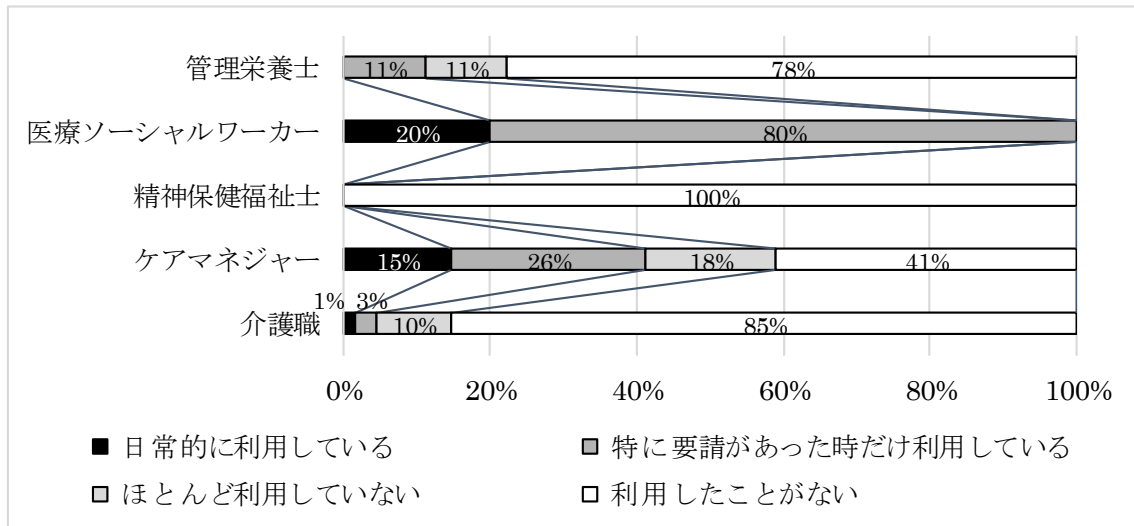
(単位：人)

	知っていた	知らなかった	回答者数
管理栄養士	9	8	17
医療ソーシャルワーカー	6	2	8
精神保健福祉士	8	1	9
ケアマネジャー	34	3	37
介護職	70	288	358

問 1 2 「やまぼうし」をどの程度利用していますか。

- 「やまぼうし」の利用頻度に関して、ほとんどの職種において「特に要請があった時だけ利用している」「ほとんど利用していない」「利用したことがない」が大半を占めている。
- 医療ソーシャルワーカーにおいては、「ほとんど利用していない」「利用したことがない」は存在していない。

図表 5-15 「やまぼうし」の利用頻度



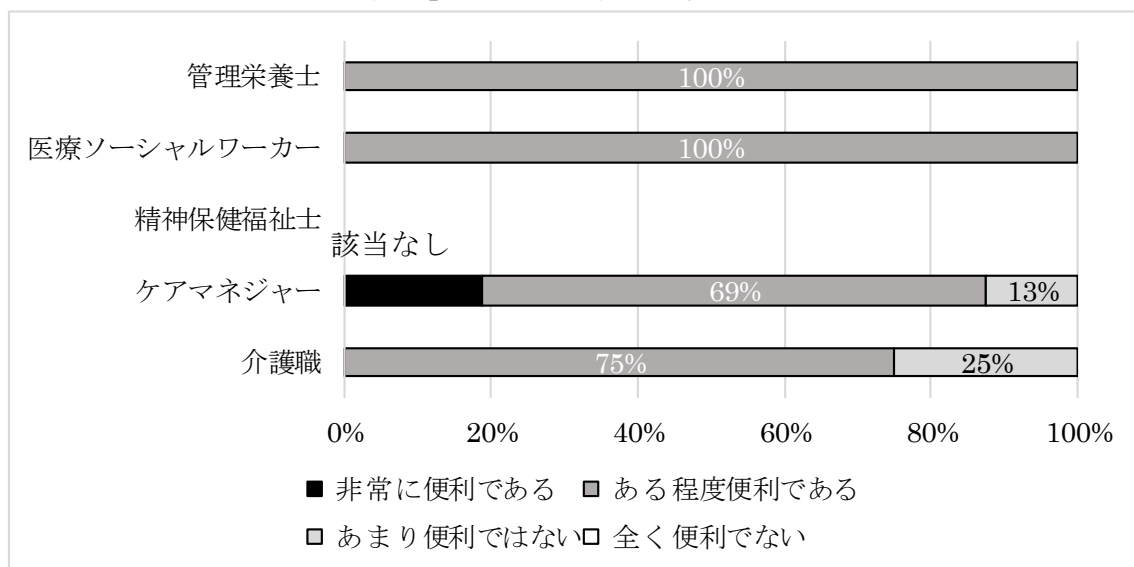
(単位：人)

	日常的に利用している	特に要請があった時だけ利用している	ほとんど利用していない	利用したことがない	回答者数
管理栄養士	0	1	1	7	9
医療ソーシャルワーカー	1	4	0	0	5
精神保健福祉士	0	0	0	8	8
ケアマネジャー	5	9	6	14	34
介護職	1	2	7	58	68

問 1 3 「やまぼうし」の使いやすさを教えてください。

- 全ての職種において、「やまぼうし」の利用者の半数以上は「ある程度便利である」と認識している。
- 一方、ケアマネジャーや介護職においては、「非常に便利である」と認識している人と、「あまり便利でない」「全く便利でない」と認識している人がそれぞれ一定数存在している。

図表 5-16 「やまぼうし」の使いやすさの認識



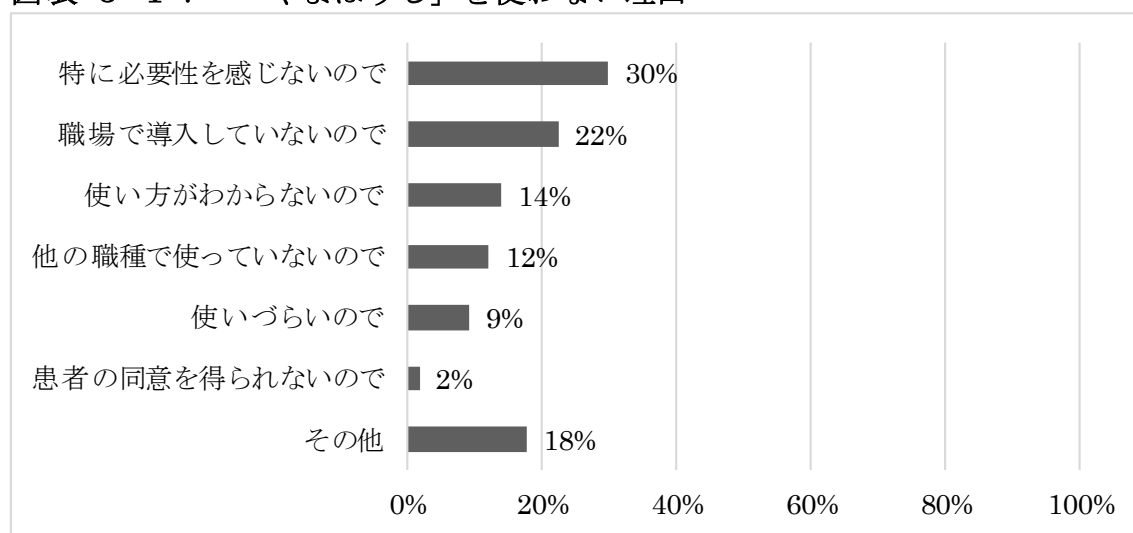
(単位：人)

	非常に便利である	ある程度便利である	あまり便利ではない	全く便利でない	回答者数
管理栄養士	0	1	0	0	1
医療ソーシャルワーカー	0	4	0	0	4
精神保健福祉士	0	0	0	0	0
ケアマネジャー	3	11	2	0	16
介護職	0	6	2	0	8

問 1 4 「やまぼうし」を使わない理由について教えてください。
(当てはまるもの全て選択)

- 「やまぼうし」の普及を妨げている要因として、「特に必要性を感じていない」が最も多く、次いで「職場で導入していない」が挙げられている。

図表 5-17 「やまぼうし」を使わない理由

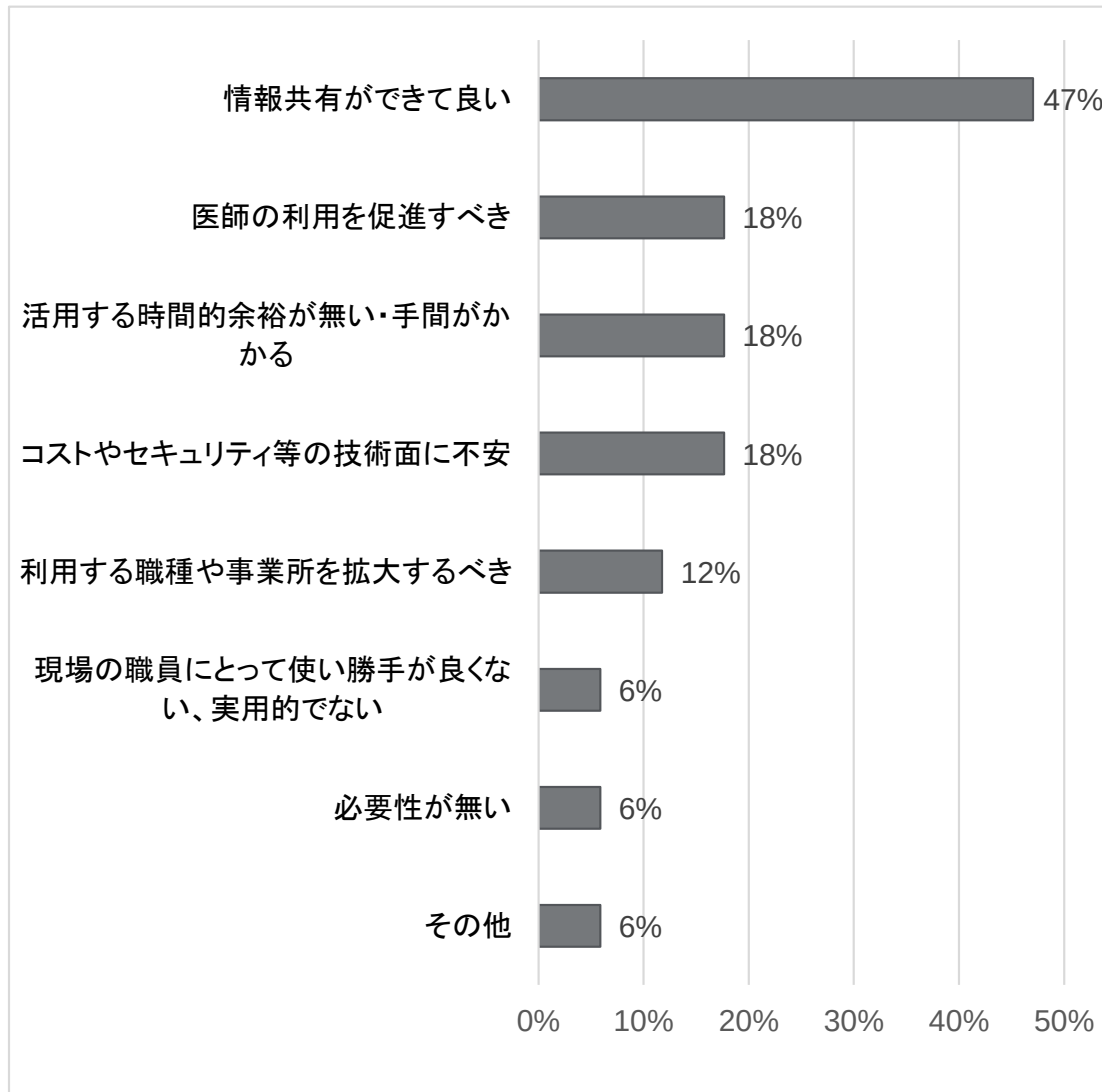


(回答者数：107 人)

問 1 5 「やまぼうし」について、ご意見がございましたらご記入ください。
(自由記述)

- 情報共有できて良いとするコメントが最多で、半数程度を占めている。

図表 5-18 「やまぼうし」についての意見（自由記述の傾向分析）

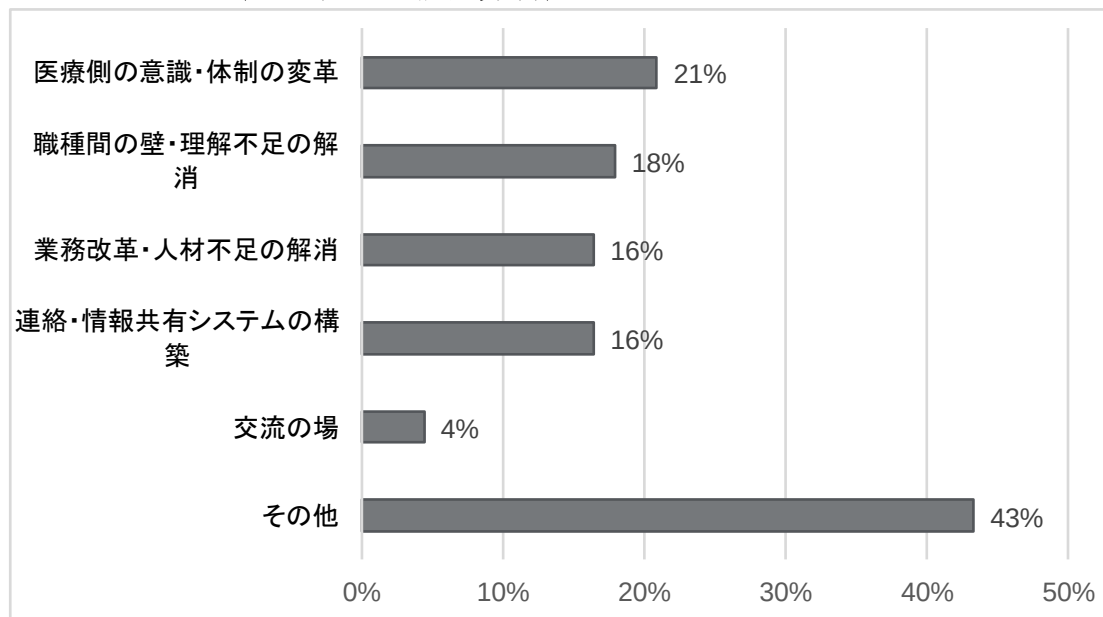


(回答者数：17人)

問 1 6 高梁市内における医療・介護分野の連携についてご意見がございましたらご記入ください。(自由記述)

- 最も多いコメントは医療側の意識・体制の変革に関するものであり、2割強を占めていた。
- 2番目に多かったのは、職種間の壁や理解不足の解消に関するコメントであり、2割弱を占めていた。

図表 5-19 高梁市内の医療・介護分野の連携についての意見
(自由記述の傾向分析)



(回答者数：67人)

6. 調査結果のまとめ

＜ 6. 1. 本調査の意義＞

今回実施した一連の調査をととして、市民、医療機関、医療従事者、関連専門職という4つの視点から、多くの示唆が得られました。

市民の医療需要、医療機関の経営環境、医療従事者や関連専門職の働き方といったテーマについては、これまで経験的・定性的に語られてきましたが、市民や現場の関係者の声が定量的なかたちで明らかとなった意義は大きいものがあります。

＜今回得られた情報の代表例＞

① 市民アンケート調査

- ・ かかりつけ医をどの地域に持っているかといった、ふだんの医療とのかかわり方に関する情報
- ・ 急に医療を必要とする場合の行動に関する情報
- ・ 市の医療提供体制に対する課題認識

② 医療機関アンケート調査

- ・ 患者数の減少や医療従事者の高齢化をはじめとする、将来の経営環境に対する認識
- ・ 在宅医療に対する取組みの状況や認識
- ・ 市の医療提供体制に対する課題認識

③ 医療従事者アンケート調査

- ・ 職種別の年齢構成や、高梁で働く理由といった、高梁で医療を仕事にしている方々ご自身の情報
- ・ 医療の現場における働き方の実態
- ・ 多職種間の連携に関する課題認識
- ・ 在宅医療に対する考え方
- ・ 市の医療提供体制に対する課題認識

④ 関連専門職アンケート調査

- ・ 職種別の年齢構成
- ・ 在宅医療に対する考え方
- ・ 多職種間の連携に対する課題認識

＜ 6. 2. 調査結果の活用に向けて ＞

調査の結果を分析する中で、市民の年代や居住地域によってニーズが多様であること、医療従事者の中でも職種によって課題認識が多様であることなど、地域医療を取り巻く関係者の思いが、一言で取りまとめられない複雑さを持つことが改めて浮き彫りになりました。

しかし他方で、市民、医療機関、医療従事者の全ての方々から、医療計画の策定を急務とする市の考え方が大きく支持されていることがわかりました。

市としては、こうした声を受け止めて、今後さらに分析を深め、地域医療提供体制の検討を推進してまいります。